
JD Edwards EnterpriseOne サービス 管理 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xvii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xvii
アプリケーションの基礎.....	xvii
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xviii
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xviii
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xviii
追加情報.....	xviii
表記規則.....	xx
表記規則.....	xx
注意事項の表示.....	xxi
国、地域、業種の表記.....	xxi
通貨コード.....	xxii
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xxii
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxii

まえがき

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理 – まえがき.....	xxv
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxv
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxv
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxvi

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の統合.....	1
JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の導入.....	5
グローバル導入の手順.....	6
サービス管理導入の手順.....	6

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の機能について.....	9
システム機能.....	9

設備情報管理.....	9
契約管理.....	9
作業オーダー管理.....	10
保証請求管理.....	10
仕入先回収管理.....	10
カスタマ・セルフサービス・ポータル.....	10
問題分析.....	11
追加機能.....	11
ソリューション・アドバイザー.....	11
ブランチ・スクリプト.....	12
請求管理(サービス管理用).....	12
伝票処理(サービス管理用).....	12
返品承認(RMA).....	13
予防保全.....	13
Intelligent Graphic Solution (IGS)との統合.....	13

第 3 章

サービス管理の設定.....	15
サービス管理の設定について.....	15
この章で使用する共通フィールド.....	15
サービスと保証の固定情報の設定.....	17
サービスと保証の固定情報について.....	17
サービスと保証の固定情報の設定に使用するフォーム.....	18
サービスと保証の固定情報の設定.....	18
サービス管理のCRM固定情報の設定.....	20
UDCの設定.....	20
UDCについて.....	20
サービス管理での自動採番の設定.....	23
自動採番について.....	23
サービス管理の自動採番に使用するフォーム.....	24
サービス管理での自動採番の設定.....	24
サービス管理での製品ファミリとモデルの組合せの設定.....	25
製品ファミリとモデルの組合せについて.....	25
サービス管理での製品ファミリとモデルの組合せの設定に使用するフォーム.....	25
サービス管理での顧客およびサービス業者の設定.....	26
顧客およびサービス業者について.....	26
サービス管理での顧客およびサービス業者の設定に使用するフォーム.....	27
サービス管理での顧客の設定.....	27
サービス管理でのサービス業者の設定.....	28

仕入先の設定.....	31
サービス管理での仕入先の設定に使用するフォーム.....	31
サービス管理での仕入先の設定.....	31
サービス管理での在庫情報の設定.....	32
在庫情報について.....	32
事前設定.....	32
AAIの設定.....	33
AAIについて.....	33
サービス管理でのAAIの設定に使用するフォーム.....	34
サービス管理でのAAIの設定.....	34
査定担当者のデフォルトと規則順序の設定.....	35
査定担当者のデフォルトと規則順序プログラムについて.....	35
査定担当者のデフォルトと規則順序の設定に使用するフォーム.....	36
査定担当者のデフォルトと規則順序の設定.....	36
査定担当者のデフォルト入力(P17113)の処理オプションの設定.....	36
修理時間スケジュールの設定.....	37
標準修理時間の入力プログラムについて.....	37
修理時間スケジュールの設定に使用するフォーム.....	37
伝票タイプ情報の設定.....	37
伝票タイプ情報について.....	37
伝票タイプ情報の設定に使用するフォーム.....	38
サービス管理での伝票タイプ情報の設定.....	38
 第 4 章	
設備の管理.....	43
設備情報管理について.....	43
この章で使用する共通フィールド.....	45
サービス管理での設備マスター固定情報の設定.....	46
設備マスター固定情報について.....	46
サービス管理での設備マスター固定情報の設定に使用するフォーム.....	47
サービス管理での設備マスター固定情報の設定.....	47
基本保証のデフォルト規則の設定.....	48
基本保証のデフォルト規則について.....	48
サービス管理での基本保証のデフォルトと規則の設定に使用するフォーム.....	49
サービス管理での基本保証のデフォルトを設定します。.....	49
サービス管理での保証規則の設定.....	50
設備マスター・レコードの手動作成.....	51
設備レコードの手動作成について.....	51
事前設定.....	51

設備マスター・レコードの手動設定に使用するフォーム.....	51
設備マスター・レコードの手動作成 (CRM以外のユーザー).....	53
設備マスター・レコードの手動作成 (CRMユーザー).....	54
設備マスターの処理プログラム (P1701) の処理オプションの設定.....	55
設備マスターの改訂プログラム (P1702) の処理オプションの設定.....	57
CRM - 設備管理プログラム (P90CD001) の処理オプションの設定.....	61
固定資産からの設備レコードの作成.....	61
固定資産からの設備レコードの作成について.....	61
固定資産からの設備レコードの作成に使用するフォーム.....	62
設備マスター拡張テーブルの作成プログラム (P17021) の処理オプションの設定.....	62
製品登録の処理.....	63
製品登録について.....	63
事前設定.....	63
製品登録の処理に使用するフォーム.....	64
製品登録の入力.....	64
製品登録プログラム (P17051) の処理オプションの設定.....	65
製品スピード登録の入力.....	68
設備マスター更新の処理プログラム.....	68
設備マスター更新について.....	68
設備マスター更新プログラムについて.....	71
設備マスター一括更新プログラムについて.....	72
事前設定.....	72
設備マスター更新プログラムに使用するフォーム.....	72
設備マスター更新プログラムの実行.....	72
設備マスター更新プログラム (R17024) の処理オプションの設定.....	72
複数のレコードに対する設備マスター更新プログラムの実行.....	75
設備マスターの一括更新プログラム (P17022) の処理オプションの設定.....	76
基本保証契約の作成.....	77
基本保証契約について.....	77
サービス管理での基本保証契約の作成に使用するフォーム.....	77
サービス管理での基本保証契約の作成.....	77
親資産および構成品の情報の利用.....	78
親資産および構成品の情報について.....	79
親資産と構成品の情報の処理に使用するフォーム.....	80
親情報の検討と改訂.....	80
現在の設備構成品の検討.....	81
設備マスター親/子プログラム (P12017) の処理オプションの設定.....	81
状況履歴の処理.....	82
状況履歴について.....	82
状況履歴の処理に使用するフォーム.....	83

状況履歴の確認.....	83
設備の平均故障間隔のトラッキング.....	83
状況履歴プログラム(P1307)の処理オプションの設定.....	83
導入済設備に対する保守スケジュールの作成.....	84
導入済設備に対する保守作業について.....	85
顧客参照レポートについて.....	85
事前設定.....	86
導入済設備の保守スケジュールの作成に使用するフォーム.....	86
導入済設備に対する保守スケジュールの作成.....	86
設備予防保全スケジュール・プログラム(P1207)の処理オプションの設定.....	90
顧客参照レポートの確認.....	90
 第 5 章	
契約の管理.....	91
契約について.....	91
この章で使用する共通フィールド.....	91
契約タイプ.....	93
固定情報の設定.....	93
固定情報の設定について.....	94
契約の設定に使用するフォーム.....	95
契約固定情報の設定.....	96
顧客サービス行タイプの設定.....	97
請求頻度の設定.....	101
税率の設定.....	101
税率/税域プログラム(P4008)の処理オプションの設定.....	104
夏時間規則の設定.....	104
契約適用範囲の入力.....	105
契約保証範囲の処理プログラム(P1724)の処理オプションの設定.....	105
サービス・タイプ情報の入力.....	106
原価タイプ・パーセントの設定.....	106
サービス・パッケージ情報の入力.....	107
資格日付の設定.....	109
契約期間範囲の設定.....	110
契約更新の差し込み文書の設定.....	110
契約の管理.....	113
契約管理について.....	113
事前設定.....	114
契約の管理に使用するフォーム.....	115
仕入先契約見出し情報の入力.....	116

仕入先契約明細情報の入力.....	117
サービス契約見出し情報の入力.....	118
サービス契約明細情報の入力.....	121
サービス契約情報の確認.....	124
サービス契約の確認.....	124
サービス契約のコピー.....	125
契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションの設定.....	125
契約の処理プログラム (P1720) の処理オプションの設定.....	129
サービス契約の資格規則順序の定義.....	130
仕入先契約の資格規則順序の定義.....	131
サービス契約の資格情報の確認.....	131
仕入先契約の資格情報の確認.....	132
契約の解約.....	132
契約の停止.....	132
契約明細行の取消と停止.....	133
契約明細行の与信.....	133
契約前払取引の作成.....	133
契約更新書類の生成.....	135
契約更新書類の確認.....	135
契約更新書類プログラム (R1731) の処理オプションの設定.....	135
契約に対する請求.....	136
請求処理について.....	136
契約設定のAAIについて.....	136
サービス管理での契約請求について.....	138
契約ワークファイルの生成について.....	139
事前設定.....	139
契約の請求に使用するフォーム.....	139
サービス/ワランティ管理契約ワークファイルの生成プログラム (R1732) の処理オプションの設定.....	140
契約請求情報の確認.....	141
収益期間配分プロセスの処理.....	143
収益期間配分について.....	143
収益期間配分ワークファイルの生成について.....	144
事前設定.....	144
収益期間配分プロセスの処理に使用するフォーム.....	144
収益期間配分ワークファイルの生成プログラム (R17321) の処理オプションの設定.....	144
収益期間配分レコードの確認.....	146
契約の価格設定.....	146
契約の価格設定.....	146
契約レポートの印刷プログラム (R1733) の処理オプションの設定.....	146
契約レポートの確認.....	147

契約レポートについて.....	147
契約レポートの確認.....	147
契約レポート・プログラム (R1734) の処理オプションの設定.....	147
サービス契約の更新レポートの確認.....	148
サービス契約の更新プログラム (R1730) の処理オプションの設定.....	148
サービス契約明細の更新レポートの確認.....	151
サービス契約明細の更新プログラム (R1735) の処理オプションの設定.....	152
サービス契約の解約レポートの確認.....	155
サービス契約の解約プログラム (R1736) の処理オプションの設定.....	155

第 6 章

作業オーダーの管理.....	157
作業オーダー管理について.....	157
この章で使用する共通フィールド.....	160
作業オーダーの設定.....	164
作業オーダー関連AAIについて.....	164
作業オーダーの設定について.....	166
事前設定.....	167
サービス管理での作業オーダーの設定に使用するフォーム.....	168
作業オーダー固定情報の設定.....	168
作業オーダー履歴の設定.....	170
作業オーダー履歴の処理プログラム (P17715) の処理オプションの設定.....	170
作業オーダーへの処理規則の添付.....	171
サービス管理ワークベンチ・プログラム (P90CD020) を使用した作業オーダーの作成.....	172
作業オーダーについて.....	172
サービス管理ワークベンチについて.....	173
事前設定.....	173
作業オーダーの入力に使用するフォーム (P90CD020).....	174
ワークベンチを使用した作業オーダーの入力.....	175
サービス管理ワークベンチ (P90CD020) の処理オプションの設定.....	176
CRM - サービス・オーダーの管理 (P90CD002) の処理オプションの設定.....	178
作業オーダーの入力プログラム (P48201/P17714) を使用した作業オーダーの作成.....	185
作業オーダー入力について.....	185
事前設定.....	185
作業オーダーの入力に使用するフォーム (P48201/P17714).....	185
作業オーダーの入力 (P48201/P17714).....	185
作業オーダーの改訂プログラム (P17714) の処理オプションの設定.....	189
作業オーダーへの部品の割当.....	191
部品割当について.....	192

事前設定.....	192
作業オーダーへの部品の割当に使用するフォーム.....	193
CRM - 作業オーダー部品管理プログラム (P90CD015) の処理オプションの設定.....	193
作業オーダー部品詳細プログラム (P17730) の処理オプションの設定.....	197
作業オーダーへの労務の割当.....	197
労務割当について.....	198
事前設定.....	198
作業オーダーへの労務の割当に使用するフォーム.....	199
標準指示からの労務詳細のコピー.....	199
労務詳細の手動割当.....	199
CRM - 作業オーダー労務の管理プログラム (P90CD018) の処理オプションの設定.....	200
作業オーダー労務詳細プログラム (P17732) の処理オプションの設定.....	202
作業オーダーの処理.....	202
作業オーダー処理について.....	203
事前設定.....	206
作業オーダーの処理に使用するフォーム.....	207
作業オーダーの見積の生成と印刷.....	207
作業オーダー見積プログラム (R17711) の処理オプションの設定.....	207
作業オーダーの前払取引の作成.....	208
単一保管場所からの資材出庫.....	208
複数保管場所からの資材出庫.....	209
作業オーダー在庫出庫プログラム (P31113) の処理オプションの設定.....	210
在庫仕訳の検討と承認.....	213
時間の入力.....	213
作業オーダー時間入力プログラム (P311221) の処理オプションの設定.....	214
作業時間と作業量の更新.....	215
作業時間/作業量の更新プログラム (R31422) の処理オプションの設定.....	215
作業工程原価仕訳の検討と承認.....	216
総勘定元帳への作業工程別原価仕訳の転記.....	217
作業オーダーの請求と支払.....	217
作業オーダーの請求と支払について.....	217
作業オーダー・ワークファイルの生成.....	219
S/WM作業オーダー・ワークファイルの生成プログラム (R1775) の処理オプションの設定.....	219

第 7 章

保証請求と仕入先回収請求の処理.....	223
保証請求と仕入先回収請求について.....	223
この章で使用する共通フィールド.....	223
保証請求と仕入先回収請求.....	225

保証請求と仕入先回収請求の多通貨取引.....	226
保証請求と仕入先回収請求を設定するためのチェックリスト.....	227
保証請求の管理.....	229
保証請求管理について.....	229
事前設定.....	230
保証請求管理に使用するフォーム.....	231
保証請求の入力.....	231
保証請求プログラム(P1777)の処理オプションの設定.....	231
保証請求の送信.....	235
SWM保証請求/仕入先回収ワークファイルの生成プログラム(R177701)の処理オプションの設定.....	235
仕入先回収請求の管理.....	237
仕入先回収管理について.....	237
事前設定.....	237
仕入先回収請求の入力に使用するフォーム.....	238
仕入先回収請求の入力.....	238
仕入先回収請求プログラム(P1779)の処理オプションの設定.....	238
仕入先回収請求の送信.....	240

第 8 章

カスタマ・セルフサービス・ポータルの利用.....	241
カスタマ・セルフサービス・ポータルについて.....	241
設備の追加.....	241
設備の表示.....	242
作業オーダーの表示.....	242
契約の表示.....	242

第 9 章

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理でのJD Edwards EnterpriseOne価格管理の設定.....	243
JD Edwards EnterpriseOne価格管理について.....	243
優先階層の設定.....	243
優先階層の設定について.....	243
事前設定.....	244
優先階層の設定に使用するフォーム.....	244
優先マスターの設定.....	244
価格設定階層の定義.....	246
サービスと保証の明細グループの設定.....	246
サービスと保証の明細グループについて.....	246
サービスと保証の明細グループの設定に使用するフォーム.....	246

サービスと保証の明細グループの設定.....	246
価格調整の定義の設定.....	248
価格調整の定義について.....	249
事前設定.....	249
価格調整の定義に使用するフォーム.....	249
価格調整の定義の設定.....	249
調整スケジュールの設定.....	254
調整スケジュールについて.....	254
事前設定.....	255
調整スケジュールの設定に使用するフォーム.....	255
調整スケジュールの設定.....	255
調整明細の設定.....	256
調整明細について.....	256
調整明細の設定に使用するフォーム.....	257
調整明細の設定.....	257
調整スケジュールの添付.....	259
調整スケジュールの添付に使用するフォーム.....	260
顧客レコードへの調整スケジュールの添付.....	262
サービス業者レコードへの調整スケジュールの添付.....	262
仕入先レコードへの調整スケジュールの添付.....	262
サービス契約に対する調整スケジュールの有効化.....	262
作業オーダーに対する調整スケジュールの有効化.....	263
保証請求に対する調整スケジュールの有効化.....	263
仕入先回収請求に対する調整スケジュールの有効化.....	263
ケースに対する調整スケジュールの有効化.....	263
価格履歴の確認.....	263
価格履歴の確認に使用するフォーム.....	264
価格履歴の確認.....	264

第 10 章

前払の処理.....	265
前払処理について.....	265
前払取引の承認.....	266
前払取引の承認について.....	266
前払取引の承認プログラム (R004201) の処理オプションの設定.....	266
前払取引の処理.....	266
前払取引について.....	267
前払取引の決済について.....	267
前払売掛金手形回収プログラムの実行について.....	267

前払仕訳の確認について.....	268
前払取引レポート・プログラムの実行について.....	268
前払取引の処理に使用するフォーム.....	268
前払取引の処理.....	268
前払取引の決済プログラム (R004202) の処理オプションの設定.....	270
手形回収プログラム (R03B680) の処理オプションの設定.....	270
前払取引レポート・プログラム (R004203) の処理オプションの設定.....	272
 第 11 章	
Vertex Sales Tax Q Series について.....	275
Vertex Sales Tax Q Series.....	275
 付録 A	
JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の標準ワークフロー	277
JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の標準ワークフロー.....	277
作業オーダー処理規則.....	277
 JD Edwards EnterpriseOne用語集	279
 索引	295

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合もあります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p>

	U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 時間および給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー伝票 S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住所の変更が有効になる日付 • 賃貸契約が有効になる日付

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOneサービス管理
- JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメント
- JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編に記載されています。この姉妹編は、JD Edwards EnterpriseOne製品ラインの多くまたはすべてに適用される重要なトピックで構成されています。

- JD Edwards EnterpriseOne 住所録 製品ガイド
- JD Edwards EnterpriseOne Capital Asset Management Implementation Guide
- JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理 製品ガイド
- JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management サポート・アプリケーション 製品ガイド
- JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 製品ガイド
- JD Edwards EnterpriseOne 固定資産管理 製品ガイド
- JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 製品ガイド
- JD Edwards EnterpriseOne Work Orders Implementation Guide
- JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

この製品ガイドで使用する共通フィールド

資産番号	「設備No.」を参照してください。
事業所	<p>原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。</p> <p>ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。</p> <p>ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。</p>
顧客番号	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。詳細住所や税IDなど、住所録番号(AN8)以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。</p> <p>たとえば、住所録番号4100(Total Solutions)の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。</p>
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード(UDC)テーブル00/DT(伝票タイプ - すべての伝票)から、伝票の発生元と目的を識別する値を入力します。伝票、請求書、入荷確認書、タイムシートなどの伝票タイプ用に、いくつかのプレフィックスが予約済です。各コードに予約済の伝票タイプのプレフィックスは、次のとおりです。</p> <p>P: 買掛金 R: 売掛金 T: 時間/給与 I: 在庫 O: 購買オーダー S: 受注オーダー</p>
設備No.	<p>資産を示す識別コードを入力します。IDコードは、次の形式のいずれかを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資産番号(自動的に割り当てられる8桁の数値番号) ユニット番号(12文字の英数字フィールド) シリアル番号(25文字の英数字フィールド) <p>すべての資産には資産番号があります。ユニット番号とシリアル番号を使用して、さらに詳しく資産を識別できます。データ入力フィールドでは、1文字目を入力した時点で、システム用に定義された基本(デフォルト)形式か、他の2つの形式のいずれであるかが判別されます。このフィールドの1文字目の特殊文字(「/」や「*」など)は、どの形式の資産番号を使用しているかを示します。資産番号フォーマットに対する特殊文字の割当は、固定資産のシステム固定情報フォームで行います。</p>

元帳カテゴリ	<p>取引の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9 (元帳転記カテゴリ) から入力します。クラス・コードを指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ (****) 入力してください。</p> <p>AAIを使用して、在庫管理、調達管理および受注管理の3システムに自動相手勘定のクラスを事前設定できます。次のように元帳クラス・コードを割り当てることができます。</p> <p>IN20: 直送オーダー IN60: 転送オーダー IN80: 在庫販売</p> <p>1件の取引に基づいて仕訳レコードが作成されます。たとえば、在庫1品目を販売すると、次のような仕訳レコードが作成されます。</p> <p>販売在庫 (借方) xxxxx.xx 売掛在庫販売 (貸方) xxxxx.xx</p> <p>転記カテゴリ: IN80 在庫品目 (借方) xxxxx.xx 在庫売上原価 (貸方) xxxxx.xx</p> <p>クラス・コードと伝票タイプに基づいて、該当するAAIが検索されます。</p>
在庫品目No.、品目番号	<p>品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。</p>
主科目	<p>主科目を入力します。主科目とは、勘定科目の中で、原価コード (労務費、材料費、設備費など) をサブカテゴリに分類する部分です。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。</p> <p>作業オーダーまたはケースの時間を入力すると、時間入力用に勘定科目コードが取得されます。</p> <hr/> <p>注意: 任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用するようにしてください。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。</p> <hr/>
製品ファミリ	<p>顧客サービスで在庫品目をファミリに分類するための値をUDC 17/PA (製品ファミリ) から入力します。レーザー・プリンタ、インクジェット、ファックスなどが製品ファミリになります。</p>
製品モデル	<p>顧客サービスで在庫品目をモデルに分類するための値をUDC 17/PA (製品モデル) から入力します。</p> <p>レーザー・プリンタ、インクジェット、ファックスなどが製品ファミリになります。</p>
担当ビジネスユニットのロケーション	<p>契約の請求先となる担当ビジネスユニットを取得するテーブルのコードを入力します。デフォルト値は1です。値は次のとおりです。</p> <p>1: 品目マスター - サービス/保証テーブル (F4117) および事業所品目マスター - サービス/保証テーブル (F41171) 2: 製品ファミリ/モデル・マスター (F1790) 3: 設備マスター拡張テーブル (F1217)</p>

4: 住所録マスター (F0101)

5: サービス/ワランティ管理の行タイプの固定情報テーブル (F1793)

AAIのビジネスユニットがブランク場合、契約請求および減価償却はこの値を使用して、収益を計上する担当ビジネスユニットを検索します。

サイト番号

住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。詳細住所や税IDなど、住所録番号 (AN8) 以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

作業場

注意: このコードは、アプリケーション固有の作業場コードです。

原価のトラッキング対象となるビジネスの個別の組織を表すコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。

ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

作業場は、資格チェックおよび作業日カレンダーの取得に使用されます。作業場を設定しない場合、作業日カレンダーを「すべて」に設定する必要があります。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の概要
- JD Edwards EnterpriseOneの統合
- JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の導入

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の概要

サービス管理によって、顧客に対して正確で統一されたサービスを効率的に提供できます。このシステムでは、次のように顧客サービスを全面的に管理できます。

- 顧客の購買とサービスのトラッキング
- サービスと仕入先契約の生成
- 設備修理の計画
- 保証請求と仕入先回収請求の管理
- 障害、分析と解決方法の検討。これらの情報とケースまたは作業オーダーとの関連付け

企業の成功と長期的な存続には顧客サービスが不可欠な要因となります。顧客が最初の購入時やその前後に受けたサービス・レベルは、顧客の次の購買意欲に大きな影響を及ぼします。これは製品提供だけではなく、サービスの提供にも当てはまり、最終的には市場の位置付けを決定付ける要因となります。

提供するサービスの効率性と効果は組織の最終的な収益に直結します。サービス・プロセスを効率化して製品サポートのコストを削減し、顧客の信頼を得ることにより、結果的にサービス契約の継続につながり、全体の収益が向上します。

サービス管理では、次の目標を達成できます。

- 世界規模の顧客に対する対応
- 効率的で費用対効果の高い顧客サービス・プロセスの実施
- 最大のサービス収益の実現

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の統合

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理は、次のJD Edwards EnterpriseOne製品と統合されています。

- JD Edwards EnterpriseOne住所録

- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne 固定資産管理
- JD Edwards EnterpriseOne 人事管理および Payroll
- JD Edwards EnterpriseOne キャピタル・アセット・マネジメント
- JD Edwards EnterpriseOne 作業オーダー
- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理
- JD Edwards EnterpriseOne 価格管理
- JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne 調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne リソース割当
- JD Edwards EnterpriseOne 状態監視保全
- JD Edwards EnterpriseOne 設備コスト分析

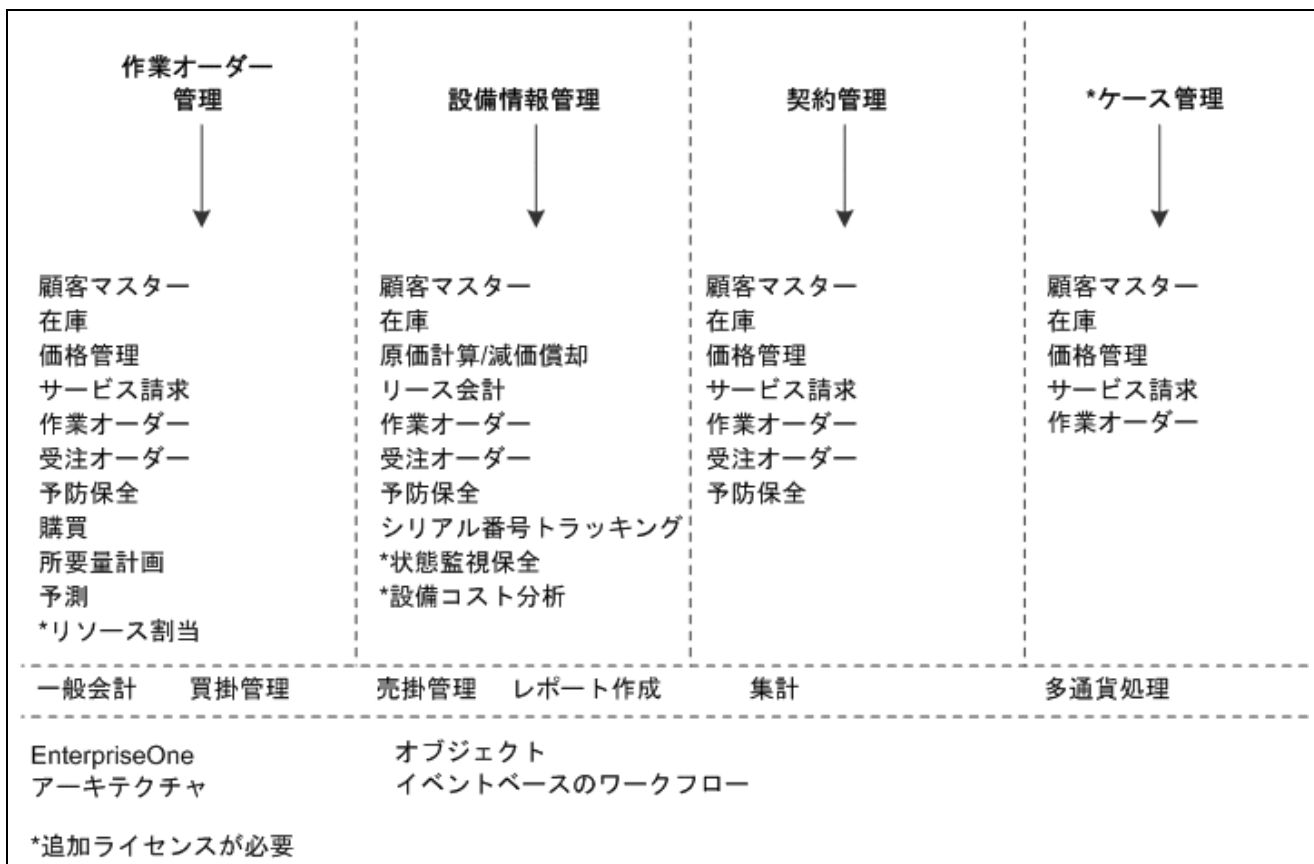
JD Edwards EnterpriseOne サービス管理システムは、サード・パーティ・システムの Intelligent Graphic Solution (IGS) とも統合できます。

注意: これらのシステムの中で、ライセンス契約を結んでいないシステムがある可能性があります。購入してインストールしているシステムをシステム管理者に確認してください。

サービス管理は、次の JD Edwards EnterpriseOne 製品機能とも統合されます。

- ケース
- ソリューション・アドバイザおよびスクリプト
- 返品承認 (RMA)

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne アーキテクチャで各モジュールに追加された機能と他のシステムの既存の機能との関係を示しています。



JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の機能

JD Edwards EnterpriseOne住所録

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne住所録システムには、顧客とサービス業者の住所、税ID、調整スケジュール、価格設定情報が保持されます。

JD Edwards EnterpriseOne売掛管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムでは、提供したサービスや製品購入の支払を受け取ることができます。

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、サービス業者への支払を行うことができます。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムでは、在庫仕訳項目を検討、承認し、総勘定元帳に転記できます。

JD Edwards EnterpriseOne固定資産管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne固定資産管理システムでは、企業が所有する貸与または賃貸可能な設備の減価償却を行うことができます。

JD Edwards EnterpriseOne人事管理およびPayroll

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne人事管理およびPayrollシステムでは、顧客サービスや電話対応に要した時間を記録できます。

JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメント

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメント・システムでは、製品の保守スケジュールを設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne作業オーダー・システムは、作業オーダー管理で作成したレコードを記録します。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムでは、契約、作業オーダーおよびケースの請求書を生成し、印刷できます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne価格管理システムでは、契約、作業オーダーおよびケースに複合価格を設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでは、品目情報を記録して、作業オーダーに対して在庫を出庫できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、設備情報管理モジュールを更新し、新たに導入した設備のレコードを作成できます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、予備部品と補給品を購入できます。

JD Edwards EnterpriseOneリソース割当

リソースの現在の割当状況と空き状況を確認しながら、作業オーダーまたは特定の作業オーダー指示に対してリソースを割当てることができます。

JD Edwards EnterpriseOne状態監視保全

手動または自動的に設備アラートを入力し、設定した基準に従って対応できます。

JD Edwards EnterpriseOne設備コスト分析

勘定科目コードに基づいて財務状況を照会できます。また、設備コードを使用して既存の原価情報を分析できます。

JD Edwards EnterpriseOneケース管理

解決が必要な問題が発生しているケースを記録し、トラッキングできます。このシステムは、内部のヘルプ・デスクだけでなく、外部の顧客からの電話対応を行うコール・センターでも使用できます。ケース・プログラムは問題分析プログラムと統合されています。

JD Edwards EnterpriseOne ソリューション・アドバイザー

顧客、サービス・エージェントとサポート・エージェントは、ソリューション・アドバイザーのナレッジ・ベースを使用して特定の問題に関する解決方法を検索できます。

JD Edwards EnterpriseOne ブランチ・スクリプティング

顧客や顧客の問題に関する詳細情報を収集できます。この情報は、コンタクト・センター・エージェントでの問題解決に役立ちます。

JD Edwards EnterpriseOne 請求管理 (サービス管理用)

契約、サービス・オーダー、ケース、保証請求と仕入先回収請求の請求処理ができます。サービス管理システムは、サービス請求管理システムと同じ請求プログラムを使用します。

JD Edwards EnterpriseOne 伝票処理 (サービス管理用)

ワークファイルを生成し、支払作業オーダーの伝票処理が実行できます。

返品承認 (RMA)

払戻、交換または修理のための顧客からの返品について、仕入先の承認を得ることができます。

JD Edwards EnterpriseOne 予防保全

内部または外部にかかわらず、顧客の設備を維持するサービス部門は定期的な保守作業を計画、監視、実行し、機器の故障や予定外の修理作業を最小限に抑えることができます。

JD Edwards EnterpriseOne と Intelligent Graphic Solution (IGS) の統合

別途に購入可能なサード・パーティ製品です。IGS は、設備、建物、在庫品目の組立品をグラフィカルに表示できるツールです。グラフィックから部品を選択すると、JD Edwards EnterpriseOne の作業オーダーの部品リストに品目番号を戻すことができます。

JD Edwards EnterpriseOne サービス管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne サービス管理の導入に必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOne に関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne サービス管理システムについて、どの ESU (電子ソフトウェア更新) をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistant を使用します。Java ベースのツールである EnterpriseOne and World Change Assistant を使用すると、必要となる ESU を検索してダウンロードするためにかかる時間を 75% 以上削減できます。さらに、複数の ESU を一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

JD Edwards EnterpriseOne サービス管理を導入するための Oracle Business Accelerator ソリューションの詳細は、公開されているドキュメンテーションを参照してください。

参照: http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid_start/rapid_start_prtr_notes.jsp

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理のグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. グローバル・ユーザー定義コードを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide
2. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	
3. 自動採番を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide
4. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	
5. 一般会計固定情報を設定します。	
6. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	
7. 元帳タイプ規則を設定します。	
8. 住所録レコードを入力します。	
9. 事業所固定情報、デフォルト事業所およびプリンタ、製造および流通AAI、伝票タイプなどの在庫情報を設定します。	
10. 製造現場カレンダーを設定します。	
11. 製造固定情報を設定します。	

サービス管理導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理のアプリケーション別の推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. サービス管理固定情報を設定します。	<u>第 3 章、「サービス管理の設定」、「サービスと保証の固定情報の設定」、17ページ</u>
2. 顧客とサービス業者を設定します。	<u>第 3 章、「サービス管理の設定」、「サービス管理での顧客およびサービス業者の設定」、26ページ</u>
3. 仕入先を設定します。	<u>第 3 章、「サービス管理の設定」、「仕入先の設定」、31ページ</u>
4. 作業オーダーを設定します。	<u>第 6 章、「作業オーダーの管理」、「作業オーダーの設定」、164ページ</u>
5. 作業オーダーに処理規則を設定します。	<u>第 6 章、「作業オーダーの管理」、「作業オーダーへの処理規則の添付」、171ページ</u>
6. 標準部品リストを設定します。	<u>第 6 章、「作業オーダーの管理」、「作業オーダーへの部品の割当」、191ページ</u>
7. 作業オーダー指示を設定します。	<u>第 6 章、「作業オーダーの管理」、「作業オーダーの設定」、164ページ</u>

手順	参照
8. 査定担当者のデフォルトと規則順序を設定します。	第 3 章、「サービス管理の設定」、「査定担当者のデフォルトと規則順序の設定」、35 ページ
9. AAI (自動仕訳) を設定します。	第 3 章、「サービス管理の設定」、「AAI の設定」、33 ページ
10. 基本保証のデフォルトと規則を設定します。	第 4 章、「設備の管理」、「基本保証のデフォルト規則の設定」、48 ページ
11. 伝票タイプ情報を設定します。	第 3 章、「サービス管理の設定」、「伝票タイプ情報の設定」、37 ページ
12. 在庫固定情報を設定します。	第 3 章、「サービス管理の設定」、「サービス管理での在庫情報の設定」、32 ページ
13. 製品ファミリとモデルの組合せを設定します。	第 3 章、「サービス管理の設定」、「サービス管理での製品ファミリとモデルの組合せの設定」、25 ページ
14. 設備マスター固定情報を設定します。	第 4 章、「設備の管理」、「サービス管理での設備マスター固定情報の設定」、46 ページ
15. 契約を設定します。	第 5 章、「契約の管理」、「固定情報の設定」、93 ページ
16. 優先階層を設定します。	第 9 章、「JD Edwards EnterpriseOne サービス管理での JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定」、「優先階層の設定」、243 ページ
17. サービスと保証の明細グループを設定します。	第 9 章、「JD Edwards EnterpriseOne サービス管理での JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定」、「サービスと保証の明細グループの設定」、246 ページ
18. 価格調整定義を設定します。	第 9 章、「JD Edwards EnterpriseOne サービス管理での JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定」、「価格調整の定義の設定」、248 ページ
19. 調整明細を設定します。	第 9 章、「JD Edwards EnterpriseOne サービス管理での JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定」、「調整明細の設定」、256 ページ
20. 調整スケジュールを設定します。	第 9 章、「JD Edwards EnterpriseOne サービス管理での JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定」、「調整スケジュールの設定」、254 ページ
21. 修理時間のスケジュールを設定します。	第 3 章、「サービス管理の設定」、「修理時間スケジュールの設定」、37 ページ

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の機能について

この章では、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムの機能の概要について説明します。また、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理とともに使用できる機能についても説明します。

システム機能

サービス管理は次のモジュールから構成されています。

- 設備情報管理
- 契約管理
- 作業オーダー管理
- 保証請求管理
- 仕入先回収管理
- カスタマ・セルフサービス・ポータル
- 問題分析

設備情報管理

設備情報管理モジュール（以前のInstalled Base Management）では、製品の登録情報を入力し、製品マスター・レコードを管理できます。製造販売している各製品または設備に関する情報を作成し、その最新情報および履歴情報をトラッキングできます。トラッキングできる情報は次のとおりです。

- 製品登録
- リコール管理
- 減価償却スケジュール
- 予防保全スケジュール
- 製品保守履歴
- 製品のライフサイクル分析と原価計算

契約管理

契約管理モジュールでは、サービス契約と仕入先契約を記録し、管理できます。契約は、顧客と業者（請負業者）の間または製造業者と仕入先の間の契約書で管理します。企業の要件に合わせて、複数のタイプの契約を構成できます。

このモジュールには、様々な価格設定方式に対応した価格管理などの機能が用意されています。この機能を使用すると、契約満了時に新しい契約を自動的に生成し、契約の更新を管理できます。このモジュールの基本的な機能は次のとおりです。

- 構成可能サービス・パッケージ
- 基本および拡張保証情報
- 契約更新
- 柔軟な請求管理
- 統合された資格処理
- 前払処理
- 価格管理

作業オーダー管理

作業オーダー管理モジュールでは、作業オーダーを作成し、電話では解決できない顧客要求を処理できます。顧客側または修理倉庫で実行される作業に対して作業オーダーを作成できます。作業オーダーは、設備レコード、在庫品目番号や製品モデルと関連付けられたすべてのサービス情報、修理情報およびイベントの中央データベースとして機能します。このモジュールの基本的な機能は次のとおりです。

- 労務、部品および製品保守の計画
- 作業オーダーのオンライン承認プロセス
- サービス能力の見積
- 資格チェック
- サービス請求管理
- 支払伝票処理

このシステムでは返品承認(RMA)も管理できます。返品承認とは、払戻、交換または修理のための顧客からの返品を仕入先が承認することです。

保証請求管理

保証請求管理モジュールでは、サービス業者と査定担当者が保証請求を入力して管理できます。この機能では、請求の評価、承認、拒否以外に、保証請求から仕入先回収請求を生成できます。

仕入先回収管理

仕入先回収管理モジュールでは、回収管理者が仕入先回収請求を入力し、管理できます。仕入先回収請求とは、欠陥の責任が仕入先側にあった保証請求または作業オーダーに対して、製造業者が仕入先に行う保証関連費用の払戻請求です。

カスタマ・セルフサービス・ポータル

カスタマ・セルフサービス(CSS)ポータルは、サービス管理システムに対する簡易的で構成可能なフロントエンドです。このポータルで、顧客はサービス契約、作業オーダーおよび設備に関する情報を参照できます。このポータルでは、顧客、サービス業者および流通業者が情報に直接アクセスできるので、顧客満足度の向上とコストの削減を実現できるだけでなく、内部のリソースをより優先度の高い作業に投入できます。

問題分析

問題分析モジュール（以前の Knowledge Management）では、障害、分析および解決方法を検討し、ケースおよび作業オーダーに関連付けることができます。このモジュールの基本的な機能は次のとおりです。

- 問題、調査と試験、解決方法のデータベース。
- 再利用可能な問題分析。
- 問題分析トランザクション。ケースまたは作業オーダーの障害を分析および解決方法と関連付けることができます。

追加機能

サービス管理は次の追加機能を使用します。

- ソリューション・アドバイザー
- ブランチ・スクリプト
- 請求管理（サービス管理用）
- 伝票処理（サービス管理用）
- 返品承認（RMA）
- 予防保全
- Intelligent Graphic Solution (IGS) との統合

ソリューション・アドバイザー

ナレッジ・ベースを適切に配備すると、貴重な数多くの情報を編成し、企業内で最新の解決方法や情報を共有できます。この情報は、レポートに対する解決方法として顧客にも提供できます。ソリューション・アドバイザーは、各製品の豊富な情報を収集し、分類したナレッジ・ベース・アプリケーションです。顧客だけでなく、サービス・エージェントやサポート・エージェントもこの情報にアクセスし、ナレッジ・ベースで特定の問題に対する解決方法を検索できます。ソリューション・アドバイザーの利点は次のとおりです。

- 専門的な知識を取得し、共有できます。
- エージェントの対応が迅速化され、対応の必要性が削減されます。
- 関連する解決方法を迅速に検索できます。
- すべてのエージェントに情報を公開できます。
- 顧客が自分で解決方法を検索する「レベル・ゼロ」サポートが実現できます。
- 解決方法のリポジトリを評価し、古くなった情報を無効にできます。

ソリューション・アドバイザーと問題分析のいずれかのプログラムを使用できます。両方のプログラムは使用できません。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management サポート・アプリケーション 9.0 製品ガイド、「ソリューション・アドバイザーの設定」

ブランチ・スクリプト

顧客や顧客が抱える問題について詳しい情報が必要になることがよくあります。この情報に不足や矛盾があると、顧客への確認が必要になり、余分なコストが発生します。コンタクト・センター・エージェントの問題解決を支援するブランチ・スクリプトを使用すると、適切な情報を収集して保存できるので、問題の解決率が高まり、顧客への確認も少なくなります。ブランチ・スクリプトは、コンタクト・センター業務の効率、効果、一貫性および生産性を向上させるツールとして追加されました。ブランチ・スクリプトには次の利点があります。

- エージェントによるデータの収集が簡素化されます。
- 情報の収集方法が標準化されるので、より正確で矛盾のない情報が収集できます。
- 複雑な診断を簡素化します。経験の浅いエージェントでも経験豊富なエージェントと同様に複雑な問題を解決できます。
- 同じ工程を繰り返し実行できるので生産性が向上します。
- 対応者ごとにデータ収集の方法をカスタマイズできます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management サポート・アプリケーション 9.0 製品ガイド、「スクリプトの設定および管理」

請求管理(サービス管理用)

サービス管理システムは、サービス請求管理システムと同じ請求プログラムを使用します。

請求処理を始める前に、次のように請求明細ワークファイル(F4812)に取引を生成する必要があります。

- 契約の場合には、サービス契約ワークファイルの生成(R1732)を実行します。
- サービス・オーダーの場合には、SWM作業オーダー・ワークファイルの生成(R1775)を実行します。
- ケースの場合には、ケース・ワークファイル生成(R17675)を実行します。
- 保証請求の場合には、保証請求ワークファイルの生成(R177701)を実行します。
- 仕入先回収の場合には、仕入先回収の生成(R177701)を実行します。

請求対象のレコードが収集され、請求明細ワークファイル(F4812)レコードが作成されます。

伝票処理(サービス管理用)

伝票処理を開始する前に、次のいずれかのプログラムを使用してワークファイルを生成する必要があります。

- SWM作業オーダー・ワークファイルの生成(R1775)
- 保証請求/仕入先回収請求ワークファイルの生成(R177701)

いずれかのプログラムを実行すると、作業オーダー部品リスト・テーブル(F3111)、部品拡張テーブル(F31171)、作業オーダーの作業工程テーブル(F3112)および、作業工程指示 - 拡張テーブル(F31172)から支払対象の作業オーダーが収集され、請求ワークファイル・テーブル(F4812)にレコードが作成されます。

ワークファイルが生成されたら、伝票の生成プログラム(R48122)を実行して、ワークファイル取引をグループ化して伝票番号を割り当てます。

返品承認 (RMA)

返品承認 (RMA) とは、払戻、交換または修理のための顧客からの返品を仕入先が承認することです。仕入先用に、在庫の返品をトラッキングするための承認番号が作成されます。RGA (返品承認) とも呼ばれます。

返品承認を作成するには、返品を受け取るための購買オーダーと、交換製品を出荷するための受注オーダーを作成します。交換製品を出荷するかわりに、返品オーダーを作成することもできます。購買オーダーと受注オーダーの作成方法を指定するには、受注オーダー入力プログラム (P4210) と購買オーダー・プログラム (P4310) の各バージョンの処理オプションを設定し、それらのバージョンを返品承認の処理プログラム (P40051) で指定します。

サービス管理システムは、効果的で費用対効果の高いサービス・プロセスを行うために、顧客と製品の情報を使用します。たとえば、コンピュータのモニターを顧客に販売したときに、設備レコードと基本保証レコードが作成されたとします。顧客が問題を連絡したときに、カスタマ・サービス担当者 (CSR) は以前の照会から関連する障害、分析、解決方法を探し、問題を解決できます。問題を解決できない場合、CSR は返品承認を作成できます。これにより、顧客は故障したモニターを返品し、代替品を受け取ることができます。

予防保全

内部または外部にかかわらず、顧客の設備を維持するサービス部門は定期的な保守作業を計画、監視、実行し、機器の故障や予定外の修理作業を最小限に抑えることができます。設備保守の必要性を管理するには、サービス契約および保証範囲内の機器など、各設備機器に必要な保守作業の種類と頻度を定義します。

Intelligent Graphic Solution (IGS) との統合

Intelligent Graphic Solution (IGS) は別売のサード・パーティ製品です。IGS は、設備、建物、在庫品目の組立品をグラフィカルに表示できるツールです。各品目や部品がグラフィカルに表示され、親品目や他の構成品との関係もわかります。ここでは、組立部品全体が確認できます。グラフィックから部品を選択すると、JD Edwards EnterpriseOne の作業オーダーの部品リストに品目番号を戻すことができます。

第 3 章

サービス管理の設定

この章では、サービス管理の設定の概要と、次の方法について説明します。

- サービスと保証の固定情報の設定
- ユーザー定義コード(UDC)の設定
- システム自動採番の設定
- 製品ファミリとモデルの組合せの設定
- 顧客とサービス業者の設定
- 仕入先の設定
- 在庫固定情報の設定
- AAI(自動仕訳)の設定
- 査定担当者のデフォルトと規則順序の設定
- 修理時間スケジュールの設定
- 伝票タイプ情報の設定

サービス管理の設定について

サービス管理の特定の機能を設定する前に、システムの処理に重要な情報を定義する必要があります。一般的な設定タスクとして、サービス管理システムのモジュールを設定するタスクを実行する必要があります。

この章で使用する共通フィールド

原価タイプ

品目の原価要素を指定するコードを入力します。この値が取得され、サービス・オーダーの部品リストに追加され、原価計算に使用されます。次に例を示します。

A1: 購買原材料

B1: 直接労務費の詳細積上げ

B2: 段取労務費の詳細積上げ

C1: 変動間接費の詳細積上げ

C2: 固定間接費の詳細積上げ

Dx: 外注費の詳細積上げ

Xx: 光熱費や水道代などの追加間接費

	<p>通常、その他費用の計算にはタイプXx(追加費用)を使用します。この原価構造により、原価要素を必要なだけ使用して別の原価積上げを計算できます。この原価要素は、ユーザー定義の6つの集計原価バケットのうちの1つと関連付けられます。</p>
設備マスター・レコードの作成	<p>設備マスター更新プログラム(R17024)の実行時に品目の設備レコードを作成するかどうかを指定する場合に選択します。品目についてこのオプションを選択すると、更新時に設備レコードのみが作成されます。</p>
夏時間規則	<p>夏時間規則を表す固有の名前を入力します。夏時間規則は、地理的および政治的な場所の時間を調整するときに使用します。</p> <p>このフィールドは、顧客、サービス業者または仕入先の標準時間帯に適用されます。</p>
デフォルト・サービス業者	<p>サービス業者の住所録番号を入力します。</p> <p>この顧客に作業オーダーを入力すると、この情報が取得されます。</p>
均一料金	<p>サービス・タイプが均一料金と実際のタイム・アンド・マテリアルのどちらに基づいて価格設定されるのかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>F: 労務費は均一料金に基づいています。部品代は均一料金にすでに含まれています。</p> <p>T: 労務費は実労務時間に基づいています。部品代は実際に使用した部品に基づいています。</p> <p>ブランク: サービス業者の価格設定方法を定義する場合のみ、ブランクが有効になります。ブランク値は、サービス業者が内部のサービス業者であり、支払が発生しないことを示すために使用されます。</p>
地域	<p>顧客の存在する地域を入力します。</p> <p>この顧客にケースを入力すると、この情報が取得されます。</p>
サービス担当ビジネスユニット	<p>倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場など、原価をトラッキングする業務単位を指定します。ビジネスユニットのフィールドには英数字を入力します。</p> <p>ビジネスユニットを伝票、請求、固定資産などに割り当て、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。</p> <p>ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。</p>
修理可能	<p>品目が修理可能かどうかを指定するオプションを入力します。</p> <p>「修理可能」オプションを選択した場合、返品承認(RMA)が発行されると、品目が修理可能な倉庫に送付されます。「修理可能」オプションの選択が解除されているときに、返品が発生すると、品目が廃棄用倉庫に送付されます。</p>
補助科目	<p>補助科目を入力します。補助科目は主科目の下位の科目区分です。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。</p>

注意: 任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

ケースの時間を入力すると、時間入力用に勘定科目コードが取得されます。

タイム・アンド・マテリアル

サービス・タイプが均一料金と実際のタイム・アンド・マテリアルのどちらに基づいて価格設定されるのかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

F: 労務費は均一料金に基づいています。部品代は均一料金にすでに含まれています。

T: 労務費は実労務時間に基づいています。部品代は実際に使用した部品に基づいています。

ブランク: サービス業者の価格設定方式を定義する場合のみ、ブランクが有効になります。ブランク値は、サービス業者が内部のサービス業者であり、支払が発生しないことを示すために使用されます。

作業オーダー・サービス・タイプ

UDC 00/TY (作業オーダー/ECOタイプ) から、作業オーダーまたは設計変更オーダー (ECO) のタイプを示す値を入力します。

この顧客に作業オーダーを入力すると、この情報が取得されます。

作業オーダー承認の選択基準として作業オーダー・タイプを使用できます。

サービスと保証の固定情報の設定

この項では、サービス管理の固定情報の概要、および次の方法について説明します。

- サービスと保証の固定情報の設定
- サービス管理のCRM固定情報の設定

サービスと保証の固定情報について

システム全体のデフォルト情報を定義するには、システム固定情報を設定します。固定情報により、トラッキングする情報のタイプと特定の計算に使用される規則を定義します。

関連項目:

[第 6 章、「作業オーダーの管理」、「作業オーダー固定情報の設定」、168ページ](#)

[第 5 章、「契約の管理」、「契約固定情報の設定」、96ページ](#)

[第 4 章、「設備の管理」、「サービス管理での設備マスター固定情報の設定」、46ページ](#)

[第 7 章、「保証請求と仕入先回収請求の処理」、「保証請求と仕入先回収請求を設定するためのチェックリスト」、227ページ](#)

JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management サポート・アプリケーション 9.0 製品ガイド、「ケース管理の基礎の設定」

サービスと保証の固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
S/WMシステム固定情報の改訂	W17001C	「サービス/ワランティ管理のセットアップ」メニュー (G1740)、「サービス/ワランティ管理の固定情報」 「一般」タブを選択します。	サービスと保証の固定情報を設定します。
CRM固定情報	W90CA000C	「サービス/ワランティ管理のセットアップ」メニュー (G1740)、「CRM固定情報」 「処理」タブを選択します。	サービス管理のCRM固定情報を設定します。

サービスと保証の固定情報の設定

「S/WMシステム固定情報の改訂」フォームにアクセスします。「一般」タブを選択します。

サービス/ワランティ管理の固定情報 - S/WMシステム固定情報の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

タブを選択: 1-一般

デフォルト

基本保証契約の顧客No.

親子の構造タイプ 売掛金

祝日/日付タイプ・コード 祝日

固定情報

☒ S/WMとのインターフェイスを行う

☒ 製品ファミリモデルの組合せを検証する

☒ 顧客の前のケースおよび作業オーダーをチェックする

☒ 設備に関する前のケースおよび作業オーダーをチェックする

☒ 問題分析コードの選択に問題分析ツリーを使用する

☐ 問題分析の再使用承認にワークフローを使用する

☐ グラフィカル部品ブックを使用する

資格承認

☒ 顧客 ☐ サイト

「S/WMシステム固定情報の改訂」フォーム: 「一般」タブ

基本保証契約の顧客No.

住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。詳細住所や税IDなど、住所録番号 (AN8) 以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。

	<p>このフィールドをblankにすると、受注オーダーの販売先住所録番号または設備レコードの所有者住所録番号を顧客番号として、基本保証が作成されます。</p> <p>このフィールドに住所録番号を入力すると、設備マスター更新プログラム (R17024) および設備マスターの改訂プログラム (P1702) で基本保証を作成するときに、この番号が顧客番号として使用されます。</p> <p>たとえば、住所録番号4100 (Total Solutions) の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が* (アスタリスク) の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。</p>
親/子の構造タイプ	<p>UDC 01/TS (親/子の構造タイプ) から、住所録システムに独自の階層を持つ組織構造のタイプ (電子メールなど) を指定する値を入力します。</p> <p>売掛管理システムに親/子関係を作成する場合は、この構造タイプをblankにしてください。</p>
祝日用日付タイプ・コード	<p>日付を示すコードを入力します。この情報は資格チェックで使用されます。値は次のとおりです。</p> <p>W: 作業日</p> <p>E: 週末</p> <p>H: 祝日</p>
S/WMとのインターフェイスを行う (サービス/保証管理システムのインターフェイスを行う)	<p>サービス/保証管理システムとのインターフェイスの存在を指定します。</p>
製品ファミリ/モデルの組合せを検証する	<p>製品ファミリ/モデル・マスター (F1790) に設定された組合せの入力のみを許可します。</p> <p>このオプションを選択すると、製品ファミリとモデルの組合せが検証されます。</p>
顧客の前のケースおよび作業オーダーをチェックする	<p>ケースまたは作業オーダーを入力したときに、その顧客番号の前のケースおよび作業ケースを検索するかどうかを指定します。</p>
設備に関する前のケースおよび作業オーダーをチェックする	<p>ケースまたは作業オーダーを入力したときに、その製品 (在庫番号) の前のケースおよび作業ケースを検索するかどうかを指定します。</p>
問題分析コードの選択に問題分析ツリーを使用する	<p>問題分析ツリーから問題分析コードを選択するかどうかを指定します。</p> <p>このオプションの選択を解除すると、問題分析コードの検索/選択プログラム (P17761S) を使用して問題、分析および解決方法を選択できます。</p>
問題分析の再使用承認にワークフローを使用する	<p>問題分析の再使用承認にワークフローを使用するかどうかを指定します。</p>
グラフィカル部品ブックを使用する	<p>キャピタル・アセット・マネジメント (CAM) を使用している場合、この固定情報では、作業オーダー部品リストプログラム (P3111) と Intelligent Graphic Solution (IGS) のインターフェイスを定義します。</p> <p>IGSは、設備、建物、在庫品目の組立品をグラフィカルに表示できるツールです。これにより、CAMとIGSをリンクし、作業オーダーの部品と伝票を検索できます。</p>

顧客、サイト

作業オーダーおよびケースを入力するときに、資格チェックで使用される住所録番号を指定するオプションを選択します。この値はUDC 17/YNにハードコード化されているため、変更できません。値は次のとおりです。

- 0: 顧客番号による資格
- 1: サイト番号による資格

サービス管理のCRM固定情報の設定

「CRM固定情報」フォームにアクセスし、「処理」タブを選択します。

自動保存

CRMアプリケーションで「保存」コマンドを使用したときにプロンプトを表示するかどうかを指定する値を入力します。値は次のとおりです。

- 0: 保存時にプロンプトを表示します。
- 1: 自動的に保存します。

UDCの設定

この項では、UDCの概要とサービス管理で使用するUDCのタイプについて説明します。

UDCについて

UDCを使用すると、特定の業務要件に合わせてサービス管理システムを設定できます。システムには数多くのコードが事前に定義されていますが、これらのコードを改訂して新しいコードを設定することもできます。

設備情報管理で使用するUDC

「設備ユーザー定義コード」メニュー(G17411)から次のUDCにアクセスできます。

UDC	内容
12/C1	主要資産区分
12/C2	設備区分
12/C3から12/C0	設備カテゴリ・コード3から10
12/F1から12/F0	カテゴリ・コードF/A 11から20
12/21から12/23	カテゴリ・コードF/A 21から23
17/B1から17/B0	設備カテゴリ・コード1から10
17/PA	製品ファミリー・コード。製品タイプ(インクジェット・プリンタ、レーザー・プリンタ、ドット・マトリックス・プリンタなど)で設備レコードを分類およびグループ化するときに使用します。

UDC	内容
17/PM	製品モデル・コード。製品ファミリの特定のモデルで設備レコードを分類およびグループ化するときに使用します。
17/SY	売上タイプ・コード。「略式コマンド」フィールドに「UDC」と入力して、このコードにアクセスします。

契約管理で使用するUDC

「契約ユーザー定義コード」メニュー (G17441) から次のUDCにアクセスできます。

UDC	内容
17/CN	解約理由コード
17/S1から17/S5	サービス・タイプ1から5
17/C1から17/C5	保証範囲カテゴリ・コード1から5
17/H1から17/H0	契約見出しカテゴリ・コード1から10
17/D1から17/D5	契約明細カテゴリ・コード1から5
00/EX (「契約の設定」メニュー、G1744)	税目コード。税目コードを設定して顧客マスター・レコードに添付し、顧客の税域に基づいて税額を計算します。たとえば、カナダ在住の顧客に適用する税 (VAT) の税目コードを設定できます。
H91/TZ	標準時間帯
17/TY	契約タイプ
17/CO	契約状況
17/CM	契約管理タイプ

ケースで使用するUDC

「ケース・ユーザー定義コード」メニュー (G17431) から次のUDCにアクセスできます。

UDC	内容
17/PR	ケース優先順位
17/CR	ケース理由
17/SC	ケース・ソース
17/ST	ケース状況
17/CT	ケース・タイプ

UDC	内容
17/EN	環境
17/GR	地域
H91/TZ	標準時間帯
17/WT	作業タイプ
17/CB	コールバック
17/TN	タスク名
17/01から17/10	ケース・カテゴリ・コード1から10
00/RR	<p>オブジェクト使用中アプリケーションID。このUDCテーブルを使用すると、特定のアプリケーションでオブジェクトが使用中かどうか確認できます。また、レコードに同時にアクセスできるユーザーを1人に限定できます。</p> <p>このUDCを設定すると、ケース入力プログラム(P17501)へのアクセスを確認できます。レコードのロックを有効にするには、特殊取扱コードの最初の文字を1にします。レコードのロックを行わない場合には、特殊取扱コードの最初の文字を0にします。</p>
40/RN	返品資材状況。RMAモジュールを使用している場合には、RMA状況のUDCも設定する必要があります。

作業オーダー管理で使用するUDC

「作業オーダー・ユーザー定義コード」メニュー(G17421)から次のUDCにアクセスできます。

UDC	内容
17/SG	サービス・グループ
17/WT	時間入力の時間タイプ

問題分析で使用するUDC

「問題分析ユーザー定義コード」メニュー(G17451)から次のUDCにアクセスできます。

UDC	内容
48/K1から48/K5	問題分析コードCC 1から5

在庫処理で使用するUDC

「略式コマンド」フィールドで次のUDCにアクセスできます。

UDC	内容
17/RT	返品条件

保証請求で使用するUDC

「略式コマンド」フィールドで次のUDCにアクセスできます。

UDC	内容
17/DC	欠陥コード

サービス管理での自動採番の設定

この項では、自動採番の概要とサービス管理での自動採番の設定方法について説明します。

自動採番について

請求、伝票、仕訳などの伝票を作成するときに、伝票番号を自動採番プログラム(P0002)で割り当てることができます。

自動採番は、番号を自動的に割り振る機能です。自動採番プログラムは、標準の自動採番方法で伝票に番号を割り当てます。自動採番テーブル(F0002)から次に使用可能な番号が取得され、伝票に割り当てられます。

自動採番はデータ辞書とともに使用されます。自動採番を使用するデータ辞書の項目には、データ項目の自動採番値を含む行番号に対応する自動採番用インデックス値があります。

自動採番を設定する場合には、次の点に注意してください。

- 自動採番値としてブランクは使用しないでください。
- 自動採番の値は変更しないでください。
この値を変更すると、番号が重複する可能性があります。また、前に追加された値が検索できなくなります。自動採番の値を変更する場合には、より大きい値に変更してください。
- 自動採番の値は削除しないでください。
自動採番の値を削除すると、予期しない結果が生じる可能性があります。
- テーブル内で自動採番の値の順序を変更しないでください。
プログラムがテーブル内の特定の行を参照するため、自動採番の各値は現在の行に残してください。たとえば、一般会計システムの場合、仕訳の自動採番は2行目に存在する必要があります。

標準の自動採番にチェック・ディジットを割り当てることができます。伝票に割り当てられた自動採番を確認し、自動採番の形式にチェック・ディジットを割り当てかどうか指定できます。チェック・ディジットを割り当てると、データ入力時の転置によるエラーを防ぐことができます。たとえば、仕入先の住所録にチェック・ディジットを有効にすると、伝票入力時に転置が発生しても無効な仕入先への割当を防ぐことができます。データ入力時に転置によるエラーが発生する可能性がある場合にだけ、チェック・ディジットを使用する必要があります。

注意: 自動採番を使用せずに、伝票番号を手入力で割り当てる場合には、データ入力時に番号を入力する必要があります。

サービス管理の自動採番に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
システム別自動採番の設定	W0002C	「サービス/ワランティ管理のセットアップ」(G1740)、「サービス/ワランティ管理の自動採番」 「自動採番の処理」で検討するシステムを選択し、「選択」をクリックします。	システム自動採番を設定します。

サービス管理での自動採番の設定

「システム別自動採番の設定」フォームにアクセスします。

サービス/ワランティ管理の自動採番 - システム別自動採番の設定

OK(O) 取消(L) フォーム(E) ツール(T)

システム 17 カスタマ・サービス管理

用途	自動採番	チェック・ディジット
Case Number	16586	<input type="checkbox"/>
Case T/E Batch	12	<input type="checkbox"/>
E-Help	2	<input type="checkbox"/>
Contracts	1128	<input type="checkbox"/>
	13486	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>

注意: この画面で番号を変更すると、入力済みレコードが検索できなくなったり、採番が重複する可能性があります。

「システム別自動採番の設定」フォーム

自動採番範囲1

次に割り当てられる番号。伝票番号、請求書番号、仕訳番号、従業員番号、住所番号、契約書番号、W-2順序コードに自動採番が使用できます。カスタム・プログラムを使用しないかぎり、すでに設定されている自動採番の形式を使用してください。

設定していない会社の場合、「システム別自動採番の設定」(標準の自動採番)に表示される開始番号が使用されます。

チェック・ディジット

チェック・ディジットを追加します。

自動採番された各番号の後ろに数字を追加するかどうかを指定します。たとえば、チェック・ディジットを使用しているときに自動採番の値が2の場合

合、7などのチェック・ディジットが追加され、最後の2桁の数字は27になります。チェック・ディジット・オプションを使用すると、番号を任意に増やすことができるので、転置された番号の割当を防ぐことができます。この例では、チェック・ディジットが有効なかぎり、72という番号が自動採番で割り当てられることはありません。

サービス管理での製品ファミリとモデルの組合せの設定

この項では、製品ファミリとモデルの組合せの設定の概要と、サービス管理での製品ファミリとモデルの組合せの設定に使用するフォームについて説明します。

製品ファミリとモデルの組合せについて

製品ファミリとモデルの組合せは、資産の分類と管理に使用するUDCです。問題分析プログラムのリンクを使用すると、問題のトラッキングもできます。

製品ファミリとモデルの組合せを設定すると、製品モデルを適切な製品ファミリに割り当てることができます。製品ファミリには複数のモデルを追加できます。モデルは、1つの製品ファミリにのみ属する固有のグループです。

CAMの場合、フォークリフトという製品ファミリにガソリン・エンジンと電気エンジンというモデルを割り当てることができます。サービス管理の場合、プリンタという製品ファミリにレーザーとインク・ジェットというモデルを追加できます。

サービス管理での製品ファミリとモデルの組合せの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
製品ファミリ/モデルの改訂	W1790C	<p>キャピタル・アセット・マネジメントの場合:「工場および設備管理のセットアップ」メニュー(G1341)、「製品ファミリ/モデルの改訂」</p> <p>「製品ファミリ/モデル改訂の処理」で「追加」をクリックします。</p> <p>サービス管理の場合: 「サービス/ワランティ管理のセットアップ」メニュー(G1740)、「製品ファミリ/モデルの改訂」</p> <p>「製品ファミリ/モデル改訂の処理」で「追加」をクリックします。</p>	製品ファミリとモデルの組合せを設定します。

サービス管理での顧客およびサービス業者の設定

この項では、サービス管理での顧客およびサービス業者の概要と、次の方法について説明します。

- サービス管理での顧客の設定
- サービス管理でのサービス業者の設定

顧客およびサービス業者について

住所録システムを使用すると、住所、電話番号など、顧客とサービス業者に関する情報のデータベースを作成できます。住所録マスター(F0101)の拡張としてSWM住所情報テーブル(F1797)が作成されます。このテーブルには、追加のSWM住所録情報が格納されます。

CAMの場合、作業オーダーを作成または改訂する従業員のビジネスユニットおよび住所録レコードにSWM情報を定義する必要があります。設備レコードは、ビジネスユニットを使用して資産の基本サイトと所有者を表します。

顧客の設定

契約の作成、ケースまたは作業オーダーの入力を行う前に、顧客の住所録レコードを作成する必要があります。

サービス業者の設定

サービス業者は、ケースを入力し、作業オーダーを実行します。サービス業者のレコードを管理することで、サービス業者に対する顧客満足度をトラッキングできます。サービス業者は、ケースのコンサルタント、作業オーダーの技術者または認定の販売業者の場合があります。住所録にサービス業者を設定します。

注意: CAMの場合、作業オーダー・プログラムのすべてのユーザーを設定し、作業オーダーを入力できるようにする必要があります。「サービス業者の改訂」フォームの必須フィールドは、「標準時間帯」だけです。残りのフィールドはサービス管理システムに適用されます。

サービス管理の場合、作業オーダー、契約、ケースのすべてのユーザーをサービス業者として設定する必要があります。

サービス管理での顧客およびサービス業者の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客情報の改訂	W1782B	<p>サービス管理の場合: 「サービス/ワランティ管理のセットアップ」メニュー (G1740)、「住所録の改訂」</p> <p>キャピタル・アセット・マネジメントの場合:「工場および設備管理のセットアップ」メニュー (G1341)、「住所録の改訂」</p> <p>「住所の処理」フォームで、「追加」をクリックします。</p> <p>「フォーム」メニューの「サービス/ワランティ管理」を選択します。</p> <p>「サービス/ワランティ管理情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。</p> <p>「サービス/ワランティ管理情報」フォームで、「顧客」を選択します。</p>	顧客を設定します。
サービス業者の改訂	W1782C	<p>サービス管理の場合: 「サービス/ワランティ管理のセットアップ」メニュー (G1740)、「住所録の改訂」</p> <p>キャピタル・アセット・マネジメントの場合:「工場および設備管理のセットアップ」メニュー (G1341)、「住所録の改訂」</p> <p>「住所の処理」フォームで、「追加」をクリックします。</p> <p>「フォーム」メニューの「サービス/ワランティ管理」を選択します。</p> <p>「サービス/ワランティ管理情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。</p> <p>「サービス/ワランティ管理情報」フォームで、「サービス業者」を選択します。</p>	サービス業者のレコードを設定します。

サービス管理での顧客の設定

「顧客情報の改訂」フォームにアクセスします。

顧客に契約を作成し、ケースまたは作業オーダーを入力するには、顧客レコードに売掛金情報も追加する必要があります。

住所録の改訂 - 顧客情報の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

顧客No. 3003 CSC Corporation

調整スケジュール

契約	SCHCON	契約スケジュール
作業オーダー	SCHSV0	CSMS サービス・オーダー・スケジュール
ケース	SCHCALL	コール・スケジュール

デフォルト・サービス業者

デフォルト・ディーラー

地域

作業オーダー・サービス・タイプ

標準時間帯 05 アリゾナ

夏時間規則

標準運送業者

出荷のトラッキング

作業場 S30 LM Service Center

担当ビジネスユニット

「顧客情報の改訂」フォーム

契約調整スケジュール

UDC 40/AS(スケジュール名)から価格調整スケジュールを識別する値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。契約を入力すると、SWM顧客補足情報から調整スケジュールが使用されます。このスケジュールは、明細行レベルで一時変更できます。

価格管理システムの調整スケジュールを入力し、契約の価格設定を行います。

作業オーダー調整スケジュール

作業オーダーの請求時に、価格管理システムで部品または労務の計算に使用される調整スケジュールの値をUDC 40/AS(スケジュール名)から入力します。

ケース調整スケジュール

価格管理システムの調整スケジュールを表すUDC 40/AS(スケジュール名)から値を入力します。この値は、ケースの価格設定に使用されます。

売掛金(Y/N)

顧客から売掛金を受領する場合は、このオプション選択します。

注意: 顧客を削除する必要がある場合には、「サービス/ワランティ管理情報の処理」フォームの「削除」をクリックします。SWM住所録情報テーブル(F1797)のSWM情報だけが削除されます。住所録マスター(F0101)は変更されません。

サービス管理でのサービス業者の設定

「サービス業者の改訂」フォームにアクセスします。

住所録の改訂 - サービス業者の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

☐ 無効にする

サービス業者No. 3003 CSC Corporation

ACD電話番号

宛先メールボックス

ポケベル/電子メール・アドレス

サービス・グループ

作業場

標準時間帯 05 アリゾナ

夏時間規則

デフォルト勘定科目コード 調整スケジュール 支払/価格設定

所属ビジネスユニット

主科目

補助科目

「サービス業者の改訂」フォーム

無効にする

このオプションはサービス業者を有効にしない場合に選択します。有効または無効なサービス業者を確認し、報告できます。

仕入先(Y/N/M)

仕入先を識別するコードを入力します。値は次のとおりです。

Y: 仕入先。住所の追加後に仕入先マスター・レコードを自動的に表示するかどうかは、処理オプションで指定します。

N: 仕入先ではない。このコードを指定しても、住所の伝票入力には影響しません。

M: その他、単発取引の仕入先。このコードを指定しても、住所の複数伝票入力には影響しません。

F: 国外の住所を持つ仕入先。IRSの規定により、1099レポートでは、米国の会社は国外の住所を持つ仕入先を識別する必要があります。

納税先は仕入先として割り当ててください。納税先に対して、税の支払処理を行うためです。

コードNは、処理オプションを設定しないかぎり、参考用のコードとみなされます。「仕入先」フィールドと「売掛金」フィールドの両方にNを入力すると、警告メッセージが表示されます。

ACD電話番号（自動着信分配電話番号）

市外局番およびハイフンやピリオドなどの特殊文字を含めずに、登録する連絡先の電話番号を入力します。どの国の電話番号形式でも入力できます。このフィールドは、電話番号の最初の部分(米国ではエリア・コード)を入力する市外局番フィールド(AR1)と組み合わせて使用されます。

電話番号から住所を検索するには、住所録システムの登録時に使用した特殊文字も含め、登録時と完全に一致する形で番号を入力する必要があります。

「ACD電話番号」フィールド(自動着信分配電話番号)は、業者の電話番号システムの拡張機能です。サービス業者にケースを割り当てると、この拡張機能もシステムに割り振ります。

宛先メールボックス

キューに関連し、メッセージの配信に使用されるメールボックスを入力します。

業者にケースが割り振られると、そのケースはメッセージ・センターのこのメールボックスに保存されます。

このフィールドをブランクにすると、メールボックスに定義したキューがデフォルト値として利用されます。

ポケベル/電子メール・アドレス

このフィールドにテキストを入力します。ポケベルまたは電子メール・アドレスを入力すると、サービス業者にケースまたは作業オーダーが割り当てられたときに、ポケベルまたは電子メールでサービス業者に通知されます。

デフォルト勘定科目コード

所属ビジネスユニット

従業員が通常所属するビジネスユニット番号を入力します。

ケースの時間を入力すると、時間入力用に勘定科目コードが取得されます。

調整スケジュール

保証請求

UDC 40/AS(スケジュール名)から価格調整スケジュールを識別する値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。

価格管理システムでサービス業者に対する部品または労務の価格設定で使用する調整スケジュールを入力します。

支払/価格設定

均一料金、タイム・アンド・マテリアル、なし

サービス・タイプが均一料金と実際のタイム・アンド・マテリアルのどちらに基づいて価格設定されるのかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

F: 均一料金。部品代は均一料金にすでに含まれています。

T: 実際労務時間。部品代は実際に使用された部品に基づきます。

ブランク: サービス業者の価格設定方式を定義する場合のみ、ブランクが有効になります。ブランク値は、サービス業者が内部のサービス業者であり、支払が発生しないことを示すために使用されます。

クレジット・メモ

承認された仕入先回収レコードにクレジット・メモの返金方法を選択します。

買掛金

承認された仕入先回収レコードに買掛金の返金方法を選択します。

サービス業者への部品支払

修理用の部品代をサービス業者に支払うことを指定します。値は次のとおりです。

Yまたは1: 支払う

Nまたは0: 支払わない

注意: サービス業者を削除する必要がある場合には、「サービス/ワランティ管理情報の処理」フォームの「削除」をクリックします。SWM住所録情報テーブル(F1797)のSWM情報だけが削除されます。住所録マスター(F0101)は変更されません。

仕入先の設定

この項では、サービス管理での仕入先の設定方法について説明します。

サービス管理での仕入先の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先情報の改訂	W1782H	「サービス/ワランティ管理のセットアップ」メニュー (G1740)、「住所録の改訂」 「住所の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 「フォーム」メニューの「サービス/ワランティ管理」を選択します。 「サービス/ワランティ管理情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 「サービス/ワランティ管理」フォームで、「仕入先」をクリックします。	仕入先を設定します。

サービス管理での仕入先の設定

「仕入先情報の改訂」フォームにアクセスします。

契約調整スケジュール	UDC 40/AS(スケジュール名)から価格調整スケジュールを識別する値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。契約を入力すると、SWM顧客補足情報から調整スケジュールが使用されます。このスケジュールは、明細行レベルで一時変更できます。
価格管理システムの調整スケジュールを入力し、契約の価格設定を行います。	
作業オーダー調整スケジュール	作業オーダーの請求時に、価格管理システムで部品または労務の計算に使用される調整スケジュールの値をUDC 40/AS(スケジュール名)から入力します。
ケース調整スケジュール	UDC 40/AS(スケジュール名)からケースの価格設定に使用する調整スケジュールの値を入力します。
保証請求調整スケジュール	UDC 40/AS(スケジュール名)から仕入先に対する部品および労務代の価格設定に使用する調整スケジュールの値を入力します。
デフォルト・ディーラー	顧客のデフォルトの販売業者を入力します。

標準運送業者	運送業者に割り当てる4文字の固有のコードを入力します。
出荷トラッキング	外部にある運送業者の出荷トラッキング機能にアクセスします。
デビット・メモ、売掛金	販売業者に対する請求の返金方法または仕入先に対する請求の支払方法を指定します。たとえば、ディーラーは標準の買掛処理を通じて請求に対する支払を要求するか、売掛勘定への貸方として要求することができます。

サービス管理での在庫情報の設定

この項では、サービス管理での在庫情報の概要と事前設定について説明します。

在庫情報について

サービス管理システムでは、在庫管理システムを使用してサービス管理に固有の品目情報を格納します。品目マスターを作成し、事業所に品目を割り当てる必要があります。サービス管理に固有な情報としては、製品ファミリーや製品モデルの情報などがあります。

品目マスターの作成

品目マスター情報は、すべての在庫品目と非在庫品目に対して入力する必要があります。マスター情報には、品目番号、品目名称、記述、およびその他の一般的な品目情報が含まれます。この情報は、流通/製造管理システムで各品目を識別する場合に使用されます。

品目を追加する場合、1つの品目を入力してそれをテンプレートとして使用できます。品目のテンプレートで、追加する他の品目と共通したフィールド値を入力できます。新しい品目を追加するときに、このテンプレートを使用し、必要に応じてフィールド値を変更します。

新しい品目を入力すると、品目マスター(F4101)に品目マスター・レコードが作成され、サービス管理固有の情報が品目マスター - サービス/保証テーブル(F4117)に格納されます。作成された品目マスター・レコードに次のいずれかの情報が存在する場合、その品目マスター情報は削除できません。

- 事業所品目レコード
- 部品表
- 品目相互参照番号
- 仕入先関係
- 販売価格

事業所への品目の割当

品目に事業所を割り当て、品目が存在する場所を指定します。品目情報は、倉庫ごとに異なる場合があります。たとえば、ある倉庫の品目には課税されても、他の倉庫の品目には課税されない場合があります。また、各品目の適正在庫数量が倉庫によって異なる場合もあります。JD Edwards EnterpriseOneの各システムで品目情報を取り込む場合は、品目マスター情報を使用する前に事業所品目情報が検索されます。

事業所情報を追加すると、事業所品目テーブル(F4102)にレコードが作成され、サービス管理固有の情報が事業所品目マスター - サービス/保証テーブル(F4117)に格納されます。

事前設定

在庫情報を設定する前に、次の処理を行います。

- ・「S/WMシステム固定情報の改訂」フォームで「S/WMとのインターフェイスを行う」オプションを選択し、サービス管理情報へのアクセスを有効にします。

参照: 第 3 章、「サービス管理の設定」、「サービスと保証の固定情報の設定」、17ページ

- ・品目マスター(P4101)の処理オプションで品目のデフォルト値、バージョン、品目追加時の表示オプションが設定されているかどうかを確認します。
- ・事業所品目プログラム(P41026)の処理オプションで品目のデフォルト値、バージョン、事業所への添付時の表示オプションが設定されているかどうかを確認します。

AAIの設定

この項では、サービス管理でのAAIの概要と設定方法について説明します。

AAIについて

会計取引を記録する場合、取引を適切に処理するために、勘定科目構造と特定の勘定科目値に関する情報が必要です。勘定科目構造と特定の勘定科目値は、AAIを使用して定義します。AAI値はAAIマスター(F0012)に保存されます。プログラムは会計機能を実行するたびに、このAAIマスターにアクセスします。AAIは、システムが仕訳を自動作成する勘定科目を決定する際に使用されます。

使用する予定の会社、取引、伝票タイプ、元帳クラスの組合せごとにAAIを定義しておく必要があります。流通AAIでは、サービス管理システムと総勘定元帳とを連動させる規則を定義します。会計AAIでは、サービス管理、買掛管理、売掛管理の各システムを連動させる規則を定義します。AAIを定義する場合は、様々なプログラムの取引の処理方法を設定します。

「元帳カテゴリ・コード」、「伝票タイプ」、「会社」、「原価タイプ」などのキー・フィールドに基づいて、取引がビジネスユニット、主科目、補助科目に仕訳されます。

仕訳を行う主科目および補助科目に特定の事業所を指定できます。また、事業所をブランクにすることもできます。システムの固定情報に基づいて、適切な事業所が指定されます。

契約関連の流通AAIは次のとおりです。

- ・ 1750、契約収益
- ・ 1751、契約による短期収益
- ・ 1752、契約による長期収益
- ・ 1753、解約料金

作業オーダー関連の流通AAIは次のとおりです。

- ・ 1742、サービス・オーダー
- ・ 1782、サービス・オーダー請求

在庫関連の流通AAIは次のとおりです。

- ・ 4124、支出または売上原価
- ・ 4122、在庫

作業工程関連の流通AAIは次のとおりです。

- ・ 3122、作業工程サービス原価

- 3401、見越し

保証請求関連の流通AAIは次のとおりです。

- 1723、保証請求の価格調整
- 1724、保証請求の相殺
- 1743、保証請求の売掛金
- 1785、保証請求の買掛金
- 1725、仕入先回収の価格調整
- 1726、仕入先回収の相殺
- 1744、仕入先回収の売掛金
- 1786、仕入先回収の買掛金

関連項目:

第 5 章、「契約の管理」、「契約設定のAAIについて」、136ページ

第 6 章、「作業オーダーの管理」、「作業オーダー関連AAIについて」、164ページ

第 7 章、「保証請求と仕入先回収請求の処理」、「保証請求管理について」、229ページ

サービス管理でのAAIの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目の改訂	W40950D	次のいずれかのナビゲーションを使用します。 「作業オーダーの設定」(G1742)、「AAI-原価計算対象部品」、「原価計算作業工程」、「AAI-請求/支払」 「契約の設定」(G1744)、「AAI-請求/収益期間配分」 「ケース設定」(G90CG)、「AAI-原価計算」または「AAI-請求」 「AAIの処理」フォームでAAIテーブルを選択します。 「ロー」メニューの「詳細」を選択します。	サービス管理でAAIを設定します。

サービス管理でのAAIの設定

「勘定科目の改訂」フォームにアクセスします。

AAI - 請求/支払 - 勘定科目の改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

AAIテーブル番号

1742

Work Orders

レコード 1 - 7

グリッドのカスタマイズ

	会社 番号	伝票 タイプ	記述	元帳 クラス	記述	オーダー タイプ	記述	原価 タイプ	事業所	主 科目
<input checked="" type="radio"/>	00200	SE	拡張保証サービス	****				A1		5091
<input type="radio"/>	00200	SE	拡張保証サービス	****				B1		5092
<input type="radio"/>	00200	SN	保証対象外サービス	****				A1		5093
<input type="radio"/>	00200	SN	保証対象外サービス	****				B1		5094
<input type="radio"/>	00200	SV	基本保証サービス	****				A1		5093
<input type="radio"/>	00200	SV	基本保証サービス	****				B1		5099
<input type="radio"/>										

「勘定科目の改訂」フォーム

- 事業所

「請求先ビジネスユニット」フィールドに、作業オーダーのビジネスユニットを入力します。
- 補助科目

「原価コード」フィールドに、作業オーダーのビジネスユニットを入力します。

査定担当者のデフォルトと規則順序の設定

- この項では、査定担当者のデフォルトと規則順序プログラムの概要と次の方法について説明します。
- 査定担当者のデフォルトと規則順序の設定
 - 査定担当者のデフォルト入力 (P17113) の処理オプションの設定

査定担当者のデフォルトと規則順序プログラムについて

査定担当者のデフォルト入力プログラム (P17113) では、査定担当者と仕入先回収管理者 (SRM) のデフォルト情報を設定し、管理できます。査定担当者およびSRMを割り当てる基準を設定し、デフォルトの規則順序を定義できます。

「処理タイプ」処理オプションの設定によって、このプログラムのフォーム・タイトルの表示が変わります。たとえば、「処理フォーム」は次のようになります。

- 査定担当者デフォルトの処理 - 保証請求
- 査定担当者デフォルトの処理 - 仕入先回収請求
- 査定担当者デフォルトの処理 - 製品登録

また、フォーム・メニューの選択項目および詳細グリッドの一部のカラム見出しも変わります。

査定担当者のデフォルトと規則順序の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
査定担当者デフォルトの処理	W17113A	次のいずれかのナビゲーションを使用します。 「保証請求設定」メニュー (G1747)、「査定担当者のデフォルト」 「仕入先回収請求設定」メニュー (G1748)、「査定担当者のデフォルト」 「設備マスターの設定」メニュー (G1741)、「査定担当者のデフォルト」	査定担当者のデフォルトを表示します。
査定担当者デフォルトの改訂	W17113B	「査定担当者デフォルトの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	査定担当者のデフォルトを設定します。
査定担当者デフォルト規則の順序	W17113C	「査定担当者デフォルトの処理」フォームで、「フォーム」メニューから「順序規則」を選択します。	規則順序を設定します。

査定担当者のデフォルトと規則順序の設定

「査定担当者デフォルトの改訂」フォームにアクセスします。

査定担当者のデフォルトと規則順序を設定するには、次の操作を行います。

1. 「査定担当者デフォルトの改訂」フォームのフィールドに値を入力して、「OK」をクリックします。
2. 「査定担当者デフォルトの処理」の「フォーム」メニューから「順序規則」を選択します。
3. 「査定担当者デフォルト規則の順序」のフィールドにYまたはNを入力し、「OK」をクリックします。

査定担当者のデフォルト入力 (P17113) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、査定担当者のデフォルト入力プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

このオプションでは、処理タイプのデフォルト値を指定します。

処理タイプ

査定担当者のデフォルトの処理の値を指定します。値は次のとおりです。

A: 製品登録

B: 保証請求

D: 仕入先回収請求

注意: これらの値はハードコード化されています。

修理時間スケジュールの設定

この項では、標準修理時間の入力プログラムの概要と、修理時間スケジュールの設定に使用するフォームについて説明します。

標準修理時間の入力プログラムについて

標準修理時間の入力プログラム(P1771)を使用して、デフォルトの作業時間を設定します。労務行を自動的に作成するように処理オプションを設定していると、保証請求または仕入先回収請求を入力したときに、この設定に基づいて労務時間が計算されます。

修理時間スケジュールの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
標準修理時間の改訂	W1771A	次のいずれかのナビゲーションを使用します。 「保証請求設定」メニュー (G1747)、「修理時間スケジュール」 「仕入先回収設定」メニュー (G1748)、「修理時間スケジュール」 「標準修理時間の処理」フォームで「追加」をクリックします。	サービス管理の修理時間スケジュールを設定します。

伝票タイプ情報の設定

この項では、伝票タイプ情報の概要と、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理での伝票タイプ情報の設定方法について説明します。

伝票タイプ情報について

伝票タイプには様々な特性を関連付けることができます。伝票タイプ情報は、それぞれのタイプに固有のコード・テーブルに保存されます。

伝票タイプの管理プログラムにより、伝票タイプに関する情報の設定および管理ができます。このプログラムは、伝票タイプ・マスター(F40039)を更新します。F40039テーブルは、様々なUDCリストに現在保存されている情報のリポジトリの役割を果たします。ユーザー定義コード・テーブル(F0005)も更新します。

伝票タイプの管理プログラムを使用して、次のUDCリストの伝票タイプ情報を管理します。

- トレース/トラッキング伝票タイプ(40/DC)
- コミットメント伝票タイプ(40/CT)
- 一括オーダー・タイプ(40/BT)
- 在庫更新タイプ(40/IU)

- トランザクション・タイプ (39/TT)
- トランザクションの種類 (40/NT)
- オーダー・カテゴリ (40/OC)
- その他数量 (40/OQ)
- 事業所間オーダー (40/IB)
- サービス契約タイプ (17/CM)
- 作業オーダー・タイプ (48/OT)
- カートン状況 (46/RS)

注意: UDCテーブルに直接情報を追加すると、F0005テーブルだけが更新されます。伝票タイプ・マスターは更新されません。

伝票タイプの管理プログラムは伝票タイプの追加にも使用できます。伝票タイプの管理プログラムで管理できる情報の一部またはすべてを設定する場合は、このプログラムを使うと便利です。

伝票タイプ情報の設定に使用するフォーム



フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票タイプの改訂	W40040B	「在庫管理設定」メニュー (G4141)、「伝票タイプの管理」 「伝票タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	伝票タイプ情報を設定します。

サービス管理での伝票タイプ情報の設定

「伝票タイプの改訂」フォームにアクセスします。

伝票タイプの管理 - 伝票タイプの改訂 ?

OK(O) 取消(C) フォーム(F) ツール(T)

伝票タイプ

在庫 受注 調達 サービス保証 作業オーダーの定義 出荷

トランザクション・タイプ

☒ 無視 ☐ 入荷 ☐ 出荷 ☐ 入出荷

☐ 整合性レポートへの組込み ☐ クロス・ドッキング - 供給 ☐

ロット・トレーストラッキング

☐ ロット・トレーストラッキング表示 トランザクションの種類

☐ ロット・トレーストラッキング集約

「伝票タイプの改訂」フォーム

伝票タイプ情報を設定するには、次の操作を行います。

1. 「伝票タイプ」フィールドに値を入力します。
2. 「在庫」タブの「トランザクション・タイプ」のオプションの1つを選択します。
3. 「整合性レポートへの組込み」オプションを選択し、整合性レポートに伝票タイプを追加します。
4. オプションを選択して、「ロットのトレース/トラッキング」見出し領域のフィールドに値を入力します。
5. 該当するタブをクリックしてフィールドに入力し、受注管理、調達、サービス管理、作業オーダーまたは出荷の伝票タイプ情報を設定します。

在庫

無視、入荷、出荷、入出荷

トランザクション・タイプ(入荷、出荷、入出荷)を指定します。「伝票タイプの改訂」フォームのオプションは次のとおりです。

無視: 取引なし

入荷: 入荷取引

出荷: 出荷取引

両方: 入出荷取引

整合性レポートへの組込み

品目元帳/勘定科目整合性レポート(R41543)および品目残高/元帳整合性レポート(R41544)の在庫整合性レポートで該当する伝票タイプをトランザクションに組み込む場合、このチェックボックスを選択します。

ロット・トレース/トラッキング表示	選択すると、ロット・トレースおよびトラッキングで在庫トランザクションと関連する伝票タイプが表示されます。このオプションの選択を解除すると、該当する伝票タイプの在庫トランザクションは処理されますが、ロットのトレースとトラッキングには表示されません。
ロット・トレース/トラッキング集約	在庫トランザクションを集約する場合は、このオプションを選択します。
トランザクションの種類	<p>ロット・トレース/トラッキング・プログラムで、移動先/移動元がある在庫トランザクションおよびトップ/ボトムレベルがある在庫トランザクションの処理方法を指定します。</p> <p>移動先/移動元があるトランザクションには、在庫移動、在庫再分類、作業オーダー出庫/作業オーダー完了があります。</p> <p>トップ/ボトムレベルがあるトランザクションには、受注オーダーと入荷確認があります。不適切な値を入力すると、在庫トランザクションは正しく処理されません。</p>
受注	
オーダー・カテゴリ	受注管理システムと調達管理システムで使用する一括オーダーのタイプを入力します。
事業所間オーダー	<p>事業所間のオーダー・タイプを指定する場合は、「1」を入力します。</p> <p>受注オーダーの入力プログラム(P4210)で事業所間のオーダーを作成すると、原価割増しなどのオーダーの追加情報が処理されます。顧客が営業所に発注したが、営業所は倉庫から在庫を出荷する場合に、この事業所間オーダーを使用できます。売上更新時と請求書の印刷時に、事業所間受注オーダーに対する会計取引と事業所間の請求書が作成されます。</p>
その他数量	<p>品目保管場所ファイルの「ソフト・コミット」フィールドまたは「ハード・コミット」フィールドではなく、「その他受注オーダー数量1」または「その他受注オーダー数量2」フィールドを更新するかどうかを指定します。</p> <p>品目保管場所ファイルの購買オーダーの「その他数量」フィールドが、「購買オーダー」フィールドのかわりに更新されるかどうかを指定します。</p>
出荷確認時に手持在庫をリリースする	この受注オーダーに出荷確認時に引き当てられた数量を手持数量からリリースするかどうかを指示します。このオプションの選択を解除すると、出荷確認処理で、該当する品目保管場所に出荷された数量だけがハード・コミットされます。
自動採番システム・コード	<p>システムを識別するUDC 98/SY(システム・コード)を入力します。次の値があります。</p> <p>01: 住所録</p> <p>03B: 拡張売掛管理</p> <p>04: 買掛管理</p> <p>09: 一般会計</p> <p>11: 多通貨処理</p>
伝票タイプ自動採番	<p>このオーダー・タイプでオーダー番号を作成するときに使用する自動採番を指定するコードを入力します。使用できる自動採番は10個あります。</p> <p>このフィールドには、次のように指定します。</p>

- 入札要求と購買オーダーとは異なるオーダー番号の購買要求
- 標準の受注オーダーとは異なる番号範囲の一括受注オーダー

調達

購買オーダーのコミット

サービスまたは外注契約に対する購買オーダーの数量を自動的にコミットするかどうかを指定するコードを入力します。

サービス/保証

契約タイプ

サービス契約を指定する伝票タイプを入力します。伝票タイプを使用して、通常のサービス契約またはサービス契約の見積など、特定の契約タイプを定義できます。

作業オーダーの定義

オーダー・タイプ

作業オーダー・タイプの定義に使用するコードを入力します。値は次のとおりです。

- 01: 作業オーダーとは関連付けられていない
- 02: 製造作業オーダー
- 03: 製造再作業オーダー
- 04: 設備作業オーダー
- 05: サービス作業オーダー
- 06: 保証請求オーダー
- 07: 仕入先回収オーダー
- 08: ECO (設計変更オーダー)
- 09: 設計変更要求オーダー
- 10: 資産管理オーダー
- 11: 受注設計生産集計オーダー
- 12: レート・スケジュール・オーダー

出荷

カートン作成状況、カートン変更状況

UDC 46/RS (カートン推奨状況) から、カートン推奨テーブル (F4615) でのカートン作成時に使用される値を入力します。

第 4 章

設備の管理

この章では、設備情報管理システムの概要と、次の設定方法について説明します。

- 設備マスター固定情報の設定
- 基本保証のデフォルトと規則の設定
- 設備マスター・レコードの手動作成
- 固定資産からの設備マスター・レコードの作成
- 製品登録の処理
- 設備マスター更新の処理
- 単一レコードの設備マスターの処理
- 複数レコードの設備マスターの処理
- 基本保証契約の作成
- 親資産とその構成品情報の処理
- 状況履歴の処理
- 導入済設備に対する保守スケジュールの作成

設備情報管理について

設備情報管理モジュールでは、製品登録情報および製品マスター・レコードの入力と管理ができます。このモジュールを使用すると、製造販売する製品または設備の情報を作成し、その現在の状況および履歴情報をトラッキングできます。

たとえば、流通日、流通チャネル、製品登録、製品所有者、製品保管場所などの情報を把握できます。この情報により、コンサルタントは顧客が必要とする重要なデータに迅速にアクセスできます。このデータは外向けの直販活動に対しても重要です。

設備情報管理モジュールは、販売または提供した製品に関するすべての契約と保証登録情報を記録するデータベースです。製品または設備を追加すると、サービス契約に基本保証が作成されます。保証条件を定義するデフォルトの情報が使用されます。

設備更新の大半は、受注から派生した情報を元に作成されます。製品登録カードや固定資産から設備レコードを作成することもできます。

設備マスターは次の方法で更新できます。

- 一括更新
- 設備マスターの改訂 (P1702)

- ケース管理
- 契約管理
- 作業オーダー管理

一括更新では、複数の取引を変更できます。残りの方法では、レコードを1つずつ変更していきます。

用語と概念

設備情報管理について次の用語と概念を理解する必要があります。

用語	内容
基本保証	設備に関連付けられる保証です。通常、基本保証は、設備の購入価格に含まれています。基本保証には、製品に対するサービス・タイプおよび期間が記述されています。
契約適用範囲	サービス・パッケージの有効期間を表す日数および時間です。たとえば、5 × 8は、設備の契約適用範囲が週5日（月曜日から金曜日まで）、1日8時間であることを意味します。
顧客番号	設備を所有またはリースする顧客の住所録番号です。
設備マスター	製品または設備の包括的なデータベースです。設備マスターは、製品、基本保証、受注元などが記録されるテーブルから構成されます。
設備レコード	設備マスターに記録されている製品または設備です。
製品	トラッキングする品目または設備です。
製品ファミリ	共通の特徴を持ち、同じ分類条件が設定されている製品のグループです。
サービス・パッケージ	契約により顧客に提供されるサービス・サポートのサービス・タイプと契約適用範囲の組合せです。
サービス・タイプ	販売後の設備保守を顧客に適用するサポートの形式です。たとえば、電話によるサポート、オンサイト・サービス、修理返品サービスなどがあります。
サイト番号	設備が存在するサイトの住所録番号です。サイト番号は顧客番号と同じ場合があります。顧客に複数のサイトが存在する場合には、番号が異なる可能性があります。

この章で使用する共通フィールド

顧客価格グループ	ユーザー定義コード(UDC)テーブル40/PC(顧客価格グループ)から顧客グループを識別する値を入力します。同等の価格設定などの類似した特性を持つ顧客をグループ化できます。このフィールドは任意フィールドです。
設備状況	資産の設備状況や処分状況を識別する値をUDC 12/ES(状況または処分コード)から入力します。
品目価格グループ	<p>品目の在庫価格グループを識別するUDC 40/PI(品目価格グループ)の値を入力します。</p> <p>在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、発注された品目の数量、金額または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。</p> <p>受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。このフィールドは任意フィールドです。</p>
行タイプ	<p>取引行の処理方法を制御するコードを入力します。これによって、一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、在庫管理など、連動して取引を処理するシステムが制御されます。また、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。このフィールドは任意フィールドです。</p> <p>次のようなコードがあります。</p> <p>S: 在庫品目 J: 作業原価 N: 非在庫品目 F: 運賃 T: テキスト情報 M: その他費用 W: 作業オーダー</p>
親番号	<p>関連する構成品をグループ化する親番号を入力します。品目の特性および設備を親品目に関連付けることができます。たとえば、携帯電話と特定の自動車(親)を関連付けたり、プリンタとコンピュータ(親)、平床式トレーラーと特定のトラック・シャーシ(親)を関連付けることができます。</p> <hr/> <p>注意: データ入力フィールドの場合、デフォルトの値は資産番号になります。たとえば、資産番号が123の場合、デフォルトの親番号は123になります。</p> <hr/>
購入証明	顧客が購入証明を発行するかどうかを表すコードを入力します。このフィールドをブランクにすると、「日付」フィールドが有効になります。値を入力すると、「日付」フィールドは無効になります。設備レコードに請求契約を作成すると、「購入証明」フィールドと「日付」フィールドは無効になります。

出荷先国	国を識別する値をUDC 00/CNSY(国コード)から入力します。国コードは、通貨換算には影響しません。住所録システムでのデータ選択および住所形式の設定に、この国コードが使用されます。このフィールドは任意フィールドです。
シリアル番号	資産の代替識別番号として使用する番号を、25桁の英数字で指定します。場合によっては、この番号を使用して、製造業者のシリアル番号で資産をトラッキングできます。シリアル番号を使用して資産を識別することは必須ではありません。入力するシリアル番号は、それぞれ固有である必要があります。
注意: このフィールドは、処理オプションが設定されている場合にのみ必須となります。	
サービス・パッケージ	ユーザー定義のサービス・パッケージを入力します。サービス・パッケージは、サービス・オーダー・タイプと範囲タイプの組合せで、契約により顧客に提供されるサービス・サポートの定義に使用されます。サービス・パッケージには対応時間や範囲グループも記述されます。このフィールドは任意フィールドです。
補助元帳無効コード	特定の補助元帳を有効にするか無効にするかを指定するコードを入力します。非アクティブな補助元帳の例としては、完了した作業、退職した従業員、処分した資産などがあげられます。テーブル内の補助元帳の情報をレポートに使用する場合に、トランザクションが勘定残高テーブル(F0902)のレコードに転記されないようにするには、非アクティブ・コードを選択します。
区画No.	資産の代替識別番号として使用されるコード番号を、12桁の英数字で指定します。この番号は必須ではないため、資産の追加時にこのフィールドをブランクにしても、自動的に割り当てられることはありません。この番号を使用するには、他の資産と重複しない番号を指定する必要があります。資産が設備の場合は、通常はシリアル番号を使用します。
保証浮動日数	販売活動と製品の納入を考慮して基本保証期間に追加される日数。たとえば、90日の保証と30日間の浮動日数が付いた製品の場合、保証契約は製品の出荷確認後120日までになります。導入済の基本レコードを更新し、エンドユーザーが製品を受領した実際の日付を指定すると、保証浮動日数は適用されず、製品受領日から90日間の保証期間を開始します。このフィールドは任意フィールドです。
保証期間日数	販売日または納入日から保証期間が切れるまでの日数を入力します。

サービス管理での設備マスター固定情報の設定

この項では、サービス管理での設備マスター固定情報の概要と設定方法について説明します。

設備マスター固定情報について

システム全体のデフォルト情報を定義するには、システム固定情報を設定します。固定情報により、トラッキングする情報のタイプと特定の計算に使用される規則を定義します。また、設備のデフォルトの基本番号として資産、ユニット、シリアル番号を使用するかどうかを定義できます。基本番号に入力した情報によって、会社の固定情報に記録されている基本番号情報が変更されます。

サービス管理での設備マスター固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
S/WMシステム固定情報の改訂	W17001C	「サービス/ワランティ管理のセットアップ」メニュー (G1740)、「サービス/ワランティ管理の固定情報」 「設備マスター」タブを選択します。	設備マスター固定情報を設定します。

サービス管理での設備マスター固定情報の設定

「S/WMシステム固定情報の改訂」フォームにアクセスして「設備マスター」タブを選択します。

サービス/ワランティ管理の固定情報 - S/WMシステム固定情報の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

タブを選択: 5-設備マスター

固定情報

- ☒ サイトの変更を契約に反映させる
- ☒ インストール日付の変更を基本保証契約に反映させる
- ☒ 在庫No.の変更を契約に反映させる
- ☒ 顧客変更を基本保証契約に反映させる

S/WM非シリアル

☒ 1対1で作成する ☐ 多対1で作成する

「S/WMシステム固定情報の改訂」フォーム: 「設備マスター」タブ

サイトの変更を契約に反映させる

このオプションを選択すると、設備レコードでインストール・サイトが変更された場合に、関連するすべての契約のサイト番号が更新されます。

サイト番号が変更されると、この変更は品目のすべての契約に適用されません。

インストール日付の変更を基本保証契約に反映させる

このオプションを選択すると、設備レコードのインストール日を変更された場合に、関連する基本保証契約の開始日と終了日が更新されます。

日付の変更は、請求契約には適用されません。

在庫No.の変更を契約に反映させる

このオプションを選択すると、設備レコードでインストール先の在庫番号が変更された場合に、関連するすべての契約の在庫番号が更新されます。

顧客変更を基本保証契約に反映させる

このオプションを選択すると、顧客の変更に合わせて基本保証契約が更新されます。

1対1で作成する

このオプションを選択すると、設備マスター更新プログラム (R17024) の実行時に、シリアル番号のない品目に設備レコードが作成されます。

このオプションを選択すると、基本シリアル番号テーブル (F4220) の各項目に対して、UDC 40/SN (シリアル番号状況コード) にシリアル番号が作成され、単一品目に設備レコードが作成されます。

このオプションは、事業所品目プログラムのシリアル番号必須フラグと連動します。シリアル番号のない品目をサービス管理でトラッキングするには、「事業所品目情報」フォームの「シリアル番号必須」フィールドに「6」を設定する必要があります。これにより、シリアル番号のない品目に設備レコードが作成できます。

多対1で作成する

このオプションを選択すると、設備マスター更新プログラム(R17024)の実行時に、シリアル番号のない品目に設備レコードが作成されます。

このオプションをクリックすると、数量に関係なく、品目に単一の設備レコードが作成されます。

このオプションは、事業所品目プログラムのシリアル番号必須フラグと連動します。シリアル番号のない品目をサービス管理でトラッキングするには、「事業所品目情報」フォームの「シリアル番号必須」フィールドに「6」を設定する必要があります。これにより、シリアル番号のない品目に設備レコードが作成できます。

基本保証のデフォルト規則の設定

この項では、基本保証のデフォルトと次の方法について説明します。

- サービス管理での基本保証のデフォルトの設定
- サービス管理での保証規則の設定

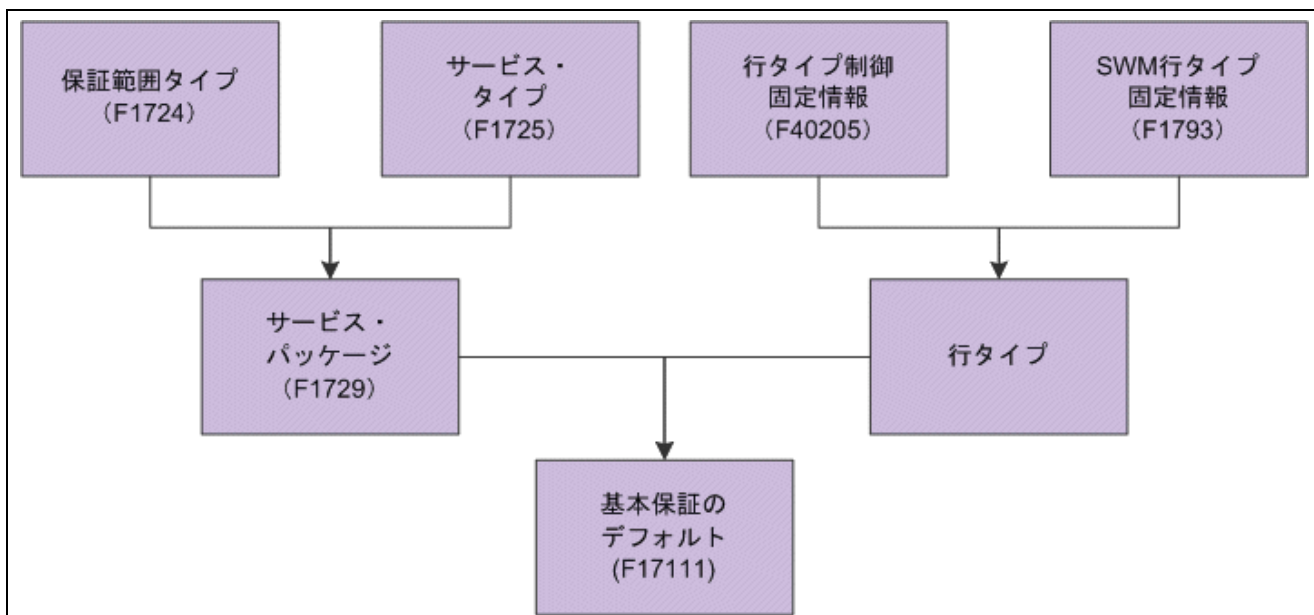
基本保証のデフォルト規則について

保証期間、サービス・パッケージのタイプなど、製品または設備の保証に関する情報を設備マスターに登録する必要があります。様々な変数を使用して、デフォルトの保証情報を設定できます。たとえば、製品モデルと製品ファミリから基本保証情報を設定し、顧客または国などの追加条件に従って保証を変更できます。

また、顧客番号や事業所などの変数を使用する規則の順序を追加して、特定の設備レコードに適用するデフォルトの保証値を決める必要があります。保証規則の順序は、使用する変数の順序で指定します。

保証規則は、最も詳細なレベルから最も一般的なレベルまで設定する必要があります。順序内でYというマークの付いたフィールドが多いほど、固有の保証規則となります。

次の図では、基本保証のデフォルト情報を格納しているテーブルを表しています。



基本保証のデフォルト情報を格納しているテーブルの例

サービス管理での基本保証のデフォルトと規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
保証デフォルトの改訂	W17111B	「設備マスターの設定」メニュー (G1741)、「保証デフォルトの入力」 「保証デフォルトの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	サービス管理での基本保証のデフォルトを設定します。
保証デフォルト規則順序	W17111C	「設備マスターの設定」メニュー (G1741)、「保証デフォルトの入力」 「保証デフォルトの処理」フォームで、「フォーム」メニューから「保証規則順序」を選択します。	サービス管理での保証規則を設定します。

サービス管理での基本保証のデフォルトを設定します。

「保証デフォルトの改訂」フォームにアクセスします。

保証デフォルトの入力 - 保証デフォルトの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

顧客No.

国

デフォルトの国

事業所

在庫品目No.

製品モデル

製品ファミリ

受注オーダー伝票タイプ

受注オーダー行タイプ

顧客グループ

ブランク 40/PC

品目グループ

ブランク - 価格設定規則(40/PI)

出荷先の国コード

デフォルトの国

サービス・パッケージ

BASE

Base Warranty

保証期間日数 *

365

保証浮動日数

10

行タイプ *

BWV

Base Warranty

最大メーター示度1

最大メーター示度2

最大メーター示度3

「保証デフォルトの改訂」フォーム

サービス管理での保証規則の設定

「保証デフォルト規則順序」フォームにアクセスします。

保証デフォルトの入力 - 保証デフォルト 規則順序

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

レコード 1 - 6

グリッドのカスタマイズ

	順序 No.	顧客 No.	国	事業所	在庫 品目No.	製品 モデル	製品 ファミリ	受注オーダー 伝票タイプ	受注オーダー 行タイプ	顧客グループ	品目グループ	出荷
<input checked="" type="radio"/>	1.00	Y	N	N	N	N	N					
<input type="radio"/>	2.00	N	N	N	Y	Y	Y					
<input type="radio"/>	3.00	N	N	N	N	Y	Y					
<input type="radio"/>	4.00	N	N	N	N	N	Y					
<input type="radio"/>	5.00	N	N	N	Y	N	N					
<input type="radio"/>												

「保証デフォルト規則順序」フォーム

設備マスター・レコードの手動作成

この項では、設備レコードを手動で作成する概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 設備マスター・レコードの手動作成 (CRM以外のユーザー)
- 設備マスター・レコードの手動作成 (CRMユーザー)
- 設備マスターの処理 (P1701) プログラムの処理オプションの設定
- 設備マスターの改訂プログラム (P1702) の処理オプションの設定
- CRM - 設備管理プログラム (P90CD001) の処理オプションの設定

設備レコードの手動作成について

受注以外で処理した製品に設備レコードを手動で作成できます。

Customer Relationship Management (CRM) システムを使用している場合と使用していない場合ではインターフェイスが異なります。CRM以外のユーザーと同じ方法で設備レコードを作成した後に、別のインターフェイスを使用して設備レコードの照会と改訂を行うことができます。このインターフェイスには、現在の設備の改訂プログラム (P1702) と同じ機能が用意されています。設備レコードの追加、更新、削除、照会ができます。このプログラムは、状況履歴、顧客/サイト履歴、ケース、作業オーダー、サービス契約および資格にリンクしています。

CRMユーザーかどうかを指定する処理オプションがあります。

設備レコードを作成すると、次の表にレコードが作成されます。

- 固定資産マスター (F1201)
- 設備マスター拡張テーブル (F1217)
- 設備マスターの設置場所履歴 (F1731)
- 状況履歴ファイル (F1307)
- 親履歴 (F1212)

サービス管理システムでは、処理オプションの設定方法と基本保証の作成方法によって、契約詳細テーブル (F1721) にレコードが作成されます。サービスまたは販売契約に従って、製品の保証資格情報が自動的に生成されます。

事前設定

設備マスター入力 (P1701) の処理オプションを設定し、CRM以外のユーザーかCRMユーザーかを指定します。

設備マスター・レコードの手動設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
設備マスターの処理	W1701A	「設備マスター日次処理」メニュー (G1711)、「設備マスター入力」	CRM以外のユーザーとCRMユーザー。設備レコードの検索または追加を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
設備マスターの改訂	W1702A	<p>「設備マスターの処理」フォームで「追加」をクリックして設備レコードを追加します。</p> <p>「設備マスターの処理」フォームで設備レコードを選択して「選択」をクリックして、既存の設備レコードに関する情報にアクセスします。</p>	<p>CRM以外のユーザー: 設備マスター・レコードの入力、確認および改訂を行います。</p> <p>CRMユーザー: 設備マスター・レコードを入力します。</p>
設備 - 管理<設備記述および番号>	W90CD001B	「設備マスターの改訂」フォームで設備レコードを追加したら、「OK」をクリックします。	CRMユーザー: 見出し領域、リンク、タブを使用して、設備情報の確認と改訂を行います。
設備マスター関連オーダー情報	W17023A	<p>「設備 - 管理<設備記述および番号>」フォームで「関連オーダー」詳細リンクを選択します。</p> <p>「販売」、「製造」または「OEM」タブを選択します。</p>	CRMユーザー: 関連オーダー情報を入力または表示します。
設備マスター追加情報	W1702B	「設備 - 管理<設備記述および番号>」フォームで「追加情報」詳細リンクを選択します。	CRMユーザー: 備考や税情報を入力または表示します。
関連リンク<設備記述および番号>	W90CD012A	<p>「設備 - 管理<設備記述および番号>」フォームで「関連リンク」詳細リンクを選択します。</p> <p>関連情報のリンクを選択します。「関連リンク」詳細リンクに、設備マスターの改訂プログラム(P1702)で使用可能なすべてのフォーム・エグジットが表示されます。</p>	<p>CRMユーザー: 次のリンクで情報を入力または表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リレーションシップ ・ 原価分析 ・ ロケーション ・ 置換部品 ・ 付属品 ・ 設定 - フラッシュ・メッセージ ・ 設定 - 会計
設備 - 状況履歴<設備記述および番号>	W90CD003A	「設備 - 管理<設備記述および番号>」フォームで「状況履歴」タブを選択します。	CRMユーザー: 設備の状況を確認し、ダウンタイムの分析を行います。
設備 - 顧客/サイト履歴<設備記述および番号>	W90CD004A	「設備 - 管理<設備記述および番号>」フォームで「顧客/サイト履歴」タブを選択します。	CRMユーザー: 設備の顧客/サイト履歴、設備マスターの設置場所、郵送先住所を表示します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
設備 - 関連オブジェクト<設備記述および番号>	W90CD008A	「設備 - 管理<設備記述および番号>」フォームで「関連オブジェクト」タブを選択します。 リンクの1つをクリックします。	CRMユーザー: 設備の作業オーダー、ケース、サービス契約または資格情報を表示します。
設備 - 参照の管理<設備記述および番号>	W90CD014A	「設備 - 管理<設備記述および番号>」フォームで「参照」タブを選択します。	CRMユーザー: 設備の参照情報を入力または表示します。

設備マスター・レコードの手動作成 (CRM以外のユーザー)

「設備マスターの処理」フォームで、「追加」をクリックします。「設備マスターの改訂」フォームで設備マスター情報を入力、確認および改訂します。

設備マスター入力 - 設備マスターの改訂 [?] [i]

設備マスターの処理 設備マスターの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

設備No. 24740 Vertical Mill

顧客/設備 分類1 分類2 会計 サービス 添付

顧客		日付	
サイトNo. *	200 Manufacturing/Distribution C	資産取得日付	1997/01/01
顧客No.	200 Manufacturing/Distribution C	インストール日付	
国	デフォルトの国	処分/除却日付	
<input type="checkbox"/> 条件承諾フラグ	登録状況 <input type="checkbox"/>	サービス開始日付	

「設備マスターの改訂」フォーム (1/2)

設備

ユニットNo.	VM8	設備状況	<input type="checkbox"/>
シリアルNo.	12420853	使用可能 - 作業場	
親資産No.	24731	<input type="checkbox"/> 会社所有	
事業所		購入証明	<input type="checkbox"/>
在庫品目No.	E300	親モデル	
製品モデル		売上タイプ	<input type="checkbox"/>
製品ファミリ			
部品リストNo.	24740	<input type="checkbox"/> 必須メーター示度	
その他の記述	12x42	<input checked="" type="checkbox"/> 作業オーダー許可	
		<input type="checkbox"/> メーター使用可能	

「設備マスターの改訂」フォーム (2/2)

次のタブを選択します。

- 顧客/設備
- 分類1または分類2
- 会計
- サービス

設備マスター・レコードの手動作成 (CRMユーザー)

「設備マスターの処理」フォームで、「追加」をクリックします。

「設備マスターの処理」フォームで設備マスター・レコードを入力して、「OK」をクリックします。「設備 - 管理 <設備記述および番号>」フォームで、見出し領域、リンク、タブを使用して設備情報の確認および改訂を行います。

設備マスター入力 - 設備 - 管理 Exhaust Fan (24707) i ?

設備 | 状況履歴 | 顧客/サイト履歴 | 関連オブジェクト | 参照

詳細 | [関連オーダー](#) | [追加情報](#) | [関連リンク](#)

保存(V) | 変更を元に戻す(U) | 閉じる(L)

設備No. 24707 | 設備記述 Exhaust Fan

サイトNo. 200 | 設備状況

顧客No. 200 | 事業所

シリアルNo. | 在庫品目No.

ユニットNo. EF9 | 製品モデル/ファミリ

メイン | カテゴリ・コード1 | カテゴリ・コード2 | 会計 | サービス

親No. 24694 | 資産取得日付 1997/01/01

親モデル | インストール日付

国 | 処分日付

部品リストNo. 24707 | サービス開始日付

登録状況 | 売上タイプ

詳細記述 | 購入証明

☐ 必須メーター示度 | ☐ 条件承諾フラグ

☒ 作業オーダー許可 | ☐ 会社所有

☐ メーター使用可能

「設備 - 管理 <設備記述および番号>」フォーム

「設備 - 管理 <設備記述および番号>」フォームにアクセスすると、「設備」タブと「メイン」タブが表示されます。追加または確認する情報に合わせて、残りのいずれかのタブを選択します。

- カテゴリ・コード1
- カテゴリ・コード2

- 会計
- サービス
- 状況履歴
- 顧客/サイト履歴
- 関連オブジェクト
- 参照

設備マスターの処理プログラム(P1701)の処理オプションの設定

CRMユーザーおよびCRM以外のユーザー: この処理オプションを使用して、設備マスターの処理プログラムのデフォルト値を設定します。

カテゴリ

この処理オプションでは、カテゴリ・コードのデフォルト値を指定します。

- | | |
|--|---|
| 1. カテゴリ・コード1(資産区分)、2. カテゴリ・コード2(設備区分)、3. カテゴリ・コード3(製造業者) | 設備検索時に使用するコードとして、カテゴリ・コード1(資産区分)、カテゴリ・コード2(設備区分)またはカテゴリ・コード3(製造業者)を指定します。ブランクにした場合は、すべてが選択されます。 |
| 4. カテゴリ・コード4(モデル年式) | 設備検索時に使用するコードとして、カテゴリ・コード4(モデル年式)を指定します。モデル年式のカテゴリ・コードを使用して、サブクラス・コードを定義できます。たとえば、1軸の1990年型International Harvesterをトラックのサブクラスに定義できます。ブランクにした場合は、すべてが選択されます。 |
| 5. カテゴリ・コード5 から 23. カテゴリ・コード - F/A 23 | 設備検索で使用される値を対応するUDCから入力します。ブランクにした場合は、すべてが選択されます。 |

デフォルト

この処理オプションでは、「設備マスターの処理」フォームのデフォルト値を設定します。

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 担当ビジネスユニット | 設備原価を担当するビジネスユニットを指定します。資産勘定でデフォルトの減価償却を検証するときに、この値が使用されます。 |
| 2. 設置場所ビジネスユニット | 資産が現在置かれている物理的な場所を指定します。 |
| 3. 設備状況 | UDC 12/ES(状況または処分コード)から、設備レコードに割り当てる状況の値を入力します。 |
| 4. 会社 | 設備原価を担当する会社を指定します。資産勘定でデフォルトの減価償却を検証するときに、この値が使用されます。 |
| 5. 製品ファミリ | UDC 17/PA(製品ファミリ)から、デフォルトの製品ファミリを表す値を入力します。

ブランクにした場合は、すべてが選択されます。設備レコードの検索時に、この処理オプションが使用されます。 |
| 6. 製品モデル | UDC 17/PM(製品モデル)から、デフォルトの製品モデルを表す値を入力します。 |

ブランクにした場合は、すべてが選択されます。設備レコードの検索時に、この処理オプションが使用されます。

プロセス

この処理オプションでは、ユーザーがCRMを使用しているかどうかを指定します。

- | | |
|--|--|
| 1. CRMユーザー
(Customer Relationship Managementユーザー) | CRMユーザーがアプリケーションを実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: CRM以外のユーザー
1: CRMユーザー |
|--|--|

バージョン

設備レコードからアクセスするプログラムのバージョンを指定します。

- | | |
|---|---|
| 1. 設備マスターの改訂 (P1702) のバージョン | この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 2. スケジュール・ワークベンチ (P48201) のバージョン、3. 状況履歴 (P1307) のバージョン、4. 設備メッセージ・ログ (P1205) のバージョン、5. 設備予防保全スケジュール (P1207) のバージョン | ブランクにした場合は、バージョンZJDE0002が使用されます。 |
| 6. コスト集計 (P122101) のバージョン | この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0003が使用されます。 |
| 7. 部品表の照会 (P30200) のバージョン、8. サービス資格照会 (P1723) のバージョン | この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 9. ケース履歴 (P17500) のバージョン | この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0003が使用されます。 |
| 10. 品目マスター (P4101) のバージョン、11. 補足データ (P00092) のバージョン | この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 12. 設備マスター関連オーダー (P17023) のバージョン | 設備マスター関連オーダー情報 (P17023) のバージョンを指定します。「設備マスターの処理」フォームで設備マスターを選択し、「ロー」メニューから「関連オーダー」を選択すると、このバージョンが使用され、選択した設備レコードのオーダーにアクセスします。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 13. 設備マスター親/子 (P12017) のバージョン | ブランクにした場合は、バージョンZJDE0002が使用されます。 |

14. 設置場所情報 (P1201) のバージョン、15. 設置場所の処理 (P12215) のバージョン、16. 設置場所の移動 (P12115) のバージョン、17. 設備マスター住所録設置場所 (P1704) のバージョン、18. 事業所品目 (P41026) のバージョン、19. 設備オーダーのバックログ (P13220) のバージョン、20. 予防保全オーダー (P12071) のバージョン、21. 設備部品リスト (P13017) のバージョン、22. 設備マスター (P90CD001) のバージョン

この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

設備マスターの改訂プログラム (P1702) の処理オプションの設定

CRM 以外のユーザー: この処理オプションを使用して、設備マスターの改訂プログラムのデフォルト値を設定します。

注意: 略式コマンドに「IV」(対話型バージョン)と入力して、この処理オプションにアクセスします。

検証

この処理オプションでは、設備レコードを追加するときの要件を指定します。

1. ユニット番号の入力

設備レコードを追加するときにユニット番号の入力を必須とするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 必須にしない

1: 必須にする

注意: この処理オプションは、スピード登録プログラム (P1705) には適用されません。

2. シリアル番号の入力

設備レコードを追加するときにシリアル番号の入力を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 必須にしない

1: 必須にする

3. 在庫品目番号の入力

設備レコードを追加するときに在庫品目番号の入力を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 必須にしない

1: 必須にする

4. 基本保証契約の作成

設備レコードを追加するときに基本保証契約を生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 生成しない

1: 生成する

- | | |
|------------------------|---|
| 5. 基本保証契約の開始日付 | 基本保証契約の開始日を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: インストール日付
1: 取得日 |
| 6. 基本保証デフォルトの入力 | 設備レコードを追加するときに基本保証のデフォルトを必要とするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 必須にしない
1: 必須にする |
| 7. 基本保証契約の表示 | 設備レコードを追加するときに基本保証契約を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 表示しない
1: 表示する |
| 8. 郵送データの作成 | 設備レコードを追加するときに、設備マスター設置場所詳細テーブル (F17311) に郵送データを自動的に作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 自動的に作成しない
1: 自動的に作成する |
| 9. デフォルト査定担当者 | 査定担当者にデフォルト値を割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 割り当てる
1: 割り当てない |

デフォルト

この処理オプションでは、「設備マスターの改訂」フォームのデフォルト値を設定します。

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1. 会社、2. 担当ビジネスユニット | 設備原価を担当する会社またはビジネスユニットを指定します。資産勘定でデフォルトの減価償却を検証するときに、この値が使用されます。 |
| 3. ビジネスユニット、4. 主科目、5. 補助科目 | 設備原価のトラッキングに使用する資産勘定のビジネスユニット、主科目または補助科目を指定します。この資産勘定を使用して、検証する減価償却のデフォルトが判別されます。 |
| 6. 親から費用勘定をデフォルト設定 | 子資産を追加するときに、原価勘定科目情報のデフォルト値を親資産から取得するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: デフォルトを使用しません。
1: デフォルトを使用します。 |
| 7. 勘定残高レコードの作成 | 設備レコードの追加時に勘定残高レコードを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 作成しない
1: 作成する |
| 8. 開始設備状況 | UDC 12/ES (状況または処分コード) から、設備レコードに割り当てる初期状況の値を入力します。 |

- 9. 開始登録状況** UDC 17/RS (製品登録状況) から、設備レコードに割り当てる初期登録状況の値を入力します。
- 10. 作業オーダーの許可** 設備マスター・レコードを追加するときに「作業オーダーを許可する」フィールドのデフォルト値を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 作業オーダーを許可しない
 1またはY: 作業オーダーを許可する
- 11. 設置場所のデフォルト** 担当ビジネスユニットから設備設置場所を取得するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 設置場所を取得しません。
 1: 担当ビジネスユニットからデフォルトの設置場所を取得します。
- 12. 設置場所の有効開始日付** 設備設置場所の有効開始日付を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: システム日付
 1: 取得日

処理

この処理オプションでは、ユーザーがCRMを使用しているかどうかを指定します。

- 1. CRMユーザー**
 (Customer Relationship Managementユーザー) CRMユーザーがアプリケーションを実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: CRM以外のユーザー
 1: CRMユーザー

エクスポート

この処理オプションでは、「設備マスターの改訂」フォームのエクスポート値を設定します。

- 1. エクスポート取引の取引タイプを入力します。** UDC 00/TT (トランザクション・タイプ) から、エクスポート・トランザクションのトランザクション・タイプを識別する値を入力します。この処理オプションをブランクにした場合、インタオペラビリティ処理は実行されません。
- 2. インタオペラビリティ処理の実行時に使用するAPS送信処理(R34A400)のバージョンを入力します** インタオペラビリティ処理の実行時に使用するAPS送信処理(R34A400)のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンXJDE0002が使用されます。

バージョン

設備レコードから起動するプログラムのバージョンを指定します。

- 1. サービス資格照会(P1723)のバージョン** この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

2. スケジュール・ワークベンチ (P48201) のバージョン、3. 状況履歴 (P1307) のバージョン、4. 設備メッセージ・ログ (P1205) のバージョン、5. 設備予防保全スケジュール (P1207) バージョン	ブランクにした場合は、バージョン ZJDE0002 が使用されます。
6. コスト集計 (P122101) のバージョン	この処理オプションをブランクにした場合、バージョン ZJDE0003 が使用されます。
7. 部品表の照会 (P30200) のバージョン、8. 顧客/連絡先のスピード追加 (P01015) バージョン	この処理オプションをブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
9. ケース履歴 (P17500) のバージョン	この処理オプションをブランクにした場合、バージョン ZJDE0003 が使用されます。
10. 品目マスター (P4101) のバージョン、11. 事業所品目 (P41026) のバージョン、12. 設備マスター関連オーダー (P17023) のバージョン	この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
13. 設備マスター親/子 (P12017) のバージョン	ブランクにした場合は、バージョン ZJDE0002 が使用されます。
14. 補足データ (P00092) のバージョン	この処理オプションをブランクにした場合、バージョン ZJDE0005 が使用されます。
15. 設置場所情報 (P1201) のバージョン、16. 設置場所の移動 (P12115) バージョン、17. 設備部品リスト (P13017) のバージョン、18. 設備マスター住所録設置場所 (P1704) のバージョン、19. 設置場所の処理 (P12215) のバージョン、20. 設備オーダーのバックログ (P13220) のバージョン、21. 予防保全オーダー (P12071) のバージョン	この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
22. 勘定科目 (P0901) のバージョン、23. 契約 (P1720) のバージョン、24. 親資産履歴照会 (P12212) のバージョン、25. ライセンス情報 (P1206) の履歴、26. 設備の改訂 (P90CD001) のバージョン	この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

データ選択

出荷確認による設備マスター更新では、データ選択基準の追加が可能です。この処理オプションでは、追加する条件を指定します。

1. **最新の状況コード** UDC 40/AT (処理状況コード) から、設備レコードの追加に必要な受注オーダーの前の状況を表す値を入力します。
2. **国** UDC 00/CN (国コード) から、設備マスターに追加するオーダーの顧客の国コードを表す値を入力します。

CRM – 設備管理プログラム (P90CD001) の処理オプションの設定

CRM ユーザー: この処理オプションを使用して、CRM – 設備管理プログラムの処理オプションを設定します。

注意: 略式コマンドに「IV」(対話型バージョン)と入力して、この処理オプションにアクセスします。

この処理オプションは、次の例外を除き、P1702 プログラムと同じです。

処理

「処理」処理オプションはありません。

バージョン

「26. 設備の改訂 (P90CD001) バージョン」の処理オプションはありません。

関連項目:

第 4 章、「設備の管理」、「設備マスターの改訂プログラム (P1702) の処理オプションの設定」、57 ページ

固定資産からの設備レコードの作成

この項では、固定資産から設備マスター・レコードを作成する方法について説明します。また、設備マスター拡張テーブルの作成プログラム (P17021) の処理オプションの設定方法についても説明します。

固定資産からの設備レコードの作成について

固定資産システム・データベースの既存のレコードから設備レコードを作成できます。

サービス管理システムでは、設定した処理オプションに従って基本保証契約の詳細が生成されます。

固定資産からの設備レコードの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
設備マスター拡張テーブル	W17021A	「設備マスター定期処理」(G1721)、「固定資産からの設備マスターの作成」	レコードを検索します。
設備マスターの改訂	W1702A	「設備マスター拡張テーブルの作成」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューから「拡張テーブルの作成」を選択します。	サイト番号、顧客番号、取得日、インストール日、シリアル番号、在庫品目番号、製品モデル、製品ファミリーなどの情報を入力します。

設備マスター拡張テーブルの作成プログラム(P17021)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、設備マスター拡張テーブルの作成プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、開始登録状況を指定します。

1. 開始登録状況 UDC 17/RS(製品登録状況)から、設備レコードに割り当てる初期登録状況の値を入力します。

検証

この処理オプションでは、設備基本保証のデフォルト値を指定します。

1. 基本保証契約の生成 設備レコードの追加時に基本保証契約を生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 生成しない
 1: 生成する
2. 基本保証契約開始日付 基本保証契約の開始日を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: インストール日付
 1: 取得日
3. 設備レコード作成後の基本保証契約の自動表示 設備レコードを追加するときに基本保証契約を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 自動的に表示しない
 1: 自動的に表示する

バージョン

設備マスターの改訂から起動するプログラムのバージョンを指定します。

1. 設備マスターの改訂(P1702)のバージョン、 設備マスターの改訂プログラム(P1702)の処理オプションを設定します。設備マスター拡張レコードの作成時に、このバージョンの処理オプション(シ

リアル番号、基本保証のデフォルトの要件など)を使用します。この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

2. 設備マスターの改訂(P1702)のバージョン、3. 契約の処理(P1720)のバージョン

ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

製品登録の処理

この項では、製品登録の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 製品登録の入力
- 製品登録プログラム(P17051)の処理オプションの設定
- 製品スピード登録の入力

製品登録について

製品登録の入力プログラム(P17051)では、設備レコードを更新または追加できます。

スピード登録プログラム(P1705)では、設備レコードを迅速に入力できます。たとえば、バイクのヘルメットを販売した場合、販売するヘルメットごとに設備レコードを作成する必要はありません。ヘルメットに製品登録カードを付けると、販売した製品と顧客情報を顧客から取得することができます。

タブの見出しフィールドに情報を入力すると、この情報はデフォルトの入力値として使用され、複数の製品登録項目に適用されます。たとえば、「製品デフォルト」タブに製品情報を入力して、複数のサイトと所有者番号を入力します。複数の製品登録を入力すると、入力した項目が詳細グリッドに追加されます。

逆に、単一の顧客に複数の製品登録項目を作成する場合、顧客情報を入力した後で複数の品目および事業所を入力します。

「製品スピード登録」フォームで可能な操作は、顧客情報と製品情報の入力だけです。設備項目を確認するには、設備マスターの処理プログラム(P1701)で照会する必要があります。

注意: タブの見出し領域に顧客情報または製品情報を入力せずに、詳細グリッドにシリアル番号、製品および顧客情報を直接入力することもできます。タブの見出し領域をブランクにして、先頭行に顧客情報と製品情報を入力すると、この値が詳細ローに表示されます。

スピード登録プログラム(P1705)は、設備マスターの改訂プログラム(P1702)の一部の処理オプションを使用します。

参照: 第 4 章、「設備の管理」、「設備マスターの改訂プログラム(P1702)の処理オプションの設定」、57 ページ

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 住所録システムに顧客情報を入力します。
フォーム・エグジットを使用して、「製品登録の入力」から顧客を追加できます。
- 「製品登録の入力」フォームに入力した品目が定義済のSWM情報かどうかを確認します。

製品登録の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
製品登録の改訂	W17051B	「設備マスター日次処理」メニュー (G1711)、「製品登録」 「製品登録の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 「製品」タブを選択します。 「顧客」タブを選択します。	製品情報を入力します。
製品スピード登録	W1705A	「設備マスター日次処理」メニュー (G1711)、「スピード登録」 「顧客デフォルト」タブを選択します。 「製品デフォルト」タブを選択します。	製品スピード登録情報を入力します。

製品登録の入力

「製品登録の改訂」フォームにアクセスします。

製品登録 - 製品登録の改訂 i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

資産No.

サイトNo.

顧客No.

デフォルト・ディーラー

シリアルNo.

在庫品目No.

製品モデル

製品ファミリ

ロットNo.

登録状況

査定担当者No.

インストール日付

サービス開始日付

資産取得日付

「製品登録の改訂」フォーム

- 資産No.** このフィールドをblankにすると、自動採番のデフォルト値が使用されます。
- シリアルNo.** シリアル番号は、シリアル番号の処理オプションを「必須」に設定した場合にのみ必要です。
- インストール日付** 在庫番号に基づいて、製品ファミリおよび製品モデル情報の値を取得します。

製品登録プログラム(P17051)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、製品登録プログラムのデフォルト値を指定します。

編集

この処理オプションを使用して、プログラムの編集値を指定します。

- シリアル番号の入力** 設備レコードの追加時にシリアル番号の入力を必須とするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 blank: 必須にしない
 1: 必須にする

- | | |
|--------------------------|---|
| 2. 在庫品目番号の入力 | 設備レコードの追加時に在庫品目番号の入力を必須とするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 必須にしない
1: 必須にする |
| 3. 基本保証契約 | 設備レコードを追加するときに基本保証契約を生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 作成しない
1: 作成する |
| 4. 基本保証契約開始日付 | 基本保証契約の開始日を指定します。値は次のとおりです。
空白: インストール日付
1: 取得日 |
| 5. 基本保証契約のデフォルト設定 | 設備レコードの追加時に基本保証のデフォルト値を必要とするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 必須にしない
1: 必須にする |
| 6. 査定担当者のデフォルト | 査定担当者にデフォルト値を割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 割り当てる
1: 割り当てない |

デフォルト

この処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト値を指定します。

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 会社、2. 担当ビジネスユニット | 設備マスター・レコードの作成時に使用するデフォルトの会社または担当ビジネスユニットを指定します。 |
| 3. ビジネスユニット | 設備マスター・レコードの作成時に使用するデフォルト資産勘定のビジネスユニットを指定します。この情報は、主科目および補助科目とともに使用され、資産勘定が作成されます。 |
| 4. 主科目 | 設備マスター・レコードの作成時に使用するデフォルト資産勘定の主科目を指定します。この情報は、ビジネスユニットおよび補助科目とともに使用され、資産勘定が作成されます。 |
| 5. 補助科目 | 設備マスター・レコードの作成時に使用するデフォルト資産勘定の補助科目を指定します。この情報は、ビジネスユニットおよび主科目とともに使用され、資産勘定が作成されます。 |
| 6. 設備の最初の状況 | UDC 12/ES(状況または処分コード)から、設備マスター・レコードの作成時に使用するデフォルトの開始設備状況を指定する値を入力します。 |
| 7. 設備の最初の登録状況 | UDC 17/RS(製品登録状況)から、設備マスター・レコードの作成時に使用するデフォルトの設備初期登録状況を指定する値を入力します。 |
| 8. 事業所 | 設備マスター・レコードの作成時に使用するデフォルトの事業所を指定します。 |

- 9. ユーザーのデフォルト住所録番号** ディーラーまたは顧客のフィールドのデフォルト値として住所録番号を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: デフォルトを使用しません。
 1: ディーラーのフィールドをデフォルトとして使用します。
 2: 顧客のフィールドをデフォルトとして使用します。
- 10. 作業オーダー** 設備または資産を作業オーダーに入力できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 0またはN: 作業オーダーを許可しない
 1またはY: 作業オーダーを許可する
- 11. 設置場所のデフォルト** 担当ビジネスユニットから設備設置場所を取得するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 設置場所を取得しません。
 1: 担当ビジネスユニットからデフォルトの設置場所を取得します。
- 12. 設置場所の開始有効日付のデフォルト** 設備設置場所の有効開始日付を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: システム日付
 1: 取得日

バージョン

プログラムのバージョン値を指定します。

- 1. メーター示度 (P12120) のバージョン** この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 2. 契約の処理 (P1720) のバージョン** 設備マスター・レコードの作成時に契約を生成する場合、このバージョンの処理オプションが使用され、契約伝票タイプ、契約の改訂プログラム (P1721) および契約の印刷プログラム (R1733) のバージョン情報が指定されます。この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 3. 顧客のスピード追加 (P01015) のバージョン** この処理オプションをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

処理

この処理オプションを使用して、プログラムの処理値を指定します。

- 1. ディーラー・フィールド、
2. カスタマ・フィールド** ディーラー・フィールドまたは顧客フィールドを無効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 無効にしない
 1: 無効にする
- 3. 査定担当者フィールド** 「査定担当者」フィールドを非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 非表示にしません。
 1: 非表示にします。

製品スピード登録の入力

「製品スピード登録」フォームにアクセスします。

ローの追加	サイト No.	所有者 No.	インストール日付	シリアル No.	事業所	在庫 No.
<input checked="" type="radio"/> N	1001	1001	2005/06/30	5864	M30	
<input type="radio"/> N						

「製品スピード登録」フォーム

設備マスター更新の処理プログラム

この項では、設備マスター更新、設備マスター更新プログラムおよび設備マスター一括更新プログラムの概要、事前設定と次の方法について説明します。

- 設備マスター更新プログラムの実行
- 設備マスター更新プログラム (R17024) の処理オプションの設定
- 複数のレコードに対する設備マスター更新の実行
- 設備マスター一括更新プログラム (P17022) の処理オプションの設定

設備マスター更新について

設備レコードを使用すると、販売する製品または設備の情報を作成し、その現在の状況および履歴情報をトラッキングできます。流通/製造管理システムでは、ロット処理、シリアル番号のトラッキング、部品リスト、入荷確認などの機能を使用して、原材料から製造流通工程を経て完成品に至るまで品目のトラッキングができます。

サービス管理では、製品が顧客に出荷され、受注オーダーが完了した後も品目をトラッキングできます。たとえば、ロット処理およびシリアル番号のトラッキングなどの機能を使用すると、製造工程および流通過程の様々な時点でロットおよびシリアル番号の情報（部品リスト、作業オーダー、入荷確認、受注オーダーなど）を入力できます。この情報は、設備レコードの作成時に収集されます。

設備マスター更新を実行すると、シリアル番号付き品目（基本と上級）とシリアル番号のない品目に対して、受注オーダーから複数の設備レコードが作成されます。各レコードには、受注、購入および製造情報が保持されます。履歴データにアクセスして、部品および保守サービスを保証できます。

シリアル番号付き品目とシリアル番号のない品目の設備レコード

出荷確認後に、事業所品目テーブル (F4102) のロットおよびシリアル番号情報から販売品目の設備レコードを作成できます。

「品目/事業所情報」フォーム(W41026A)に品目情報を入力するときに、次のフィールドにシリアル番号の要件を指定する必要があります。

- シリアル番号の入力
- ロット処理タイプ

事業所品目テーブルにシリアル番号情報を定義して、サービス管理システムで品目にシリアル番号が付くかどうかを指定できます。

シリアル番号付き品目

製造、調達、受注オーダー入力の過程で、品目情報に基づくシリアル番号情報の入力が必要になる場合があります。出荷を確認し、顧客に送付した後でも、サービス管理システムで同じシリアル番号を使用して設備レコードを作成し、保証およびサービスに関する情報を記録できます。

基本シリアル番号の処理

品目にシリアル番号が必要ない場合でも、製品のトラッキング、顧客サービス、新製品の販売促進を行うためにシリアル番号を割り当てる場合があります。基本シリアル番号が割り当てられた品目について、次の品目情報が事業所品目テーブル(F4102)に割り当てられます。

- シリアル番号の入力: Y
- ロット処理タイプ: ブランク

このオプションをブランクにすると、品目にシリアル番号を手動で割り当てることができます。ただし、シリアル番号は必須ではありません。また、数量に関係なく、品目にシリアル番号を割り当てるができます。

基本シリアル番号は、基本シリアル番号テーブル(F4220)に格納されます。

上級シリアル番号の処理

製造、調達、受注オーダー入力の過程で、品目仕様を応じてシリアル番号情報の入力が必要になる場合があります。上級シリアル番号処理を使用すると、複数のプロセスで品目をトラッキングできます。上級シリアル番号は受注明細テーブル(F4211)以外に、ロット・マスター(F4108)、作業オーダー・マスター(F4801)などのテーブルに格納されます。

上級シリアル番号処理が実行された品目は、事業所品目テーブル(F4102)の「シリアル番号の入力:」が「N」になります。

上級シリアル番号処理の場合、このフィールドは使用されません。シリアル番号要件を指定するには、ロット処理タイプを使用する必要があります。

ロット処理タイプには、次のいずれかのオプションを選択します。

ロット処理タイプ	内容
4	「4」を指定すると、シリアル番号は出荷確認を除きオプションになります。数量が1より多い場合に、シリアル番号を割り当てるができます。
5	「5」を指定すると、シリアル番号は必須になります。YYMMDD形式のシステム日付を使用して、シリアル番号が自動的に割り当てられます。数量は1を超えることはできません。

ロット処理タイプ	内容
6	「6」を指定すると、シリアル番号は必須になります。自動採番を使用して、シリアル番号が昇順で割り当てられます。数量は1を超えることはできません。
7	「7」を指定すると、シリアル番号は必須になります。シリアル番号は手動で割り当てる必要があります。数量は1を超えることはできません。

注意: 上級シリアル番号が必要な場合、「貯蔵期間」フィールドに値を指定し、有効期限を計算できるようにする必要があります。「貯蔵期間」に値を入力しないと、シリアル番号を確認または入力するたびに有効期間の入力が要求されます。

シリアル番号のない品目

品目にシリアル番号が必要ない場合でも、製品トラッキング、顧客サービス、新製品の販売促進で使用する設備レコードを作成できます。シリアル番号がない品目について、次の品目情報が事業所品目テーブル(F4102)に割り当てられます。

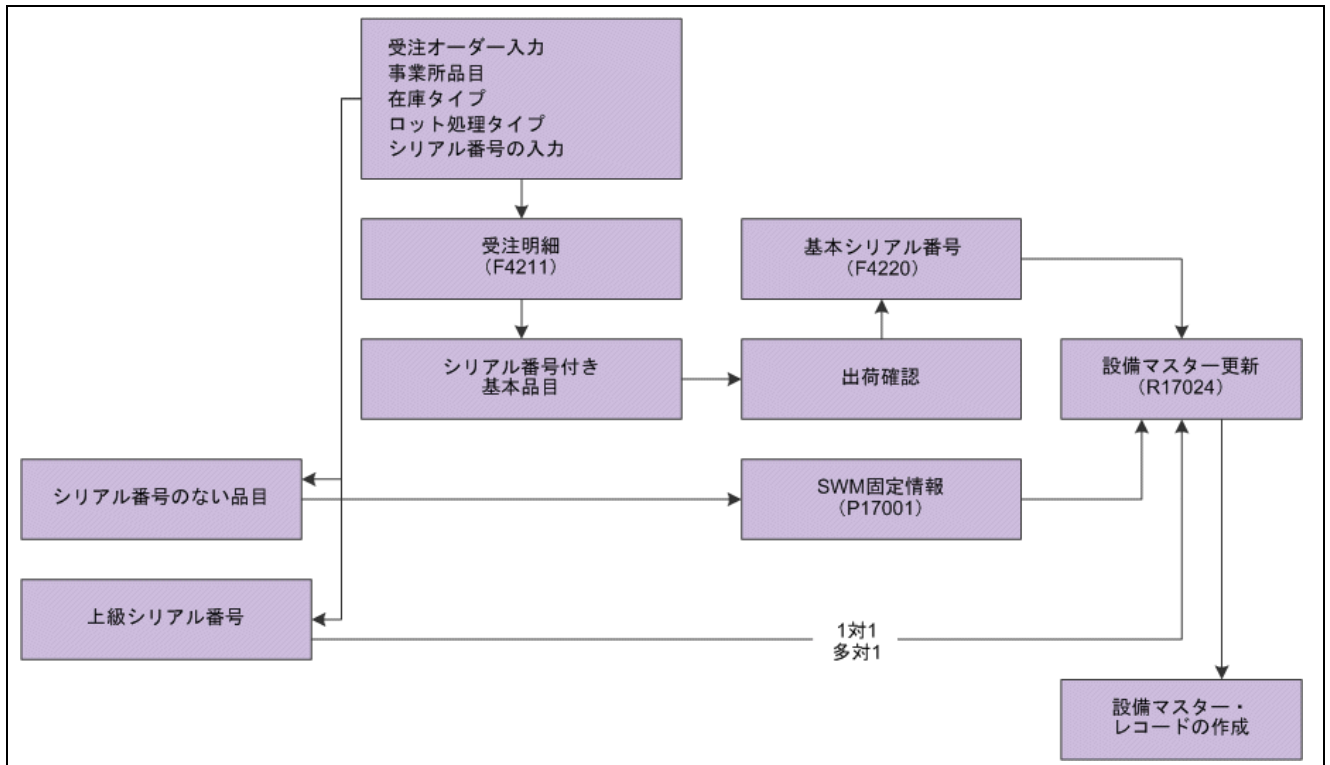
- シリアル番号の入力: 「6」に設定します。「事業所品目」フォームの「シリアル番号の入力」を使用し、サービス管理システムで品目にシリアル番号を付けないことを指定します。
- ロット処理タイプ: ブランク

シリアル番号のない設備レコードを作成すると、オーダー明細行の各ユニットにレコードを作成するか、全数量に1つの設備レコードを作成できます。たとえば、自転車50台に対する受注オーダー明細行が存在するとします。このオーダー明細行に50件の設備レコードを作成することも、自転車ごとに設備レコードを作成できます。また、オーダー明細行に1つの設備レコードを作成することもできます。

設備マスター更新プログラム(R17024)を実行すると、最初にシリアル番号の要件が確認されます。次に、SWM固定情報の「設備マスター」タブでシリアル番号のない品目に対する設備マスター・オプションが確認されます。

- 「1対1で作成する」オプションをクリックすると、オーダー明細行の単位に設備レコードが作成されます。
- 「多対1で作成する」オプションをクリックすると、数量に関係なく、品目に単一の設備レコードが作成されます。

次の図は、設備マスター更新のプロセスを表しています。



設備マスター更新のプロセス

設備マスター更新プログラムについて

設備レコードは、受注オーダーから直接更新できます。設備マスター更新プログラム (R17024) を実行すると、各品目の「シリアル番号入力」、「ロット処理タイプ」および「設備マスター・レコードの作成」フィールドの値に基づいて、すべての製品に設備レコードが作成されます。

更新時に、次のテーブルに項目が作成されます。

- 固定資産マスター (F1201)
- 設備マスター拡張テーブル (F1217)
- 設備マスターの設置場所履歴 (F1731)
- 状況履歴 (F1307)
- 親履歴 (F1212)

処理オプションの設定方法と基本保証の作成方法によって、レコードが契約詳細テーブル (F1721) に作成されます。

更新を実行すると、シリアル番号の要件とロット処理タイプに従って、オーダー明細行に設備レコードが作成されます。また、品目在庫タイプに従って、関連する製造または購買オーダー情報が保存されます。このように、顧客サービスの履歴データにアクセスできます。

製造品目の場合、次のテーブルから製造情報が取得されます。

- ロット・マスター (F4108)
- 事業所品目 (F4102)
- 品目元帳 (F4111)

「事業所品目」フォームの製造品は、UDC 41/I(在庫タイプ・コード)の「記述2」フィールドで在庫タイプ・コードが「M」に設定されているとみなされます。

- 作業オーダー・マスター (F4801)
- ECO部品リスト明細 (F3013)

原材料を含む購買品の場合、次のテーブルから購買情報が取得されます。

- 購買明細 (F4311)
- ロット・マスター (F4108)
- 事業所品目 (F4102)

「事業所品目」フォームの購買品は、UDC 41/I(在庫タイプ・コード)の「記述2」フィールドで在庫タイプ・コードが「P」に設定されているとみなされます。

- 品目元帳 (F4111)

設備マスター一括更新プログラムについて

一度に複数の設備レコードを変更するには、設備マスター一括更新プログラム (P17022) を使用できます。たとえば、複数の品目を設置場所Aに出荷し、その4か月後に全品が設置場所Bに移動し、設置先の事業所または場所が変わった場合でも、このプログラムで設備レコードを更新できます。レコードを最初に入力したときに、設備のサイトとして設置場所Aが記録されています。設備は設置場所Bに移動したため、設備の設置場所がBになるように新しいサイト番号で情報を更新する必要があります。

事前設定

設備固定情報を設定します。

設備マスター更新プログラムに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
使用可能なバージョン	W98305WA	「設備マスター日次処理」メニュー (G1711)、「設備マスター更新」 バージョンを選択して更新を実行します。	複数のレコードに設備マスター更新を実行します。
設備マスターの一括更新	W17022A	「設備マスター定期処理」メニュー (G1721)、「設備マスター一括更新」 タブを選択します。	複数のレコードに設備マスターの一括更新を実行します。

設備マスター更新プログラムの実行

設備マスター更新プログラムを実行するには、「設備マスター日次処理」メニュー (G1711) の「設備マスター更新」にアクセスします。

設備マスター更新プログラム (R17024) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、設備マスター更新プログラムのデフォルト値を指定します。

処理

この処理オプションでは、このバージョンの設備マスター更新で実行する処理を定義します。基本保証を生成するかどうか選択できます。また、基本保証情報が必要かどうかも選択できます。郵送データの作成も選択できます。

1. 基本保証の生成

基本保証の生成を指定します。値は次のとおりです。

空白: 生成しない

1: 生成する
2. 基本保証デフォルトの入力

設備レコードを追加するときに基本保証のデフォルトを必要とするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 必須にしない

1: 必須にする
3. 郵送データの作成

新しい設備レコードの作成時に郵送データを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 作成しない

1: 作成する

受注オーダー入力で、システムに登録されている住所とは異なる住所に製品を出荷する場合があります。設備レコードを作成して、この処理オプションを設定すると、次の処理が実行されます。

設備レコードの受注オーダー番号を確認します。

受注オーダー番号が存在する場合、オーダー住所情報テーブル(F4006)で住所情報を確認します。

住所レコードが存在する場合、この設備レコードに郵送データを作成します。

住所レコードが存在しない場合または受注オーダー番号が存在しない場合、住所録から郵送情報を取得します。
4. 明細行の印刷

レポートに明細行を印刷する形式を指定します。値は次のとおりです。

空白: 明細行を印刷しない

1: エラーが発生した場合にのみ明細行を印刷する

2: すべての明細行を印刷する
5. シリアル番号付き構成品の作成

受注オーダーに定義された製品とその製品のシリアル番号付き構成品に設備マスター・レコードを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 作成しない。

1: 作成する。製品の設備マスター・レコードとシリアル番号付き構成品のレコードの間で親/子関係が作成されます。製品と構成品は、上級シリアル番号処理を使用する必要があります。
6. シリアル番号付き構成品の明細行の印刷

設備マスター更新レポート(R17024)でシリアル番号付き構成品の明細行を印刷する方法を指定します。値は次のとおりです。

空白: シリアル番号付き構成品の明細行を印刷しない

1: エラーが発生した場合にのみ、シリアル番号付き構成品の明細行を印刷する

2: シリアル番号付き構成品の明細行を印刷する

7. デフォルト査定担当者

査定担当者にデフォルト値を割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 割り当てる

1: 割り当てない

デフォルト値

この処理オプションでは、設備マスターの更新時に使用されるデフォルト値を定義します。設備マスター更新プログラムのデフォルト値は仕訳入力で使用されます。サービス管理に設備レコードを作成するときに、会社、ビジネスユニットおよび資産勘定の情報が使用され、固定資産マスター・ファイル・テーブル (F1201) に項目が作成されます。

1. 会社番号、2. ビジネスユニット

設備原価を担当する会社またはビジネスユニットを指定します。資産勘定でデフォルトの減価償却を検証するときに、この値が使用されます。

3. 勘定科目コード - ビジネスユニット、4. 勘定科目コード - 主科目、5. 勘定科目コード - 補助科目

設備原価のトラッキングに使用する資産勘定のビジネスユニット、主科目または補助科目を指定します。この資産勘定を使用して、検証する減価償却のデフォルトが判別されます。

6. 設備状況

UDC 12/ES (状況または処分コード) から、設備レコードに割り当てる初期状況の値を入力します。

7. 状況コード - 次

受注オーダーの明細行を次の状況で更新するときに使用される状況値を指定します。明細行が正常に処理されると、受注オーダーの明細行の状況コードが更新されます。「状況コード - 前」フィールドは、「状況コード - 次」の前の値で更新され、「状況コード - 次」はこの処理オプションの値で更新されます。指定するUDC 40/AT (処理状況コード) は、使用するオーダー・タイプと行タイプに基づいてオーダー処理順序定義に設定されている必要があります。

8. 開始登録状況

UDC 17/RS (製品登録状況) から、設備レコードに割り当てる初期登録状況の値を入力します。

9. 作業オーダーを許可する

設備マスター・レコードを追加するときに「作業オーダーを許可する」フィールドのデフォルト値を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 作業オーダーの入力を許可しない

1またはY: 作業オーダーの入力を許可する

10. 設置場所のデフォルト

担当ビジネスユニットから設備設置場所を取得するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 担当ビジネスユニットに関連付けられている場所の値を使用しません。

1: 担当ビジネスユニットに関連付けられている場所の値を使用しません。

11. 設置場所の有効開始日付

設備設置場所の有効開始日付を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: システム日付。

1: 取得日。この値を選択する場合、資産マスター・レコードのシステム日付がblankである必要があります。

12. メーター・スケジュールの使用可否

設備マスター・レコードを追加するときに「メーター使用」フィールドのデフォルト値を指定します。値は次のとおりです。

blank: メーターを使用しません。

1またはY: メーターを使用します。

バージョン

この処理オプションでは、このバージョンの“設備マスター更新 - 統一”で設備レコードを作成するときに使用するバージョンを定義します。設備レコードの作成時に契約を生成する場合、このバージョンの処理オプションから契約情報が特定されます。

1. 設備マスターの改訂 (P1702)

設備マスターの改訂プログラム (P1702) の処理オプションを設定します。設備マスター・レコードの作成時に、シリアル番号、基本保証のデフォルトの要件など、このバージョンの処理オプションを使用します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001が使用されます。

2. 契約の処理 (P1720)

契約の処理プログラム (P1720) のバージョンを指定します。設備マスター・レコードの作成時に契約を生成する場合、このバージョンの処理オプションが使用され、契約伝票タイプ、契約の改訂プログラム (P1721) および契約の印刷プログラム (R1733) のバージョン情報が指定されます。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001が使用されます。

選択

この処理オプションでは、設備マスター・レコードの作成時に選択するレコードを指定します。

1. 国

この国の顧客の受注オーダー明細行を指定する値をUDC 00/CN (国コード) から入力します。この処理オプションをblankにすると、追加データは選択されません。値を入力すると、この国の顧客の受注オーダー明細行だけが選択されます。

複数のレコードに対する設備マスター更新プログラムの実行

「設備マスターの一括更新」フォームにアクセスします。

設備マスター一括更新 - 設備マスターの一括更新

選択(S) 検索(O) 開じる(L) ロー(R) ツール(T)

タブを選択: 1-設備マスター検索

顧客No.200Manufacturing/Distribution Com資産取得日付2003/03/21

サイトNo.インストール日付*

在庫品目No.オーダーNo.*

製品モデル*

製品ファミリ*

デフォルト・ディーラー

査定担当者No.

レコード 1 - 5

グリッドのカスタマイズ

	顧客No.	サイトNo.	在庫品目No.	シリアルNo.	取得日付	インストール日付	製品モデル	製品ファミリ
<input type="checkbox"/>	200	200			2003/03/21			
<input type="checkbox"/>	200	200			2003/03/21			
<input type="checkbox"/>	200	200			2003/03/21			
<input type="checkbox"/>	200	200			2003/03/21			
<input type="checkbox"/>	200	200			2003/03/21			

「設備マスターの一括更新」フォーム

複数レコードの設備マスターを更新するには、次の操作を実行します。

1. 変更するレコードをすべて選択します。

2. 「ロー」メニューの「更新」を選択します。
- 変更が処理され、更新後の情報が表示されます。

子の更新

イベントの処理タイプを指定するオプションを選択します。

設備マスターの一括更新プログラム(P17022)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、設備マスターの一括更新プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

この処理オプションは、基本保証契約の開始日付を指定します。

基本保証契約の開始日

基本保証契約の開始日を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: インストール日付
1: 取得日

バージョン

各プログラムのバージョンを入力します。

1. 設備マスターの改訂 (P1702) この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

基本保証契約の作成

この項では、サービス管理の基本保証契約の概要と作成方法について説明します。

基本保証契約について

設備レコードを作成するときに、設備追加時に基本保証契約を生成するように設備マスターの改訂 (P1702) の処理オプションを設定できます。設備レコードの作成時に基本保証契約を生成しない場合でも、設備レコードを作成した後で基本保証契約を作成することもできます。

基本保証契約の作成 (P17212) を使用すると、契約詳細テーブル (F1721) に基本保証契約がないすべての設備レコードを照会できます。

関連項目:

[第 5 章、「契約の管理」、「契約について」、91 ページ](#)

[第 5 章、「契約の管理」、「固定情報の設定」、93 ページ](#)

サービス管理での基本保証契約の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
基本保証契約の作成	W17212A	「設備マスター定期処理」メニュー (G1721)、「基本保証契約の作成」	基本保証契約を作成します。

サービス管理での基本保証契約の作成

「基本保証契約の作成」フォームにアクセスします。

基本保証契約の作成 - 基本保証契約の作成

検索(🔍) 閉じる(🔒) ロー(R) ツール(T)

サイトNo. Continental Incorporated
 所有者No.
 オーダーNo.
 製品ファミリー
 製品モデル
 在庫No.

レコード 1 - 3 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	基本保証	シリアル No.	記述	所有者 No.	サイト No.	取得日付	インストール日付	在庫 No.
<input type="checkbox"/>	Y	N 11	Deluxe Pager		3333	2000/02/02	2000/02/02	7205
<input type="checkbox"/>	Y	N 6	Deluxe Pager		3333	2000/02/02	2000/02/02	7205
<input type="checkbox"/>	Y	N 8	Deluxe Pager		3333	2000/02/02	2000/02/02	7205

「基本保証契約の作成」フォーム

サービス管理で基本保証契約を作成するには、次の操作を実行します。

1. 検索条件を入力して「検索」をクリックして、基本保証契約のないすべての設備レコードを照会します。

「基本保証」フィールドに、基本保証デフォルト・テーブル(F17111)に基本保証のデフォルト情報が存在するかどうかが表示されます。

注意: 設備に基本保証のデフォルト情報が存在する場合にのみ、契約を作成できます。「基本保証」フィールドは「Y」になっている必要があります。

2. 1つ以上のローを選択します。
3. 「ロー」メニューから「基本保証契約の作成」を選択します。

契約の詳細テーブル(F1721)に基本保証契約が作成されます。

親資産および構成品の情報の利用

この項では、親資産および構成品の情報の概要と、次の方法について説明します。

- 親情報の検討と改訂
- 現在の設備構成品の検討
- 設備マスター親/子プログラム(P12017)の処理オプションの設定

親資産および構成品の情報について

設備マスターの設備の中で親資産と構成品の関係の階層を設定できます。特定の設備に対して、最大25レベルまでの構成品の関係をトラッキングできます。このような階層を設定すると、次の操作が可能になります。

- 親資産レベルまたは構成品レベルでの設備原価のレポート
- 1つの親資産に割り当てられたすべての構成品、または特定の構成品が割り当てられた複数の親資産のトラッキング

親情報

設備構成品の親情報をトラッキングすると、設備構成品を別の親に移動したときに、親情報を簡単に確認して改訂できます。たとえば、親設備の構成品のドライブトレインを保証するとします。保証サービスでドライブトレインを交換した場合、修理したドライブトレインの新しい親を指定できます。

親設備を最初に照会すると、構成品が割り当てられているすべての親が表示されます。表示方法を切り替えると、照会時に割り当てられていた他の構成品の履歴を確認できます。履歴レコードの数が多い場合、日付を指定して表示される情報を制限できます。

構成品の親情報を確認した後で、「資産マスター改訂」にアクセスし、設備構成品の新しい親を指定できます。

現在の設備構成品

選択した設備に対して、最大25レベルまでの構成品の関係を表示できます。この情報は、橋形クレーンのように複雑な組合せの設備をトラッキングする場合に有効です。設備の構成品はツリー構造で表示されます。ツリーを展開して下位レベルの構成品を表示して、確認する構成品を選択できます。

たとえば、構成品を選択した後で次のフォームにアクセスします。

フォーム	内容
設備マスターの改訂	選択した構成品とその親の情報を改訂できます。
コスト集計の処理	選択した構成品のコストを原価勘定科目別または修理コード別に検討できます。
作業オーダーの処理	選択した構成品に関連するすべての作業オーダーを検討できます。

親資産と構成品の情報の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
親資産履歴の処理	W12212H	「設備マスター日次処理」メニュー(G1711)、「設備マスター入力」 「設備マスターの処理」フォームで設備レコードを選択して、「設備マスター」、「親設備の履歴」の順に選択します。	親情報を検討および改訂します。
資産マスターの改訂	W1201G	「親資産履歴の処理」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「資産マスター」を選択します。	親情報を改訂します。
親資産の変更日付	W1201I	「資産マスターの改訂」フォームに新しい親番号を入力して「OK」をクリックします。	資産で親を変更した日付を入力します。
親/子の参照	W12017A	「設備マスター日次処理」メニュー(G1711)、「設備親/子」	現在の設備構成品を検討します。

親情報の検討と改訂

「親資産履歴の処理」フォームにアクセスします。

設備マスター入力 - 親資産履歴の処理

選択(S) 検索(I) 削除(D) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ビュー ツール(T)

資産No. * 24619 Western Manufacturing Center
 開始日付 * 終了日付 *

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	親資産No.	記述	開始日付	終了日付	期間
<input type="checkbox"/>	24601	The Manufacturing Company	2003/03/21		2137
<input type="checkbox"/>	24601	The Manufacturing Company	2003/03/21	2003/03/21	0

「親資産履歴の処理」フォーム

親情報を検討および改訂するには、次の操作を行います。

- 「親資産履歴の処理」フォームの「ビュー」メニューで「親資産フォーマット」または「構成品フォーマット」のいずれかを選択します。
- これらのオプション・フィールドに値を入力して、表示される情報を制限し、「検索」をクリックします。
 - 開始日付
 - 終了日付

3. 構成品レコードを選択して、「ロー」メニューから「資産マスター」を選択し、構成品の親情報を改訂します。
4. 「親資産No.」フィールドに新しい親番号を入力して、「資産マスター改訂」で「OK」をクリックします。
5. 「有効日付」フィールドに値を入力して、「親資産の変更日付」フォームで「OK」をクリックします。
6. 「検索」をクリックして、変更を確認します。

親資産No.

ある親資産番号と構成品の関係における直接の親資産番号を識別するための番号を指定します。たとえば、自動車電話とレーダー装置は特定の自動車に属している構成品です。このフィールドをブランクにした場合は、その資産の基本識別番号が使用されます。親資産番号を変更した場合は、表示されるウィンドウでその資産に新しい親を割り当てた日付を入力します。

現在の設備構成品の検討

「親/子の参照」フォームにアクセスします。

設備親/子 - 親/子の参照 i ?

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

✓ ❏ ✕ ❏ ❏

Parent 設備No. ★ The Manufacturing Company

レコード 1 - 5 グリッドのカスタマイズ

親No. 記述	製品 モデル	製品 ファミリ	在庫 No.	在庫品目 記述
❏ 24601 The Manufacturing Company				
○ 24619 Western Manufacturing Center				
○ 24627 Northern Manufacturing Center				
○ 24635 Eastern Manufacturing Center				
○ 24643 Central Manufacturing Center				

「親/子の参照」フォーム

現在の設備構成品を検討するには、次の手順に従います。

1. 「親/子の参照」フォームで、「Parent設備No.」フィールドに値を入力して「検索」をクリックします。
親設備が表示されます。
2. プラス記号(+)をクリックしてツリーを展開し、親の次のレベルにある構成品をすべて表示します。
ツリーを展開すると、親子階層の次のレベルが表示されます。他の構成品の親になっている場合、その構成品のツリーを展開できます。

設備マスター親/子プログラム(P12017)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、設備マスター親/子プログラムのデフォルト値を指定します。

バージョン

設備マスター親/子プログラムから起動するプログラムのバージョンを指定します。

1. 設備マスター(P1702)のバージョン、2. バックログ管理(P48201)のバージョン ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

状況履歴の処理

この項では、状況履歴の概要と次の方法について説明します。

- 状況履歴の確認
- 設備の平均故障間隔のトラッキング
- 状況履歴プログラム(P1307)の処理オプションの設定

状況履歴について

設備レコードまたは作業オーダーの履歴を利用可能、停止、稼働中、待機などの状況で確認できます。この情報は、稼働状況の監査履歴の管理や、ダウンタイムによる設備の無稼働時間の特定を行う場合に有効です。設備登録の状況履歴も確認できます。

「状況履歴の処理」にアクセスすると、設備レコードに割り当てられた状況以外に、次の情報を確認できます。

- 各状況の終了時間(存在する場合)と開始時間。それぞれの日付
- 特定の状況が発生した合計時間
- 時間、燃料、距離など、定義した統計項目に対する状況変更時の通算メーター示度
- 設備の使用期間を通じて特定の状況が発生した累積時間
- 設備状況の変更時に入力した備考

「状況履歴の処理」から「ダウンタイム分析」にアクセスすると、製品の平均故障間隔を特定できます。この情報は、実際の製品のダウンタイムと保証範囲を比較するときに有効です。

処理オプションを設定すると、状況変更に対する既存の備考を改訂し、新しい備考を入力できます。また、以降の改定で変更されないように、備考のフィールドを保護することもできます。

設備の平均故障間隔をトラッキングすると、設備が稼働している合計時間が計算されます。

注意: 「状況履歴」には設備レコードまたは作業オーダーからアクセスできます。

状況履歴の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
設備マスターの処理	W1701A	「設備マスター日次処理」メニュー(G1711)、「設備マスター入力」	設備レコードを検索します。
状況履歴の処理	W1307A	「設備マスターの処理」フォームでレコードを選択し、「原価計算/分析」を選択して「ロー」メニューから「状況履歴」を選択します。	状況履歴を確認します。
ダウンタイム分析	W1307B	「状況履歴」フォームの「フォーム」メニューから「分析」を選択します。	設備の平均故障間隔をトラッキングします。

状況履歴の確認

「状況履歴の処理」フォームにアクセスします。

設備マスター入力 - 状況履歴の処理

OK(O) 検索(I) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

作業オーダーNo. *

設備No. 33419 Phone Switch

レコード 1-2

状況	状況記述	開始日付	開始時刻	終了日付	終了時刻	備考
AV	使用可能 - 作業場	1999/03/11	11:18:44	2002/04/02	10:25:06	

「状況履歴の処理」フォーム

「状況履歴の処理」で「設備No.」フィールドに値を入力して、「検索」をクリックします。

設備の固定情報に従って、「設備No.」フィールドにはシリアル番号または品目番号のいずれかを入力します。

設備レコードに割り当てられた状況の履歴が表示されます。

設備の平均故障間隔のトラッキング

「ダウンタイム分析」フォームにアクセスします。

平均故障間隔が表示されます。

設備ダウンタイム状況 資産の設備状況や処分状況(使用可能、停止中、処分済など)を識別するUDC 12/ES(状況または処分コード)の値を表示します。

状況履歴プログラム(P1307)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、状況履歴プログラムのデフォルト値を指定します。

処理

この処理オプションでは、備考およびカレンダー・オプションを指定します。

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 備考の変更許可 | 「備考コード」フィールドを保護するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 備考フィールドの変更を許可します。
1: テキストの有無に関係なく、備考フィールドを保護します。
2: テキストが存在する場合にのみ、備考フィールドを保護します。 |
| 2. 作業日カレンダー | 設備分析の日数計算に使用する作業日カレンダーを指定します。 |

デフォルト

この処理オプションでは、日付およびダウンタイム状況のデフォルト値を指定します。

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 開始有効日付 | 状況履歴プログラム (P1307) のダウンタイム分析で使用する開始日付を指定します。この日付は、平均故障間隔の計算に使用されます。値は次のとおりです。
blank: 設備マスターの日付を使用します。
1: 設備マスターのインストール日付を使用します。
<hr/> 注意: 「1」を選択した場合、インストール日付がblankになっていると、取得した日付が使用されます。 |
| 2. 設備ダウンタイム状況 | UDC 12/ES (状況または処分コード) から、値を入力します。状況履歴プログラム (P1307) のダウンタイム状況の値を入力します。この状況は、平均故障間隔の判別で使用されます。この処理オプションをblankにすると、設備マスターの現在の状況が使用されます。 |

更新オプション

状況履歴プログラムから起動するプログラムを指定します。

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 作業オーダーの改訂 (P17714) のバージョン | この処理オプションをblankにすると、ZJDE0003が使用されます。 |
| 2. 設備マスター (P1702) のバージョン | この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001が使用されます。 |

導入済設備に対する保守スケジュールの作成

この項では、導入済設備の保守作業の概要、顧客参照レポートおよび事前設定と、次の方法について説明します。

- 導入済設備に対する保守スケジュールの作成
- 設備予防保全スケジュール・プログラム (P1207) の処理オプションの設定
- 顧客参照レポートの確認

導入済設備に対する保守作業について

工場および設備管理モジュールの予防保全機能を使用すると、予防保全(PM)スケジュールを作成し、導入済製品の保守スケジュールを設定できます。たとえば、PMスケジュールを使用して、設備マスターの設備に対して保証サービスおよび定期的な保守作業のスケジュールを設定できます。PMスケジュールの作成およびトラッキングに必要な機能は、「設備マスターの改訂」フォームまたは「設備マスターの処理」フォームから直接アクセスできます。

PMスケジュールにより、設備マスターの各製品の保守作業の種類と頻度を定義します。予防保全サイクルは、定義から完了までの保守作業を構成する処理手順を表しています。予防保全作業の大半は、日付、距離、サイクルなどのサービス間隔で実行されるため、予防保全サイクルはこの間隔で繰り返し実行されます。また、PMスケジュールにより、各保守作業を最後に実行した時間がわかります。

設備に割り当てる保守作業ごとに、モデル作業オーダーをPMスケジュールに添付できます。モデル作業オーダーにより、保守作業に必要な標準指示(作業工程指示)と部品リストが提供されます。

予防保全

工場および設備管理システムの予防保全機能を使用すると、予防保全(PM)スケジュールを作成し、導入済製品の保守スケジュールを設定できます。たとえば、PMスケジュールを使用して、設備マスターの設備に対して保証サービスおよび定期的な保守作業のスケジュールを設定できます。PMスケジュールの作成およびトラッキングに必要な機能は、「設備マスターの改訂」フォームまたは「設備マスターの処理」フォームから直接アクセスできます。

PMスケジュールにより、設備マスターの各製品の保守作業の種類と頻度を定義します。予防保全サイクルは、定義から完了までの保守作業を構成する処理手順を表しています。予防保全作業の大半は、日付、距離、サイクルなどのサービス間隔で実行されるため、予防保全サイクルはこの間隔で繰り返し実行されます。また、PMスケジュールにより、各保守作業を最後に実行した時間がわかります。

設備に割り当てる保守作業ごとに、モデル作業オーダーをPMスケジュールに添付できます。モデル作業オーダーにより、保守作業に必要な標準指示(作業工程指示)と部品リストが提供されます。

サービス・タイプのリンク

設備マスターの設備ごとに、関連するサービス・タイプと基本サービス・タイプをリンクできます。基本サービス・タイプの実行スケジュールを設定すると、保守の規定パーセントに近いサービス・タイプがリンクされているかどうか確認されます。規定パーセントは、90%のように定義します。該当するサービス・タイプがリンクされていると、そのタイプのスケジュールが基本サービス・タイプとともに設定されます。サービス・タイプをリンクすると、設備のダウンタイムを短縮し、不要な保守作業の実施を回避できます。

顧客参照レポートについて

顧客のサイトに導入している設備に関するレポートを印刷して確認できます。このレポートは、製品のリコールまたは改良時に製造業者に送付できます。

状態、モデルおよびユーザー定義コードなどのデータを選択して、取得および表示する情報を指定できます。

このレポートの情報は次のテーブルから取得されます。

- 固定資産マスター・ファイル(F1201)
- 設備マスター拡張(F1217)
- 住所録マスター(F0101)

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 次のUDCを設定します。
 - 予防保全サービス・タイプ(12/ST)
 - 予防保全状況(12/MS)
- 予防保全の標準手順を設定します。
- 保守規則を設定します。

導入済設備の保守スケジュールの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
設備予防保全スケジュールの処理	W1207A	「設備マスター日次処理」メニュー(G1711)、「設備マスター入力」 「設備マスターの処理」フォームで保守スケジュールを設定するレコードを選択します。「ロー」メニューから「設備マスター」を選択して、「予防保全スケジュール」を選択します。	設備レコードの保守作業を検索します。
設備予防保全スケジュール	W1207B	「設備予防保全スケジュールの処理」フォームで「検索」をクリックして、設備に定義されているすべての保守作業を表示します。 「追加」をクリックして、新しい作業の保守スケジュールを設定します。	導入済設備に対する保守スケジュールを作成します。
予防保全分類	W1207F	「設備予防保全スケジュール」フォームの「フォーム」メニューから「予防保全分類」を選択します。	優先度およびダウンタイムなどの保守情報を分類します。
使用可能なバージョン	W98305WA	「設備マスター処理」メニュー(G1711)、「顧客参照レポート」	顧客参照レポートを確認します。

導入済設備に対する保守スケジュールの作成

「設備予防保全スケジュール」フォームにアクセスします。

サービス・タイプ

UDC 12/ST(サービス・タイプ)から、実行する予防保全サービスの値を入力します。たとえば、クラッチ調整は「CLUTCH」、オイル交換は「OIL」、10時間サービスは「10H」です。

「設備予防保全スケジュール」フォーム: スケジュール間隔

日数およびスケジュール日付に基づいてサービス間隔を入力できます。「頻度」フィールドに値を入力すると、サービス間隔を日数で指定できません。

スケジュール日付がなく、間隔も設定されていない保守作業には、サービス・タイプを入力できます。ただし、スケジュールが設定されていない保守作業のサービス・タイプにはモデル作業オーダーの番号が必要です。

時間数

スケジュール日付を入力していないサービス・タイプに、保守スケジュールを実行する前に要する時間を入力します。保守が必要かどうか判断するために、予防保全スケジュール状況の更新プログラムは、この数量と保守規則テーブルの規定パーセントを使用します。サービスに要する時間と保守を最後に実行した時点での時間数から合計時間が計算されます。次に、この値とAT00 AAIのAA元帳の実時間が比較され、保守の必要性が判断されます。

注意: 時間は統計単位の一例です。組織の要件に合わせて他の統計単位をAT00 AAIに定義できます。

距離

スケジュール日付を入力していないサービス・タイプに、保守スケジュールを実行する前に要する距離数を入力します。保守が必要かどうか判断するために、予防保全スケジュール状況の更新プログラム(R12807)は、この数量と保守規則テーブル(F1393)の規定パーセントを使用します。たとえば、保守を最後に実行した時点での距離数とサービスに要する距離から合計距離数が計算されます。次に、この値とFMB AAIのAA元帳の実距離数が比較され、保守の必要性が判断されます。

注意: 組織の要件に合わせて他の統計単位をFMB AAIに定義できます。

燃料

スケジュール日付を入力していないサービス・タイプに、保守スケジュールを実行する前に要する燃料を入力します。保守が必要かどうか判断するために、予防保全スケジュール状況の更新プログラム(R12807)は、この数量と保守規則テーブル(F1393)の規定パーセントを使用します。たとえば、保守を最後に実行した時点での燃料とサービスで使用した燃料から合計燃料が計算されます。次に、この値とFMA AAIのAA元帳の実時間が比較され、保守の必要性が判断されます。

注意: 組織の要件に合わせて他の統計単位をFMA AAIに定義できます。

日数

スケジュール日付を入力していないサービス・タイプに、保守スケジュールを実行する前に要する日数を入力します。

サービスに要する日数とスケジュール日付に基づいてサービス間隔を入力できます。日数とスケジュールの両方を入力すると、スケジュール日付に基づいて保守のスケジュールが設定されます。

以降の保守スケジュールの日付は、最後に実施された日付とサービス間隔から計算されます。

スケジュール日付

サービス・タイプごとに、資産に関する通知メッセージを受信する日付を入力します。

これは、スケジュールが設定された保守作業を実施する将来の日付です。サービスの日付とスケジュール日付に基づいてサービス間隔を入力でき

ます。日数とスケジュールの両方を入力すると、指定したスケジュール日付に基づいて保守のスケジュールが設定されます。

以降の保守スケジュールの日付は、最後に実施された日付とサービス間隔から計算されます。

頻度

サービス・タイプごとに、サービス・タイプの頻度を入力します。スケジュール日付とともに使用すると、このフィールドは保守の頻度を表します。保守が完了すると、このフィールドに入力した値に従って、次の保守スケジュールを自動的に設定します。値は次のとおりです。

ブランク: 頻度なし

- 1: 毎月同じ日に実施
- 2: 毎月最終日に実施
- 3: 四半期ごとに同じ日に実施
- 4: 毎年同じ日に実施
- 5: 毎週同じ曜日に実施
- 6: 半年に一度 (6か月ごとに同じ日)

複数サイクルWO (複数作業オーダー・コード)

サービス・タイプごとに、コードを入力します。これにより、スケジュールが再設定される保守サービス・タイプが判別されます。このサービス・タイプには、最初に予定された保守作業が完了する前に保守が実施されます。値は次のとおりです。

ブランク: 1サイクル (デフォルト)。最初の保守作業が完了するまで保守作業のスケジュールは再設定されません。

1: 複数の作業オーダーに対して複数サイクル。予定日になると、最初の保守作業が完了しているかどうかにかかわらず、スケジュールが自動的に再設定されます。複数の作業オーダーが発生する場合があります。

2: 複数サイクル。予定日になると、最初の保守作業が完了しているかどうかにかかわらず、スケジュールが自動的に再設定されます。1つの作業オーダーしか発生しません。

3: メンテナンス・ループ予防保守スケジュールの更新プログラムは、メンテナンス・ループで生成されたPMスケジュールにメンテナンス・ループ・コードを割り当てます。このPMスケジュールは、PMサイクルで繰り返しません。メンテナンス・ループのすべての設備に対する保守作業は、単一の作業オーダーで実行されます。

4: 保証。設備が保証対象であることを示すコードです。「作業オーダー在庫出庫」フォームと「購買要求」フォーム (「作業オーダー部品リスト」からアクセスした場合) に警告が表示されます。

保証サービス・タイプを含むPMが完了すると、PM履歴レコードに保証サービスが追加されますが、保証サービス・タイプのスケジュールは再設定されません。

「設備予防保全スケジュール」フォーム: 状態監視保全

警告レベルを確認できます。

警告レベル

JD Edwards EnterpriseOne状態監視保全システムを使用している場合に保守警告レベルを表示します。

「設備予防保全スケジュール」フォーム: 前回の予防保全

設備の保守作業が完了しても、この作業が設備に最初の予防保全になる場合には、次のフィールドに値を入力します。

時間数	前回の保守に要した時間数を入力します。
距離	前回の保守に要した距離を入力します。
燃料	前回の保守に要した燃料を入力します。
日付	前回の保守の日付を入力します。

「設備予防保全スケジュール」フォーム: 予防保全の生成/計画

予防保全の生成/計画に使用する情報を指定します。

モデル作業オーダー	<p>モデル作業オーダーを使用している場合に、当初伝票を識別する番号を入力します。当初伝票には、仕入先請求書、受注オーダー、請求書、仮受金、仕訳などの種類があります。</p> <p>「手順」フィールドの値とモデル作業オーダー番号を入力すると、警告メッセージが表示され、作業オーダーに固有の手順があり、入力された手順と矛盾する可能性があることが通知されます。</p>
手順	UDC 48/SN(レコード送信)から作業手順を表す値を入力します。
保全頻度	<p>サービス・タイプに予想される年間の発生回数を入力します。予防保全計画プログラムは、このフィールドの情報と最後に完了した日付から今後のスケジュール要件を計画します。</p> <p>処理オプションを使用すると、次の情報に基づいて予想発生回数が自動的に計算されます。</p> <p>1年間の予防保全履歴</p> <p>2年間の予防保全履歴</p> <p>開始日から現在までの予防保全履歴</p> <p>処理オプションを使用して予想される発生回数を計算すると、このフィールドを手動で更新できなくなります。</p>

「予防保全分類」フォーム

「設備予防保全スケジュール」フォームで該当するフィールドに値を入力したら、「OK」をクリックしてレコードを追加します。次に、「取消」をクリックします。

「設備予防保全スケジュールの処理」フォームで「検索」をクリックして、作成したPMスケジュールのレコードを表示します。作成したPMスケジュールのレコードを選択して、「選択」をクリックします。

「設備予防保全スケジュール」フォームの「フォーム」メニューから「PM分類」を選択します。

「予防保全分類」フォームでオプション・フィールドに値を入力し、「OK」をクリックします。

保全順位	すべての保守作業の中でのこの保守作業の優先順位を示すコードを入力します。
ダウンタイム	保守作業による設備のダウンタイムの予想時間を入力します。

ビジネスユニット	サービス・タイプに主に関係する計画グループ(ビジネスユニット)を入力します。
PMカテゴリ・コード1	UDC 13/P1 (PMカテゴリ・コード1) から、PMスケジュールを分類する値を入力します。

設備予防保全スケジュール・プログラム(P1207)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、設備予防保全スケジュール・プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、予想発生回数の計算方法を指定します。

- | | |
|------------|--|
| 1. 頻度の見積計算 | 予防保全の予想発生回数の計算に使用する期間を指定します。値は次のとおりです。
空白: 予測を計算しない
1: 1年間の予防保全履歴
2: 2年間の予防保全履歴
3: 開始日から現在の日付までの予防保全履歴 |
|------------|--|

バージョン

作業オーダーの改訂プログラムのバージョンを指定します。

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 作業オーダー(P17714)のバージョン | この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0003が使用されます。 |
|-------------------------|--|

顧客参照レポートの確認

顧客参照レポートを実行するには、「設備マスター日次処理」メニュー(G1711)の「顧客参照レポート」にアクセスします。

第 5 章

契約の管理

この章では、契約の概要と次の方法について説明します。

- 契約の設定
- 契約の管理
- 契約に対する請求
- 収益期間配分プロセスの処理
- 契約の印刷
- 契約レポートの確認

契約について

この項では、共通フィールドと契約タイプについて説明します。

この章で使用する共通フィールド

契約管理に関する次の用語および概念について理解する必要があります。

収益期間配分

サービス契約では、長期収益を短期収益に分配し、短期収益を認識収益に分配する方法。長期収益は12か月を超える契約です。短期収益は12か月以内の契約です。認識収益は、契約の開始日から収益配分期間の終了日までの契約です。

基本保証

契約行に入力された契約が基本保証契約かどうかを入力します。

これは、特定の画面で「はい」または「いいえ」を表す1文字を入力する共通フィールドです。

設備に関連付けられた保証で、通常、設備の購買価格に含まれています。

一括契約

契約行に入力された契約が一括契約かどうかを入力します。

指定価格で、すべての品目を対象とする契約。価格設定は通常、明細行ではなく契約に基づいて行われます。

契約適用範囲

サービス契約の場合、週の日数と1日の時間数。たとえば、5 × 8は、設備の契約適用範囲が週5日（月曜日から金曜日まで）、1日8時間であることを意味します。

保証グループ

保証グループを表すユーザー定義コードを入力します。保証グループは、制限のない原価コードおよび原価コードごとの補償%で構成されています。

**保証内G/Lコード（保証内
総勘定元帳コード）**

仕入先契約の場合、対象となる部品および労務（旅費などの経費も含む）の比率となります。仕入先契約では、部品の修理または交換を行った場合、仕入先が製造業者に作業で使用了部品と労務費の50%を返金する場合があります。

会計取引の（保証または契約で）保証内部分の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、ユーザー定義コード(UDC)テーブル41/9（元帳転記カテゴリ）から入力します。相手勘定を指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ入力するか、このフィールドをブランクにします。このフィールドをブランクにすると、在庫の相手勘定が使用されます。

「保証内G/Lコード」フィールドと「保証外G/Lコード」フィールドは、作業オーダーおよびケースでこのタイプのサービスの請求または原価を記録するときに使用されます。このプロセスにより、保証内または保証外の原価と収益を異なる勘定科目に振り分けることができます。

拡張保証

顧客がオプションで購入できる保証で、基本保証期間後の設備性能の保証を対象とします。

無償契約

契約行に入力された契約が無償契約かどうかを示すコードを入力します。サービス契約の場合には、顧客に無料で発行された契約になります。

行タイプ

取引行の処理方法を制御するコードを入力します。これによって、一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、在庫管理など、連動して取引を処理するシステムが制御されます。また、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。次のコードがあります。

S: 在庫品目

J: 作業原価

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

W: 作業オーダー

**保証外G/Lコード（保証外
総勘定元帳コード）**

会計取引の保証外部分の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9（元帳転記カテゴリ）から入力します。相手勘定を指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ入力するか、このフィールドをブランクにします。このフィールドをブランクにすると、在庫の相手勘定が使用されます。

「保証内G/Lコード」フィールドと「保証外G/Lコード」フィールドは、作業オーダーおよびケースでこのタイプのサービスの請求または原価を記録するときに使用されます。このプロセスにより、保証内または保証外の原価と収益を異なる勘定科目に振り分けることができます。

予防保全契約

サービス契約の場合には、定期的な設備保守が完了した時点で使用される契約です。

サービス・タイプ

実行するサービスのタイプです。たとえば、オンサイトでの修理とデポ修理を区別するために、異なるコードを設定できます。

UDC 00/TY（作業オーダー/ECOタイプ）から、作業オーダーまたは設計変更オーダー（ECO）のタイプを示す値を入力します。

作業オーダー承認の選択基準として作業オーダー・タイプを使用できます。

契約タイプ

契約管理では、次の契約タイプを記録および管理できます。

- サービス契約
- 仕入先契約

サービス契約は顧客とサービス業者（請負業者）の間の書面による契約です。顧客はサービスを要求します。請負業者は、契約に基づいて提供したサービスの対価を顧客に請求します。別のサービスを追加するために、契約を変更することができます。サービス・パッケージは、契約の概要として会社が顧客に提供するサービスを定義するときに使用します。

仕入先契約は製造業者と仕入先間の書面による契約です。この契約は請求のない契約で、終了日付は必要ありません。仕入先契約は、仕入先から購入する部品の保証範囲と製造業者が製造販売した製品の保証範囲を表します。部品に欠陥があり、製造業者が部品を修理または交換した場合、製造業者は仕入先に部品を返品し、払戻金を受けることができます。

サービス契約の場合、次の価格設定を弾力的に行うことができます。

- 価格管理
- 割引
- 価格変更

固定情報の設定

この項では、契約設定の概要と、次の方法について説明します。

- 固定情報の設定
- サービス行タイプの設定
- 請求頻度の設定
- 税率の設定
- 税率/税域プログラム (P4008) の処理オプションの設定
- 夏時間規則の設定
- 契約適用範囲情報の入力
- 契約保証範囲の処理プログラム (P1724) の処理オプションの設定
- サービス・タイプ情報の入力
- 原価タイプ・パーセントの設定
- サービス・パッケージ情報の入力
- 資格日付の設定
- 契約期間範囲の設定
- 契約更新での差込印刷文書の設定

固定情報の設定について

契約管理システムの機能を使用する前に、契約管理に必要な情報を定義する必要があります。また、データ入力時に使用する情報を指定し、契約管理のUDCを設定する必要があります。

行タイプ

入力する契約には、契約に入れるサービスの明細が必要です。各サービスに対して、契約を記述する明細行を入力する必要があります。明細行はその行タイプに基づいて処理されます。明細行の行タイプにより行が処理されるサイクルも確定されます。

契約適用範囲

契約適用範囲情報では、週の日数および1日の時間数を定義できます。たとえば、5 × 8は、設備の契約適用範囲が週5日（月曜日から金曜日まで）、1日8時間であることを意味します。

作業日カレンダーと契約適用範囲情報を使用すると、契約適用範囲の日数を表示する契約を作成できます。たとえば、土、日、祝日を除く月曜日から金曜日までの契約を設定できます。

サービス・タイプ

顧客にサービス代金を請求するには、サービス・タイプを設定する必要があります。サービス・タイプにより、実行するサービスを定義できます。たとえば、オンサイトでの修理と交換を区別するために、異なるコードを設定できます。また、デフォルトの価格設定方法（タイム・アンド・マテリアルまたは均一料金）を選択できます。

原価タイプ・パーセント

原価タイプ・パーセント・テーブルを設定して、範囲グループ内の各原価タイプが適用される比率を定義します。この全体の範囲グループがサービス・パッケージに適用されます。契約に基づきサービスが提供される作業オーダーおよびケースに対し、請求および原価計算を行うときに、この値が使用されます。作業オーダーとケースに請求および原価計算を実行すると、そのサービスを対象とする範囲グループ、請求または原価計算を行う品目タイプ（部品、労務、運賃など）に基づいて、この表からパーセントが取得されます。サービス・パッケージに範囲グループが指定されていない場合、契約に基づきサービスが提供されると、そのケースまたは作業オーダーは完全に適用範囲内にあるものとして処理されます。

サービス・パッケージ

サービス・パッケージ情報を入力して、契約の概要として会社が顧客に提供するサービスを定義します。サービス・パッケージでは、次の内容を指定できます。

- ・ オンサイトでの修理、交換、修理と返品、サポート、製品の設置などのサービスのタイプ。
- ・ 月曜日から金曜日までの1日8時間、1週間1日24時間などの契約の適用範囲。24時間を表すには、00:00:00から23:59:59までと指定します。
- ・ 修理時間。

設定するサービス・パッケージごとに、複数の契約適用範囲タイプとサービス・タイプを定義できます。

期間範囲

契約の期間範囲を使用して、契約の比例配分を行います。たとえば、上級価格設定で価格を設定するときに、次のように期間に12（12か月）を入力できます。

- ・ 請求期間開始日付 = 1
- ・ 請求期間終了日付 = 12
- ・ 請求期間 = 12

6か月の契約の場合、6は1から12までの期間範囲内とみなされます。上級価格設定から12か月の価格が取得され、その価格を12等分し、結果を6倍します。その結果、6か月契約の均等価格が計算されます。

契約更新書類の差込印刷ワークベンチ

契約満了日が近くなると、既存の契約情報を使用して顧客宛の更新書類を作成することができます。契約更新文書を設定するには、差込印刷ワークベンチを使用します。差込印刷ワークベンチは、JD Edwards EnterpriseOneのレコードを含むMicrosoft Word 6.0以上の文書に組み込まれたアプリケーションで、契約更新通知などのビジネス文書を自動的に印刷できます。差込印刷ワークベンチでは、契約更新書類に文章を追加したり、変更できます。また、新しい文書の作成や既存文書の削除もできます。

契約の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
S/WMシステム固定情報の改訂	W17001C	「サービス/ワランティ管理のセットアップ」(G1740)、 「サービス/ワランティ管理の固定情報」	固定情報を設定します。
行タイプ固定情報の改訂	W40205B	「契約の設定」(G1744)、 「行タイプの改訂」 「行タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	サービス行タイプを設定します。
サービス/ワランティ管理の行タイプの改訂	W1793B	「行タイプ固定情報の改訂」フォームで「フォーム」メニューの「サービス/ワランティ管理の行タイプ」を選択します。	サービス行タイプを設定します。
請求頻度コードの改訂	W15019B	「契約の設定」(G1744)、 「請求頻度コード」 「請求頻度コードの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	請求頻度を設定します。
税率/税域の処理	W4008A	「契約の設定」(G1744)、 「税率/税域」	税率および税域の検索と確認を行います。
税率/税域の改訂	W4008B	「税率/税域の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	税率を設定します。
使用可能なバージョン	W98305A	「税率/税域の処理」フォームで、「レポート」メニューの「税域レポート」を選択します。	税率を設定します。
夏時間規則の追加	W00085B	「契約の設定」(G1744)、 「夏時間規則」 「夏時間規則の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	夏時間規則を設定します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
契約保証範囲の改訂	W1724A	「契約の設定」(G1744)、 「契約適用範囲の入力」 「契約保証範囲の処理」 フォームで、「追加」をクリックします。	契約適用範囲情報を入力します。
契約サービスの改訂	W1725B	「契約の設定」(G1744)、 「サービス・タイプの入力」 「契約サービスの処理」 フォームで、「追加」をクリックします。	サービス・タイプ情報を入力します。
原価タイプ・パーセントの改訂	W1792A	「契約の設定」(G1744)、 「原価タイプ・パーセントの改訂」 「原価タイプ・パーセントの処理」 フォームで、「追加」をクリックします。	原価タイプ・パーセントを設定します。
契約サービス・パッケージの改訂	W1729C	「契約の設定」(G1744)、 「サービス・パッケージの入力」 「契約サービス・パッケージの処理」 フォームで、「追加」をクリックします。	サービス・パッケージ情報を入力します。
資格日付の処理	W1791B	「契約の設定」(G1744)、 「資格日付の改訂」	資格日付を設定します。
資格日付の改訂	W1791D	「資格日付の処理」フォーム で「追加」をクリックします。	資格日付を設定します。
資格規則順序	W1791A	「資格日付の処理」フォーム で、「フォーム」メニューから 「資格規則」を選択します。	資格日付を設定します。
契約期間範囲	W1726A	「契約の設定」(G1744)、 「契約期間範囲」	契約期間範囲を設定します。
差込印刷テンプレートの処理	W05WMMWBA	「契約の設定」(G1744)、 「差し込み印刷テンプレート」	契約更新での差込印刷文書を設定します。
Web差込印刷テンプレート詳細	W05WMMWBB	「契約の設定」(G1744)、 「差し込み印刷テンプレート」 「Web差込印刷テンプレートの処理」 フォームで、「追加」をクリックします。	契約更新での差込印刷文書を設定します。

契約固定情報の設定

システム全体のデフォルト情報を定義するには、システム固定情報を設定します。固定情報により、トラッキングする情報のタイプと特定の計算に使用される規則を定義します。

「S/WMシステム固定情報の改訂」フォームの「契約」タブにアクセスします。

サービス/ランティ管理の固定情報 - S/WMシステム固定情報の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

タブを選択: 4-契約

デフォルト

担当ビジネスユニットのロケーション 1 在庫(F4117/F41171)

固定情報

☒ 入力時に与信額を認識する

☐ 基本価格を使用する

☒ 担当BUがブランクの場合は契約BUを使用する

「S/WMシステム固定情報の改訂」フォーム: 「契約」タブ

入力時に与信額を認識する このオプションは、与信額を認識収益に移動する場合に選択します。このオプションを無効にすると、与信額は契約期間全体で認識されます。

基本価格を使用する このオプションは、このフォームでの契約の価格設定に基本価格を使用するかどうかを指定する場合に選択します。





担当BUがブランクの場合は契約BUを使用する このオプションは、このフォームの担当ビジネスユニットを取得する場所を指定する場合に選択します。「担当ビジネスユニットのロケーション」の固定情報にある場所で、担当ビジネスユニットがブランクの場合、このオプションが有効になっていると、契約から担当ビジネスユニットが取得されます。そうでない場合には、固定情報の場所から担当ビジネスユニットが使用されます。担当ビジネスユニットが固定情報の示す場所に設定されていない場合、エラー・メッセージが表示されます。

顧客サービス行タイプの設定

「行タイプ固定情報の改訂」フォームにアクセスします。

行タイプの改訂 - 行タイプ固定情報の改訂 i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

行タイプ ★

☒ 一般会計インターフェイス ☐ 在庫管理インターフェイス *在庫品目*

☒ 売掛管理インターフェイス *製造完成品*

☒ 買掛管理インターフェイス *課税対象外*

☒ サービス/ワランティ管理

☐ テキスト行

☐ 符号の反転

☒ 運賃の適用

☐ 留保金の適用

☐ 作業オーダーの生成

☐ 現金割引の適用

☐ 売上総利益に売上/売上原価を含める

☐ 伝票照合差異勘定

☐ 非在庫品用品目マスターの編集

☐ 受注オーダー価格の保護

☐ 購買オーダーの生成

☐ 資材出庫プログラムの呼出し

☐ 入荷確認必須

☐ 伝票で経費処理

☐ 請求対象外留保金

☐ 調達管理でサービス・ユニットを許可

「行タイプ固定情報の改訂」フォーム

相手勘定

取引の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9 (元帳転記カテゴリ) から入力します。クラス・コードを指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ(****)入力してください。「相手勘定」フィールドは必須ですが、サービス管理システムは入力された値を使用しません。

AAI (自動仕訳) を使用して、在庫管理、調達管理および受注管理の3システムに自動相手勘定のクラスを事前設定できます。次の3つの元帳クラス・コードを割り当てることができます。

IN20 直送オーダー

IN60 転送オーダー

IN80 在庫販売

1件の取引に基づいて仕訳レコードが作成されます。たとえば、在庫1品目を販売すると、次のような仕訳レコードが作成されます。

販売在庫 (借方) xxxxx.xx

売掛在庫販売（貸方） xxxxx.xx

転記カテゴリ: IN80

在庫品目（借方） xxxxx.xx

在庫売上原価（貸方） xxxxx.xx

クラス・コードと伝票タイプに基づいて、該当するAAIが検索されます。

サービス/ワランティ管理

このオーダー行が、オーダーに関連する4つの伝票の中で2番目の伝票に表示されるかどうかを指定するコードを入力します。表示される場合、この行タイプはサービス管理システムで利用されます。たとえば、場合によっては、必要な商品処分にに関する指示を示す入荷情報を購買オーダーに含める必要があります。この情報はオーダーの正しい処理にとって不可欠ですが、仕入先に送付される購買オーダーには表示されない必要があります。

「サービス/ワランティ管理の行タイプの改訂」フォームにアクセスします。

「契約」タブを選択します。

The screenshot shows a web-based form titled "行タイプの改訂 - サービス/ワランティ管理の行タイプの改訂". It has a toolbar with "OK(O)", "取消(C)", and "ツール(T)". Below the title bar, there's a section for "契約行タイプ" with a dropdown set to "BW" and the text "Base Warranty".

There are four tabs: "契約" (selected), "作業オーダー", "ケース", and "ユーザー定義処理".

The "契約明細行属性" (Contract Detail Line Attributes) section contains two columns of checkboxes:

- Column 1:
 - ☒ 基本保証
 - ☐ 一括契約
 - ☐ 無償契約
 - ☐ 有効な契約を必須にする
- Column 2:
 - ☒ 開始日付の修正を許可する
 - ☒ 終了日付の修正を許可する
 - ☒ 期間の修正を許可する
 - ☒ 行タイプの資格チェック

Below these are two rows for default dates:

- デフォルト開始日付: 2 (with a link "見出し開始日付")
- デフォルト終了日付: 2 (with a link "見出し終了日付")

The "デフォルト" (Default) section at the bottom has a dropdown for "担当ビジネスユニット" set to "S30" and the text "LM Service Center".

「サービス/ワランティ管理の行タイプの改訂」フォーム: 「契約」タブ

有効な契約を必須にする

新しい契約を追加する前に、その設備に有効な契約が必要であることを指定します。

開始日付の修正を許可する、終了日付の修正を許可する

契約明細行の開始日付または終了日付が入力後に修正可能であることを指定します。

期間の修正を許可する

契約明細行の請求期間および非請求期間が入力後に修正可能であることを指定します。

行タイプの資格チェック

資格チェックに行タイプを使用するかどうかを指定するコードを入力します。

デフォルト開始日付

「契約行開始日」フィールドのデフォルト値を取得する場所を示すハードコード化された値をUDC 17/L1(契約行開始日)から入力します。値は次のとおりです。

1: 最後の契約終了日(設備の場合) + 1

この設備の最新の契約を検索し、明細行の終了日に1日追加して、新しい開始日が計算されます。設備番号(シリアル、単位)に契約が見つからない場合、ユーザーが開始日を修正できないとエラーが発生します。

2: 契約見出しの開始日付

契約見出しの開始日付がデフォルト値として使用されます。

3: 基本保証契約の開始日

最初に有効になった基本保証(行タイプ)契約から明細行の開始日を取得し、この設備のデフォルト値に使用されます。設備番号(シリアル、単位)に有効な基本保証契約が見つからない場合、ユーザーが開始日を修正できないとエラーが発生します。

4: システム日付

システム日付がデフォルト値として使用されます。

5: なし

デフォルト値を使用しません。ユーザーが明細行の開始日付を入力する必要があります。

デフォルト終了日付

「契約行終了日」フィールドのデフォルト値を取得する場所を示すハードコード化された値をUDC 17/L2(契約行終了日)から入力します。

値は次のとおりです。

1: (「契約行開始日」フィールドの値) + (合計期間 [請求期間 + 非請求期間])

「契約行開始日」フィールドの値に請求期間と非請求期間を追加します。

2: 契約見出しの終了日付

契約見出しの終了日付がデフォルト値として使用されます。

3: 基本保証契約の終了日

有効な最新の基本保証(行タイプ)契約から明細行の終了日を取得し、この設備のデフォルト値に使用されます。設備番号(シリアル、単位)に有効な基本保証契約が見つからない場合、ユーザーが終了日を修正できないとエラーが発生します。

4: システム日付

システム日付がデフォルト値として使用されます。

5: なし

デフォルト値を使用しません。ユーザーが明細行の終了日付を入力する必要があります。

担当ビジネスユニット

契約のシステム固定情報を設定し、行タイプに基づいて担当ビジネスユニットを取得する場合には、このフィールドに値を入力します。

請求頻度の設定

契約管理モジュールは資産管理システムに統合され、請求頻度の設定を行います。このシステムでは、定期的に請求を行う期間を定義できます。

「請求頻度コードの改訂」フォームにアクセスします。

「請求頻度コードの改訂」フォーム

請求頻度コード

請求レコードの生成頻度を指定するコードを入力します。請求頻度マスター (F15019) に存在するコードを入力してください。

会計期間パターン

期間パターンを識別するためのコードを入力します。15のコードのいずれか1つを入力します。4-4-5の13期間会計用の特殊コード(文字AからN)、または、環境に固有の他の日付パターンを設定する必要があります。デフォルト・コードRは、通常のカレンダ・パターンを示します。

定期的

定期的なパターンを定義するには、「定期的」オプションを選択します。契約の入力では、52回の請求はできません。

顧客に対する請求方法に応じて、1から14までの期間を選択できます。

税率の設定







税率/税域を設定し、顧客の地理的な所在地に従って税額を正確に計算します。税率/税域を設定すると、税コードを顧客のマスター・レコードに適用できます。レポートを実行すると、設定済で顧客レコードに適用された税域をすべて確認できます。

「税率/税域の改訂」フォームにアクセスします。

税率/税域 - 税率/税域の改訂 i ?

税率/税域の処理 **税率/税域の改訂**

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

税率/税域 ★ 有効開始日付

記述 有効期限

納税先

住所No.	納税先	相手勘定	税率	
<input type="text" value="4020"/>	Denver City & County Tax	<input type="text" value="TXTX"/>	<input type="text" value="3.500"/>	
<input type="text" value="4010"/>	Colorado State Treasurer	<input type="text" value="TXTX"/>	<input type="text" value="3.800"/>	<input type="checkbox"/> 複合税
<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/> VAT費用
<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/> VAT費用
<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/> VAT費用
税合計			<input type="text" value="7.300"/>	

在庫購買/受注オーダー

品目No.	最高単位原価
<input type="text"/>	<input type="text"/>

「税率/税域の改訂」フォーム

税率/税域

地域の税額の計算に使用されるコードを入力します。このコードは、共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を表します。入力したコードは、税域テーブル(F4008)に対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。

有効開始日付

取引、契約、義務、優先情報、ポリシー規則が有効になる日付を入力します。

有効期限

取引、契約、制約、優先情報、ポリシー規則が終了する日付を入力します。

納税先

この地域の納税先の住所番号を入力します。この納税先に消費税、使用税またはVATを申告および納税します。たとえば、都道府県、市町村、地区などを入力します。また、1つの税域に最大5つまでの納税先を指定できます。

最大5つの納税先を入力できます。

相手勘定

元帳入力の税科目を検索する方法を示すコードを入力します。このフィールドは、税科目を示すAAIを示します。

次に例を示します。

買掛管理の場合はPTyyyy (VATのみ)

売掛管理の場合はRTyyyy (VATのみ)

一般会計の場合はGTyyyy (VATのみ)

受注オーダーの場合は4320

購買オーダーの場合は4400および4410

VATおよびカナダGSTを設定する場合、使用できる値はPTyyyy、RTyyyy、GTyyyyのみです。買掛管理システムで、税の設定にVATと使用税(税目コードB)が関連する場合は、2つ目の相手勘定(PT_...)が必要です。設定の使用税部分を指定するには、AAI PT_...を使用します。

消費税の場合、買掛管理および売掛管理システムでこのフィールドの値は無視されます。ただし、受注管理システムと調達管理システムでは、このフィールドの値が必要です。

税率1

その地域の税率を入力します。この値は、税域に基づいて課税される税率または該当する納税先に支払う税率を表します。

税率のパーセントは整数で入力し、小数に換算した値では入力しません。たとえば、7%に設定するには、「.07」ではなく「7」と入力します。

複合税

カナダの会社の場合、このオプションをクリックすると、GSTが製品値に追加された後にPST税が計算されます。

たとえば、GSTが7%、PSTが8%の税域があるとします。ここで、税計算のオプションを選択したとします。課税対象が1000CADの伝票を入力すると、GSTが70CADとして計算されます。この値は課税対象額に加算され、その結果(1070CAD)にPSTが掛けられます。複合税を使用しない場合、課税対象額のみに対してPSTが計算されます。

注意: このオプションは、BまたはCで始まる税目コードにのみ有効です。税目コードVの複合税を計算するには、税目コードV+を使用してください。

このコードは、2番目の納税先にのみ適用されます(このフォームの2行目)。また、GST以外の納税先を確認する必要があります。

VAT費用

カナダの会社の場合、このオプションを選択すると、未還付のVATのパーセントを計算できます。このオプションの左側にある「税率」フィールドに未還付の割合を入力します。指定したパーセントが課税対象額に掛けられ、最初の納税先の還付可能VAT金額が引かれます。

注意: このオプションは、税目コードがC、BまたはVで始まる場合に有効です。

このコードは、3番目、4番目または5番目の納税先にのみ有効です(3から5)。

品目No.

在庫および受注オーダー情報に税率を適用する品目番号または品目グループを入力します。

品目グループの有効値は3から8です。

品目グループに値を指定した場合、品目番号の検証を行うように処理オプションを選択する必要があります。この処理オプションは「編集」タブにあり、0(オフ)に設定します。この処理オプションを正しく設定しないと、品目グループ番号が実際の品目番号として検証されます。

最高単位原価

品目の最高課税額を指定する数値入力します。品目の単位原価がこのフィールドに指定した金額よりも大きい場合には、最高単位原価が使用されます。

注意: このフィールドは、販売および購入目的で使用されます。このフィールドは、テネシー州の税処理では必須です。

税レポートを実行するには、「税率/税域の処理」フォームで、「レポート」メニューの「税域レポート」を選択します。

「バッチ・バージョンの処理」で印刷するバージョンを選択し、「選択」をクリックします。

税率/税域プログラム(P4008)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、税率/税域プログラムのデフォルト値を設定します。

表示

この処理オプションでは、特定のフィールドが表示されるかどうかを指定します。

品目番号と最高単位原価のフィールドを表示するかどうかを指定してください。

「品目番号」フィールドと「最高単位原価」フィールドの表示または非表示を指定します。値は次のとおりです。

1: 表示します。

0: 非表示にします。

検証

この処理オプションでは、品目番号の検証を行うかどうかを指定します。

品目番号を検証するかどうかを指定してください。

品目番号を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

1: 検証します。

0: 検証しません。

夏時間規則の設定

夏時間規則を設定して、夏時間規則に切り替える時期を定義します。次の基準を使用します。

- 月
- 曜日
- 時間

標準時間帯で使用する夏時間規則の設定に従って計算が実行されます。夏時間規則の開始日付と終了日付を定義します。たとえば、4月の第1日曜日の午前2時、のように設定します。

「夏時間規則の追加」フォームにアクセスします。

規則名

夏時間規則を表す固有の名前を入力します。夏時間規則は、地理的および政治的な場所の時間を調整するときに使用します。

曜日インスタンス別

このオプションは、夏時間規則の判別に使用する手段を指定する場合に選択します。

「曜日インスタンス別」では、夏時間は、たとえば4月の第1日曜日から10月の第1日曜日までのように、特定の月の特定の曜日に開始し、終了します。

日付別

このオプションは、夏時間規則の判別に使用する手段を指定する場合に選択します。

「日付別」では、夏時間は、たとえば、4月3日から10月10日までのように、特定の月の特定の日付に開始し、終了します。

契約適用範囲の入力

「契約保証範囲の改訂」フォームにアクセスします。

契約適用範囲の入力 - 契約保証範囲の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

適用範囲タイプ ★ 記述 ★

保証範囲 カテゴリ・コード

時間帯 規則名

保証範囲時間

	日	月	火	水	木	金	土	祝日
開始時刻	<input type="text" value="00:00:00"/>	<input type="text" value="00:00:00"/>	<input type="text" value="00:00:00"/>	<input type="text" value="00:00:00"/>	<input type="text" value="00:00:00"/>	<input type="text" value="00:00:00"/>	<input type="text" value="00:00:00"/>	<input type="text" value="00:00:00"/>
終了時刻	<input type="text" value="23:59:59"/>	<input type="text" value="23:59:59"/>	<input type="text" value="23:59:59"/>	<input type="text" value="23:59:59"/>	<input type="text" value="23:59:59"/>	<input type="text" value="23:59:59"/>	<input type="text" value="23:59:59"/>	<input type="text" value="23:59:59"/>

「契約保証範囲の改訂」フォーム

適用範囲の開始時刻と終了時刻を入力します。適用範囲には平日と休日が含まれます。

適用範囲タイプ

適用範囲のタイプを入力します。

規則名

夏時間規則を表す固有の名前を入力します。夏時間規則は、地理的および政治的な場所の時間を調整するときに使用します。

契約保証範囲の処理プログラム(P1724)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、契約保証範囲の処理プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

契約適用範囲の開始時刻と終了時刻を指定します。

1. 適用開始デフォルト時刻 (平日)、2. 適用終了デフォルト時刻 (平日)

月曜日から金曜日までのサービス契約に対して適用範囲の開始時刻または終了時刻を指定します。

3. 適用開始デフォルト時刻 (土、日、祝日)、4. 適用終了デフォルト時刻 (土、日、祝日)

土曜日、日曜日、祝日のサービス契約に対して適用範囲の終了時間を指定します。

5. 標準時間帯

デフォルトの標準時間帯を指定します。

サービス・タイプ情報の入力

「契約サービスの改訂」フォームにアクセスします。

「契約サービスの改訂」フォーム

均一料金、タイム・アンド・マテリアル

このオプションをクリックして、サービス・タイプが均一料金と実際のタイム・アンド・マテリアルのどちらに基づいて価格設定されるのかを指定します。値は次のとおりです。

F: 労務費は均一料金に基づいています。部品代は均一料金にすでに含まれています。

T: 労務費は実労務時間に基づいています。部品代は実際に使用した部品に基づいています。

ブランク: サービス業者に価格設定方法を定義した場合にのみ有効です。この値は、サービス業者が内部のサービス業者であり、支払が発生しないことを示すために使用されます。

時間数しきい値

時間を表す値を入力します。ケースまたは作業オーダーの場合、時間数しきい値と時刻からコミット日時が計算されます。

たとえば、作業時間を8時から5時に設定し、時間数しきい値を2時間に設定したとします。4時に電話を受けた場合、その電話はその日の終了から2時間のしきい値の範囲で受けており、残り1時間でその日の作業時間が終了するため、その対応をその日中に完了する必要はありません。回答時間を計算するためのコミット時刻は、翌日の開始時から始まります。

原価タイプ・パーセントの設定

「原価タイプ・パーセントの改訂」フォームにアクセスします。

原価タイプ・パーセントの改訂 - 原価タイプ・パーセントの改訂		
OK(O) 取消(L) ツール(T)		
保証グループ	7525	75% 部品/25% 労務
原価タイプ	A1	原材料費
補償%	75.00	

「原価タイプ・パーセントの改訂」フォーム

原価タイプ

品目の原価要素を指定するコードを入力します。コスト・オブジェクト・タイプの例は次のとおりです。

- A1: 購買原材料
- B1: 作業工程直接労務費積上げ
- B2: 作業工程段取労務費積上げ
- C1: 作業工程変動間接費積上げ
- C2: 作業工程固定間接費積上げ
- Dx: 作業工程外注費積上げ
- Xx: 光熱費や水道代などの追加費用

通常、その他費用の計算にはタイプXx(追加間接費)を使用します。この原価構造により、原価要素を必要なだけ使用して別の原価積上げを計算できます。この原価要素は、ユーザー定義の6つの集計原価バケットのうちの1つと関連付けられます。

作業オーダーは、原価タイプと範囲グループを関連付けます。

補償%

保証または契約下での補償率を入力します。この値は、サービス・オーダーまたはコールで処理される行品目の請求額または原価を計算する場合に使用されます。

サービス・パッケージ情報の入力

「契約サービス・パッケージの改訂」フォームにアクセスします。

サービス・パッケージの入力 - 契約サービス・パッケージの改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

サービス・パッケージ * BASE Base Warranty

元帳クラス プランクGL転記カテゴリ

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

	サービス * タイプ	サービスタイプ 記述	適用範囲 * タイプ	保証範囲タイプ 記述	回答 * 時間	保証 グループ
<input type="radio"/>	W	ケース	5X8	5 days/8 hours	2.00	
<input type="radio"/>	X	デモ修理	5X8	5 days/8 hours	4.00	10050
<input checked="" type="radio"/>	Y	現場修理	5X8	5 days/8 hours	24.00	
<input type="radio"/>	Z	上級交換	5X8	5 days/8 hours	.00	
<input type="radio"/>						

「契約サービス・パッケージの改訂」フォーム

サービス・タイプ

UDC 00/TY (作業オーダー/ECOタイプ) から、作業オーダーまたは設計変更オーダー (ECO) のタイプを示す値を入力します。

作業オーダー承認の選択基準として作業オーダー・タイプを使用できます。

適用範囲タイプ

契約適用範囲のタイプを入力します。これにより、適用範囲の日数と時間が決まります。

回答時間

サービス業者がケースまたは作業オーダーを記録した時間から、サービス契約で定義されたサービスが完了するまでの保証時間を入力します。この時間単位は、サービス契約のサービス・テーブル (F1725) のサービス・タイプに関連します。回答時間は時間単位で入力します。

「回答時間」フィールドの値が開始日時に追加されコミット時間が作成されます。コミット時間は顧客に回答するまでに必要な時間で、時間と分で表示されます。コミット日時は、ケース・プログラムで計算されたあらゆる日付と時間を一時変更します。

元帳クラス

取引の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9 (元帳転記カテゴリ) から入力します。クラス・コードを指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ (****) 入力してください。

AAIを使用して、在庫管理、調達管理および受注管理の3システムに自動相手勘定のクラスを事前設定できます。次の3つの元帳クラス・コードを割り当てることができます。

IN20直送オーダー

IN60転送オーダー

IN80在庫販売

1件の取引に基づいて仕訳レコードが作成されます。たとえば、在庫1品目を販売すると、次のような仕訳レコードが作成されます。

販売在庫 (借方) xxxxx.xx

売掛在庫販売 (貸方) xxxxx.xx

転記カテゴリ: IN80

在庫品目 (借方) xxxxx.xx

在庫売上原価 (貸方) xxxxx.xx

クラス・コードと伝票タイプに基づいて、該当するAAIが検索されます。
このフィールドをblankにすると、契約請求時に在庫品目番号の元帳コードが使用されます。このフィールドは、契約の請求時にのみ使用します。

資格日付の設定

「資格日付の改訂」フォームにアクセスします。

資格日付を設定して、資格のある取引の検証を開始する日付を指定します。その日付より前の取引は資格があるとみなされます。

資格日付は次の組合せで入力または更新できます。

- 製品ファミリ
- 製品モデル
- 在庫品目番号
- 事業所
- 顧客番号
- 国

資格日付を設定するには、次の手順を実行します。

1. 次のフィールドに値を入力して、「OK」をクリックします。
 - 顧客No.
 - 国
 - 事業所
 - 在庫品目No.
 - 製品モデル
 - 製品ファミリ
 - 資格開始日付
2. 指定した規則に基づいて日付が検索されます。この規則を確認または改訂するには、「資格日付の処理」の「フォーム」メニューから「資格規則」を選択します。
3. 資格規則順序で日付を検索する順序を定義します。検索は最も詳細なものから一般的なものへ順番に進められます。各フィールドの項目を階層型検索に組み込む場合はY、組み込まない場合はNを入力します。
 - 順序番号
 - 顧客番号
 - 国
 - 事業所
 - 在庫品目番号
 - 製品モデル
 - 製品ファミリ

- 国

国を識別する値をUDC 00/CNSY(国コード)から入力します。国コードは、通貨換算には影響しません。
- 住所録システムでのデータ選択および住所形式の設定に、この国コードが使用されます。
- 資格開始日付

住所、品目、取引、またはテーブル・レコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。
- たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。
- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

契約期間範囲の設定

「契約期間範囲」フォームにアクセスします。

契約期間範囲 - 契約期間範囲

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

保存

検索

削除

取消

ツール

レコード 1-3

グリッドのカスタマイズ

	請求期間 * 開始	請求期間 * 終了	請求 * 期間
<input type="radio"/>	.01	12.00	12.00
<input checked="" type="radio"/>	12.01	24.00	24.00
<input type="radio"/>			

「契約期間範囲」フォーム

注意: 期間内に中断のある日付は入力しないでください。フォームの最初のローは.01から12.00までです。2番目のローは12.01から24.00までです。

- 請求期間開始

請求期間範囲を契約請求期間範囲表に指定するときの請求期間の開始日付。
- 請求期間終了

請求期間範囲を契約請求期間範囲表に指定するときの請求期間の終了日付。
- 請求期間

請求期間範囲を契約請求期間表に指定するときに価格管理で使用される請求期間。

契約更新の差し込み文書の設定

「Web差込印刷テンプレート詳細」フォームにアクセスします。

差し込み印刷テンプレート - Web差し込み印刷テンプレート 詳細

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

テンプレート名 *

記述 *

データ構造体 * *Write Contract Renewal Letter*

住所録フィールド * *ソート・キー* ☒ ソート・キーの使用

出力待ち行列 * *\\denmlps11\6080Export\MailMerge*

区切り文字の開始 * *無効な文字: % < >

区切り文字の終了 *

文書保管場所

「Web差し込み印刷テンプレート詳細」フォーム

差し込み印刷では、テンプレートを使用して差し込み文書で使用するフィールドを特定します。文書のデータ構造体によって使用できるフィールドが異なります。

契約更新の差し込み印刷テンプレートを設定するには、次の手順を実行します。

1. 次のフィールドに入力します。

- テンプレート名
- データ構造体名

注意: この環境にデータ構造体が存在しない場合には、フォーム・エグジットを使用してデータ構造体生成する必要があります。この機能により、JD Edwards EnterpriseOneからこの環境にデータ構造体生成されます。

- 住所録フィールド
 - ソート・キーの使用
 - 出力待ち行列
 - 区切り文字の開始
 - 区切り文字の終了
2. 開始区切り文字および終了区切り文字をデフォルト値に戻すには、「デフォルト区切り文字の設定」ボタンをクリックします。

注意: 出力待ち行列の場所が「文書保管場所」フィールドに表示されます。差し込み印刷文書を初めて追加するときには、ファイルが存在しないというメッセージが表示されます。

3. 「フォーム」メニューの「文書ファイルの作成」を選択します。
テンプレートが作成されます。このテンプレートは確認できます。
4. 「取消」をクリックして、「テンプレート文書の編集」をクリックします。

Microsoft Wordのテンプレートが表示されます。差込印刷では、テンプレートを使用して差込文書で使用するフィールドを特定します。文書のデータ構造体によって使用できるフィールドが異なります。

5. 書類に入力します。使用する区切りフィールドを切り取って書類に貼り付けます。「szAlphaName」のように、区切り記号の付いた完全なフィールドを貼り付けてください。
6. 「ファイル」メニューから「保存」を選択します。テンプレートをWebページ(.htm)文書として保存し、テンプレートを閉じます。
7. 「フォーム」メニューから「文書ファイルの表示」を選択します。作成したテンプレートは確認および印刷できます。「取消」をクリックします。
8. 「Web差込印刷テンプレート詳細」フォームで「OK」をクリックします。

テンプレート名	差込印刷文書の名前を入力します。名前は、10文字以内にしてください。
データ構造体名	<p>契約更新書類の場合、データ構造体D1701010Aを使用します。このデータ構造体を使用しない場合には、差込印刷文書に使用するデータ構造体の名前を入力してください。データ構造体には、差込印刷文書で使用可能なすべてのフィールドが含まれています。</p> <hr/> <p>注意: この環境にデータ構造体が存在しない場合には、フォーム・エグジットを使用してデータ構造体を生成する必要があります。この機能により、JD Edwards EnterpriseOneからこの環境にデータ構造体が生成されます。</p> <hr/>
住所録フィールド	データ構造体内で住所録番号(AN8)のデータ品目が存在する場所を指定します。たとえば、住所録番号が差込印刷データ構造体の3番目のフィールドにある場合、このフィールドは3になります。このフィールドが0の場合、F980014Dレコードのソート・キー(MMSK)が電子メールと添付書類で使用されます。
ソート・キーの使用	このオプションを選択すると、住所録フィールドの値が0に設定され、電子メールと添付書類にF980014Dレコードのソート・キー(MMSK)が使用されます。
出力待ち行列	プログラムからアクセス可能なエンタープライズ・サーバー上のフォルダの名前を入力します。この場所に差込印刷文書が保存されます。
区切り文字の開始、区切り文字の終了	デフォルトの区切り文字を使用するか、区切り文字を変更します。
デフォルト区切り文字の設定	開始区切り文字と終了区切り文字をデフォルト値に戻す場合には、このボタンをクリックします。
文書保管場所	出力待ち行列の場所を表示します。差込印刷文書を初めて追加するときには、ファイルが存在しないというメッセージが表示されます。

注意: 新しい差込印刷文書を契約更新書類で使用する場合には、R1731処理オプションで新しい文書を指定する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Data Structure Design Guide

関連項目:

第 5 章、「契約の管理」、「契約更新書類プログラム(R1731)の処理オプションの設定」、135ページ

第 5 章、「契約の管理」、「契約更新書類の生成」、135ページ

契約の管理

この項では、契約管理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕入先契約の見出し情報の入力
- 仕入先契約の明細情報の入力
- サービス契約の見出し情報の入力
- サービス契約の明細情報の入力
- サービス契約情報の確認
- サービス契約の更新
- サービス契約のコピー
- 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションの設定
- 契約の処理プログラム (P1720) の処理オプションの設定
- サービス契約の資格規則順序の定義
- 仕入先契約の資格規則順序の定義
- サービス契約の資格情報の確認
- 仕入先契約の資格情報の確認
- 契約の解約
- 契約の停止
- 契約明細行の取消と停止
- 契約明細行の与信
- 契約の前払取引の作成
- 契約更新書類の生成
- 契約更新書類の確認
- 契約更新書類プログラム (R1731) の処理オプションの設定

契約管理について

契約管理プログラムでは、顧客および仕入先との契約を作成し、トラッキングできます。

サービス契約

サービス契約は顧客とサービス業者の間の書面による契約です。サービス契約では、契約期間またはサービス・パッケージが変更された場合、契約に対する請求が発生していなければ契約内容を変更できます。また、契約の日付をトラッキングし、更新者類や契約の準備に必要なリードタイムを指定できます。

サービス契約を入力するときに、サービス契約プログラムにアクセスします。サービス・パッケージ、品目番号、請求情報などの明細情報を入力できます。既存の契約をコピーまたは更新することもできます。

契約の見出しフォームまたは明細フォームでサービス契約を入力または更新できます。見出しフォームでは、明細フォームに表示する契約の明細行を選択できます。

サービス契約にはバージョン番号が関連付けられます。契約を更新すると、新しい契約が作成されるのではなく、既存の契約の新しいバージョンが作成されます。

注意: フィールドではなく、ローに情報を入力すると、デフォルト値が表示されます。

仕入先契約

仕入先契約は製造業者と仕入先の間の書面による契約です。仕入先契約は、請求のない契約で、更新不可能であり、終了日付は必要ありません。

仕入先契約を入力すると、仕入先番号、在庫品目番号、範囲グループなどの契約に関する明細を入力できます。また、既存の契約をコピーすることもできます。

契約の見出しフォームまたは明細フォームで仕入先を入力または更新できます。「仕入先契約の処理」フォームでは、明細フォームに表示する契約の明細行を選択できます。

資格

資格規則順序は、契約明細行に資格規則を割り当てる優先順位を定義します。階層により、契約と資格規則の対応を検索する順序が決まります。階層は、詳細なレベルから一般的なレベルまで設定します。最高のパフォーマンスを得るために、必要な順序だけを設定してください。

資格情報を確認して、契約の資格明細の変更時に必要な変更を行うことができます。

サービス契約の場合、このフォームを使用して、顧客が購入したサービス・パッケージに対する顧客の資格とエグジットを確認できます。たとえば、顧客が最高の特典付きサービス・パッケージでコンピュータを購入した場合、修理が必要なコンピュータを戻すのではなく、修理担当者呼んで修理を行わせることができます。

仕入先契約の場合、仕入先と製造業者の間の資格明細を確認できます。

支払のトラッキング

顧客による前払をトラッキングするには、前払処理を使用します。顧客は現金、小切手またはクレジット・カードで前払できます。顧客がサービス契約の支払を済ませている場合、その契約の代金が前払されたことが請求書に反映されます。

契約ごとに1つの支払タイプを設定できます。前払は1回かぎりの請求として設定する必要があります。請求の開始日付と終了時付けは同じ期間および年度内にする必要があります。

契約の解約、中止および更新

契約を間違えて設定した場合、あるいは顧客から品目の解約を要求された場合には、契約または個々の明細行を取り消す必要があります。また、一定期間、契約の履行を中断し、後で再度有効にする場合もあります。

サービス契約の有効期限が近くなったら、顧客宛に更新書類を生成できます。契約情報および処理オプションに従って、有効期限の近い顧客に対して自動的に書類が生成されます。

契約更新書類(R1731)で生成された書類は、“書類の表示”(P05WEBMM)で表示して印刷できます。

事前設定

サービス契約を入力する前に、次の操作を行う必要があります。

- 契約を作成する顧客の住所録レコードを作成します。
住所録に拡張テーブル(F1797)が作成され、追加のSWM住所録情報が保存されます。
- 仕入先契約およびサービス契約に使用する伝票タイプを設定します。

- 仕入先契約およびサービス契約に使用する行タイプを設定します。
- 顧客レコードに売掛金情報を追加します。
- 契約の価格設定を行うために、価格管理情報を設定します。

契約の前払取引を作成する前に、次の作業を行う必要があります。

- 支払手段UDC (00/PY)を設定します。
- 契約の改訂 (P1721) で前払処理オプションを設定します。

契約更新書類を生成する前に、差込印刷テンプレートを設定する必要があります。

契約の管理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先契約見出し	W17201B	「契約日次処理」(G1714)、 「仕入先契約入力」 「仕入先契約の処理」 フォームで「追加」をク リックします。	仕入先契約の見出し情報 を入力します。 「契約」フィールドの次にあ るフィールドに伝票タイプを 入力します。
仕入先契約の改訂	W17201C	「契約日次処理」(G1714)、 「仕入先契約詳細」 「仕入先契約の処理」フォー ムで契約を選択して、「選 択」をクリックします。	仕入先契約の明細情報を 入力します。
サービス契約見出し	W1721L	「契約日次処理」(G1714)、 「サービス契約入力」 「契約の処理」フォームで、 「追加」をクリックします。	サービス契約の見出し情 報を入力します。
契約の改訂	W1721A	「契約日次処理」(G1714)、 「サービス契約詳細」 「契約の処理」フォームで 契約を選択して、「選択」を クリックします。	サービス契約の明細情報 を入力します。
契約明細	W1721J	「契約の改訂」フォームで 契約を選択して、「ロー」 メニューの「詳細明細」 を選択します。	サービス契約情報を確認 します。
契約の処理	W1720A	「契約日次処理」(G1714)、 「サービス契約入力」 あるいは「契約日次処 理」(G1714)、「サービ ス契約詳細」	既存のサービス契約を検 索します。また、既存の契 約をコピーします。
契約資格規則の順序	W1720B	「契約の設定」(G1744)、 「資格日付の改訂」 「資格日付の処理」フォー ムで、「フォーム」メニューから 「資格規則」を選択します。	サービス契約の資格規則 順序を定義します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
仕入先資格の順序規則	W17201D	「契約日次処理」(G1714)、 「仕入先契約入力」 あるいは「契約日次処理」(G1714)、「仕入先契約詳細」 「仕入先契約の処理」フォームで、「フォーム」メニューから「規則順序」を選択します。	仕入先契約の資格規則順序を定義します。
資格照会の処理	W1723D	「契約日次処理」(G1714)、 「サービス資格照会」	サービス契約の資格情報を検索して確認します。
仕入先契約の処理	W17201A	「契約日次処理」(G1714)、 「仕入先資格照会」	仕入先契約の資格情報を検索して確認します。
契約の解約	W1721C	「契約の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「契約の解約」を選択します。	契約を解約します。
契約の停止	W1721B	「契約の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「契約の停止」を選択します。	契約を停止します。
契約行の取消/停止	W1721F	「契約の改訂」フォームで取り消すまたは停止するローを選択して、「ロー」メニューから「解約/停止」を選択します。	契約明細行の取消と停止を行います。
契約残行	W1721K	「契約の改訂」フォームで与信を行う明細行を選択して、「ロー」メニューから「与信限度額」を選択します。	契約明細行の与信を行います。
前払情報の入力	W004201B	「契約の改訂」フォームの「フォーム」メニューから「前払」を選択します。	契約の前払取引を作成します。
使用可能なバージョン	W98305WA	「契約定期処理」(G1724)、 「契約更新書類」	契約更新書類のバージョンを生成します。

仕入先契約見出し情報の入力

「仕入先契約見出し」フォームにアクセスします。

仕入先契約入力 - 仕入先契約見出し i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

契約
 バージョン
 ビジネスユニット

会社番号

契約見出し | カテゴリ・コード

記述
 開始日付

仕入先 *Appliance Parts and Supply*
 終了日付

契約タイプ *仕入先契約*
 取消日付

契約状況 *契約受諾*
 解約理由コード

「仕入先契約見出し」フォーム

契約タイプ 使用可能な契約のタイプを表す値をUDC 17/TY(契約タイプ)から入力します。

契約状況 契約の状況を定義する値をUDC 17/CO(契約状況)から入力します。たとえば、契約状況では、顧客が契約に同意するかどうかを表すことができます。

開始日付 契約に基づき作業を実際に開始する日付を入力します。

終了日付 契約に基づき作業を実際に完了する日付を入力します。

この契約をさらに分類する場合には、「カテゴリ・コード」タブでカテゴリ・コードのフィールドに値を入力します。

自動採番により、「契約」フィールドに契約番号が割り当てられ、「仕入先契約の改訂」フォームが表示されます。このフォームで契約の明細を追加できます。

仕入先契約明細情報の入力

「仕入先契約の改訂」フォームにアクセスします。

仕入先契約詳細 - 仕入先契約の改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約 ★ 39 CS 00200 バージョン 001 ビジネスユニット 830

仕入先 ★ 4317 *Appliance Parts and Supply* 会社番号 00200

記述 ★ Supp. Contract - 4317 開始日付 2002/01/01

終了日付 2010/12/31

レコード 1 - 18 グリッドのカスタマイズ

	行 No.	行 タイプ	記述	仕入先	設備No.	事業所	品目 No.	ロット No.	終了 ロットNo.	製品 モデル
<input checked="" type="radio"/>	1.000	EW	Supp. Contract - 4317	4317			7210			W500
<input type="radio"/>	2.000	EW	Supp. Contract - 4317	4317			72102			ELECW
<input type="radio"/>	3.000	EW	Supp. Contract - 4317	4317			72102A			ELECW
<input type="radio"/>	4.000	EW	Supp. Contract - 4317	4317			72102B			ELECW
<input type="radio"/>	5.000	EW	Supp. Contract - 4317	4317			72102C			ELECW
<input type="radio"/>	6.000	EW	Supp. Contract - 4317	4317			72103			MECHW
<input type="radio"/>	7.000	EW	Supp. Contract - 4317	4317			72101			MECHW
<input type="radio"/>	8.000	EW	Supp. Contract - 4317	4317			72106			MECHW
<input type="radio"/>	9.000	EW	Supp. Contract - 4317	4317			72104			MECHW
<input type="radio"/>	10.0...	EW	Supp. Contract - 4317	4317			72105			MECHW

「仕入先契約の改訂」フォーム

ロットNo.

ロットまたはシリアル番号を識別する番号を入力します。ロットは、類似の特性を持つ品目のグループです。

ロット番号の在庫オプションが「Y」に設定されている場合には、ロット番号は必須です。

メーター示度1

メーター1のメーター示度の残量を入力します。

必要であれば、「メーター示度2」および「メーター示度3」フィールドにも残量を入力します。

サービス調整スケジュール

UDC 40/AS(スケジュール名)から価格調整スケジュールを識別する値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。

顧客請求指示を使用して、価格調整スケジュールに顧客を関連付けます。受注オーダーを入力すると、販売先住所に添付されたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時的に変更できます。

サービス契約見出し情報の入力

「サービス契約見出し」フォームにアクセスします。

サービス契約入力 - サービス契約見出し

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

契約 3 CM 00200 バージョン 001 会社番号 00200

ビジネスユニット S30

契約見出し 追加情報 カテゴリ・コード

記述 * Phone Switch 開始日付 1998/10/07
 契約タイプ SV サービス契約 終了日付 2005/04/19
 顧客 * 3334 Lewis Enterprises 取消日付
 サイト 3334 Lewis Enterprises 契約状況 40 更新書類送付済み
 請求先 3334 Lewis Enterprises ☒ 基本保証フラグ
 送付先 3334 Lewis Enterprises 調整スケジュール SCHCON

通貨

通貨 USD 基本 USD ☐ 外貨

「サービス契約見出し」フォーム

契約見出し

多通貨を使用している場合には、「通貨」、「基本」および「外貨」フィールドの値を確認し、必要に応じて変更してください。

開始日付

契約に基づき作業を実際に開始する日付を入力します。

終了日付

契約に基づき作業を実際に完了する日付を入力します。

契約状況

契約の状況を定義する値をUDC 17/CO (契約状況) から入力します。たとえば、契約状況では、顧客が契約に同意するかどうかを表すことができます。「状況」フィールドのデフォルト値が処理オプションに設定されます。

基本保証フラグ

出荷確認プログラムで「設備マスター更新」を実行するときに、この契約に基本保証を追加する場合には、「基本保証フラグ」をクリックします。

各顧客で基本保証オプションを有効にできるのは1つの契約のみです。

調整スケジュール

UDC 40/AS (スケジュール名) から価格調整スケジュールを識別する値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。

顧客請求指示を使用して、価格調整スケジュールに顧客を関連付けます。受注オーダーを入力すると、販売先住所に添付されたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時変更できます。

追加情報

支払条件

請求書が割引期日内に支払われた場合に適用される割引率など、支払条件を指定するコードを入力します。ブランクのコードは、最も使用頻度の高い支払条件を示します。各支払条件タイプは「支払条件の改訂」フォームで定義します。このコードは、顧客請求書に印刷されます。

支払条件には次のようなものがあります。

ブランク: 15日以内

001: 30日(10日以内1%割引)

002: 30日(10日以内2%割引)

003: 各月10日支払

006: 受取時払い

支払手段

顧客の支払手段を指定する値をUDC 00/PY(支払手段)から入力します。次に例を示します。

C: 小切手

D: 手形

T: 電子資金決済

この契約が前払の場合には、「支払手段」フィールドに値を入力して、前払タイプであることを指定します。

更新フラグ

契約明細行を契約更新の選択範囲に追加するかどうかを表す値をUDC 17/YN(有効値)から入力します。入力した値にかかわらず、このコードによって契約の更新処理に影響を及ぼすことはありません。

見積請求書

同じ請求書フォーマットの異なるバージョンを表す英数字のUDCを入力します。たとえば、Dはドラフトを、Fは最終の請求書フォーマットを表します。

税目コード

ハードコード化されたUDC(00/EX)(税目コード)の値を入力します。この値により、税額や総勘定元帳の配賦金額の計算に使用するアルゴリズムが制御されます。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせることで税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。

税率/税域

共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、税域テーブル(F4008)に対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。

親契約No.

この契約の親契約番号を入力します。

親契約タイプ

この契約の親契約のタイプを表示します。

親契約会社

親契約の伝票会社を表示します。

為替レート

国内通貨金額を算出するために外貨金額に掛け合せる数字(為替レート)を入力します。このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。

解約通知期間

契約に関連付けられた解約通知期間を入力します。

係数/加減 係数値をオーダー価格に適用する場合に、係数値が乗数(%)と追加/控除可能金額(\$)のいずれであるかを示すコードを入力します。

解約料 契約の解除で顧客に請求する料金。

この契約をさらに分類する場合には、「カテゴリ・コード」タブでカテゴリ・コードのフィールドに値を入力します。

自動採番により、「契約」フィールドにデフォルトの契約番号が挿入され、「契約の改訂」フォームが表示されます。

サービス契約明細情報の入力

「契約の改訂」フォームにアクセスします。

サービス契約詳細 - 契約の改訂

OK(O) 検索(F) 削除(D) 取消(L) ロー(R) フォーム(F) ツール(T)

契約3CM00200バージョン001ビジネスユニットS30
会社番号00200

記述 *Phone Switch

顧客 *3334Lewis Enterprises開始日付1998/10/07

サイト3334Lewis Enterprises終了日付2005/04/19

通貨USD基本USD外貨契約合計

レコード 1-3

	行 No.	行タイプ *	記述	サイト No.	顧客発注No.	設備No.	インストール日付	事業所
<input checked="" type="radio"/>	.001	BW	Commercial Clothes Washer	3334		34673	2003/04/21	S3
<input type="radio"/>	.002	BW	Commercial Clothes Dryer	3334		34681	2003/04/21	S3
<input type="radio"/>	.003	BW						

「契約の改訂」フォーム

顧客発注No. 顧客発注番号を英数字で入力します。必要であれば、このフィールドを契約請求後に変更できます。

インストール日付 資産に関する契約の発効日付を入力します。
インストール日付により、設備レコードの日付と保証が更新され、購入証明パラメータが有効になります。
購入証明パラメータがすでに有効になっている場合、「インストール日付」フィールドは無効になります。

メーター示度1 メーター1のメーター示度の残量を入力します。
必要であれば、メーター2および3のメーター示度を入力します。

請求期間 契約に関連付けられた請求期間を入力します。

非請求期間 契約に関連付けられた非請求期間を入力します。

期間単位 請求された金額または数量の単位を示す値をUDC 00/UM(単位)から入力します。パレル、箱、立法ヤード、ガロン、時間などがあります。

単位	容量または数量の単位を示す値をUDC 00/UM(単位)から入力します。バレル、箱、立方メートル、リットル、時間などがあります。 在庫から単位が取得されます。この値は、必要に応じて変更できます。
契約行開始日	契約に基づき作業を実際に開始する日付を入力します。
契約行終了日	契約に基づき作業を実際に完了する日付を入力します。
請求開始日	取引が請求対象かどうか判別する値を開始日に入力します。総勘定元帳の日付が開始日から終了日までの範囲内であれば、取引は請求されます。
請求終了日	請求取引の終了日を入力します。 このフィールドは、定期請求モジュールで使用されます。期間ではなく、日付に基づく処理で使用されます。このフィールドには、関連する請求行が請求されている最新の日付が入ります。 「請求開始日」フィールドと「請求終了日」フィールドが同じ期間および年度内にある場合、1回かぎりの請求であることを意味します。そうでない場合、「請求頻度コード」フィールドに値を入力する必要があります。次に、定期請求額が計算されます。
請求頻度コード	請求レコードの生成頻度を指定するコードを入力します。請求頻度マスター(F15019)に存在するコードを入力してください。
価格有効日付	価格が有効になる日付を入力します。価格有効日付から基本価格とすべての上級価格調整が判別されます。この日付の値は、システム固定情報ファイル(F4009)に格納されます。
為替レート	外貨の金額に乗算または除算して国内通貨の金額を計算するための数値(為替レート)を入力します。 このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。
上級価格設定	価格調整を行わない場合には、0またはNを入力します。価格調整を行う場合には、1またはYを入力します。
住所別価格	住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。 このフィールドを使用して、住所録番号から価格調整が行われます。
調整スケジュール	UDC 40/AS(スケジュール名)から価格調整スケジュールを識別する値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。 住所録からSWM追加情報を使用して、顧客と調整スケジュールを関連付けます。サービス契約を入力すると、顧客に関連付けられたスケジュールがサービス契約見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時変更できます。
単価	この品目を請求する基本価格または価格設定単位をリストまたは基本価格で入力します。 上級価格設定を使用する場合、「単位」フィールドに値は入力できません。
割引タイプ(D/P)	割引率または割引額を使用するかどうかを指定します。
割引率	購買オーダーの価格設定ファイルの割引率を入力します。

値引額	割引の合計金額を入力します。
行合計	平均支払日数の計算には、合計金額が係数として使用されます。この金額は、有効な売掛金請求書に対する入金 of 合計額と等しくなります。 加重合計日数を更新すると、合計金額も同時に更新されます。
定期請求金額	定期的に請求を行う場合の固定金額を入力します。 一定の期間にわたって特定の金額を請求する場合、「定期請求金額」フィールドの値が計算に使用されます。
事前/事後請求	契約の請求方法を表すコードを入力します。 「毎月の請求日」フィールドと「事前/事後請求」フィールドは、データ選択にのみ使用されます。期間と頻度には「請求開始日付」フィールドと「請求終了日付」フィールドを使用します。
課税Y/N	販売時に品目が課税対象になるかどうかを示すコードを入力します。顧客も課税対象である場合にのみ、品目の税額が計算されます。
税目	ハードコード化されたUDC (00/EX) (税目コード) の値を入力します。この値により、税額や総勘定元帳の配賦金額の計算に使用するアルゴリズムが制御されます。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせることで税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。
税率/税域	共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、税域テーブル (F4008) に対して検証されます。請求書または伝票を作成すると、税目コードおよび税規則とともに税率/税域を使用して、税額と総勘定元帳の配賦金額が計算されます。 顧客の住所録レコードのサイト番号から税域情報が取得され、デフォルト値として使用されます。
契約有効日数	契約の開始日付と終了日付から契約日数を表示します。
日次配分	収益の日次配分額を表示します。この金額は、契約金額を契約日数で割った額になります。
更新日	エンドユーザーが契約収容日の前に更新通知を準備できるように、契約終了日付よりも前の日付を入力します。
取消日付	商品が顧客に発送されない場合、または仕入先から商品が入荷しない場合に、オーダーを取り消す日付を入力します。これはメモ専用のフィールドであり、このフィールドによってなんらかの自動処理が実行されることはありません。
解約理由	解約理由を表す値をUDC 17/CN (解約理由コード) から入力します。
定期オーダー停止日付	定期オーダーの処理が停止される日付を入力します。 契約が停止している場合、停止日が表示されます。停止日は「契約の停止」フォームから取得されます。
解約金額国内通貨	解約された金額を入力します。この金額は、取引開始側の会社用に設定されている通貨で表されます。
与信額国内通貨	このオーダーに対する顧客の与信金額を入力します。この金額は、取引開始側の会社用に設定されている通貨で表されます。
価格上限%	将来使用するために予約されています。

契約に関連付けられている価格上限パーセント。

サービス調整スケジュール

価格調整スケジュールを識別する値をUDC 40/AS(スケジュール名)から入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。

住所録からSWM追加情報を使用して、顧客と調整スケジュールを関連付けます。サービス契約を入力すると、作業オーダーの上級価格設定スケジュールに添付されているスケジュールが、顧客のSWM追加情報から契約の明細行にコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時的に変更できます。

サービス契約情報の確認

「契約明細」フォームにアクセスします。

サービス契約詳細 - 契約明細

OK(O) 取消(L) ツール(T)

契約	3	CM	00200	001	行番号	001	<input type="checkbox"/> 基本保証フラグ
記述 *	Base Warranty				行タイプ	BW	
通貨	USD	U.S. Dollar		基本	USD	<input type="checkbox"/> 外貨	

[設備データ](#)
[顧客データ](#)
[契約日付](#)
[カテゴリ・コード](#)
[価格データ](#)
[請求データ](#)

設備No.	34673	Commercial Clothes Washer
事業所	830	LM Service Center
在庫品目No.	7210	Commercial Clothes Washer
製品モデル	W500	洗濯機 - 大容量
製品ファミリ	APP	器具
メーター示度1		
メーター示度2		
メーター示度3		

「契約明細」フォーム

照会専用フィールドを含む次のテーブルの情報を確認します。

- 設備データ
- 顧客データ
- 契約日付
- カテゴリ・コード
- 価格設定データ
- 請求データ

サービス契約の確認

「契約定期処理」メニュー(G1724)から、「サービス契約の更新」を選択します。

契約の更新プログラムを実行すると、レポートが生成されます。このレポートで、まもなく契約期間が満了し、更新と書類が必要になる契約が確認できます。価格の割増率、更新の価格設定、契約満了のリードタイプの処理オプションを設定できます。

契約の更新プログラムでは、差込印刷機能を使用して、更新書類と契約書を生成します。

サービス契約のコピー

「契約の処理」フォームにアクセスします。

1. コピーが必要な契約を検索します。
2. 契約を選択して「コピー」をクリックします。
3. 「契約の改訂」で新規契約に必要な情報を変更します。
4. 「OK」をクリックします。

新しい契約番号が「契約」フィールドに表示されます。

契約の改訂プログラム(P1721)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、契約の更新プログラムのデフォルト値を指定します。

契約追加/コピーのデフォルト値

この処理オプションでは、契約の入力時に使用されるデフォルト値を指定します。これらの値は1つの契約で一時変更できますが、このバージョンの契約の改訂で入力する多くの契約で利用できるデフォルト値（伝票タイプ、ビジネスユニット、会社、行タイプ、説明、状況、期間、数量などの情報）を指定できます。

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 契約伝票タイプ | 取引の特徴を示す値をUDC 00/DT(伝票タイプ – すべての伝票)から入力します。契約入力時のデフォルト値として使用される伝票タイプを指定します。 |
| 2. 契約キー会社 | サービス契約の入力時にデフォルト値として使用する契約キー会社を指定します。契約キー会社は、オーダー番号とオーダー・タイプとともに、オーダー伝票(購買オーダー、契約、受注オーダー)を一意に識別する数字です。 |
| 3. 契約情報のコピー | 契約情報をコピーするときの契約番号の割当方法を指定します。値は次のとおりです。
0: 新規の契約番号を作成します。
1: オリジナルの契約番号を使用し、バージョン番号を変更します。 |
| 4. 契約行タイプ | 契約明細行の入力時に使用するデフォルトの行タイプを指定します。行タイプは、取引行の処理方法を制御するコードです。サービス契約の明細行の行タイプを入力すると、サービス/ワランティ管理の行タイプの固定情報テーブル(F1793)の行タイプの特徴が検証されます。 |
| 5. 行増分値 | オーダー行の番号を付けるときの増分値を指定します。 |
| 6. 契約状況 | サービス契約の入力時に使用するデフォルトの契約状況の値をUDC 17/CO(契約状況)から入力します。契約状況は、契約に関する状況情報を表すコードです。 |
| 7. 契約タイプ | サービス契約の契約タイプを表す値をUDC 17/TY(契約タイプ)から入力します。 |

- 8. デフォルトの契約記述** 契約入力時にデフォルト値として使用される明細行記述を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 契約見出し
 1: 品目番号
 2: 行タイプ
 3: 製品モデル
 4: 製品ファミリ
- 9. 期間単位** この伝票に使用する単位を示す値をUDC 00/UM(単位)から入力します。契約入力時にデフォルト値として使用される期間の単位を指定します。
- 10. 数量単位** 容量または数量の単位を示す値をUDC 00/UM(単位)から入力します。契約入力時にデフォルト値として使用される単位を指定します。
- 11. ビジネスユニット** 契約明細行の入力時に使用するデフォルトのビジネスユニットを指定します。この処理オプションをブランクにすると、端末またはユーザーIDに基づき、「デフォルト事業所およびプリンタ」の値が使用されます。

処理

この処理オプションでは、このバージョンの契約の改訂での処理を定義します。

- 1. 顧客番号の更新** 契約の顧客番号と、ケース、契約または作業オーダーの設備レコードの顧客番号を比較するかどうかを指定します。契約の顧客番号を変更すると、顧客番号のチェックが実行されます。この処理オプションでは、矛盾が見つかった場合に設備マスターを更新するかどうかも指定できます。値は次のとおりです。
 ブランク: 顧客番号を検証しません。
 1: ユーザーに、設備マスターに関連する顧客番号の変更を確認します。
 2: 設備マスターを自動的に更新します。
- 2. サイト番号の更新** ケース、契約または作業オーダーの設備レコードでサイト番号を変更したときに設備マスターを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 設備マスターを更新しません。
 1: ユーザーに、設備マスターに関連するサイト番号の変更を確認します。
 2: 設備マスターを自動的に更新します。
- 3. 資産番号のチェック** 契約明細行に入力された資産番号(設備/シリアル番号/単位)の重複を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 資産番号をチェックしません。
 1: 契約名作業の資産番号をチェックします。
- 4. 赤伝処理用デフォルト補助元帳** 契約の与信または解約の入力時に、補助元帳フィールドに使用するデフォルト値を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 補助元帳フィールドにデフォルト値を使用しません。
 1: 契約番号を使用します。
 2: 顧客番号を使用します。

3: サイト番号を使用します。

4: 略式品目番号を使用します。

契約明細行に与信を作成するか、契約を解約するときに、解約により契約明細行に与信が必要になる場合には、補助元帳の項目として指定された値を使用して、サービス請求ワークファイル(F4812)に項目が作成されます。

5. 明細行価格の自動再設定

契約が未請求の場合、オーダー価格を自動的に更新するかどうかを指定します。価格設定に使用する契約フィールドの値を変更すると、新しい値に基づいて価格が更新されます。

この処理オプションは、価格管理システムのバスケットまたは価格再設定機能には関連しません。値は次のとおりです。

ブランク: 自動的に価格の再設定を行いません。

1: 自動的に価格を再設定します。

6. 上級価格フラグの事前入力

上級価格設定を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 有効にしません。

1: 有効にします。

編集

この処理オプションでは、このバージョンの契約の改訂で実行される編集処理を定義します。数量を入力すると、品目がシリアル番号付きかどうか確認されます。また、シリアル番号付きの品目に複数の数量が設定可能かどうか確認されます。

1. シリアル番号付き品目に対する複数数量の許可

シリアル番号付き品目に複数の数量(1より大きい数量)を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 複数の数量を許可しません。

1: 複数の数量を許可します。

契約明細行にシリアル番号を入力する場合、品目の数量は1にする必要があります。契約明細行に品目番号を入力すると、事業所品目テーブル(F4102)のシリアル番号要件とこの処理オプションの値が確認されてから、シリアル番号付き品目への複数数量の入力が許可されます。

行タイプ規則

この処理オプションでは、このバージョンの契約の改訂で実行される行タイプ処理を定義します。

1. 日数単位

容量または数量の単位を示す値をUDC 00/UM(単位)から入力します。契約入力時にデフォルト値として使用される単位を指定します。

前払

この処理オプションでは、このバージョンの契約の改訂で実行される前払処理を定義します。請求書を作成する前に顧客に契約の支払を請求する場合に、前払処理を使用します。前払処理を有効にすると、このバージョンで承認または決済を行うかどうかを選択できます。

前払は、オーダー入力の時点で売り手が顧客から支払フォームを受け取る際に発生します。現金、小切手、クレジット・カードなど、様々な前払タイプが使用できます。前払を使用すると、トランザクション情報が記録され、請求書に支払が示されます。

- 1. 前払処理** 前払処理を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 前払処理ファイルは更新されません。
 1: 前払処理を実行し、前払処理テーブルを更新します。
 このオプションをブランクにすると、前払ウィンドウへのフォーム・エグジットは表示されません。
 1を選択すると、前払処理テーブルが更新され、前払のフォームにアクセスできます。
- 2. 承認処理** 承認処理の方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 承認処理は実行されません。
 1: 承認を対話型で処理します。
 2: バージョンに基づいてバッチ・モードまたはサブシステム・モードで承認処理を実行します。
- 3. 決済処理** 決済処理の方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 決済処理は実行されません。
 1: 決済を対話型で処理します。
 2: バージョンに基づいてバッチ・モードまたはサブシステム・モードで決済処理を実行します。
- 4. 前払トランザクションの承認 (R004201) のバージョン** 使用する前払トランザクションの承認 (R004201) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001が使用されます。
- 5. 前払トランザクションの決済 (R004202) のバージョン** 使用する前払トランザクションの決済 (R004202) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001が使用されます。

バージョン

「契約の改訂」フォームから起動するプログラムのバージョンを指定します。

- 1. 設備マスターの処理 (P1701) のバージョン、
 2. 設備マスターの改訂 (P1702) のバージョン、
 3. 価格履歴 (P4074) のバージョン、4. 住所録修正 (P01012) のバージョン、5. 顧客/連絡先のスピード追加 (P01015) のバージョン** ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

コピーのデフォルト

この処理オプションでは、契約のコピー時に使用されるデフォルト値を指定します。

- 1. メディア・オブジェクトのコピー** 新しい契約にメディア・オブジェクトをコピーするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: コピーしません。
 1: 見出しのヘッダー・オブジェクトをコピーします。
 2: 詳細メディア・オブジェクトをコピーします。

- 3: 見出しおよび詳細メディア・オブジェクトをコピーします。
- 2. メディア・オブジェクトの指定** 新しい契約にメディア・オブジェクトをコピーする方法を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 内部および外部のコメントをコピーします。
1: 内部のコメントをコピーします。
2: 外部のコメントをコピーします。
- 3. 税情報** 新しい契約での税情報の生成方法を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: オリジナルの契約から新しい契約に税情報をコピーします。
1: サイト番号から税情報を取得します。
- 4. 割引情報を当初契約からコピーする** 新しい契約に割引情報をコピーするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: コピーする
1: コピーしない
- 5. 通貨の指定** 顧客の通貨の生成方法を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: オリジナルの契約にある顧客の通貨を使用します。
1: 顧客マスターにある顧客の通貨を使用します。
- 6. 使用する伝票タイプ** 新しい契約での伝票タイプの生成方法を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: オリジナルの契約から新しい契約に伝票タイプをコピーします。
1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定されたデフォルトの伝票タイプを使用します。
- 7. 使用するキー会社** 新しい契約でのキー会社の生成方法を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: オリジナルの契約から新しい契約にキー会社をコピーします。
1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定されたキー会社を使用します。
- 8. 見出しビジネスユニット** 新しい契約での見出しビジネスユニットの生成方法を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: オリジナルの契約から新しい契約に見出しビジネスユニットをコピーします。
1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定された見出しビジネスユニットを使用します。
- 9. 行記述** 新しい契約での行記述の生成方法を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: オリジナルの契約から新しい契約に行記述をコピーします。
1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定された行記述を使用します。

契約の処理プログラム (P1720) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、契約の処理プログラムのデフォルト値を指定します。

P1720用デフォルト

この処理オプションでは、契約確認のデフォルト値を指定します。

1. **デフォルト契約伝票タイプ(必須)** 「契約の処理」フォームに表示されるデフォルトの伝票タイプを表す値をUDC 00/DT(伝票タイプ - 全伝票)から入力します。
2. **デフォルト・キー会社** デフォルトのキー会社番号を指定します。オーダー番号とオーダー・タイプとともに、キー会社は、オーダー伝票(購買オーダー、契約、受注オーダー)を一意に識別する数字です。

バージョン

「契約の処理」フォームから起動するプログラムのバージョンを指定します。新しい契約を追加するか、既存の契約の明細を確認すると、この処理オプションで指定したバージョンの契約の改訂(P1721)が使用されます。P1721の処理オプションは、「対話型バージョン」フォームで確認できます。

1. **サービス契約の改訂(P1721)のバージョン** 契約の追加またはコピー時に使用する契約の改訂(P1721)のバージョンを指定します。このオプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。
2. **契約の印刷(R1733)のバージョン** 「契約の処理」フォームで契約を印刷するときに使用される契約の印刷プログラム(R1733)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001が使用されます。

処理

この処理オプションでは、契約見出しおよび明細フォームを表示する順序を指定します。

1. **見出し/明細の表示** サービス契約の追加または照会時に見出しの改訂フォームと明細改訂フォームのどちらを先に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 「契約の改訂」フォーム(明細)を先に表示します。
1: 「サービス契約見出し」フォームを先に表示します。
明細フォームを先に表示すると、事業所と顧客または明細フォームに入力したサイト情報から契約見出しレコードが作成されます。必要であれば、見出しフォームにアクセスしてデフォルト情報を一時変更できます。
見出しフォームを先に表示すると、明細情報の前に見出し情報を入力できます。契約に関係するデフォルト値を編集するだけでなく、請求方法や支払条件などの見出し情報を追加したり、追加情報を確認できます。

サービス契約の資格規則順序の定義

「資格規則順序」フォームにアクセスします。

資格日付の改訂 - 資格規則順序

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

レコード 1 - 2 グリッドのカスタマイズ   

	順序 No.	顧客 No.	国	事業所	在庫 品目No.	製品 モデル	製品 ファミリ
	1.00	N	N	N	N	Y	Y
							

「資格規則順序」フォーム

次のフィールドにYまたはNを入力します。

- 製品モデル
- 製品ファミリ
- 設備No.
- 事業所
- 在庫品目No.

仕入先契約の資格規則順序の定義

「仕入先資格の順序規則」フォームにアクセスします。

次のフィールドにYまたはNを入力します。

- 製品モデル
- 製品ファミリ
- 設備No.
- 事業所
- 在庫品目No.

サービス契約の資格情報の確認

「資格照会の処理」フォームにアクセスします。

- | | |
|--------------|--|
| 子顧客 | このオプションは、顧客番号の子に基づいてすべての契約を表示する場合に選択します。 |
| 子設備 | このオプションは、設備番号の子に基づいてすべての契約を表示する場合に選択します。 |
| 解約を含む | このオプションは、解約された契約をフォームの詳細グリッドに表示する場合に選択します。 |
| 停止を含む | このオプションは、停止した契約行をフォームの詳細グリッドに表示する場合に選択します。 |

失効を含む

このオプションは、失効した契約行をフォームの詳細グリッドに表示する場合に選択します。終了日付が今日の日付よりも前の契約は、失効した契約になります。

仕入先契約の資格情報の確認

「仕入先契約の処理」フォームにアクセスします。

タブのフィールドに値を入力して検索条件を定義し、「検索」をクリックします。

契約の解約

「契約の解約」フォームにアクセスします。

「契約の解約」フォーム

解約日付

商品が顧客に発送されない場合、または仕入先から商品が入荷しない場合に、オーダーを取り消す日付を入力します。これはメモ専用のフィールドであり、このフィールドによってなんらかの自動処理が実行されることはありません。

解約理由コード

解約理由を表す値をUDC 17/CN(解約理由コード)から入力します。

契約の解約による払戻し額を計算します。

契約の停止

「契約の停止」フォームにアクセスします。

「契約の停止」フォーム

契約を停止しても、対象として画面には表示されます。ただし、契約の停止を解除するまで、請求レコードは作成されません。

停止した契約を再度有効にするには、「再有効化」オプションをクリックします。停止した契約を再度有効にすると、契約請求が再開されます。

契約明細行の取消と停止




「契約行の取消/停止」フォームにアクセスします。

サービス契約詳細 - 契約行の取消/停止					
OK(O) 取消(L) ツール(T)					
  					
契約	4	CM	00200	バージョン	001
通貨		基準		行番号	.001
解約日					
解約日付		解約理由コード			
解約額					
停止日					
オーダー停止日付		請求保留フラグ		レコードを追加して請求する	
		<input type="checkbox"/> 再開			

「契約行の取消/停止」フォーム

契約明細行の与信

「契約残行」フォームにアクセスします。

サービス契約詳細 - 契約残行					
OK(O) 取消(L) ツール(T)					
  					
契約	4	CM	00200	バージョン	001
通貨		基準		行No.	.001
現行契約残					
現行契約残					
契約残合計					
有効契約残					

「契約残行」フォーム

契約の明細行の与信ができます。

「現行契約残」フィールドに値を入力します。残額は請求済の金額以下にする必要があります。

契約前払取引の作成

「サービス契約見出し」フォームにアクセスします。

「追加情報」タブをクリックします。

サービス契約入力 - サービス契約見出し

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

ビジネスユニット M30

契約 1 CM 00200 バージョン 001 会社番号 00200

契約見出し 追加情報 カテゴリ・コード

支払条件	Net 30 Days	親契約No.	
支払手段	デフォルト	親契約タイプ	
更新フラグ	0	親契約会社	
見積請求書	0		
税目コード	S	解約通知期間	
税率/税域	DEN	係数加減	%
		解約料	

「サービス契約見出し」フォームの「追加情報」タブ

契約の前払取引を作成するには、次の手順を実行します。

1. 「追加情報」タブをクリックします。
2. 「支払手段」フィールドの値を変更し、前払を指定します。支払手段の特殊取扱コード(UDC 00/PY)は次のいずれかの値にする必要があります。
 - 11: 現金
 - 12: 小切手
 - 13: クレジット・カード

ビジュアル・アシストをクリックした後で、「ユーザー定義コードの選択」フォームの「改訂」をクリックすると、特殊取扱コードが表示されます。

注意: 契約がすでに請求されている場合、この変更を行うことはできません。

3. 「OK」を2回クリックします。
4. 「契約の改訂」の「フォーム」メニューから「前払」を選択します。
契約の前払情報を入力できるのは契約明細行を入力した後です。
5. 「前払情報の入力」で必要な情報を確認して更新します。
6. 「OK」をクリックします。

注意: 取引を作成するまで契約は請求できません。

処理オプションの設定によって、前払の作成後に取引が承認または決済されます。

契約更新書類の生成

契約の更新に差込印刷テンプレートを設定すると、契約書類を生成できます。

「契約定期処理」(G1724)、「契約更新書類」を選択します。

生成する種類のバージョンを選択します。

関連項目:

第5章、「契約の管理」、「契約更新の差し込み文書の設定」、110ページ

契約更新書類の確認

「契約定期処理」(G1724)、「書類の表示」を選択します。

確認する契約更新書類を選択します。

レター名 名前で検索する場合には、Web差込印刷書類の名前を入力します。

レター記述 記述で検索する場合には、Web差込印刷書類の記述を入力します。

契約更新書類プログラム(R1731)の処理オプションの設定

ZJDEまたはXJDEのプレフィックスを持つJD Edwards EnterpriseOneのデモ・バージョンは、修正しないでください。これらのバージョンをコピーするか、または新規のバージョンを作成して、バージョン番号、バージョン・タイトル、オプションのプロンプト表示、セキュリティ、処理オプションなどの値を変更します。

デフォルト

この処理オプションでは、契約更新書類の作成時に使用されるデフォルト値を指定します。

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 郵送日付 | 更新書類に印刷する郵送日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、現在の日付が印刷されます。 |
| 2. 更新通知に表示する住所録情報 | 更新書類に印刷する住所録番号を指定します。値は次のとおりです。
空白: 顧客番号
1: サイト番号
2: 請求先番号
3: 郵送先 |
| 3. 契約状況 | 更新書類の生成後に契約に割り当てる状況の値をUDC 17/CO (契約状況) から入力します。 |
| 4. 更新通知に使用する日数 | 更新書類の印刷時に使用する日数を指定します。有効値は1から999です。 |

処理

この処理オプションでは、契約更新書類の処理時に使用されるデフォルト値を指定します。

1. 更新通知書(必須) 差込印刷(P05MMS)アプリケーションで使用する更新通知書を指定します。

契約に対する請求

この項では、請求処理、契約のAAI、サービス管理での契約請求および契約ワークファイル生成の概要と事前設定、さらに次の方法について説明します。

- サービス/ワランティ管理契約ワークファイルの生成プログラム(R1732)の処理オプションの設定
- 契約請求情報の確認

請求処理について

一般的な請求処理には、請求対象の契約の集計、請求書の作成と印刷、利益および売掛の仕訳があります。

サービス管理は、売掛管理システムと一般会計システムに統合されています。契約に対する請求でも作業オーダーに対する請求でも、請求処理は変わりません。サービス管理で請求明細を設定すると、請求処理が実行され、請求書情報で売掛管理が更新され、収益情報で一般会計が更新されます。

請求書は、請求対象の契約に基づいて作成されます。請求処理の最初のステップは、請求対象の契約を集計することです。SWM契約ワークファイル生成を実行すると、契約明細テーブル(F1721)から請求対象の契約が集計され、請求明細ワークファイル・レコード(F4812)が作成されます。

サービス契約ワークファイルの生成プログラム(R1732)をテスト・モードで実行し、編集レポートを表示すると、契約の請求情報を確認できます。テスト・モードと最終モードで実行した後で、次の2つの方法で請求情報を確認できます。

- 請求/収益期間配分制御の照会
- 「請求詳細の処理」フォーム

契約ワークファイルの生成プログラムを最終モードで実行した後は、レコードを変更できません。契約明細テーブル(F1721)が更新され、請求済レコードが反映されます。レコードがサービス請求管理プログラムで処理されていない場合には、売掛レコードがサービス管理レコードと一致しません。

契約設定のAAIについて

契約を請求するには、取引を適切に処理するために、勘定科目構造と特定の勘定科目値に関する情報が必要です。勘定科目構造と特定の勘定科目値は、AAIを使用して定義します。AAI値はAAIテーブル(F06904)に保存されます。プログラムは会計機能を実行するたびに、このAAIテーブルにアクセスします。

流通AAIでは、サービス管理システムと総勘定元帳とを連動させる規則を定義します。会計AAIでは、サービス管理システムと売掛管理とを連動させる規則を定義します。AAIを定義すると、様々なプログラムで取引が処理される方法が設定されます。

契約関連の流通AAIは次の項目から構成されます。

- 1750、契約収益
- 1751、契約による短期収益

- 1752、契約による長期収益
- 1753、解約料金

キー・フィールドに基づいて、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に項目を作成するときに使用する勘定科目が取得されます。キー・フィールドは次のとおりです。

- 会社
- 伝票タイプ
- 元帳カテゴリ・コード

このキー・フィールドに基づいて、次の情報を使用して仕訳が実行されます。

- 事業所
- 主科目
- 補助科目

伝票タイプと会社は契約から取得されます。検索階層に従って適切な元帳クラス・コードが識別されます。

契約の元帳クラス・コードの階層

次の階層が契約の元帳クラス・コードに適用されます。

1. 契約明細行のサービス・パッケージに基づいて、サービス契約サービス・パッケージ・テーブル(F1729)で元帳クラス・コードが検索されます。元帳クラス・コードが空白でなければ、この値を使用して流通AAIの勘定科目が取得されます。
2. サービス契約サービス・パッケージ・テーブルの元帳クラス・コードが空白の場合、契約明細行の事業所および品目番号を使用して、事業所品目テーブル(F4102)から元帳クラス・コードが取得されます。元帳クラス・コードが空白でなければ、この値を使用して流通AAIの勘定科目が取得されます。
3. 事業所品目テーブルの元帳クラス・コードが空白の場合、契約明細行の品目番号を使用して、品目マスター(F4101)から元帳クラス・コードが取得されます。元帳クラス・コードが空白でなければ、このコードを使用して流通AAIの勘定科目が取得されます。
4. 品目マスターの元帳クラス・コードが空白の場合、契約明細行の行タイプを使用して、行タイプ制御固定情報テーブル(F40205)から元帳クラス・コードが取得されます。元帳クラス・コードが空白でなければ、この値が元帳クラス・コードになります。
5. 行タイプ制御固定情報テーブルの元帳クラス・コードが空白の場合、空白値を使用して流通AAIから勘定科目が取得されます。

流通AAIで会社、伝票タイプ、元帳クラス・コードが見つかり、検索階層でサービス契約の担当ビジネスユニットを検索し、担当ビジネスユニット(事業所)が判別されます。

担当ビジネスユニットの階層

AAIのビジネスユニットが空白の場合、「担当ビジネスユニット」フィールドの値に基づいて担当ビジネスユニットが検索されます。この値は、SWM固定情報の「契約」タブにあります。

SWM固定情報で、次のいずれかのオプションを選択して担当ビジネスユニットを検索できます。

方法	内容
事業所品目マスター－サービス/保証 (F41171) または 品目マスター－サービス/保証 (F4117)	<p>契約明細行の事業所および品目番号を使用して、事業所品目マスターのサービス/保証 (F41171) で担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>事業所がブランクの場合、契約明細行の品目番号を使用して、品目マスターのサービス/保証 (F4117) で担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブルF41171またはF4117にビジネスユニットが存在する場合、このビジネスユニットが仕訳で使用されます。</p>
製品ファミリ/モデル・マスター (F1790)	<p>契約明細行の製品モデルを使用して、製品ファミリ/モデル・マスター (F1790) で担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブルF1790にビジネスユニットが存在する場合、このビジネスユニットが仕訳で使用されます。</p>
固定資産マスター・ファイル (F1201)	<p>契約明細行の設備番号を使用して、固定資産マスター・ファイル (F1201) で担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブルF1201にビジネスユニットが存在する場合、このビジネスユニットが仕訳で使用されます。</p>
住所録マスター (F0101)	<p>契約明細行の顧客番号を使用して、住所録マスター (F0101) で担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブルF0101に顧客が存在する場合、このビジネスユニットが仕訳で使用されます。</p>
SWM行タイプ固定情報 (F1793) (契約にのみ使用)	<p>契約明細行の行タイプを使用して、SWM行タイプ固定情報テーブル (F1793) で担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブルF1793にビジネスユニットが存在する場合、このビジネスユニットが仕訳で使用されます。</p>

注意: ビジネスユニット・マスター (F0006) 内の担当ビジネスユニットにプロジェクト・ビジネスユニットを割り当てている場合は、勘定科目のビジネスユニットとして、プロジェクト・ビジネスユニットが使用されます。

サービス管理での契約請求について

一般的な請求処理には、請求対象の契約の集計、請求書の作成と印刷、利益および売掛の仕訳があります。

契約ワークファイル生成を実行すると、契約明細テーブル (F1721) から請求対象の契約が集計され、請求明細ワークファイル (F4812) にレコードが作成されます。請求ワークファイルの作成後、標準のサービス請求処理を継続する必要があります。

ワークファイル取引をグループ化し、請求書番号を割り当てるには、請求書処理プログラムを実行します。これにより、1つ以上のワークファイル取引が支払項目レコードに集約されます。支払項目は、特定の請求書の合計金額を表す請求行です。

支払項目情報は、請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)に格納されます。ワークファイル取引レコードは、新しい請求書情報、順序、集計キー情報で更新されます。

請求書処理プログラムを実行した後で、顧客に対する請求書は印刷できません。

請求処理を完了するには、売掛仕訳と元帳仕訳を作成する必要があります。まず最初に、請求書仕訳の生成プログラム(R48131)を使用して仮の売掛仕訳と元帳仕訳を作成します。結果のレポート(請求仕訳レジスタと請求書仕訳生成プログラム)を参照し、仕訳にエラーがないか確認してください。

バッチ内にエラーがないことを確認したら、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)を使用して最終の売掛仕訳を作成できます。請求書を総勘定元帳に転記できます。

契約ワークファイルの生成について

「契約定期処理」メニュー(G1724)から、「サービス契約ワークファイルの生成」を選択します。

サービス/ワランティ管理契約ワークファイルの生成プログラム(R1732)を実行すると、契約明細テーブル(F1721)のレコードが処理され、請求明細ワークファイル(F4812)にレコードが作成されます。

処理オプション、ユーザーが選択したデータ、会社、会計期間パターン、契約明細テーブルの請求頻度と日付に基づいて、レコードが収集されます。生成プログラムを最終モードで実行すると、サービス請求ワークファイルにレコードが作成されます。次に、サービス請求管理システムによって、ワークファイル取引が作成されます。このワークファイル取引は、売掛管理システムと一般会計システムの基礎となります。契約明細行に請求を行う場合には、生成プログラムを最終モードで実行する必要があります。ワークファイルの生成時に税額が計算されます。

重要: 最終モードで契約明細行に請求を行うと、その項目は編集できなくなります。

契約ワークファイルの作成後、次の操作を含む標準の請求処理を継続する必要があります。

- サービス請求の請求書生成プログラム(P48121)による請求書ワークファイルの作成
- 請求書の印刷
- 仕訳の生成プログラム(R48131)による請求書仕訳の生成
- 売掛仕訳の作成プログラム(R48199)による売掛仕訳と元帳仕訳の作成
- 標準の総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)による売掛仕訳と元帳仕訳の転記

事前設定

流通AAIを設定します。

契約の請求に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
使用可能なバージョン	W98305WA	「契約定期処理」(G1724)、 「サービス契約ワークファイルの生成」	請求レコードを作成します。
請求/収益期間配分制御の照会	W1794A	「契約定期処理」(G1724)、 「請求/収益期間配分の照会」	契約請求情報を確認します。

サービス/ワランティ管理契約ワークファイルの生成プログラム (R1732) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、サービス契約ワークファイルの生成プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、サービス契約を照会するときのデフォルト値を指定します。

1. 請求終了日付 サービス契約の請求終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、現在の日付が使用されます。
2. 遡及請求 一定の期間のわたって請求し、現在の請求サイクルよりも前の日付の場合に訴求請求を行うかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 実行しません。
1: 実行します。
3. 補助元帳フィールドのデフォルト 補助元帳フィールドのデフォルト値を指定します。値は次のとおりです。
空白: デフォルトの補助元帳なし
1: 契約番号
2: 顧客番号
3: サイト番号
4: 略式品目番号
4. 表示する住所録番号 請求レポートに住所録番号を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 顧客番号
1: サイト番号
2: 請求先番号

処理

この処理オプションでは、レポートおよびエラーの記録に使用されるデフォルトの情報を指定します。

1. 実行モード ワークファイル生成レポートの実行モード(テスト・モードまたは最終モード)を指定します。値は次のとおりです。
空白: テスト・モード
1: 最終モード
2. ワーク・センターまたはレポート エラーの記録場所を指定します。値は次のとおりです。
空白: ワーク・センターにエラーを記録します。
1: レポートにエラーを記録します。

Vertex

この処理オプションでは、税のデフォルト情報を指定します。

- 1. サービス契約税タイプ** サービス契約の課税方法を指定します。この処理オプションは、Vertex社のQuantum Sales and Use Taxソフトウェア（サード・パーティの税計算ソフトウェア）が導入されている場合にのみ適用されます。値は次のとおりです。
- LEASE: リース税
- PURCH: 購入税
- RENTAL: レンタル税
- SALE: 消費税
- SERVIC: サービス税
- 2. ビジネスユニット
GeoCodeがない場合はサイト
GeoCodeを使用** ビジネスユニットに有効なGeoCodeが定義されていない場合、サイトGeoCodeを「出荷元」または「オーダー承認」に使用するかどうかを指定します。ブランクにした場合、ビジネスユニットには有効なGeoCodeが存在するため、エラーが発生します。値は次のとおりです。
- ブランク: 使用しない
- 1: 使用する

注意: この処理オプションは、Vertex社のQuantum Sales and Use Taxソフトウェア（サード・パーティの税計算ソフトウェア）が導入されている場合にのみ適用されます。

契約請求情報の確認

「請求/収益期間配分制御の照会」フォームにアクセスします。

請求/収益期間配分の照会 - 請求/収益期間配分制御の照会 i ?

検索① 閉じる(L) ツール(T)

契約 * * バージョン *
 行番号 *
 生成タイプ *
 西暦上2桁/年度 * *

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	契約 No.	契約 タイプ	契約 会社	バージョン	行 No.	生成 タイプ	西暦 上2桁	年度	合計 金額	請求期 間01	金額 01
<input checked="" type="radio"/>	20	CM	00200	001	.001	A	20	5	1.37		
<input type="radio"/>	20	CM	00200	001	.001	B	19	99	1.37		
<input type="radio"/>	29	CM	00200	001	.001	B	19	99	1,600.00	X	
<input type="radio"/>	28	CM	00200	001	.001	B	19	99	1,300.00	X	
<input type="radio"/>	27	CM	00200	001	.001	B	19	99	16.00		
<input type="radio"/>	21	CM	00200	001	.001	C	20	5	163.64		
<input type="radio"/>	21	CM	00200	001	.001	B	19	99	163.64		
<input type="radio"/>	21	CM	00200	001	.001	A	20	5	163.64		
<input type="radio"/>	20	CM	00200	001	.001	C	20	5	1.37		
<input type="radio"/>	21	CM	00200	001	.002	A	20	5	72.73		

「請求/収益期間配分制御の照会」フォーム

契約タイプ

伝票のタイプを示すコードをUDC 00/DT(伝票タイプ - すべての伝票)から入力します。サービス契約の伝票タイプは、伝票タイプの管理プログラム(P40040)を使用して伝票タイプ・マスター(F40039)に定義します。

契約会社

オーダー番号とオーダー・タイプとともに、オーダー伝票(購買オーダー、契約、受注オーダーなど)を一意に識別する数字を入力します。

会社/会計年度別自動採番機能を使用すると、自動採番プログラムはオーダー会社を使用して、この会社に対して正しい次の番号を取得します。複数のオーダー伝票のオーダー番号とオーダー・タイプが同一の場合、オーダー会社で目的の伝票を見つけることができます。

正規の自動採番機能を使用した場合は、次の番号の割当にオーダー会社は使用されません。このため、伝票の検索にオーダー会社を使用することもほとんどありません。

バージョン

契約の変更番号を入力します。基本保証の変更オーダー番号は常に「000」で初期化されます。契約の変更オーダーを入力するたびに、変更オーダー番号が1ずつ大きくなります。

たとえば、基本契約の変更オーダー番号は000で、最初の変更オーダーが「001」、2つ目が「002」のようになります。

行No.

購買オーダーやその他の伝票など行番号で、重複を識別するために割り当てられた番号を表示します。通常、この番号はシステムによって割り当てられますが、場合によってはユーザーが一時変更することもできます。

生成タイプ	<p>請求取引タイプを識別するコードを入力します。次に例を示します。</p> <p>A: 認識収益</p> <p>B: 長期収益 (請求で作成)</p> <p>C: 短期収益</p> <p>D: 国外認識</p> <p>E: 国外長期</p> <p>F: 国外短期</p> <p>G: 貸方認識収益</p> <p>H: 貸方長期収益</p> <p>I: 貸方短期収益</p> <p>J: 国外貸方認識</p> <p>K: 国外貸方長期</p> <p>L: 国外貸方短期</p>
西暦上2桁	<p>この年度に関連付けるカレンダー世紀を入力します。西暦の上2桁を入力します。たとえば、19は1900年代(1998、1999)を表し、20は2000年代(2000、2001)を表します。</p>
年度 (会計年度)	<p>会計年度を示す数値を入力します。通常、このフィールドに数値を入力することも、ブランクにして「会社の設定」フォームで定義した現行会計年度を使用することもできます。</p> <p>会計期間が終了する年度ではなく、最初の期間が終了する年度を指定します。たとえば、会計年度の開始日が10月1日、終了日が9月30日であり、最初の期間の期末日が10月31日である場合は、10月の年度を指定します。</p>
合計金額	<p>請求した合計金額または特定の期間に配分した合計金額を表示します。</p>

収益期間配分プロセスの処理

この項では、収益期間配分の概要、収益期間配分ワークファイルの生成、事前設定、および次の方法について説明します。

- 収益期間配分ワークファイルの生成プログラム(R17321)の処理オプションの設定
- 収益期間配分レコードの確認

収益期間配分について

収益期間配分により、長期収益を短期収益に分配し、さらに認識収益に分配することにより、収益を管理できます。期間配分されるのは請求収益のみです。

請求を行うと、請求金額すべてが長期収益として処理されます。収益期間配分を行うと、現在の日付から1年間の収益が短期収益に移動します。契約の開始日から収益配分期間の終了日までの金額が認識収益に移動します。

収益期間配分ワークファイルの生成について

「契約定期処理」メニュー (G1724) から、「サービス契約収益期間配分の生成」を選択します。

収益期間配分の生成プログラムを使用して、契約の収益期間を配分します。このプログラムはテスト・モードまたは最終モードで実行できますが、対象のテーブルが更新されるのは、最終モードで実行した場合のみです。

このプログラムは次の機能を実行します。

- ・ 長期収益から短期収益への分配 (可能な場合)
- ・ 短期収益から認識収益への分配 (可能な場合)

収益期間配分ワークファイルの生成プログラム (R17321) を実行すると、定義した日付に基づいて、契約明細テーブル (F1721) のレコードが取得されます。契約明細行を処理するたびに、開始日と終了日、処理オプションの収益期間配分日から1年後の日付に基づいて、長期収益の金額と短期収益の金額が最新かどうか検証されます。指定した日付に該当する契約明細行ごとに、請求/収益期間配分制御マスター (F1794) を使用して明細行が収益分配が行われているかどうか確認します。特定の期間で契約明細行が収益分配が行われると、取引明細テーブル (F0911) にレコードが作成され、請求/収益期間配分制御テーブルが更新されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- ・ 次のシステムが購入およびインストール済であることを確認します。契約の収益期間を配分するには、次のシステムがインストールされている必要があります。
 - 一般会計、買掛管理、売掛管理
 - 住所録
 - サービス請求管理
- ・ 会計期間パターンを設定します。
- ・ 会社情報を設定します。
- ・ 製造AAI情報を設定します。

収益期間配分プロセスの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求/収益期間配分制御の照会	W1794A	「契約定期処理」(G1724)、 「請求/収益期間配分の照会」	収益期間配分レコードを確認します。

収益期間配分ワークファイルの生成プログラム (R17321) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、収益期間配分ワークファイルの生成プログラムのデフォルト値を設定します。

処理

収益期間配分ワークファイルを生成する実行モード (テスト・モードまたは最終モード)、収益配分期間および補助元帳の情報を指定します。

1. **テストまたは最終モード** ワークファイルの生成プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: テスト・モード
 1: 最終モード
 生成プログラムをテスト・モードで実行すると、テーブルは更新されません。レポートで収益配分期間情報を確認し、処理オプションに従ってエラーを訂正できます。
 生成プログラムを最終モードで実行すると、請求/収益期間配分制御マスター(F1794)が更新され、取引元帳テーブル(F0911)に仕訳が書き込まれます。
2. **会計期間 - 収益期間配分終了** 収益期間配分の会計期間を指定します。空白にした場合、現行会計期間が使用されます。
3. **会計年度 - 収益期間配分終了** 収益期間配分の会計年度を指定します。空白にした場合、現行会計年度が使用されます。
4. **補助元帳デフォルト** 補助元帳フィールドの値を取得するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 補助元帳の値なし
 1: 契約番号
 2: 顧客番号
 3: サイト番号
 4: 品目番号

印刷

収益期間配分ワークファイルの作成時に使用する値を指定します。たとえば、レポートに印刷する住所録情報を選択できます。また、エラーをレポートに印刷するか、ワーク・センターに送信するかも指定できます。

1. **ワーク・センターまたはレポート** エラーの記録場所を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: ワーク・センターにエラーを書き込みます。
 1: レポートにエラーを印刷します。
2. **住所番号** レポートに印刷する住所番号を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 顧客番号
 1: サイト番号
 2: 請求先番号

バージョン

収益期間配分レコードの生成に使用する転記プログラムのバージョンを指定します。

1. **転記プログラムのバージョン** このオプションを空白にすると、ZJDE0001が使用されます。

収益期間配分レコードの確認

「請求/収益期間配分制御の照会」フォームにアクセスします。

請求期間および請求額を確認し、契約で収益期間を配分した期間および金額を確認できます。特定の処理期間で契約の収益期間が配分されているかどうかを確認できます。

契約の価格設定

この項では、次の方法について説明します。

- 契約の印刷
- 契約レポートの印刷プログラム (R1733) の処理オプションの設定

契約の価格設定

「契約定期処理」メニュー (G1724) から、「契約の印刷」を選択します。

契約の印刷プログラム (R1733) を使用すると、仕入先およびサービス業者との契約書を作成できます。契約情報には、設備番号、サービス・パッケージ、開始日付と終了日付、合計金額が含まれます。

契約レポートの印刷プログラム (R1733) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、契約印刷のデフォルト値を設定します。

印刷

契約書に印刷する情報を指定します。

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1. 詳細メディア・オブジェクトの印刷 | レポートの契約明細行に印刷するメディア・オブジェクトを指定します。値は次のとおりです。
空白: メディア・オブジェクトを印刷しません。
1: 外部メディア・オブジェクトを印刷します。
2: 内部メディア・オブジェクトを印刷します。
3: 外部と内部の両方のメディア・オブジェクトを印刷します。 |
| 2. 見出しメディア・オブジェクトの印刷 | レポートの契約見出しにメディア・オブジェクトを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 見出しメディア・オブジェクトを印刷しません。
1: 外部メディア・オブジェクトを印刷します。
2: 内部メディア・オブジェクトを印刷します。
3: 外部と内部の両方のメディア・オブジェクトを印刷します。 |
| 3. 明細行に価格を印刷する | 契約の明細行に価格を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 処理オプション4で集計オプションを選択していないかぎり、印刷しません。 |

4. 集計

1: 印刷します。

明細行の集計方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 集計しない

1: 製品モデル

2: 製品ファミリ

3: 契約

契約レポートの確認

この項では、契約レポートの概要と次の方法について説明します。

- 契約レポートの確認
- 契約レポート・プログラム (R1734) の処理オプションの設定
- サービス契約の更新レポートの確認
- サービス契約の更新プログラム (R1730) の処理オプションの設定
- サービス契約明細の更新レポートの確認
- サービス契約明細の更新プログラム (R1735) の処理オプションの設定
- サービス契約の解約レポートの確認
- サービス契約の解約プログラム (R1736) の処理オプションの設定

契約レポートについて

契約レポートを確認すると、契約の状況が把握できます。たとえば、契約満了が近いかどうか、期限切れ契約の更新が必要かどうかを判断できます。

契約レポートの確認

「契約定期処理」メニュー (G1724) から、「契約レポート」を選択します。

契約レポート (R1734) を実行し、契約を確認して関連情報を検索します。データ選択を設定し、確認するレポート・タイプを定義できます。

契約レポート・プログラム (R1734) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、契約レポートのデフォルト値を設定します。

印刷

この処理オプションを使用して、見出しまたは明細情報の印刷を指定します。

明細の印刷

レポートに見出しまたは明細情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 見出し情報

1: 明細情報

サービス契約の更新レポートの確認

「契約定期処理」メニュー (G1724) から、「サービス契約の更新」を選択します。

サービス契約の更新レポートを実行して、更新契約と書類の生成が必要な契約を指定します。割増率を追加する処理オプションを設定して、更新に使用する価格設定を選択し、契約満了期間を設定できます。

このレポートでは、新しい契約を作成できます。また、契約更新で顧客の既存契約が重複する場合には、現行契約のバージョン番号を更新できます。

サービス契約の更新プログラム (R1730) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、サービス契約の更新プログラムのデフォルト値を指定します。

レポート・オプション

契約の更新に使用するオプションを指定します。

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 契約更新オプション | <p>契約の更新方法を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 契約を更新しません。</p> <p>1: 新規の契約番号を作成します。</p> <p>2: 同じ契約番号を使用して、契約変更番号を更新します。</p> |
| 2. 価格設定オプション | <p>更新した契約の価格設定に使用する価格設定方法を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>1: 既存契約で更新した契約の価格設定を使用します。</p> <p>2: 価格管理を使用して、更新した契約の新しい価格を取得します。</p> <p>3: 割増率を使用して、更新した契約の新しい価格を取得します。</p> |
| 3. 割増率 | <p>更新した契約の新しい価格を決めるときに使用される割増率を指定します。たとえば、50%の割増率を指定する場合は「50.0」と入力します。</p> <hr/> <p>注意: この処理オプションは、処理オプション2で「3」(割増率)を入力した場合にのみ使用します。</p> <hr/> |
| 4. 契約失効までのリード日数 | <p>現在の日付から契約満了日までの日数を指定します。入力した日数以内に満了する契約が更新の対象になります。</p> |
| 5. リード・タイムに使用する日付 | <p>リード・タイムの日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、現在の日付が使用されます。</p> |
| 6. 旧契約の契約更新状況 | <p>更新後の契約の状況を表す値をUDC 17/CO (契約状況) から入力します。</p> |
| 7. 契約更新状況 | <p>新しい契約の状況を表す値をUDC 17/CO (契約状況) から入力します。</p> |

バージョン

「サービス契約の更新」から起動するプログラムのバージョンを指定します。

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 契約の処理 (P1720) のバージョン | <p>この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。</p> |
|--------------------------------|--|

処理

実行モード(テスト・モードまたは最終モード)およびエラーの記録場所を指定します。

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 処理モード | 契約更新レポートの実行モード(テスト・モードまたは最終モード)を指定します。値は次のとおりです。
空白: テスト・モード
1: 最終モード |
| 2. ワーク・センターまたはレポート | エラーの記録場所を指定します。値は次のとおりです。
空白: ワーク・センターにエラーを記録します。
1: レポートにエラーを記録します。 |

デフォルト

請求のデフォルト値を指定します。

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1. 請求開始日付 | サービス契約に対する請求を開始した日付を指定します。空白にすると、旧契約の明細行にある日付が使用されます。値は次のとおりです。
1: 旧契約明細行の請求開始日を使用します。
2: 契約明細行の最初の明細行にある請求開始日を使用します。
3: 新しい契約の明細行の開始日を請求開始日として使用します。
4: 請求開始日を入力します。 |
| 2. 請求開始日付(上の処理オプションで4を設定した場合) | 契約した更新に特定の請求開始日付を指定します。 |
| 3. 請求終了日 | サービス契約に対する請求を終了する日付を指定します。空白にすると、旧契約の明細行にある日付が使用されます。値は次のとおりです。
1: 旧契約明細行の請求終了日を使用します。
2: 契約明細行の最初の明細行にある請求終了日を使用します。
3: 新しい契約の明細行の終了日を請求終了日として使用します。
4: 請求終了日を入力します。 |
| 4. 請求終了日付(上の処理オプションで4を設定した場合) | 契約した更新に特定の請求終了日付を指定します。 |
| 5. 請求頻度コード | 更新した契約の請求サイクルを表す請求頻度を指定します。 |

基本保証

基本保証契約の更新オプションを指定します。

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 基本保証契約の更新 | 契約更新プロセスで基本保証契約を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 基本保証契約を更新しません。
1: 基本保証契約を更新します。 |
|---------------------|---|

2. 請求終了日	更新した契約を使用する会社を指定します。
3. 契約伝票タイプ	更新した契約の契約伝票タイプを指定します。
4. 更新済み契約の行タイプ	更新した契約の行タイプを指定します。
5. 更新済み契約の契約状況	新しい契約の状況を表す値をUDC 17/CO (契約状況) から入力します。この処理オプションをブランクにすると、「レポート・オプション」タブに指定した状況が使用されます。
6. 契約タイプ	新しい契約の契約タイプを表す値をUDC 17/TY (契約タイプ) から入力します。この処理オプションをブランクにすると、P1721 (契約の改訂) の処理オプションで設定した契約タイプが使用されます。
7. 顧客住所番号	更新した契約の顧客住所番号を指定します。
8. サイト住所番号	更新した契約のサイト住所番号を指定します。
9. 請求先住所番号	更新した契約の請求先住所番号を指定します。
10. 送信先住所番号	更新した契約の送付先住所番号を指定します。
11. 契約日数	更新した契約の期間を指定します。
12. 上級価格設定用の調整スケジュール	更新した契約の上級価格設定の調整スケジュールを表す値をUDC 40/AS (スケジュール名) から入力します。
13. 請求期間	更新した契約の請求期間を指定します。
14. 非請求期間	更新した契約の非請求期間を指定します。
15. 請求/非請求期間の単位	請求された金額または数量の単位を示す値をUDC 00/UM (単位) から入力します。請求/非請求期間の単位を指定します。
16. 住所別価格	更新した契約行に住所別価格を指定します。この処理オプションをブランクにすると、「顧客番号」フィールドが使用されます。
17. ビジネスユニット	更新した契約見出しにビジネスユニットを指定します。この処理オプションをブランクにすると、オリジナルのビジネスユニットが使用されます。

注意: これらの入力項目は、更新された基本保証にすべて適用されます。

デフォルトのコピー

更新した契約のコピーを使用するかどうかを指定します。

1. メディア・オブジェクトのコピー	更新された契約にメディア・オブジェクトをコピーするかどうかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: メディア・オブジェクトをコピーしません。 1: 見出しのヘッダー・オブジェクトをコピーします。 2: 詳細メディア・オブジェクトをコピーします。 3: 見出しおよび詳細メディア・オブジェクトをコピーします。
2. コピーするメディア・オブジェクトの種類	更新した契約にコピーするメディア・オブジェクトを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: 内部および外部のコメントをコピーします。

- 1: 内部のコメントをコピーします。
- 2: 外部のコメントをコピーします。
3. 税情報

更新した契約での税情報の生成方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: オリジナルの契約から更新後の契約に税情報をコピーします。

 - 1: サイトから税率を取得します。また、顧客の説明コードが取得されます。
4. 割引情報のコピー

更新した契約と割引情報を使用してメディア・オブジェクトをコピーするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: コピーする

 - 1: コピーしない
5. 顧客の通貨

更新した契約での顧客通貨の生成方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: オリジナルの契約から顧客の通貨をコピーします。

 - 1: 顧客マスターに指定された顧客の通貨を使用します。
6. 伝票タイプ

更新した契約での伝票タイプの生成方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: オリジナルの契約から伝票タイプをコピーします。

 - 1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定された伝票タイプを使用します。
7. キー会社

更新した契約でのキー会社の生成方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: オリジナルの契約からキー会社をコピーします。

 - 1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定されたキー会社を使用します。
8. 見出しビジネスユニット

更新した契約での見出しビジネスユニットの生成方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: オリジナルの契約から見出しビジネスユニットをコピーします。

 - 1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定された見出しビジネスユニットを使用します。
9. 行記述

更新した契約での行記述の生成方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: オリジナルの契約の行記述をコピーします。

 - 1: P1721 (契約の改訂) の処理オプションから行記述を取得します。

サービス契約明細の更新レポートの確認

「契約定期処理」メニュー (G1724) から、「サービス契約明細の更新」を選択します。

このレポートでは、契約の明細行情報を確認できます。明細行で契約情報を更新できます。最新の契約に新しい明細行を追加する必要があるかどうかを確認できます。

サービス契約明細の更新プログラム(R1735)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、サービス契約明細の更新のデフォルト値を指定します。

レポート・オプション

契約明細の更新に使用するオプションを指定します。

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1. 更新オプション | <p>契約の更新方法を指定します。値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 明細行に新しい契約を作成します。 2: 契約の新しいバージョンを作成します。 3: 更新する契約に新しい行を追加します。 4: 更新する契約の最新バージョンに明細行を追加します。 5: 特定の契約番号およびバージョン番号に明細行を追加します。 |
| 2. 契約番号(特定の契約番号に更新する場合) | 更新する契約番号を指定します。 |
| 3. バージョン番号(特定の契約番号に更新する場合) | 特定の契約番号に更新する場合のバージョンを指定します。 |
| 3. 価格設定オプション | <p>更新した契約の価格設定方法を指定します。値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 既存の価格を使用します。 2: 価格管理を使用して新しい価格を取得します。 3: 割増率を使用して新しい価格を取得します。 |
| 4. 割増率 | <p>割増率を指定します。たとえば、50%の割増率を指定する場合には、「50.0」と入力します。割増により、更新した契約の新しい価格が決まります。</p> <hr/> <p>注意: 処理オプション5に「3」を入力した場合のみ、この処理オプションを使用します。</p> <hr/> |
| 5. 旧契約の契約更新状況 | 更新後に契約に割り当てる状況の値をUDC 17/CO(契約状況)から入力します。 |
| 6. 更新後の契約更新状況 | 新しい契約の状況を表す値をUDC 17/CO(契約状況)から入力します。 |

バージョン

「サービス契約明細の更新」から起動するプログラムのバージョンを指定します。

- | | |
|------------------------------|--|
| 1. 契約の処理(P1720)のバージョン | この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
|------------------------------|--|

処理

実行モード(テスト・モードまたは最終モード)およびエラーの記録場所を指定します。

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 処理モード | <p>契約詳細更新レポートの実行モード(テスト・モードまたは最終モード)を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>空白: テスト・モード</p> |
|-----------------|--|

2. エラーの書込み先
- 1: 最終モード
- エラーの記録場所を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: ワーク・センターにエラーを記録します。
 1: レポートにエラーを記録します。

基本保証

基本保証契約の更新オプションを指定します。

1. 請求行を基本保証レコードで更新する
- 契約更新プロセスで基本保証契約レコードを更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 基本保証契約レコードを更新しません。
 1: 基本保証契約レコードを更新します。
2. 請求行の行タイプ
- 請求行の行タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、P1721(契約の改訂)の処理オプションで設定した行タイプが使用されます。
3. 請求期間
- 更新した契約の請求期間を指定します。
4. 非請求期間
- 更新した契約の非請求期間を指定します。
5. 請求/非請求期間の単位
- 請求/非請求の単位を指定します。この処理オプションをブランクにすると、P1721(契約の改訂)の処理オプションで設定した期間の単位が使用されます。
6. 住所別価格
- 更新した契約に住所別価格を指定します。この処理オプションをブランクにすると、顧客番号が使用されます。
7. 上級価格設定の調整スケジュール
- 更新した契約に上級価格設定の調整スケジュールを指定します。このオプションをブランクにすると、住所番号別価格に従って値が使用されます。

デフォルト

請求のデフォルト値を指定します。

1. 請求開始日
- 契約の明細行に対する請求を開始した日付を指定します。値は次のとおりです。
 1: 旧契約明細行の請求開始日を使用します。
 2: 旧契約明細行の最初の明細行にある請求開始日を使用します。
 3: 新しい契約の開始日を使用します。
 4: 請求開始日を入力します。
2. 請求開始日付(上の処理オプションで4を設定した場合)
- 契約した更新に特定の請求開始日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、現在の日付が使用されます。
3. 請求終了日付
- 契約の明細行に対する請求が終了する日付を指定します。値は次のとおりです。
 1: 旧契約明細行の請求終了日を使用します。
 2: 旧契約明細行の最初の明細行にある請求終了日を使用します。

3: 新しい契約の終了日を使用します。

4: 請求終了日を入力します。

4. 請求終了日付(上の処理オプションで4を設定した場合)

契約した更新に特定の請求終了日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、現在の日付が使用されます。

5. 請求頻度コード

更新した契約に請求頻度コードを指定します。

コピーのデフォルト

更新した契約のコピーを使用するかどうかを指定します。

1. メディア・オブジェクトのコピー

更新された契約にメディア・オブジェクトをコピーするかどうかを指定します。新規契約を作成するか、契約更新時に新しいバージョンを割り振る場合にかぎり、見出しメディア・オブジェクトがコピーされます。値は次のとおりです。

ブランク: メディア・オブジェクトをコピーしません。

1: 見出しのヘッダー・オブジェクトをコピーします。

2: 詳細メディア・オブジェクトをコピーします。

3: 見出しおよび詳細メディア・オブジェクトをコピーします。

2. 特定メディア・オブジェクトのコピー

更新した契約にコピーするメディア・オブジェクトを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 内部および外部のコメントをコピーします。

1: 内部のコメントをコピーします。

2: 外部のコメントをコピーします。

3. 税情報

更新した契約での税情報の生成方法を指定します。更新オプションに1および2以外の値を指定すると、見出し税情報は変更されません。値は次のとおりです。

ブランク: オリジナルの契約から更新後の契約に税情報をコピーします。

1: サイトから税率を取得します。また、顧客の説明コードが取得されます。

4. 割引情報を更新済み契約にコピーする

更新した契約と割引情報を使用してメディア・オブジェクトをコピーするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: コピーする

1: コピーしない

5. 顧客通貨

更新した契約での顧客通貨の生成方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オリジナルの契約から顧客の通貨をコピーします。

1: 顧客マスターに指定された顧客の通貨を使用します。

6. 伝票タイプ

更新した契約での伝票タイプの生成方法を指定します。更新オプションに1または2以外の値を指定すると、伝票タイプ見出しは変更されません。値は次のとおりです。

ブランク: オリジナルの契約から伝票タイプをコピーします。

- 1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定された伝票タイプを使用します。
- 7. キー会社** 更新した契約でのキー会社の生成方法を指定します。更新オプションに1または2以外の値を指定すると、キー会社見出しは変更されません。値は次のとおりです。
 ブランク: オリジナルの契約からキー会社をコピーします。
 1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定されたキー会社を使用します。
- 8. 見出しビジネスユニット** 更新した契約での見出しビジネスユニットの生成方法を指定します。更新オプションに1または2以外の値を指定すると、ビジネスユニット見出しは変更されません。値は次のとおりです。
 ブランク: オリジナルの契約から見出しビジネスユニットをコピーします。
 1: 契約の改訂プログラム (P1721) の処理オプションに指定された見出しビジネスユニットを使用します。
- 9. 行記述** 更新した契約での行記述の生成方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: オリジナルの契約の行記述をコピーします。
 1: P1721 (契約の改訂) の処理オプションから行記述を取得します。

サービス契約の解約レポートの確認

「契約定期処理」メニュー (G1724) から、「サービス契約の解約」を選択します。

このオプションで単一契約または複数の契約を解除できます。このプログラムをテスト・モードまたは最終モードで実行すると、レポートが生成されます。ただし、最終モードではシステムが更新されます。

サービス契約の解約プログラム (R1736) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、サービス契約の解約プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

- 1. 解約理由コード (必須)** 契約解除の理由コードを示す値をUDC 17/CN (解約理由コード) から入力します。この処理オプションへの入力は必須です。
- 2. 解約日付** 契約が解除された日付を入力します。この処理オプションをブランクにすると、現在の日付が使用されます。

処理

実行モード (テストまたは最終)、エラーの格納場所および赤伝処理用デフォルト補助元帳を指定します。

- 1. 処理モード** 解約プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: テスト・モード。テーブルを更新しません。
 1: 最終モード。テーブルを更新します。
- 2. ワーク・センターまたはレポート** エラーの記録場所を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: ワーク・センターにエラーを記録します。

3. 赤伝処理用デフォルト補助元帳

1: レポートにエラーを記録します。

補助元帳フィールドのデフォルト値を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: デフォルトなし

1: 契約番号

2: 顧客番号

3: サイト番号

4: 略式品目番号

第 6 章

作業オーダーの管理

この章では、作業オーダー管理の概要と次の方法について説明します。

- 作業オーダーの設定
- サービス管理ワークベンチ・プログラム (P90CD020) による作業オーダーの作成
- 作業オーダーの入力プログラム (P48201/P17714) による作業オーダーの作成
- 作業オーダーへの部品の割当
- 作業オーダーへの労務の割当
- 作業オーダーの処理
- 作業オーダーの請求と支払

作業オーダー管理について

電話では解決できない顧客要求には作業オーダーを作成できます。作業オーダーを入力して、顧客側または修理倉庫での作業を要求します。作業オーダーは、設備レコード、在庫品目番号や製品モデルと関連付けられたすべてのサービス情報、修理情報およびイベントの中央データベースとして機能します。作業オーダーにより、倉庫での修理の要求がトラッキングされ、交換部品の出荷がトラッキングされます。大半のサービスはケース・モジュールから開始されますが、修理倉庫で作成される場合もあります。

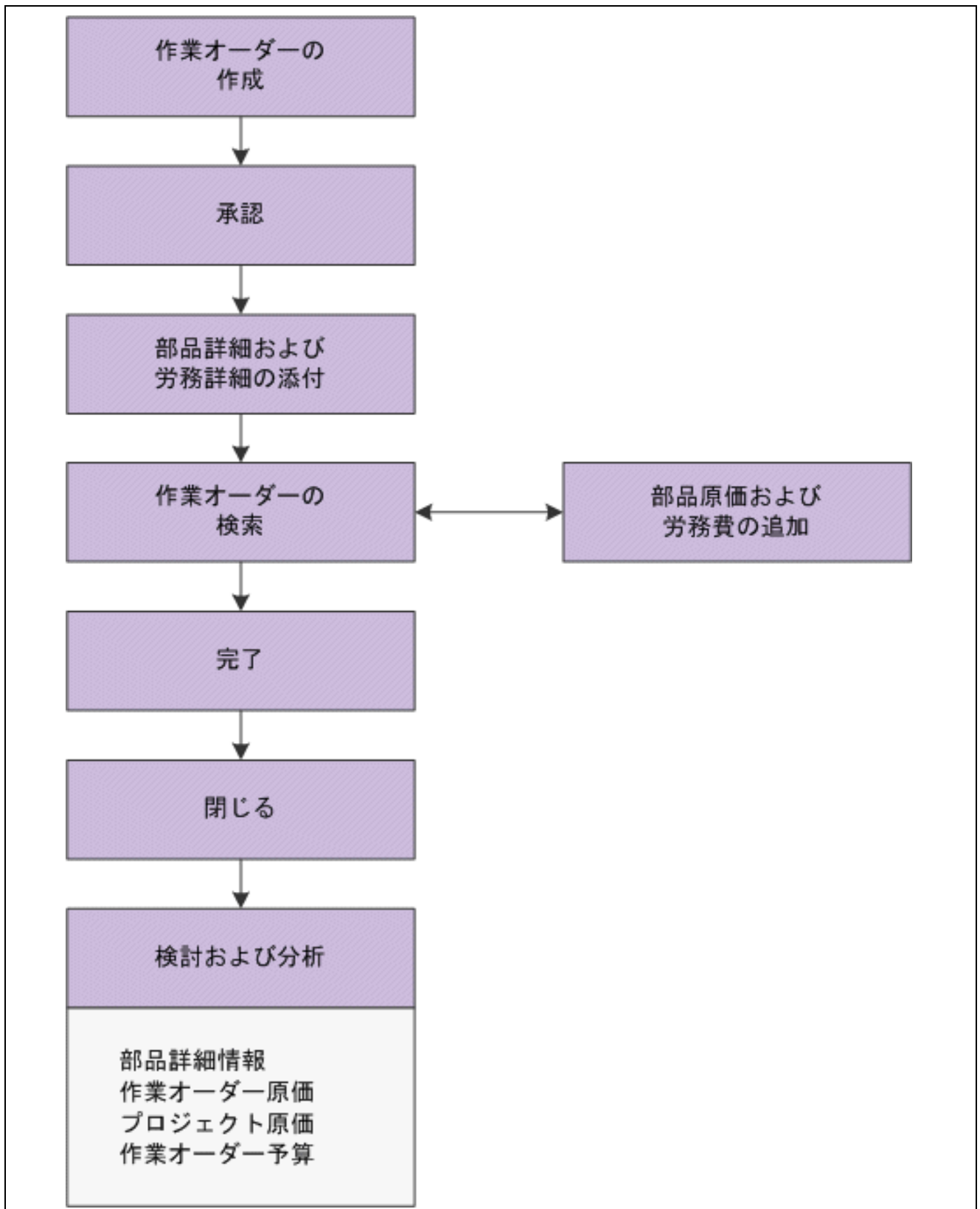
作業オーダーにより、技術者のスケジュール設定から技術者の到着および作業の完了まで、作業に必要なすべてのフェーズをトラッキングし、顧客の問題を解決できます。

また、作業オーダーを使用して、サービス・タスクのワークフローおよびその他のプロジェクトを管理することもできます。次のようなサービス・タスクまたはプロジェクトを全面的に管理できます。

- 予防保全および改良保全の作業オーダーの作成
- 作業オーダーへの在庫品目の引当
- 作業オーダーでの機械関連、電子関連などの複数タスクのスケジュール設定
- 作業オーダーの状況別進捗のトラッキング
- 労務、資材などの作業オーダー原価のトラッキング
- 作業オーダーに関する様々な詳細情報の記録
- 作業オーダーの完了と締め処理

作業オーダー管理のプロセス・フロー

タスクの進捗を正確に伝達するために作業オーダーが通るステップが、作業オーダーのライフサイクルです。作業オーダーがライフサイクルのステップを進むたびに、「状況変更」フォームを表示するよう選択できます。次のフローチャートは、通常の作業オーダーのライフサイクルでの作業オーダーのフローを示しています。



作業オーダー管理のプロセス・フローの例

用語と概念

この章では、次の作業オーダー管理用語および概念が使用されます。

基本保証	設備に関連付けられる保証です。通常、基本保証は設備の購入価格に含まれ、請求できません。
拡張保証	基本保証に定められている条件を超えた設備の性能を対象とする、購入可能な追加の保証です。この保証は請求可能です。
平均故障間隔 (MTBF)	故障間の平均間隔またはイベントです。
平均復旧時間	故障から復旧するまでの平均時間です。
返品承認 (RMA)	仕入先が顧客からの返品に対して払戻、交換または修理を承認することです。仕入先用に、在庫の返品をトラッキングするための承認番号が作成されます。RGA (返品承認) とも呼ばれます。
シリアル番号	品目を特定するための数字または文字。シリアル番号は固定資産マスター・ファイル (F1201) に保存されます。
サービス・パッケージ	契約により顧客に提供されるサービス・サポートを指定する、サービス・タイプと契約適用範囲の組合せです。サービス・パッケージは、保証の種類 (基本または拡張など) も指定します。
サービス住所録番号	設備が存在するサイトの住所録番号です。サイト番号は顧客番号と同じ場合があります。顧客に複数のサイトが存在する場合には、番号が異なる可能性があります。

この章で使用する共通フィールド

実際支払レート	取引に関連付けられた実際支払レートを入力します。
請求 (Y/N)	勘定科目が請求対象かどうかを示す値を入力します。値は次のとおりです。 Y: はい (請求対象) N: いいえ (請求対象ではない) 1: 請求書作成のみの対象 2: 収益認識のみの対象 4: 原価のみの対象

注意: コード1、2および4は、サービス請求管理システムにのみ関連します。

工程能力単位	生産ラインの工程能力を表すために使用する単位を入力します。単位には、時間、スタンピングの回数、塗装回数などがあります。 この項目は繰り返し処理にのみ使用されます。
能力コード	能力タイプ内の能力を指定するコードを入力します。たとえば、能力タイプスキルの能力には、C言語のプログラミングやフォークリフトの運転などがあります。

能力レベル下限	この値により、能力レベル範囲を選択するための規則基準範囲における下限の値が設定されます。
能力レベル上限	この値により、能力レベル範囲を選択するための規則基準範囲における上限の値が設定されます。
能力タイプ	<p>従業員の能力をトラッキングするための能力テーブルまたはカテゴリを識別するコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>01: トレーニング 02: スキル 03: 達成 04: 資格 05: 学歴 06: 言語</p> <p>これらの値はUDC 05/CY(能力タイプ)に保存されていますが、ハードコード化されているため、変更できません。このため、トラッキングする各能力は、前述の能力タイプのいずれかに関係している必要があります。このリストに値を追加するには、システムのカスタマイズが必要です。</p>
原価タイプ	<p>品目の原価要素を指定するコードを入力します。コスト・オブジェクト・タイプの例は次のとおりです。</p> <p>A1: 購買原材料 B1: 作業工程直接労務費積上げ B2: 作業工程段取労務費積上げ C1: 作業工程変動間接費積上げ C2: 作業工程固定間接費積上げ Dx: 作業工程外注費積上げ Xx: 光熱費や水道代などの追加間接費</p> <p>通常、その他費用の計算にはタイプXx(追加費用)を使用します。この原価構造により、必要な数の原価要素を使用して別の原価積上げを計算できます。この原価要素は、ユーザー定義の6つの集計原価バケットのうちの1つと関連付けられます。</p>
保証グループ	保証グループを表すユーザー定義コードを入力します。保証グループは、制限のない原価コードおよび原価コードごとの補償%で構成されています。
資格チェック	<p>資格チェックの結果を示す値をUDC 17/ER(資格チェック)から入力します。値は次のとおりです。</p> <p>0: 対象ではありません。 1: 取引が対象です。 2: 契約が検出されましたが、サービス・タイプがありません。 3: 契約が検出されましたが、日時が割り当てられていません。 4: デフォルトの保証に含まれています。</p>
見積請求レート	サービスに関連付けられている見積請求レートを入力します。

見積支払レート	取引に関連付けられている見積支払レートです。
見積支払金額	サービス請求で使用される見積支払金額です。
均一料金	<p>特定のサービス・タイプが均一料金と実際のタイム・アンド・マテリアルのどちらに基づいて価格設定されるのかを指定するのに使用されるコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>F: 労務費は均一料金に基づいています。部品代は均一料金にすでに含まれています。</p> <p>T: 労務費は実労務時間に基づいています。部品代は実際に使用した部品に基づいています。</p> <p>ブランク: サービス業者の価格設定方式を定義する場合のみ、ブランクが有効になります。この値は、サービス業者が内部のサービス業者であり、支払が発生しないことを示すために使用されます。</p> <p>価格設定方法に均一料金を使用する場合は、労務ステップを作業オーダーに関連付ける必要があります。</p>
規則照合	<p>規則基準を定義する条件をリソースが満たす必要があるかどうかを示します。値は次のとおりです。</p> <p>1: 規則基準を満たす必要があります。</p> <p>0: 規則基準を必ずしも満たす必要はありません。</p>
メッセージNo.	標準のメモ、メッセージ、または一般的説明に割り当てられている汎用レートおよびメッセージ・コード(48/SN)を入力します。このコードを使用して、作業オーダーに指示情報を追加できます。このフィールドに対するコードの設定は、汎用メッセージ/レート・タイプ・テーブル(F00191)で行います。
作業状況	UDC 31/OS(作業状況)から、現在の作業オーダー状況または設計変更オーダー状況を示す値を入力します。この値は作業工程の作業ステップ完了時に入力します。
作業順序No.	<p>作業順序を示す番号を入力します。</p> <p>作業工程指示では、品目の製造における加工や組立のステップの順序を指定する番号です。作業別に原価をトラッキングして時間を請求できます。</p> <p>部品表では、製造または組立処理で指定の構成部品を必要とする作業工程ステップを指定する番号になります。品目の作業工程指示を作成してから、作業順序を定義します。製造現場管理システムでは、作業プロセス別にバックフラッシュまたはプレフラッシュでこの番号が使用されます。</p> <p>設計変更オーダーでは、設計変更での組立ステップの作業順序を指定する番号です。</p> <p>繰返し生産では、品目の製造スケジュールでの作業順序を示す番号です。</p> <p>スキップ先フィールドには、最初に表示する作業順序を入力します。</p> <p>小数を使用すると、既存のステップ間にステップを追加できます。たとえば、ステップ12と13の間にステップを追加するには12.5を使用します。</p>
支払価格設定	特定のサービス・タイプが均一料金と実際のタイム・アンド・マテリアルのどちらに基づいて価格設定されるのかを指定するのに使用されるコードを入力します。

値は次のとおりです。

F: 均一料金。労務費は均一料金に基づいています。部品代は均一料金にすでに含まれています。

T: タイム・アンド・マテリアル。労務費は実労務時間に基づいています。部品代は実際に使用した部品に基づいています。

ブランク: なし。ブランク値は、サービス業者に価格設定方法を定義した場合にのみ有効です。この値は、サービス業者が内部のサービス業者であり、支払が発生しないことを示すために使用されます。

支払調整スケジュール

UDC 40/AS(スケジュール名)から価格調整スケジュールを識別する値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。顧客請求指示を使用して、価格調整スケジュールに顧客を関連付けます。受注オーダーを入力すると、販売先住所に添付されたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時変更できます。

請求可能(Y/N)

勘定科目が支払の対象かどうかを指定する値を入力します。値は次のとおりです。

Y: 支払の対象です。

N: 支払の対象ではありません。

オーバーラップ%

後続の作業がオーバーラップできる割合を%で入力します。

作業順序に対して入力された実際のオーバーラップ率は、当該作業が前の作業にオーバーラップする割合(%)を示します。たとえば、80%と入力した場合は、前の作業が20%完了した時点で、オーバーラップする作業を開始することになります。

注意: オーバーラップは、移動時間と待ち時間の計算に影響しません。入力する割合は、100%以下にする必要があります。

パーセントは整数で入力してください。たとえば、5%の場合は「5.00」と入力します。

補償%

保証または契約下での補償率を入力します。この値は、サービス・オーダーまたはコールで処理される行品目の請求額または原価を計算する場合に使用されます。

出来高給

製造される構成品の種類に対して支払われるレートです。

標準機械稼働

この品目の通常の製造に必要な標準の機械稼働時間数を入力します。

作業員数

指定の作業場または工程作業で作業を行う人数を入力します。

原価計算では、作業工程マスター(F3003)の実労務時間の値に、作業員数を掛けて合計労務費を計算します。

負荷基準コードがLまたはBの場合は、この合計労務時間に基づいて逆算スケジュールが行われます。負荷基準コードがCまたはMの場合は、この合計機械時間に基づいて、作業員数による修正をせずに逆算スケジュールが行われます。

補助科目

主科目の中の区分を入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。

注意: 任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

タイム・アンド・マテリアル

サービス・タイプが均一料金と実際のタイム・アンド・マテリアルのどちらに基づいて価格設定されるのかを指定するのに使用されるコードを入力します。値は次のとおりです。

F: 労務費は均一料金に基づいています。部品代は均一料金にすでに含まれています。

T: 労務費は実労務時間に基づいています。部品代は実際に使用した部品に基づいています。

ブランク: サービス業者の価格設定方式を定義する場合のみ、ブランクが有効になります。この値は、サービス業者が内部のサービス業者であり、支払が発生しないことを示すために使用されます。

価格設定にタイム・アンド・マテリアルを使用する場合は、部品と労務の両方が価格設定されます。

「均一料金」および「タイム・アンド・マテリアル」フィールドの値は、作業オーダーのサービスの種類に基づいたサービス契約のサービス・パッケージの値から取得されます。

システムにより、サービス住所録番号に基づいて、税率/税域情報が取得されます。税率/税域情報は、顧客の場所ではなく、作業が完了する場所に基づきます。

作業オーダーの設定

この項では、AAI(自動仕訳)に関連した作業オーダーの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 作業オーダー固定情報の設定
- 作業オーダー履歴の設定
- 作業オーダー履歴の処理プログラム(P17715)の処理オプションの設定
- 作業オーダーへの処理規則の添付

Web上で作業オーダーを入力し確認するには、Web環境の一部となるすべてのアプリケーションのオプションを処理する際に、カスタマ・セルフサービス機能を有効にする必要があります。

作業オーダー関連AAIについて

作業オーダーに対して請求および支払を実行し、ビジネス・トランザクションを適切に処理するには、勘定科目構造および特定の勘定科目値に関する情報を特定する必要があります。勘定科目構造および値は、AAIを使用して定義します。AAI値は、流通/製造AAI値テーブル(F4095)に保存されます。プログラムは会計機能を実行するたびに、このテーブルにアクセスします。

AAIを定義する場合は、様々なプログラムの取引の処理方法を設定します。流通および製造AAIでは、サービス管理システムと総勘定元帳とを連動させる規則を定義します。会計AAIでは、サービス管理と売掛管理システムとを連動させる規則を定義します。

作業オーダー関連の流通AAIは次のとおりです。

- 1742: 作業オーダー(請求)
- 1782: 作業オーダー請求(支払)

キー・フィールドに従って、請求明細ワークファイル(F4812)でエントリを作成するときに使用される勘定科目が取得されます。キー・フィールドは次のとおりです。

- 会社
- 伝票タイプ
- 元帳クラス・コード
- 原価タイプ

これらのキー・フィールドに従って、次の情報を使用して仕訳が作成されます。

- 事業所
- 主科目
- 補助科目

作業オーダーから会社、伝票タイプ、元帳クラス・コード、および原価タイプが取得されます。4つのアスタリスク(****)を元帳クラス・コードの流通AAIに入力すると、元帳クラス・コードは無視され、会社、伝票タイプ、および原価タイプが使用されます。

AAIのビジネスユニットが空白の場合、「担当ビジネスユニット」フィールドで指定されている値に基づいて、担当ビジネスユニットが検索されます。これは、サービス/保証管理(SWM)固定情報の「作業オーダー」タブにあります。

作業オーダーの元帳クラス・コードの階層

次の階層に従って、元帳カテゴリ・コードが特定されます。

- 作業オーダーのサービス・タイプに基づいて、サービス契約サービス・テーブル(F1725)内の保証内元帳コードと保証外元帳コードが参照されます。
- 保証内元帳コードは、契約に含まれる金額の適切な流通AAIの検索に使用されます。
- 保証外の元帳コードは、契約に含まれない金額の適切な流通AAIの検索に使用されます。
- サービス契約サービス・テーブルの元帳コード(保証内および保証外)が空白の場合は、4つのアスタリスクのワイルドカード(****)で設定されるAAIが使用されます。

会社、伝票タイプ、元帳コード、および原価タイプに従って、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)でエントリを作成するときに使用される収益勘定または経費勘定が取得されます。

4つのアスタリスク(****)が元帳クラス・コードの流通AAIに入力された場合は、元帳クラス・コードは無視され、会社、伝票タイプ、および原価タイプが使用されます。

作業オーダーの担当ビジネスユニットの階層

AAIのビジネスユニットが空白の場合、「担当ビジネスユニット」フィールドで指定されている値に基づいて、担当ビジネスユニットが特定されます。これは、SWM固定情報の「作業オーダー」タブにあります。

SWM固定情報で、担当ビジネスユニットを検索する次のオプションのうち1つを選択します。

オプション	内容
事業所品目マスター・サービス/保証 (F41171)	<p>作業オーダーの事業所情報および品目番号を使用して、事業所品目マスター・サービス/保証テーブル (F41171) 内の担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブル内にビジネスユニットがない場合、作成された仕訳内のビジネスユニットが使用されます。</p>
品目マスター・サービス/保証 (F4117)	<p>作業オーダーの品目番号を使用して、品目マスター・サービス/保証テーブル (F4117) 内の担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブル内にビジネスユニットがない場合、作成された仕訳内のビジネスユニットが使用されます。</p>
製品ファミリ/モデル・マスター (F1790)	<p>作業オーダー明細行の製品モデルを使用して、製品ファミリ/モデル・マスター (F1790) 内の担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブル内にビジネスユニットがない場合、作成された仕訳内のビジネスユニットが使用されます。</p>
固定資産マスター・ファイル (F1201)	<p>作業オーダー明細行の設備番号を使用して、固定資産マスター・ファイル (F1201) 内の担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブル内にビジネスユニットがない場合、作成された仕訳内のビジネスユニットが使用されます。</p>
業種別顧客マスター (F0301)	<p>作業オーダー明細行の顧客番号を使用して、業種別顧客マスター (F0301) 内の担当ビジネスユニットが検索されます。</p> <p>テーブル内に顧客のビジネスユニットがない場合、作成された仕訳内のビジネスユニットが使用されます。</p>

注意: ビジネスユニット・マスター (F0006) 内の担当ビジネスユニットにプロジェクト・ビジネスユニットを割り当てている場合は、勘定科目のビジネスユニットとして、プロジェクト・ビジネスユニットが使用されます。

参照: 第 3 章、「サービス管理の設定」、「AAIの設定」、33ページ

作業オーダーの設定について

作業オーダー管理の機能を使用する前に、収益性分析に必要な情報を定義する必要があります。また、システム全体でデータを入力するときに使用する情報を指定します。

また、作業オーダー管理のUDCを設定する必要もあります。

作業オーダー固定情報

システム全体に適用するデフォルト情報を定義するには、システムの固定情報を設定します。固定情報により、トラッキングする情報のタイプと特定の計算に使用される規則を定義します。

作業オーダー履歴

作業オーダー履歴を設定して、顧客および設備ごとに作業オーダー状況の情報をトラッキングします。また、作業オーダーによって参照される設備が作成されないように、履歴を設定できます。これらのプログラムにより、作業オーダー入力プログラム内のリンクの表示を制御して、以前の顧客や製品ケースが示されます。

デフォルトの日付と状況コードが、オプションの処理によって定義されます。デフォルトの情報は、新しい日付および状況を入力することで、上書きできます。作業オーダー入力フォーム上部にリンクが表示され、既存の顧客および製品履歴が警告されます。リンクをクリックすると、詳細情報が表示されます。

作業オーダー履歴 - 顧客(または設備)プログラム(P17715)の処理オプションにアクセスして、作業オーダー履歴の設定方法を指定します。

作業オーダー処理規則

作業オーダーが通る状況またはステップを指定する規則を設定できます。また、作業オーダーのライフサイクル内で特定の状況で開始される次のようなイベントを指定することもできます。

- 保全状況の更新
- 作業オーダーのロック
- 作業オーダーの「補助元帳非アクティブ・コード」フィールドの入力

作業オーダー処理規則を添付して、状況フローを定義し、状況で指定された次のステップを示します。次のステップに進む前に、「次の状況」フィールドに次の状況を入力する必要があります。次の状況が入力されない場合は、作業オーダーは完了したとみなされます。状況コードを完了した状況の改訂明細に添付する場合は、作業オーダーを再開できます。

作業オーダーの承認

作業オーダーのライフサイクルの様々なタイミングで、作業オーダーの承認の責任者を指定できます。承認経路を使用して、様々な承認経路を作成します。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「作業オーダーの設定」メニュー(G1742)から伝票タイプの保守管理プログラム(P40040)を実行し、作業オーダーの伝票タイプを設定します。

参照: 第 3 章、「サービス管理の設定」、「伝票タイプ情報の設定」、37 ページ

- 各伝票タイプで、「作業オーダー」フィールドに1を入力します。

この値により、サービス契約に基づいて請求および原価金額が様々な勘定科目に分割されます。

サービス管理での作業オーダーの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
「S/WMシステム固定情報の改訂」フォーム	W17001C	「サービス/ワランティ管理のセットアップ」メニュー (G1740)、「サービス/ワランティ管理の固定情報」 「作業オーダー」タブを選択します。	作業オーダー固定情報を設定します。
顧客(または設備) - 作業オーダー履歴の処理	W17715A	「作業オーダーの設定」 (G1742)、「作業オーダー履歴 - 顧客」(または「作業オーダー履歴 - 設備」)	顧客または設備で作業オーダーを検索し、履歴を確認します。
作業オーダー処理規則	W4826D	「作業オーダー日次処理」メニュー (G1712)、「作業オーダー入力」 「作業オーダーの処理」フォームで処理規則を添付する作業オーダーを検索して選択します。 「ロー」メニューから「補足」を選択し、「作業オーダー処理順序定義」を選択します。	作業オーダーに処理規則を添付します。

作業オーダー固定情報の設定

「S/WMシステム固定情報の改訂」フォームにアクセスします。

サービス/ワランティ管理の固定情報 - S/WMシステム固定情報の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

タブを選択: 3-作業オーダー

デフォルト

サービス・グループ検索タイプ *	SVQ	サービスオーダー待ち行列
担当ビジネスユニットのロケーション	1	在庫(F4117/F41171)
エスカレーション用メッセージ・サービス・グループ		
エスカレーション用メールボックス		
サービス・オーダー資格トリガー	4	設備No.

固定情報

☐ 人名録への登録を必須にする

☒ 基本価格を使用する

☐ 設備作業オーダーのソリューション・アドバイザーを使用する

☐ サービス作業オーダーのソリューション・アドバイザーを使用する

「S/WMシステム固定情報の改訂」フォーム: 「作業オーダー」タブ

サービス・グループ検索タイプ

仕入先、顧客または従業員などの名前やメッセージを検索するときに選択される住所録レコードの値を特定する値を、UDC 01/ST(検索タイプ)から入力します。

担当ビジネスユニットのロケーション

担当ビジネスユニット(作業オーダーの請求先となるビジネスユニット)を取得するテーブルのコードを入力します。

作業オーダーを追加する場合、ビジネスユニットのデフォルト値は、定数値に基づきます。たとえば、ビジネスユニットのデフォルト値が、設備番号に基づいている場合、設備マスター拡張テーブル(F1217)から担当ビジネスユニットの値が取得されます。

デフォルト値は1です。値は次のとおりです。

- 1: 品目マスター - サービス/保証テーブル(F4117)および事業所品目マスター - サービス/保証テーブル(F41171)
- 2: 製品ファミリ/モデル・マスター(F1790)
- 3: 設備マスター拡張テーブル(F1217)
- 4: 住所録マスター(F0101)
- 5: サービス/ワランティ管理の行タイプの固定情報テーブル(F1793)
- 6: S/WM顧客番号(F1797)

エスカレーション用メールボックス

UDC 02/MB(電子メールボックス)から、メッセージの配信に使用するサービス・グループのメールボックスを指定する値を入力します。

サービス・オーダー資格トリガー	UDC 17/ET(資格チェック・トリガー)から、作業オーダーの入力時に資格チェックをトリガーするフィールドを指定する値を入力します。
人名録への登録を必須にする	<p>作業オーダーの顧客に人名録レコードを含めるかどうかを指定するオプションを入力します。このオプションを有効化すると、作業オーダーの顧客およびすべての追加契約が住所録 - 人名録テーブル(F0111)にあるかぎり、作業オーダーを追加できません。</p> <p>ウィンドウで顧客番号を選択する必要があります。人名録レコードに関連付けられている略式識別番号が返されます。</p>
基本価格を使用する	このオプションを選択して、上級価格設定から作業オーダーを価格設定する際に、基本価格を使用するかどうかを指定します。このオプションを有効にすると、基本価格が使用されます。
設備作業オーダーのソリューション・アドバイザを使用する	CAM - 設備作業オーダーの管理プログラム(P13714)に適用されます。P17714はこの固定情報を参照しません。
サービス作業オーダーのソリューション・アドバイザを使用する	<p>このオプションを選択して、JD Edwards EnterpriseOneソリューション・アドバイザを使用して、サービス作業オーダーの問題に対する解決方法を検索および保全するかどうか指定します。このオプションを有効にしない場合、問題分析が使用されます。</p> <p>サービス管理ワークベンチ・プログラム(P90CD020)が適用されます。P17714はこの固定情報を参照しません。</p>

作業オーダー履歴の設定

次のいずれかのナビゲーションを使用して、P17715処理オプションにアクセスします。

- ・「作業オーダーの設定」(G1742)、「作業オーダー履歴 - 設備」を選択します。
- ・「作業オーダーの設定」(G1742)、「作業オーダー履歴 - 顧客」を選択します。

作業オーダー履歴の処理プログラム(P17715)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、作業オーダー履歴の処理プログラムのデフォルト値を指定します。

これらの処理オプションに対して入力した値により、既存の作業オーダーが在庫品目番号、製品モデル、設備番号または顧客番号に関連付けられる場合に、必要に応じてリンクが表示されるかどうかが決まります。

まず、選択範囲の基準を定義する作業オーダーの状況を入力する必要があります。次に、表示する履歴の日数を定義します。たとえば、30日と入力した場合、作業オーダーが状況の範囲内にあり、システム日付より前の30日間に入力されていれば、製品または顧客のリンクが表示されます。

処理

作業オーダー履歴のデフォルト値を指定します。

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1. 履歴の開始状況 | 表示する作業オーダー状況の範囲で、開始状況を指定します。 |
| 2. 履歴の終了状況 | 表示する作業オーダー状況の範囲で、終了状況を指定します。 |
| 3. 表示するサービスオーダー履歴の日数 | 表示する作業オーダーの作成日の範囲を指定します。このオプションにより、「作成開始日付」フィールドの値が計算されます。 |

4. 作業オーダー・タイプ

UDC 00/TY (作業オーダー/ECOタイプ) から、表示する作業オーダーのタイプを指定する値を入力します。
5. 修理開始日付

作業オーダーの修理日の範囲に対して、修理開始日を指定します。
6. 修理終了日付

作業オーダーの修理日の範囲に対して、修理終了日を指定します。

作業オーダーへの処理規則の添付

「作業オーダー処理規則」フォームにアクセスします。

作業オーダー入力 - 作業オーダー処理規則

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

オーダー・タイプ

SV

基本保証サービス

作業オーダー・タイプ

Y

現場修理

レコード 1 - 11

グリッドのカスタマイズ

	作業オーダー 状況	作業オーダー状況 記述	次 状況	使用可能 状況1	使用可能 状況2	使用可能 状況3	使用可能 状況4	使用可能 状況5	補助元帳 無効	保 持
<input type="checkbox"/>	M	保守作業要求	M*	MA	MR					
<input type="checkbox"/>	M*	MWO管理職承認待ち	MA	ME	MG	MI	MR			
<input type="checkbox"/>	MA	MWO承認済み	MB	MD	ME	MI	MM			
<input type="checkbox"/>	MB	MWO資材出庫済み	MG	MH	MJ	MM				
<input type="checkbox"/>	MC	作業オーダー - 計画中	ME	MF	MG	MI	MJ	MM		
<input type="checkbox"/>	MD	WVO工場非移動中	ME	MF	MG	MI	MJ	MM		
<input type="checkbox"/>	ME	部品待ち作業オーダー	MF	MG	MH	MJ	MM			
<input type="checkbox"/>	MF	作業オーダー - 部品処理準備済	MG	MH	MJ					
<input type="checkbox"/>	MG	作業オーダー - スケジュール準備済	MH	MJ						
<input type="checkbox"/>	MH	作業オーダー - 発行済	MJ							
<input type="checkbox"/>										

「作業オーダー処理規則」フォーム

- 作業オーダー状況

UDC 00/SS (作業オーダー状況) から、作業オーダー、レート・スケジュール、または設計変更オーダー (ECO) の状況を示す値を入力します。状況が90から99までの値に変更されると、完了日付が自動更新されます。
- 作業オーダー状況記述

ユーザー定義の名前または備考を入力します。
- 次状況

作業オーダーが承認経路に従い処理されているときに、作業オーダーの次の状況を、作業オーダー処理規則に基づいて表示します。

作業オーダー処理規則テーブルに作業オーダーの状況コードを定義しておかないと、次の状況コードとして使用することはできません。
- 使用可能状況1

(オプション) オーダー処理の次のステップとして割り当てられる状況を示します。これは優先される次のステップや予期される次のステップではありませんが、この状況は変更可能です。期待される次の状況か使用可能状況いずれかとして定義されていないオーダー行ステップまたは状況は開始できません。その他の許可状況コードでは、処理ステップを省略できます。多くの場合、処理オプションでは、これらのコードは一時変更用次状況コードと呼ばれます。

作業オーダー処理規則テーブルに作業オーダーの状況コードを定義しておかないと、次の状況または使用可能状況として使用することはできません。

保全状況	UDC 12/MS (保全状況) から、設備の保全状況を示す値を入力します。たとえば、保守期日は50、部品待ちは60を入力します。
	注意: 状況コード98は、取消済の保全用に予約されています。状況コード99は、完了済の保全用に予約されています。状況コード01 (デフォルト) は、保全の初期設定用に予約されています。
補助元帳無効	<p>特定の補助元帳を非アクティブに指定するには、このオプションを選択します。非アクティブな補助元帳の例としては、完了した作業、退職した従業員、処分した資産などがあげられます。</p> <p>補助元帳を非アクティブに指定するには、このオプションを選択します。補助元帳が再びアクティブになった場合は、このオプションの選択を解除します。</p> <p>テーブル内の補助元帳の情報をレポートに使用する必要がある場合に、トランザクションが勘定残高テーブル (F0902) のレコードに転記されないようにするには、このオプションを選択します。</p>
ロック・フラグ	<p>特定の状況で作業オーダーを変更するかどうかを決定するコードを入力します。ロックにより、作業オーダー・マスター (F4801) と作業オーダー指示 (F4802) の両方で、レコードが適用されます。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 作業オーダーをロックしない</p> <ol style="list-style-type: none">1: 作業オーダーをロックする2: 完了日に作業オーダーをロックする3: 完了日に作業オーダーをロックしない4: 作業オーダー、部品リスト、および作業工程をロックする5: 作業オーダー、部品リスト、および作業工程を完了日にロックする6: オーダー・タイプおよび作業オーダー・タイプのみをロックする

サービス管理ワークベンチ・プログラム (P90CD020) を使用した作業オーダーの作成

この項では、作業オーダーとサービス管理ワークベンチ、事前設定、および次の方法について説明します。

- ワークベンチを使用して作業オーダーの入力
- サービス管理ワークベンチ・プログラム (P90CD020) の処理オプションの設定
- CRM - サービス・オーダーの管理プログラム (P90CD002) の処理オプションの設定

作業オーダーについて

作業オーダーを作成して、緊急修理などの改良保全を正式に要求してスケジュール設定し、保全作業に関するすべての詳細情報を記録および伝達します。作業オーダーを作成する状況は次のとおりです。

- 設備を修理するために必要な部品および労務を請求する必要がある
- 問題の製品を修理する場所に技術者を派遣する必要がある

- ・ サービス業者を使用して問題を解決し、支払伝票を作成する必要がある

保証の範囲に含まれる設備の作業オーダーを作成できます。保証範囲内の設備の作業オーダーを作成する場合、保証が有効であるかどうかを警告するメッセージが表示されます。保証の予防保全 (PM) サービス・タイプを作成して、設備が保証の対象であることを示します。

作業オーダーには、作業オーダー番号、説明、作業オーダーの担当のビジネスユニットなどの詳細情報が含まれます。作業オーダーを特定するために、カテゴリ・コードなどの追加情報を入力できます。作業オーダーにレコード・タイプを割り当て、各レコード・タイプに詳細情報を入力して、タスクの重要情報を関係者に伝達することができます。たとえば、特殊指示、およびタスクを完了するために必要な部品や工具に関する情報を入力します。

また、標準部品リストから部品をコピーしたり、カスタム部品を作業オーダーに割り当てすることもできます。作業オーダーに詳細な従業員の作業工程指示を割り当てすることもできます。たとえば、次のようにできます。

- ・ タスクの実行に必要な各作業場を特定します。
- ・ タスクの処理順序を指定します。
- ・ 各タスクの予想時間を指示します。

次のような特徴がない場合は、システムから作業オーダーを削除することもできます。

- ・ 親の作業オーダーとして使用されている
- ・ 取引明細レコードが関連付けられている
- ・ 部品リストまたは作業工程が添付されている

作業オーダーを入力するときに、作業オーダー・マスター (F4801) にレコードが作成され、サービス管理作業オーダーに関連する情報を格納する拡張テーブル、作業オーダー・マスター・タグ・テーブル (F4801T) が作成されます。

サービス管理ワークベンチについて

サービス管理ワークベンチは、有用性とナビゲーションを向上するインターフェイスが提供されます。部品や労務と同様、「ロー」メニューを個別に使用してプログラムにアクセスせずに、サービス・オーダーを追加および改訂できます。プログラムはタブから使用でき、詳細リンクは、「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームから使用できます。

組織がスクリプトを使用している場合、スクリプト・ランタイム・プログラム (P90CF180) を使用して、作業オーダーの解決方法を検索できるスクリプトにアクセスします。スクリプトとは、事前に定義された問題やステートメントのセットで、特定のオーダーに組み込まれており、対応者からの情報の収集に使用されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management サポート・アプリケーション 9.0 製品ガイド、「ソリューション・アドバイザの設定」

参照: JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management サポート・アプリケーション 9.0 製品ガイド、「スクリプトの設定および管理」

事前設定

作業オーダーを入力する前に、次の作業を行ってください。

- ・ 事業所を作成します。
- ・ 作業オーダー入力者の住所録SWMサービス業者情報を設定します。
- ・ 作業オーダー処理規則を設定します。

参照: 第 3 章、「サービス管理の設定」、「サービス管理でのサービス業者の設定」、28ページ

作業オーダーの入力に使用するフォーム (P90CD020)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サービス作業オーダーの検索	W90CD020B	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「サービス管理ワークベンチ」	作業オーダーを検索または追加します。
作業オーダーの追加	W90CD002A	「サービス作業オーダーの検索」フォームの「追加」をクリックして、作業オーダーを作成します。	サービス作業オーダーを追加します。
サービス作業オーダー - 管理 <作業オーダー記述>	W90CD002B	次のいずれかのオプションを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> 「作業オーダーの追加」フォームで「保存して続行」をクリックし、作業オーダーを続行し、追加の変更を行って、部品および労務の追加を開始します。 「作業オーダーの追加」フォームで「保存して終了」をクリックして、作業オーダーを保存して「サービス作業オーダーの検索」フォームに戻ります。 「サービス作業オーダーの検索」フォームで作業オーダーを選択して、「選択」をクリックして、作業オーダー情報を表示または改訂します。 	作業オーダーを入力、表示または改訂します。 「オーダー詳細」、「計画」、「分類」、「会計」または「添付」タブを選択します。
サービス作業オーダー - 関連リンク <作業オーダー記述>	W90CD002C	「サービス作業オーダー - 管理 <作業オーダー記述>」フォームの「関連リンク」詳細リンクを選択します。	次のリンクで作業オーダー情報を保守または表示できます。 <ul style="list-style-type: none"> 作業オーダー 顧客 設備 関連オーダー
作業オーダー履歴の処理	W17715A	「サービス作業オーダー - 管理 <作業オーダー記述>」フォームの「設備履歴」詳細リンクを選択します。	作業オーダーの設備履歴を表示または改訂します。
サービス作業オーダー部品 - 管理 <作業オーダー記述>	W90CD015A	「サービス作業オーダー - 管理 <作業オーダー記述>」フォームの「部品」タブを選択します。	作業オーダーの部品詳細を表示または改訂します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
サービス作業オーダー 労務 - 管理<作業オーダー記述>	W90CD018A	「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「労務」タブを選択します。	作業オーダーの労務詳細を表示または改訂します。
サービス作業オーダー・ソリューション - 管理<作業オーダー記述>	W90CD017A	「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「ソリューション」タブを選択します。	作業オーダーのソリューションを表示、改訂または割り当てます。 注意: これらのソリューション項目は、ソリューション・アドバイザーを使用している場合のみ使用できます。そうでない場合は、アクセスできません。
サービス作業オーダー・ソリューション - 管理<作業オーダー記述>、よく使用される	W90CD017B	「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「よく使用される」リンクを選択します。	作業オーダーのよく使用されるソリューションを検索し、必要に応じて作業オーダーにソリューションを割り当てます。
サービス作業オーダー・ソリューション - 管理<作業オーダー記述>、検索	W90CD017C	「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「検索」リンクを選択します。	作業オーダーの類似したソリューションを検索します。
サービス作業オーダー・ソリューション - 管理<作業オーダー記述>、新規作成	W90CD017D	「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「新規作成」リンクを選択します。	新規の作業オーダー・ソリューションを作成し、ソリューション・データベースに追加します。
サービス作業オーダー 状況履歴 - 管理<作業オーダー記述>	W90CD003B	「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「状況履歴」タブを選択します。	作業オーダーの状況履歴を表示します。
サービス作業オーダー 関連処理 - 管理<作業オーダー記述>	W90CD019A	「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「関連処理」タブを選択します。	作業オーダーとスクリプトを関連付けます。

ワークベンチを使用した作業オーダーの入力

「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームにアクセスします。

サービス管理ワークベンチ - サービス作業オーダー - 管理 Red lights blinking (451282/SE) i ?

サービス作業オーダー | 部品 | 労務 | 状況履歴 | 関連処理

詳細 | [関連リンク](#) | [顧客履歴](#)

変更の保存(V) | 変更を元に戻す(U) | 閉じる(L) | 資格: [検証済み](#)

オーダーNo.	451282	SE	タイプ	Y	現場修理
ケースNo.			顧客No.	4242	
設備No.	31430		サイトNo.	4242	
事業所 *	M30		製品モデル	C200	
在庫品目No.	7101		製品ファミリー		
記述	Red lights blinking				
問題記述	RED LIGHTS BLINKING				

オーダー詳細 | 計画 | 分類 | 会計 | 添付

連絡先情報

要求者参照

連絡先No. 4242 *Capital System*

連絡先名 JOE SMITH

電話番号 404 555-6389

在庫情報

ロットNo.

数量 1 EA 個

「サービス作業オーダー - 管理 <作業オーダー記述>」フォーム

基本の作業オーダー情報を「サービス管理ワークベンチ - 作業オーダーの追加」フォームに入力後、追加情報をこのフォームに入力します。

サービス管理ワークベンチ(P90CD020)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、サービス管理ワークベンチ・プログラムのデフォルト値を設定します。

デフォルト

サービス作業オーダーのデフォルト値を指定します。

- 入力者** 変更要求を入力した担当者の住所録番号を指定します。住所録はこの番号と照合されます。
- 割当先** 作業を行うように割り当てられた担当者の住所録番号を指定します。
- カテゴリ - 作業オーダー01** UDC 00/W1 (フェーズ/システム・コード) から、作業オーダーの現在の作業段階または開発フェーズを示す値を入力します。作業オーダーは、一度に1つのフェーズ・コードにのみ割り当てられます。

注意: フォームによっては、このフィールドのデフォルト値を入力可能にする処理オプションが含まれます。この処理オプションを設定したフォームでデフォルト値を入力すると、作成した作業オーダーの該当フィールドに値が表示されます。値は、「プロジェクトの設定」フォームにも表示されます。デフォルト値は、そのまま使用するか、変更できます。

4. カテゴリ - 作業オーダー02、5. カテゴリ - 作業オーダー03

UDC 00/W2 (作業オーダー・カテゴリ・コード2) または 00/W3 (作業オーダー・カテゴリ・コード3) から、作業オーダーのカテゴリ・タイプを示す値を入力します。

6. 優先順位

UDC 00/PR (作業オーダー優先度) から、作業オーダーまたは設計変更オーダーの他のオーダーに対する相対優先度を示すコードを入力します。

7. オーダー・タイプ

UDC 00/DT (伝票タイプ - すべての伝票) から、伝票のタイプを示す値を入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、入金、およびタイムカードの伝票タイプのコードはあらかじめ予約されており、転記プログラム実行時に自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。) 次の伝票タイプは、変更することはできません。

P: 買掛金

R: 売掛金

T: Payroll (給与計算)

I: 在庫

O: 購買オーダー処理

J: 一般会計/共有利息請求

S: 受注オーダー処理

8. タイプ - 作業オーダー

UDC 00/TY (作業オーダー/ECOタイプ) から、作業オーダーまたは設計変更オーダー (ECO) のタイプを示す値を入力します。作業オーダー承認の選択基準として作業オーダー・タイプを使用できます。

9. 状況コード(開始)、10. 状況コード(終了)

UDC 00/SS (作業オーダー状況) から、作業オーダー、レート・スケジュール、または設計変更オーダー (ECO) の状況を特定するコードを入力します。状況が 90 から 99 までの値に変更されると、完了日付が自動更新されます。

11. 要求日付(開始)、12. 要求日付(終了)

品目の到着予定日付、または作業の完了予定日付を指定します。

13. 開始日付(開始)、14. 開始日付(終了)

オーダーの開始日付を指定します。この日付は手動で入力するか、逆算スケジュールリング・ルーチンを使用してシステムで計算できます。逆算スケジュール・ルーチンでは、要求日付から合計リードタイムを差し引いて、適切な開始日付が計算されます。

15. 完了日付(開始)、16. 完了日付(終了)

作業オーダーまたは ECO が完了した日付または取り消された日付を指定します。

バージョン

サービス作業オーダーの改訂プログラムのバージョンを指定します。

1. サービス作業オーダーの改訂 (P90CD002) のバージョン この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

CRM – サービス・オーダーの管理 (P90CD002) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、CRM – サービス・オーダーの管理プログラムのデフォルト値を設定します。

デフォルト

「作業オーダーの改訂」フォームの作業オーダーを改訂または入力するときに使用されるデフォルト値を指定します。

1. 作業オーダー伝票タイプ 作業オーダーを入力するときに使用されるデフォルトの伝票タイプを指定します。UDC 00/DT (伝票タイプ – 全伝票) から値を入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。
2. 作業オーダー・タイプ 作業オーダーまたは設計変更オーダーのタイプ分類を指定します。UDC 00/TY (作業オーダー・タイプ) から値を入力します。作業オーダー承認の選択基準として作業オーダー・タイプを使用できます。
3. 作業オーダー優先順位 UDC 00/PR (作業オーダー優先度) から、作業オーダーまたは設計変更オーダーの他のオーダーに対する優先度を示すコードを入力します。
4. 顧客 デフォルト値として使用される従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、およびその他の住所録メンバーの住所録番号を指定します。住所録番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。
5. 管理者 作業オーダーを入力するときにデフォルト値として使用される管理者または計画担当者の住所録番号を指定します。
6. 監督者 作業オーダーを入力するときにデフォルト値として使用される監督者の住所録番号を指定します。
7. 割当先 作業オーダーを入力するときに、作業を行うように割り当てられた担当者の住所録番号を指定します。
8. 検査担当者 作業オーダーを入力するときにデフォルト値として使用される検査担当者の住所録番号を指定します。
9. 部品表タイプ UDC 40/TB (部品表タイプ) からデフォルト値として使用される値を入力します。作業オーダー部品リストの作成時に、作業オーダー見出しの部品表タイプ・コードが読み込まれ、使用する部品表が特定されます。
10. 作業工程のタイプ UDC 40/TR (作業工程タイプ) からデフォルト値として使用される値を入力します。作業オーダー労務指示の作成時に、作業オーダー見出しの作業工程タイプ・コードが読み込まれ、使用する作業工程が特定されます。
11. 不具合記述 作業オーダーを入力するときに問題記述に対して取得される情報タイプを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 問題記述を入力しない
1: デフォルトのサービス・タイプ記述を使用する
2: 資格記述を使用する
3: デフォルトの価格設定方法を使用する

- 4: デフォルトの作業オーダー記述を使用する
- 12. 仕入先回収** 仕入先回収フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 表示しない
 1: 表示する
- 13. 仕入先回収業者** 作業オーダーまたは保証請求から仕入先回収請求が作成されたときに使用される仕入先または業者を指定します。
- 14. 状況のデフォルト日時** 実際終了日時とシステム日時のどちらを表示するか指定します。値は次のとおりです。
 • ブランク: 実際終了日時を表示する。作業オーダーの「実際終了日時」フィールドに値がない場合は、「状況変更」フォームに現在のシステム日時が表示されます。
 • 1: 現在のシステム日時を表示する。

検証

この処理オプションでは、作業オーダーを入力するときに必要な情報を定義します。これらの処理オプションを有効にすると、作業オーダーを作成する前に該当するフィールドに適切な情報が入力されます。これらの処理オプションを有効化して、該当するフィールドに値を入力していない場合は、ハード・エラーが生成され、作業オーダーを入力できません。

- 1. 設備番号** 作業オーダーを作成するときに設備番号の入力を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 必須にしない。
 1: 必須にする。設備番号を入力しない場合はエラーが生成され、エラーが訂正されるまで処理が停止されます。
- 2. 設備番号に関連付けられたビジネスユニットと一致しないビジネスユニットについての警告** 担当ビジネスユニットが、設備番号に関連付けられたビジネスユニットと一致しない場合に警告を表示するかどうか指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 表示しない
 1: 表示する
- 3. 税率/税域チェック** 「税率/税域」フィールドのブランクを許可するかどうか指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 許可しない
 1: 許可する
- 4. デフォルトの開始日付** 「開始日付」フィールドをブランクのままにした場合、デフォルトで現在の日付を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 使用しない
 1: 使用する
- 5. 日付の編集** 作業オーダーを入力または変更するときに、日付を照会するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 日付を照会しない。

- 1: 照会する。日付のエラーが検出されると、警告が生成されますが処理は停止しません。
- 2: 照会する。日付のエラーが検出されると、警告が生成され、エラーが訂正されるまで処理が停止されます。
- 6. コール元番号** 作業オーダーを入力するときに、コール元の住所録番号の入力を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 不要
- 1: 必要
- 7. 価格設定方法の更新** 価格設定方法が更新されないようにするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 更新する
- 1: 更新しない
- 8. 電話番号** 作業オーダーを作成するときに、市外局番と電話番号の入力を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 必須にしない
- 1: 必須にする
- 9. ケース番号の編集** ケース・テーブル(F1755)に作業オーダーの要求番号が存在することを確認するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 照会しない
- 1: 照会する

プロセス

作業オーダーに関して入力する情報に基づいてデフォルトの情報を取得するかどうかを指定します。部品リストや作業工程、資格チェック、処理の承認など、追加の処理を実行できます。

- 1. デフォルト管理者** 作業オーダーの管理者および監督者の住所のデフォルト値を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 管理者および監督者の住所にデフォルト値を入力しない
- 1: 次の階層に基づいて、管理者および監督者の住所にデフォルト値を使用する
- 作業オーダーの管理者および監督者の住所のデフォルト値を指定します。値は次のとおりです。
- 1番目: 処理オプションから管理者および監督者の値を使用する
- 2番目: 顧客のSWM住所録拡張レコードから管理者の値を使用する
- 3番目: 設備レコードから管理者の値を使用する
- 4番目: 作業オーダーのカテゴリ1、2および3に基づいて作業オーダー・デフォルト・コード・ファイル・テーブル(F48001)から管理者および監督者の値を使用する

注意: 処理オプションの1番目から担当者の住所値を使用し、設備レコードの2番目から情報を使用します。

- 2. 日付の再計算** 開始日付 (STRT)、労務詳細の要求日付 (DRQJ)、および部品詳細の要求日付 (DRQJ) を自動で再計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 再計算しない
1: 自動的に再計算する
- 3. 作業オーダー承認タイプ** UDC 48/AP (承認タイプ) から、作業オーダーの承認プロセスに使用される値を入力します。承認タイプにより、作業オーダーが従う承認パスのタイプが示されます。
- 4. 作業オーダー相互参照** デフォルトの親設備番号の決定に使用される作業オーダー相互参照を指定します。値は次のとおりです。
空白: 設備の直接の親
1: 上位レベルの親
2: 親作業オーダーからの値
- 5. 資格チェック** 資格チェックを実行するかどうかと、そのチェック方法も指定します。値は次のとおりです。
空白: 資格チェックを実行しません。
1: 資格日付テーブル (F1791) を使用して資格をチェックします。
2: 資格日付テーブルは使用せずに資格をチェックします。
- 6. 問題分析** 作業オーダーを入力するときに問題分析の実行を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 実行しません。
1: 実行します。
- 7. 資格照会の表示** 資格チェックの後に、「資格照会」フォームを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 表示しない
1: 表示する
- 8. 労務詳細の作成** 作業オーダーの作成時に労務詳細を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 作成しない
1: 作成する
- 9. 部品詳細の作成** 作業オーダーの追加時に部品を自動で作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 自動で実行しない
1: 自動的に作成する
- 10. 人名録検索の表示** 「顧客番号」フィールドおよび「コール元名」フィールドが空白の状態で行き続けるときに、「人名録検索および選択」フォームを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 表示しない
1: 表示する

- 11. 作業オーダー状況ウィンドウ** 作業オーダーの追加時に作業オーダー状況ウィンドウを自動で表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 自動的に表示しない
 1: 自動的に表示する
- 12. 電子メール・サービス業者** 作業オーダーの作成時に、電子メールを基本サービス業者に送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 送信しません。
 1: 送信します。
- 13. リソース割当ての個別作成** フォームの担当者 (ANP) 住所録番号に基づいて、個別のリソース割当てを自動で作成するかどうかを指定します。リソース・マスター (F48310) は住所録番号と照合されます。値は次のとおりです。
 ブランク: 作成しない
 1: 作成する
- 14. 更新時の状況ウィンドウ** 作業オーダーの更新時に「状況変更」フォームを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 • ブランク: 「状況変更」フォームが作業オーダーの更新時に必ず表示されます。
 • 1: 作業オーダーの更新時に「状況変更」フォームは表示されません。
 「更新時の状況ウィンドウ」処理オプションで「状況変更」フォームが非表示になるように設定し、作業オーダーの状況を更新すると、「デフォルト」タブの「状況のデフォルト日時」処理オプションで指定された日時に、F1307テーブルに履歴レコードが書き込まれます。

設備マスター

この処理オプションでは、作業オーダーの情報と一致するように、対応する設備レコードの情報が更新されるかどうかを定義します。

- 1. 顧客番号の更新、2. サイト番号の更新** 電話、契約または作業オーダーの顧客番号または設備レコードのサイトを変更するときに、設備マスターを更新する方法を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 更新しない
 1: 更新のプロンプトを表示する
 2: 自動的に更新する

バージョン

作業オーダーの追加情報を入力するときに使用されるその他のプログラムのバージョンを指定します。

- 1. 作業オーダー部品 (P90CD015) のバージョン、2. 作業オーダー労務 (P90CD018) のバージョン** ブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 3. 作業オーダーの印刷 (R17714) のバージョン** この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001 が使用されます。

- | | |
|--|---|
| 4. 作業オーダー状況履歴 (P90CD003) のバージョン、5. 製品修理履歴 (P17715) のバージョン | ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 6. 顧客修理履歴 (P17715) のバージョン | 顧客修理履歴で使用される作業オーダー履歴の処理プログラム (P17715) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0002 が使用されます。 |
| 7. 設備修理履歴 (P17715) のバージョン | 設備修理履歴で使用されるサービス・オーダー履歴 (P17715) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0003が使用されます。 |
| 8. RMAの処理 (P40051) のバージョン、9. RMAの改訂 (P400511) のバージョン、10. 契約の処理 (P1720) のバージョン | ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 11. CRP/RCCP再生成 (R3382) のバージョン | 使用されるCRP/RCCP再生成 (R3382) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001が使用されます。 |
| 12. 管理者住所録 (P01012) のバージョン、13. 問題分析 (P17767) のバージョン、14. 問題分析の処理 (P17766) のバージョン、15. 問題分析ツリーの検索/選択 (P17763S)、16. 問題分析の検索/選択 (P17768) のバージョン、17. 設備マスターの改訂 (P90CD001) のバージョン、18. 設備予防保全スケジュール (P1207) のバージョン | この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。 |
| 19. 設備状況の履歴 (P1307) のバージョン、20. 与信チェック (P42050) のバージョン、21. 顧客/連絡先のスピード追加 (P01015) バージョン、22. サイト住所録 (P01012) のバージョン、23. 設備の検索/選択 (P17012S) のバージョン、24. 作業オーダー履歴の処理 (P17715) のバージョン | ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
| 25. 作業オーダーの見積り (P17717) のバージョン | 作業オーダーの入力後に使用されるオンライン作業オーダー見積照会プログラム (P17717) のバージョンを指定します。 |

26. リソース割当てワークベンチ (P48331) のバージョン、27. 構成品変更 (P17STAT) のバージョン、28. 状況変更 (P17714) のバージョン、29. 顧客詳細 (P90CA080) のバージョン、30. 品目詳細 (P90CA100) のバージョン、31. ケース更新 (P90CG501) のバージョン

この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

32. 作業マスターの処理 (P3003) のバージョン、33. 部品表の改訂 (P3002) のバージョン

モデル作業オーダーで使用される作業工程マスターの処理プログラム (P3003) および部品表の改訂プログラム (P3002) のバージョンを指定します。

カテゴリ・コード

デフォルトのカテゴリ・コード値を指定します。

1. カテゴリ・コード1 から 10. カテゴリ・コード10

デフォルト値として使用されるカテゴリコードの値 (1 から 10) を入力します。これらのカテゴリ・コードは作業オーダーの現在の段階を表します。作業オーダーは、一度に1つのフェーズ・コードにのみ割り当てられます。UDC 00/W1 から 00/W0 までで定義されている値を入力してください。

11. カテゴリ・コード11 から 20. カテゴリ・コード20

デフォルト値として使用されるカテゴリコードの値 (11 から 20) を入力します。UDC 00/X1 から 00/X0 までで定義されている値を入力してください。

前払

この処理オプションでは、作業オーダーの支払情報を記録できるかどうかを制御します。

作業オーダーの前払は、オーダー入力の時点で売り手が顧客から支払を受け取る際に発生します。現金、小切手、クレジット・カードなど、様々な前払タイプが使用できます。前払を使用すると、トランザクション情報が記録され、請求書に支払が示されます。

1. 前払処理

前払処理を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 前払処理ファイルは更新されません。

1: 前払処理ファイルが更新されます。

2. 承認処理

処理方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理しない

1: 対話形式

2: バージョンによって、バッチまたはサブシステム・モードで処理する

3. 決済処理

決済処理の方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理しない

1: 対話形式

2: バージョンによって、バッチまたはサブシステム・モードで処理する

4. 前払取引の承認 (R004201)のバージョン

前払トランザクションの承認UBE (R004201)で使用するバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001が使用されます。

5. 前払取引の決済 (R004202)のバージョン

前払取引の決済プログラム (R004202)で使用するバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001が使用されます。

作業オーダーの入力プログラム (P48201/P17714) を 使用した作業オーダーの作成

この項では、作業オーダー入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 作業オーダーの入力 (P48201/P17714)
- 作業オーダーの改訂プログラム (P17714) の処理オプションの設定

作業オーダー入力について

作業オーダーの処理 (P48201) の処理オプションを設定する場合、「デフォルト3」タブの「入力者」フィールドに、住所録番号を入力します。この住所録番号で、ユーザーが入力した作業オーダーが検索されます。作業オーダーの処理で「検索」をクリックしたときにすべての作業オーダーを表示するには、このフィールドで0を入力します。

サービス管理システムでは、「デフォルト2」タブで作業オーダーが使用されるように伝票タイプを入力できます。この伝票タイプは、作業オーダーが契約の対象である場合は上書きされます。

注意: 作業オーダーの改訂プログラムの処理オプションには、対話型バージョン・アプリケーションで P17714 を取得するとアクセスできます。

事前設定

作業オーダー入力プログラムの事前設定は、サービス管理ワークベンチの事前設定と同じです。

作業オーダーの入力に使用するフォーム (P48201/P17714)

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業オーダーの処理	W48201F	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダー入力」	作業オーダーを検索または追加します。
作業オーダーの改訂	W17714A	「作業オーダーの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	作業オーダーを入力します。

作業オーダーの入力 (P48201/P17714)

「作業オーダーの改訂」フォームにアクセスします。「オーダー詳細」、「計画」、「分類」および「会計」タブを選択します。

作業オーダー入力 - 作業オーダーの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

オーダーNo. 451282 SE タイプ Y 現場修理

オーダー詳細 計画 分類 会計 添付

設備マスター情報

ケース番号

設備No. 31430 Phone Switch

事業所 M30 Eastern Manufacturing Center

在庫品目番号 7101 Phone Switch

ロット/シリアル番号 数量 1 EA

製品モデル C200 CBXモデル200

製品ファミリ CBX コンピュータ化事業所交換

記述 Red lights blinking

問題記述 RED LIGHT BLINKING

顧客情報

コール元参照

顧客番号 4242 Capital System

サイト番号 4242 Capital System

連絡先番号 4242 Capital System

連絡先名 JOE SMITH 電話No. 404 555-6389

「作業オーダーの改訂」フォーム

事業所

上位レベルのビジネスユニットを表すコードを入力します。このコードでは、下位レベルのビジネスユニットである部門または作業を持つ事業所を表します。次に例を示します。

事業所 (MMCU)

部署A (MCU)

部署B (MCU)

作業123 (MCU)

ビジネスユニット・セキュリティは、上位レベルのビジネスユニットに基づいています。

事業所のデフォルト値は設備レコードから派生し、在庫が在庫される事業所を定義します。

問題記述

顧客案件の説明を入力します。

ケースまたは問題分析モジュールからこのフォームにアクセスしている場合は、作業オーダーを入力するときのデフォルトの情報として設備レコードから情報が入力されます。また、顧客の資格もチェックされます。

実際完了日	作業オーダーまたは設計変更オーダー (ECO) の完了日または取消日を入力します。作業オーダーの状況が完了の場合、デフォルト値として現在の日付が使用されます。
担当者	作業を行うように割り当てられた担当者の住所録番号を入力します。サービス管理では、担当者が基本技術者となります。
カテゴリ02、カテゴリ03	ユーザー定義コード (UDC) テーブル 00/W2 (作業オーダー・カテゴリ・コード2) または 00/W3 (作業オーダー・カテゴリ・コード3) から、作業オーダーのカテゴリ・タイプを示す値を入力します。 注意: 一部のフォームの処理オプションでは、このフィールドのデフォルト値を入力できます。このデフォルト値は、これら特定のフォーム、および「プロジェクトの設定」フォームで作成するすべての作業オーダーの該当フィールドに自動入力されます。デフォルト値は、そのまま使用するか、変更できます。
カテゴリ04、カテゴリ05、カテゴリ10	UDC 00/W4 (作業オーダー・カテゴリ・コード4)、00/W5 (作業オーダー・カテゴリ・コード5) または 00/W0 (作業オーダー・カテゴリ・コード10) から、作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示す値を入力します。
保証内金額の相手勘定	会計取引の (保証または契約で) 保証内部分の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9 (元帳転記カテゴリ) から入力します。相手勘定を指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ入力するか、このフィールドをブランクにします。このフィールドをブランクにすると、在庫の相手勘定が使用されます。
見積時間	この品目または作業オーダーの通常の製造に必要な標準の労務時間数を入力します。 作業工程マスター (F3003) の実労務時間は、指定した作業員数で作業を完了するのに必要な合計時間数です。製造現場でのリリースと製造原価計算を行う場合は、この時間数に作業員数が乗算されます。
見積労務費	これは、作業オーダーに対する見積労務費です。
見積資材費	これは、作業オーダーに対する見積資材費です。
その他見積り	金額 - その他の見積り 作業オーダーに作業工程が関連付けられている場合、「労務時間」および「労務金額」フィールドのデフォルト値が取得されます。作業オーダーに部品リストが関連付けられている場合、「資材金額」フィールドのデフォルト値が取得されます。作業工程リスト、部品リストまたはその両方を追加すると、作業オーダー見出しの原価が更新されます。 または、作業オーダーの実際原価を更新するには、作業オーダー実際金額の更新 (R13800) と呼ばれるバッチ・プログラムを実行することもできます。このプログラムにより、労務および資材に関するトランザクションが集計され、作業オーダーの実際原価フィールドが更新されます。
見積ダウンタイム	作業オーダーの見積時間です。作業オーダーが完了するまでに設備が停止する時間が定義されます。これは、見積合計時間とは異なります。
経験レベル	作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示す値を、UDC 00/W9 (PSコンサルティング経験レベル) から入力します。
地域	顧客の存在する地域を入力します。

検査担当者	検査担当者の住所録番号を入力します。サービス管理では、検査担当者が第2技術者となります。
言語	フォームと出力レポートで使用する言語を示す値を、UDC 01/LP(言語)から入力します。ここで指定する言語コードは、システム・レベルまたはユーザー基本設定で定義されている必要があります。
管理者	サービス管理では、管理者が基本サービス業者となります。
保証外金額の相手勘定	<p>会計取引の保証外部分の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9(元帳転記カテゴリ)から入力します。相手勘定を指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ(****)入力するか、フィールドをブランクにします。フィールドをブランクにすると、在庫の相手勘定が使用されます。</p> <p>「保証内金額の相手勘定」および「保証外金額の相手勘定」フィールドの値は、作業オーダーのサービスの種類に基づいたサービス契約のサービス・パッケージの値から取得されます。</p>
入力者	変更要求を入力した担当者の住所録番号を入力します。住所録はこの番号と照合されます。
親WO No. (親作業オーダー番号)	<p>親作業オーダーを識別します。この番号は次の処理に使用できます。</p> <p>新規作業オーダーに対する、伝票、優先順位、状況、管理者などのデフォルト値の入力</p> <p>プロジェクトの設定およびレポート用の作業オーダーのグループ化</p>
支払金額	<p>買掛管理システムでの支払額です。</p> <p>売掛管理システムでの入金額です。この金額は、請求書の支払項目に適用される合計金額と等しくなる必要があります。</p>
フェーズ	<p>UDC 00/W1(フェーズ/システム・コード)から、作業オーダーの現在の作業段階または開発フェーズを示す値を入力します。作業オーダーは、一度に1つのフェーズ・コードにのみ割り当てられます。</p> <hr/> <p>注意: フォームによっては、このフィールドのデフォルト値を入力可能にする処理オプションが含まれます。この処理オプションを設定したフォームでデフォルト値を入力すると、作成した作業オーダーの該当フィールドに値が表示されます。値は、「プロジェクトの設定」フォームにも表示されます。デフォルト値は、そのまま使用するか、変更できます。</p> <hr/>
優先度	<p>UDC 00/PR(作業オーダー優先度)から、作業オーダーまたは設計変更オーダーの他のオーダーに対する相対優先度を示すコードを入力します。</p> <p>一部のフォームの処理オプションでは、このフィールドのデフォルト値を入力できます。この場合、それらのフォームおよび「プロジェクトの設定」フォームで作成した作業オーダーの対応フィールドに、入力した値が自動的に表示されます。デフォルト値は、そのまま使用するか、変更できます。</p>
参照	相互参照番号または2次参照番号として使用する英数値を入力します。通常は、顧客番号、仕入先番号、または作業番号を入力します。
完了要求日	<p>作業オーダーまたは設計変更オーダー(ECO)の完了予定日付を入力します。</p> <p>この日付は、契約適用範囲に基づいて計算されます。</p>

スキル・タイプ	作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示す値を、UDC 00/W8 (国コード) から入力します。
状況	UDC 00/SS (作業オーダー状況) から、作業オーダー、レート・スケジュール、または設計変更オーダー (ECO) の状況を示す値を入力します。状況が 90 から 99 までの値に変更されると、完了日付が自動更新されます。
状況	UDC 00/W6 (コンサルティング状況) から、作業オーダーの状況を示すコードを入力します。
状況コメント	作業オーダーの状況の簡潔な説明を入力します。
監督者	監督者の住所録番号を入力します。サービス管理では、監督者が第 2 サービス業者となります。
部品表タイプ	UDC 40/TB (部品表タイプ) から、部品表のタイプを示すコードを入力します。用途に応じて、様々な部品表のタイプを定義できます。次に例を示します。 M: 標準製造用部品表 RWK: 再作業部品表 SPR: 予備部品用部品表 部品表タイプ M は、別の部品表タイプを指定しないかぎり、作業オーダーの作成時に作業オーダー見出しに入力されます。作業オーダー部品リストの作成時に、作業オーダー見出しの部品表タイプ・コードが読み込まれ、使用する部品表が特定されます。MRP では、部品表タイプ・コードを使用して、MRP メッセージを添付する際に使用する部品表が識別されます。製造現場管理、製造原価計算、および MRP 処理では、部品表のバッチ処理でタイプ M を使用する必要があります。
作業工程タイプ	UDC 40/TR (作業工程タイプ) から、作業工程のタイプを示す値を入力します。用途に応じて、様々な作業工程指示のタイプを定義できます。次に例を示します。 M: 標準製造工程 RWK: 再作業工程 RSH: 簡易工程 工程タイプは、作業オーダー見出しに定義します。作業オーダーの作業工程で定義した作業工程のタイプが使用されます。 製造原価計算および能力所要量計画システムでは、M タイプの作業工程のみが使用されます。
W.O. フラッシュ・メッセージ (作業オーダー・フラッシュ・メッセージ)	UDC 00/WM (作業オーダー・フラッシュ・メッセージ) から、作業オーダー状況の変更を示すコードを入力します。変更のあった作業オーダーは、レポートまたは照会フォームのフィールドにアスタリスク (*) 付きで表示されます。フラッシュ・メッセージは、作業オーダーの「記述」フィールドで強調表示されます。

作業オーダーの改訂プログラム (P17714) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、作業オーダーの改訂プログラムのデフォルト値を指定します。作業オーダーの改訂プログラムの処理オプションは、記述のあるものを除いて CRM - サービス・オーダーの管理プログラム (P90CD002) と同じです。

参照: 第 6 章、「作業オーダーの管理」、「CRM - サービス・オーダーの管理 (P90CD002) の処理オプションの設定」、178 ページ

デフォルト

この処理オプションは、CRM - サービス・オーダーの管理プログラム (P90CD002) と同一です。

検証

2. 顧客の住所番号を必須にする 作業オーダーを作成するときに、顧客の住所番号の入力を必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 必須にしない

1: 必須にする

処理

この処理オプションでは、作業オーダーの改訂プログラム (P17714) のこのバージョンで実行される処理を定義します。

12. サービス作業オーダー追加時の作業オーダー・タグ・テーブル (F4801Z) の作成 (将来使用) インタオペラビリティ・テーブル (F4801Z) を作成するかどうか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 作成しない

1: 作成する

14. 計画タブの表示、15. 分類タブの表示、16. 会計タブの表示、17. 添付タブの表示 「作業オーダーの改訂」フォームで「スケジューリング」、「分類」、「会計」または「添付」タブを非表示にするかどうか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 非表示にしません。

1: 非表示にします。

設備マスター

この処理オプションは、CRM - サービス・オーダーの管理プログラム (P90CD002) と同一です。

バージョン

この処理オプションでは、作業オーダーの追加情報を入力するときに使用されるその他のプログラムのバージョンを指定します。「作業オーダーの改訂」フォームの「フォーム」および「ロー」メニュー選択からこれらのプログラムにアクセスできます。

1. 作業オーダー部品リスト (P17730) のバージョン、2. 作業オーダー労務詳細 (P17732) のバージョン ブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

4. 設備作業オーダー・レポート (R48425) のバージョン この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001 が使用されます。

5. 作業オーダー状況履歴 (P1307) のバージョン この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0002 が使用されます。

12. 労務マスターの処理 (P3003) のバージョン、13. 部品表の改訂 (P3002) のバージョン
 ブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

カテゴリ・コード

この処理オプションは、CRM - サービス・オーダーの管理プログラム (P90CD002) と同一です。

前払

- | | |
|---------------------------|---|
| 6. 承認済み取引の一時変更用次状況 (将来使用) | 取引の承認の次の状況の一時変更コードを指定します。この一時変更用状況は、この処理で実行できるもう1つのステップになります。 |
| 7. 決済済み取引の一時変更用次状況 (将来使用) | 取引の決済の次の状況コードを指定します。この一時変更用状況は、この処理で実行できるもう1つのステップになります。 |

セルフサービス

Web上でのセルフサービス処理を処理するデフォルト値を指定します。

- | | |
|--------------------|--|
| 1. デフォルト所属ビジネスユニット | カスタマ・セルフサービスの作業オーダーを入力するときに使用されるデフォルトの担当ビジネスユニットを指定します。 |
| 2. デフォルト事業所 | カスタマ・セルフサービスの作業オーダーを入力するときに使用されるデフォルトの事業所を指定します。 |
| 3. 顧客番号 | 「カスタマ・セルフサービス」フォームの顧客番号フィールドを使用可能にするかどうか指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 使用可能にしません。
1: 使用可能にします。 |
| 4. デフォルトの顧客番号 | カスタマ・セルフサービスの作業オーダーを作成するときに、ユーザーの住所録番号をデフォルトとして使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: デフォルトの顧客を使用しない
1: ユーザーの住所録番号をデフォルトとして使用する |

関連項目:

第 6 章、「作業オーダーの管理」、「CRM - サービス・オーダーの管理 (P90CD002) の処理オプションの設定」、178 ページ

作業オーダーへの部品の割当

この項では、部品割当の概要、事前設定、作業オーダーへの部品の割当に使用するフォーム、および次の方法について説明します。

- CRM - 作業オーダー部品管理プログラム (P90CD015) の処理オプションの設定
- 作業オーダー部品詳細プログラム (P17730) の処理オプションの設定

部品割当について

保全作業の部品要件を満たすために、部品を作業オーダーに割り当てることができます。システムでの設定方法に応じて、作業オーダーの部品要件を満たす在庫の引当方法や、引当時期を指定できます。たとえば、ワークフロー管理を使用して、特定の作業オーダー状況のときにのみ、作業オーダーに直接在庫を引き当てることができます。

作業オーダーの作成時に入力した標準部品リストから部品を割り当てることができます。また、予期しない緊急修理の作業オーダーを作成するときなど、標準部品リストに表示されない在庫部品を割り当てすることもできます。特別オーダー部品など、在庫マスターを保持しない部品を割り当てすることもできます。

標準部品リストから作業オーダーに部品を割り当てすることもできます。これは、同じ部品を必要とする定期的な保守作業で作業オーダーを作成するときに特に役立ちます。

注意: CRM – 作業オーダー部品管理プログラムおよび作業オーダー部品詳細プログラムの処理オプションには、対話型バージョン・アプリケーションでP90CD015およびP17730を入力するとアクセスできます。

事前設定

次のシステムが購入およびインストール済であることを確認します。作業オーダー部品リストを使用するには、次のJD Edwards EnterpriseOneシステムがインストールされている必要があります。

- システム30: 製造データ管理
- システム31: 製造現場管理
- システム40: 在庫/オーダー処理(基本)
- システム41: 在庫管理
- システム43: 調達管理

標準部品リストが設定されていることを確認します。

作業オーダーへの部品の割当に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サービス作業オーダー 部品 - 管理<作業オーダー記述>	W90CD015A	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「サービス管理ワークベンチ」 「サービス作業オーダーの検索」フォームで作業オーダー・レコードを選択します。 「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「部品」タブを選択します。	作業オーダーに部品を割り当てます。
作業オーダーの処理	W48201F	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダー入力」	作業オーダーを検索します。
作業オーダー部品リストの改訂	W17730A	「作業オーダーの処理」フォームで作業オーダーを選択し、「ロー」メニューの「部品詳細」を選択します。	標準部品リストから部品を割り当てます。値を受け入れるか、部品リストの別の値を入力します。
画面のコピー	W17730D	「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「部品表のコピー」リンクを選択します。 「作業オーダー部品リストの改訂」フォームの「部品表のコピー」リンクを選択します。	部品表情報をコピーします。

CRM - 作業オーダー部品管理プログラム (P90CD015) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、CRM - 作業オーダー部品管理プログラムのデフォルト値を指定します。

表示

特定のフィールドを表示するかどうかを指定します。

1. 請求金額フィールドの表示、2. 支払金額フィールドの表示、3. 仕入先回収 部品詳細グリッドの請求金額関連のフィールド、支払金額関連のフィールド、または仕入先回収情報関連のフィールドを非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 非表示にする

1: 表示する

プロセス

作業オーダー部品詳細の処理時のデフォルト値を指定します。

- 1. 労務詳細** 作業オーダーの部品詳細行を作成するときに労務詳細レコードを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 作成しない
1: 作成する
- 2. 代替処理の方法** 作業オーダーに部品詳細情報を添付する際に使用する代替処理の方法を指定します。値は次のとおりです。
blank: 不足分について代替処理を実行しない
1: 不足分について代替処理を実行する
2: 代替処理によって不足分をカバーできる場合、「代替数量照会」フォームを表示する
- 3. 引当処理** 作業オーダーに部品リストを添付する際に、構成品引当を生成するかどうかを指定します。
この機能は、製造固定情報テーブル(F3009)に保管された引当制御の設定に基づきます。値は次のとおりです。
blank: 製造固定情報テーブルの引当制御設定を使用する
1: 引当処理を実行しない
- 4. 構成品の汎用テキスト** 構成品行の品目についての添付テキストを作業オーダー部品詳細にコピーするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: コピーしない
1: コピーする
- 5. 前の改訂レベル** 前の改訂レベルの添付を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 許可しない
1: 許可する
- 6. 在庫検索フォーム・エグジット** 在庫検索にフォーム・エグジットを選択したときにアクセスするフォームを指定します。値は次のとおりです。
blank: 事業所別の品目検索
1: 仕入先/品目別の品目検索
- 7. 資材状況コード** 作業オーダー部品詳細の構成品目の資材状況を更新するときに使用される状況コードを指定します。UDC 31/MS(資材状況)から値を入力します。

倉庫

部品の倉庫オプションで使用するデフォルト値を指定します。

- 1. 要求処理モード** 部品詳細の品目について倉庫ピッキング要求を生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: ピッキング要求を生成しません。
1: ピッキング要求のみを生成します。
2: ピッキング要求を生成してサブシステムにより処理します。

注意: この処理オプションを使用するには、すべての倉庫設定を完了する必要があります。また、事業所固定情報プログラム (P41001) の倉庫管理制御機能がオンになっている必要があります。

2. 保管場所選択ドライバ (R46171) のバージョン

サブシステムからピッキング要求を処理する場合は、サブシステムからピッキング要求を処理するときに使用する保管場所選択のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、XJDE0007が使用されます。

3. デフォルト経由保管場所

倉庫から商品をリリースする際のデフォルトの経由保管場所を指定します。「要求処理モード」処理オプションを設定してピッキング要求を生成する場合、ここで入力した保管場所でピッキング要求が経由保管されます。

4. デフォルト経由保管場所の在庫照会

デフォルト経由保管場所の部品引当可否を照会するかどうかを指定します。経由保管場所で該当部品が引当可能な場合、その部品に関する要求は生成されません。値は次のとおりです。

空白: 部品の引当可能数量を照会しません。

1: 部品の引当可能数量を照会します。

注意: この処理オプションは、作業場保管場所が割り当てられていない部品にのみ適用されます。

実行バージョン

1. 作業オーダー労務詳細 - P90CD018、2. 作業オーダー在庫出庫 - P31113

使用する各プログラムのバージョンを入力します。空白にした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

設備管理編集

設備保守管理の処理オプションにより、購買オーダー・オプションのデフォルト値が指定されます。

1. 購買オーダーの作成

作業オーダー部品詳細プログラム (P17730) からの購買オーダーの作成を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 許可しない

1: 許可する

2. 仕入先別購買オーダー・メッセージ集計

購買オーダーの作成時に、明細行ごとにオーダーを作成するか、または仕入先ごとに明細行を連結するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 明細行を連結しません。

1: 明細行を連結します。

3. カタログ化されていない品目の行タイプ

Intelligent Graphic Solution (IGS) プログラムから作業オーダー部品詳細にカタログ化しない部品をコピーするときに、使用される行タイプを指定します。行タイプ固定情報プログラム (P40205) から行タイプ・コードを入力します。この処理オプションを空白にすると、IGSで定義された行タイプが使用されます。

設備管理バージョン

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1. 仕入先マスター – P04012(今回のリリースでは使用不可) | 仕入先マスター・プログラム(P04012)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001が使用されます。 |
| 2. 発注残照会 – P4310 | 購買オーダー照会プログラム(P430301)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0006が使用されます。 |
| 3. 需要/供給の照会 – P4021 | 需要/供給照会プログラム(P4021)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0003が使用されます。 |
| 4. 時間別在庫状況 – P3413 | MPSタイム・フェイズ・プログラム(P3413)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0002が使用されます。 |
| 5. 購買オーダー入力 – P4310 | 購買オーダー・プログラム(P4310)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001が使用されます。 |
| 6. 設備部品リストの検索/選択 – P13017S | 「作業オーダー部品詳細」フォームからアクセスする設備部品リストの検索/選択照会プログラム(P13017S)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、ZJDE0001が使用されます。 |
| 7. 作業オーダー・ピッキング・リスト – R13415 | 「作業オーダー部品詳細」フォームからアクセスする作業オーダー・ピッキング・リスト・プログラム(R13415)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、XJDE0001が使用されます。 |

エクスポート

トランザクションのエクスポートおよび変更時のデフォルト値を指定します。

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. エクスポート・トランザクションのトランザクション・タイプ | UDC 00/TT(トランザクション・タイプ)から、エクスポート処理に使用されるトランザクション・タイプ、またはサプライチェーンのスケジュール設定とプランニングに使用されるトランザクション・タイプの値を入力します。この処理オプションをblankにすると、エクスポート処理は使用されません。 |
| 2. 変更前処理(将来使用) | <p>変更するトランザクションに対してレコードの変更前イメージが書き込まれるかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 書き込まない</p> <p>1: 書き込む</p> |

IGS

IGS製品を呼び出す際に使用されるモードを指定します。

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. IGS URLの呼出し時にIGSモードの値を入力します。 | <p>IGS製品を呼び出す際に使用されるモードを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 組立品</p> <p>上位レベル</p> <p>品目</p> <p>資産</p> <p>部品表</p> |
|---------------------------------|--|

作業オーダー部品詳細プログラム (P17730) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、作業オーダー部品詳細プログラムのデフォルト値を指定します。作業オーダー部品詳細プログラムの処理オプションは、記述のあるものを除いてCRM - 作業オーダー部品プログラム (P90CD015) と同じです。

表示

この処理オプションは、CRM - 作業オーダー部品プログラム (P90CD015) と同一です。

处理

作業オーダー部品詳細の処理時のデフォルト値を指定します。

5. コピーする構成部品
- オーダーのコピー時にすべての構成部品を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: すべての構成部品
- 1: 選択した構成部品

倉庫

この処理オプションは、CRM - 作業オーダー部品プログラム (P90CD015) と同一です。

バージョン

1. 作業オーダー労務詳細 プログラムの使用バージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、ZJDE0001が使用されます。

設備管理オプション

この処理オプションは、CRM - 作業オーダー部品プログラム (P90CD015) と同一です。

設備管理バージョン

この処理オプションは、CRM - 作業オーダー部品プログラム (P90CD015) と同一です。

エクスポート

この処理オプションは、CRM - 作業オーダー部品プログラム (P90CD015) と同一です。

IGS

この処理オプションは、CRM - 作業オーダー部品プログラム (P90CD015) と同一です。

関連項目:

第 6 章、「作業オーダーの管理」、「CRM - 作業オーダー部品管理プログラム (P90CD015) の処理オプションの設定」、193 ページ

作業オーダーへの労務の割当

この項では、労務割当の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 標準指示からの労務詳細のコピー
- 労務詳細の手動割当
- CRM – 作業オーダー労務の管理プログラム (P90CD018) の処理オプションの設定
- 作業オーダー労務詳細プログラム (P17732) の処理オプションの設定

労務割当について

特定タスクの労務要件を事前に把握している場合は、そのタスクについて標準労務指示 (労務詳細) を設定できます。同様のタスクの労務詳細を割り当てる必要がある場合は、これらの指示からコピーできます。

作業オーダーを作成したら、標準指示を設定していないタスクに手動で労務詳細を割り当てることができます。

作業オーダーの各タスクを担当する作業場を指定できます。労務費や各タスクの完了にかかる時間と同様、各タスクの作業の順序を指定できます。

次のような特徴がない場合は、システムから作業オーダーを削除することもできます。

- 親の作業オーダーとして使用されている
- 取引明細レコードが関連付けられている
- 部品リストまたは労務詳細が添付されている

注意: CRM – 作業オーダー労務の管理プログラムおよび作業オーダー労務詳細プログラムの処理オプションには、対話型バージョン・アプリケーションで P90CD018 および P17732 を入力するとアクセスできます。

事前設定

作業オーダーの労務詳細を使用するには、次の必要な JD Edwards EnterpriseOne システムを購入およびインストールしていることを確認します。

- システム 30: 製造データ管理
- システム 31: 製造現場管理
- システム 40: 在庫/オーダー処理 (基本)
- システム 41: 在庫管理
- システム 43: 調達管理

作業オーダーへの労務の割当に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サービス作業オーダー 労務 - 管理<作業オーダー記述>	W90CD018A	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「サービス管理ワークベンチ」 「サービス作業オーダーの検索」フォームで作業オーダー・レコードを選択します。 「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「労務」タブを選択します。	労務詳細を手動で割り当てます。
作業オーダーの処理	W48201F	「作業オーダー日次処理」メニュー (G1712)、「作業オーダー入力」	作業オーダーを検索します。
作業オーダー労務詳細	W17732D	「作業オーダーの処理」フォームで作業オーダーを検索し、「ロー」メニューの「労務詳細」を選択します。	労務詳細を手動で割り当てます。
品目別コピー	W17732A	「サービス作業オーダー - 管理<作業オーダー記述>」フォームの「品目別コピー」リンクを選択します。 「作業オーダー労務詳細」フォームの「フォーム」メニューから「品目別コピー」を選択します。	標準指示からの労務詳細情報をコピーします。値を受け入れるか、別の値を入力します。標準労務指示からの値が「作業オーダー労務詳細」フォームに入力されます。

標準指示からの労務詳細のコピー

「品目別コピー」フォームにアクセスします。

1. 「OK」をクリックして、表示されている品目および作業場の標準指示を作業オーダー労務詳細にコピーします。
2. 「品目別コピー」フォームの値を受け入れるか、別の値を入力します。
標準指示からの値が労務詳細に入力されます。
3. 追加の変更を行い、レコードを保存します。

労務詳細の手動割当

「サービス作業オーダー労務 - 管理<作業オーダー記述>」フォームにアクセスします。

サービス管理ワークベンチ - サービス作業オーダー労務 - 管理 BAD CONNECTIONS IN THEIR ACD.
(451741/SV) i ?

サービス作業オーダー 部品 労務 状況履歴 関連処理

詳細

変更の保存(Y) 変更を元に戻す(U) 閉じる(L)

作業オーダー詳細

設備No.	32521	事業所	M30	Eastern Manufacturing Cent
在庫品目No.	7250	要求期限	1999/02/24	
顧客No.	4271	サイトNo.	4271	

請求通貨情報

通貨 USD 為替レート 基本 USD ☐ 外国

労務詳細

フォームアクション: -- 1つ選択 -- ロールアクション: -- 1つ選択 --

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

	ワーク センター	作業 順序No.	作業 状況	記述	標準 機械移動	見積 時間	作業員 数 設定	見積 時間
<input checked="" type="radio"/>	200-901	10.00		Assembly			1.0	
<input type="radio"/>	200-146	20.00		Clean		1.00	1.0	1.00
<input type="radio"/>	200-911	30.00		Test / Inspect		3.00	1.0	3.00
<input type="radio"/>	200-920	40.00		Package		1.00	1.0	1.00
<input type="radio"/>								

品目別コピー オオーダー別コピー [すべて削除](#)

削除(D)

変更の保存(Y) 変更を元に戻す(U) 閉じる(L)

「サービス作業オーダー労務 - 管理 <作業オーダー記述>」フォーム

作業オーダーに添付する指示を選択して、「変更の保存」をクリックします。

CRM - 作業オーダー労務の管理プログラム (P90CD018) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、CRM - 作業オーダー労務の管理プログラムのデフォルト値を指定します。

プロセス

労務処理のデフォルト値を指定します。

1. 部品詳細

作業オーダーの労務詳細行を作成するときに部品詳細レコードを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 作成しない。

1: 作成する。作業オーダー部品リスト・テーブル (F3111) に部品詳細情報が保存されます。

- 2. 作業の汎用テキスト** 作業の汎用テキストをコピーし、作業オーダー労務詳細レコードに添付するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: コピーしない
 1: 汎用テキストをコピーおよび添付する
- 3. 待ち時間と移動時間** 作業工程マスターの処理プログラム (P3003) の待ち時間と移動時間がブランクの場合に、作業オーダー労務詳細プログラム (P17732) に作業場の待ち時間と移動時間を入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 作業場からの待ち時間および移動時間を読み込まない
 1: 作業工程マスター・プログラムのフィールドがブランクの場合のみ、作業場からの待ち時間と移動時間を入力する
 2: 作業工程ステップまたは指示を作業オーダーの詳細グリッドに手動で追加する場合のみ、作業場からの待ち時間と移動時間を入力する
- 4. 従業員の住所検索タイプ** UDC 01/ST (検索タイプ) から、従業員を識別する値を入力します。この処理オプションをブランクにすると、値Eが使用されます。

デフォルト

時間基準コードを指定します。

- 1. 時間基準コード** UDC 30/TB (時間基準コード) から値を入力します。この処理オプションをブランクにすると、値Uが使用されます。

表示

特定のフィールドを表示するかどうかを指定します。

- 1. 請求フィールドの表示、
2. 支払フィールドの表示** 労務詳細グリッドに請求関連フィールドまたは支払関連フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 表示します。
 1: 非表示にします。
- 3. 契約関連フィールドの表示** 「顧客番号」、「サイト番号」、「資格チェック」、「保証グループ」および「補償%」などの、契約関連フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 表示します。
 1: 非表示にします。

エクスポート

エクスポート・トランザクションのタイプを指定します。

- 1. トランザクション・タイプ** UDC 00/TT (トランザクション・タイプ) から、エクスポート処理に使用されるトランザクション・タイプ、またはサプライチェーンのスケジュール設定とプランニングに使用されるトランザクション・タイプの値を入力します。エクスポート処理を使用しない場合は、この処理オプションをブランクのままにします。

バージョン

「作業オーダー労務詳細」フォームから起動するプログラムのバージョンを指定します。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 能力負荷 (P3313) プログラム | このプログラムを使用して、作業オーダーの作業工程内にある特定の作業について、作業場の能力負荷が確認されます。この処理オプションをブランクにした場合、バージョン ZJDE0003 が使用されます。 |
| 2. 設備マスター・ワークベンチ (P1701) | この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001 が使用されます。 |

作業オーダー労務詳細プログラム (P17732) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、作業オーダー労務詳細プログラムのデフォルト値を指定します。作業オーダー労務詳細プログラムの処理オプションは、記述のあるものを除いて CRM - 作業オーダー労務の管理プログラム (P90CD018) と同じです。

バージョン

「作業オーダー労務詳細」フォームから起動するプログラムのバージョンを指定します。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 2. 活動原価計算ワークベンチ (P1640)、4. 作業オーダー・プロセス資源の改訂 (P3113) (このリリースでは適用なし) | この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001 が使用されます。 |
|---|--------------------------------------|

関連項目:

第 6 章、「作業オーダーの管理」、「CRM - 作業オーダー労務の管理プログラム (P90CD018) の処理オプションの設定」、200 ページ

作業オーダーの処理

この項では、作業オーダー処理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 作業オーダーの見積の生成と印刷
- 作業オーダー見積プログラム (R17711) の処理オプションの設定
- 作業オーダーの前払取引の作成
- 単一保管場所からの資材出庫
- 複数保管場所からの資材出庫
- 作業オーダー在庫出庫プログラム (P31113) の処理オプションの設定
- 在庫仕訳の検討と承認
- 時間の入力
- 作業オーダー時間入力プログラム (P311221) の処理オプションの設定
- 作業時間と作業量の更新
- 作業時間/作業量の更新プログラム (R31422) の処理オプションの設定
- 作業工程原価仕訳の検討と承認
- 総勘定元帳への作業工程原価仕訳の転記

作業オーダー処理について

作業オーダーを作成して必要な改訂を行ったら、処理する作業オーダーに関連付けられた多くのタスクを完了できます。

作業オーダーの見積

作業オーダーの見積を生成して、顧客用に印刷できます。作業オーダー見積プログラム(R17711)には、作業オーダーの税額および合計額を含む、すべての部品および労務の見積作業量および見積金額が表示されます。

参照: 第 6 章、「作業オーダーの管理」、「作業オーダーの見積の生成と印刷」、207ページ

作業オーダーの前払取引

顧客の前払をトラッキングするには、前払処理を使用します。顧客は現金、小切手またはクレジット・カードで前払できます。サービスの支払が完了している場合、作業オーダーが前払されたことが請求書に反映されます。作業オーダーに前払が使用されている場合は、作業オーダーの全額を前払する必要があります。

作業オーダーを入力して、修理作業を正式に要求し、保全スケジュールを設定できます。また、作業オーダーを使用して、修理作業に関連するすべての詳細を記録および伝達することもできます。

トラッキングするサービスごとに、作業オーダー・マスターを作成する必要があります。作業オーダー・マスターには、作業オーダー番号、記述、作業オーダーの担当のビジネスユニットなどの基本詳細情報が含まれます。また、作業オーダーを特定するために、カテゴリ・コードなどの追加情報を入力できます。

また、標準部品リストから部品をコピーしたり、カスタム部品を作業オーダーに割り当てることもできます。作業オーダーに詳細な従業員の作業工程指示を割り当てることもできます。次のステップを実行できます。

- 修理作業の実行に必要な各作業場を特定します。
- タスクの処理順序を指定します。
- 各タスクの予想時間を指示します。

次のような特徴がない場合は、システムから作業オーダーを削除することもできます。

- 親の作業オーダーとして使用されている
- 取引明細レコードが関連付けられている
- 部品リストまたは作業工程が添付されている

作業オーダーへの在庫出庫

作業オーダーと関連する資材の出庫には、「出庫の改訂」フォームを使用します。また、すでに記録された引当を変更することもできます。引当を変更すると、その数量が要求合計数量と一致しない場合は、エラー・メッセージが表示されます。また、このプログラムで引当を変更すると、引当数量を変更した保管場所の引当可能数量の残高が調整されます。仕訳が作成されます。各部品の合計原価は、保証に含まれる部品のパーセンテージに応じて、仕訳ごとに分割されます。

出庫トランザクションを取り消すには、マイナスの数字で品目の数量を入力します。「出庫数量」フィールドの数が少なくなります。

注意: 作業オーダー在庫出庫プログラム(P31113)の処理オプションを設定する場合は、「設備管理」タブで「作業オーダー番号」処理オプションを検索します。サービス管理の場合は、設備の出庫項目に1を入力します。

在庫仕訳の検討と承認

転記用の仕訳項目を確認する場合、バッチ・タイプ、番号、日付、状況またはユーザーIDに基づいたバッチのリストを表示できます。たとえば、状況が保留の転記のすべてのバッチを検討できます。バッチ確認のセキュリティ機能が有効な場合は、検討および承認の権限があるバッチのみが表示されます。

バッチのリストを検討した後で、仕訳のバッチ内の取引明細にアクセスできます。たとえば、バッチ内の仕訳の数を検討できます。また、検討する特定の仕訳を選択することもできます。

仕訳のバッチを入力および確認したら、転記する前に承認する必要があります。一般会計固定情報で定義された会社の要件に応じて、保留または承認済の状況がバッチに割り当てられます。

作業工程原価仕訳の検討と承認

転記用の仕訳項目を確認する場合、バッチ・タイプ、番号、日付、状況またはユーザーIDに基づいたバッチのリストを表示できます。たとえば、状況が保留の転記のすべてのバッチを確認できます。バッチ確認のセキュリティ機能が有効な場合は、検討および承認の権限があるバッチのみが表示されます。

バッチのリストを検討した後で、仕訳のバッチ内の取引明細にアクセスできます。たとえば、バッチ内の仕訳の数を検討できます。また、検討する特定の仕訳を選択することもできます。

仕訳のバッチを入力および確認したら、転記する前にバッチを承認する必要があります。一般会計固定情報で定義された会社の要件に応じて、保留または承認済の状況がバッチに割り当てられます。

時間入力

作業オーダーの時間入力プログラム(P311221)を使用して、作業オーダーに労務時間と作業量を割り当てます。処理オプションを使用して、オーダー番号形式または従業員番号形式で情報を表示できます。これらの形式を使用して、作業オーダー作業工程ステップに対する従業員の作業時間と作業量、または従業員に対する作業オーダー作業工程ステップの作業時間と作業量を記録します。

作業時間および作業量入力に関しては、次を考慮してください。

- 完了数量の入力は、作業順序番号ごとに1度だけ行います。
各作業時間タイプに対して作業量を入力すると、差異が発生します。
- 作業時間数は、作業ごとの開始時刻と終了時刻、または小数点以下第2位までの実作業時間で入力します。
- 入力した完了数量または仕損数量を取り消すには、取り消す数量をマイナスで入力します。

労務時間および作業量

入力した労務時間と作業量を処理し、原価の仕訳入力を作成するには、作業時間/作業量の更新バッチ・プログラムを実行する必要があります。このプログラムは、作業オーダーの作業工程テーブル(F3112)を更新して仕訳入力を作成します。各作業工程の合計原価は、保証対象の作業工程のパーセンテージに応じて各仕訳入力に分割されます。このプログラムを実行すると、変更はできません。

作業オーダーの作業時間/作業量の更新プログラム(R31422)を実行する前に、作業時間/作業量の検証リスト・プログラム(R31322)でエラーの確認と訂正ができます。

注意: システムで仕訳入力を作成するには、作業オーダーの作業時間/作業量の更新プログラムで、処理オプション1(仕訳入力の作成)を有効にする必要があります。

作業オーダー・ワークファイル生成プログラム

作業オーダー・ワークファイルを生成すると、次のことができます。

- ・ サービスを提供した顧客に対する請求
- ・ サービスを受けたサービス業者に対する支払

部品と作業工程の明細行から請求情報が取得されます。

作業オーダー・ワークファイルを生成するときに、次のテーブルが使用されます。

テーブル	内容
作業オーダー・マスター (F4801)	全般的な作業オーダー情報が格納されます。
サービス・オーダー拡張 (F4817)	サービス管理専用の作業オーダー情報が格納されます。
作業オーダー部品リスト (F3111)	全般的な部品リスト情報が格納されます。
部品拡張 (F31171)	サービス管理専用の部品リスト情報が格納されます。
作業オーダーの作業工程 (F3112)	全般的な作業工程指示情報が格納されます。
作業工程指示 - 拡張 (F31172)	サービス管理専用の作業工程指示に関する情報が格納されます。

作業オーダー・ワークファイルを生成すると、次のテーブルが作成または更新されます。

テーブル	内容
請求明細ワークファイル (F4812)	作業オーダー・ワークファイルの生成プログラムを最終モードで実行すると、作業オーダー部品リスト・テーブル (F3111) と作業オーダー作業工程テーブル (F3112) の明細行ごとに、テーブル F4812 にレコードが作成されます。サービス業者への支払用に買掛金レコードを作成すると、請求明細ワークファイルに対象費用のレコードが作成されます。対象外の費用にも別途レコードが作成されます。

テーブル	内容
部品拡張 (F31171)	<p>関連する処理に基づいて、次のフィールドが更新される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 請求日付 ・ 支払日付 ・ 実際請求単位 ・ 実際支払単位 ・ 実際請求金額 ・ 実際支払金額
作業工程指示 - 拡張 (F31172)	<p>関連する処理に基づいて、次のフィールドが更新される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 請求日付 ・ 支払日付 ・ 実際請求レート ・ 実際支払レート ・ 実際請求金額 ・ 実際支払金額

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- ・ 「作業オーダーの設定」メニュー (G1742) から伝票タイプの保守管理プログラム (P40040) を実行し、作業オーダーの伝票タイプを設定します。
- ・ 在庫AAIを設定して在庫原価をトラッキングします。
- ・ 伝票タイプの保守管理プログラム (P40040) の「作業オーダー」フィールドで、作業オーダーの伝票タイプを1に設定します。
- ・ AAIを設定して作業工程の原価計算を行います。
- ・ 該当する作業オーダーの部品および労務明細に値を入力します。
部品価格と労務原価が見積の基本となります。
- ・ CRM - サービス・オーダーの管理プログラム (P90CD002) または作業オーダーの改訂プログラム (P17714) の処理オプションを定義し、前払取引を処理します。

作業オーダーの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業オーダー見積照会	R17711	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダー見積」	作業オーダーの見積を生成して印刷します。
サービス作業オーダー管理<作業オーダー記述>	W90CD002B	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダー入力」 レコードを選択して「会計」タブを選択します。	作業オーダーの前払取引を作成します。
作業オーダーの改訂	W17714A	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダー入力」 「会計」タブを選択します。	作業オーダーの前払取引を作成します。
出庫の改訂	W31113A	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダー在庫出庫」 「スキップ先オーダーNo.」フィールドに値を入力して、「検索」をクリックします。 品目を選択します。	単一保管場所から資材を出庫します。
複数保管場所からの選択	W42053B	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダー在庫出庫」	複数の保管場所から資材を出庫します。
作業オーダー時間入力の処理	W311221B	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダーの時間入力」 「追加」をクリックして、作業時間と作業量を入力します。	作業オーダーの時間を入力します。

作業オーダーの見積の生成と印刷

「作業オーダー見積照会」フォームにアクセスします。

1. 見積を作成する作業オーダーを検索して選択します。
2. 「原価計算/分析」を選択し、「ロー」メニューから「作業オーダー見積」を選択します。
3. オンライン作業オーダー見積照会で見積を確認します。

作業オーダーの税額および合計額を含む、すべての部品および労務の見積作業量と見積金額が表示されます。

4. 「フォーム」メニューから「見積の印刷」を選択して見積を印刷します。

作業オーダー見積プログラム(R17711)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、作業オーダー見積プログラムのデフォルト値を指定します。

表示

1. 印刷する通貨

印刷する通貨を選択します。値は次のとおりです。
F: 外貨
D: 国内通貨
2. 非請求行の印刷

レポートに印刷する明細行を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: すべての明細行を印刷します。
1: 「請求可能」フィールドで非請求と設定されている明細行は印刷しません。

Vertex

この処理オプションは、Vertex社のQuantum Sales and Use Taxソフトウェア（サード・パーティの税計算ソフトウェア）が導入されている場合にのみ適用されます。

請求

1. 部品の取引タイプ、2. 請求対象部品の税額を計算するときに使用する値をUDC 73/TY (Vertex取引タイプの取引タイプ、3. 請求対象部品の税額を計算するときに使用する値をUDC 73/TY (Vertex取引タイプ) から入力します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルト値SERVICが使用されます。

作業オーダーの前払取引の作成

「サービス作業オーダー - 管理 <作業オーダー記述>」フォームまたは「作業オーダーの改訂」フォームにアクセスします。

「会計」タブで支払情報を入力します。

単一保管場所からの資材出庫

「出庫の改訂」フォームにアクセスします。

作業オーダー在庫出庫 - 出庫の改訂

OK(O) 検索(S) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

基本情報

追加明細

フィルタ

オーダーNo./タイプ

451910

SE

事業所

M30

オーダー数量/単位

1

EA

元帳日付

2005/06/28

出庫数量/単位

1

EA

勘定科目コード

出庫先

4243

Custom Brokers

レコード 1 - 4

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	出庫 (10)	品目 No.	記述	勘定科目コード	合計 数量	出庫数量 (2次単位)	要求 日付
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	7185	Compressed Air				2005/07/01
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	7184	Replacement Bulb				2005/07/01
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1						
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0						

「出庫の改訂」フォーム

スキップ先オーダーNo.	当初伝票を識別する番号を入力します。請求書番号、作業オーダー番号、受注オーダー番号、仕訳番号などがあります。
出庫数量/単位	要求された合計数量を入力します。
出庫先	従業員、応募者、関連会社、顧客、仕入先、テナント、所在地などの、住所録システムの項目を識別する番号を入力します。
資材状況	作業オーダーの特定の構成品の現在の状況を表す値をUDC 31/MS(資材状況)から入力します。
オーダー数量	このトランザクションの影響を受ける数量を入力します。
単位	容量または数量の単位を示す値をUDC 00/UM(単位)から入力します。パレル、箱、立方メートル、リットル、時間などがあります。 このフォームでこのフィールドをブランクにすると、部品リスト・テーブルの値が使用され、品目保管場所テーブルの基本単位が更新されます。
保管場所	移動する品目が保管されている場所を入力します。
ロット/シリアル番号	ロットまたはシリアル番号を識別する番号を入力します。ロットは、類似の特性を持つ品目のグループです。

複数保管場所からの資材出庫

「複数保管場所からの選択」フォームにアクセスします。

1. 「スキップ先オーダーNo.」フィールドに値を入力して、「検索」をクリックします。
2. 品目を選択して「選択」をクリックします。
3. 「出庫の改訂」で「在庫出庫」フィールドに値を入力します。
4. 品目を選択して、「ロー」メニューから「複数保管場所」を選択します。
5. 「複数保管場所からの選択」フォームで次のデフォルト情報を確認します。
 - 数量
 - 保管場所
 - ロット/シリアル
 - 事業所

出庫	要求された合計数量を入力します。
数量	受注オーダー入力で出荷に引き当てられた数量を、入力時の単位または品目の定義済基本単位を使用して入力します。 製造管理システムと作業オーダー時間入力では、このフィールドが完了数量や仕損数量を示す場合もあります。数量タイプは、入力したタイプ・コードで決まります。
保管場所	在庫を在庫する倉庫内の区域を表示します。保管場所フォーマットは、ユーザーが定義し、事業所別に入力します。
ロット/シリアル	ロットまたはシリアル番号を識別する番号を入力します。ロットは、類似の特性を持つ品目のグループです。

作業オーダー在庫出庫プログラム(P31113)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、作業オーダー在庫出庫プログラムのデフォルト値を指定します。

編集オプション

この処理オプションでは、在庫出庫プログラムのデフォルト値を制御します。たとえば、それ以上進むと出庫ができなくなる状況コードの上限、ロットへの出庫が可能なロット保留コードなどです。また、出庫によって手持ち数量がマイナスになる場合にエラー・メッセージを表示するかどうかも指定します。

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 伝票タイプ | UDC 00/DT (伝票タイプ - すべての伝票) から、出庫時に使用される値を入力します。伝票タイプにより、伝票の発生元と目的が判別されます。デフォルト値として使用する伝票タイプを入力するか、ユーザー定義コードの選択フォームから選択します。 |
| 2. 作業オーダーの状況コード | UDC 00/SS (作業オーダー状況) から、資材出庫の実行時に使用する作業オーダーの状況を示す値を入力します。空白にすると、作業オーダー見出し状況コードは更新されません。 |
| 3. 資材状況コード | UDC 31/MS (資材状況) から、資材出庫時に使用する資材状況を示す値を入力します。空白にすると、資材状況コードは入力されません。 |
| 4. 作業オーダー状況コード上限値 | 資材出庫ができなくなる時点で、作業オーダー見出しに割り当てるデフォルトの状況コードを指定します。 |
| 5. マイナス手持ち数量 | 出庫した資材がマイナス値の手持ち数量になったときに、エラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 表示しない
1: 表示する |
| 6. 品目販売実績 | 資材出庫時に、品目履歴テーブル(F4115)を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 販売品目履歴テーブルを更新しません。
1: 販売品目履歴テーブルを更新します。 |
| 7. 計画外の出庫 | 作業オーダーで計画外の出庫を処理するかどうかを指定します。
空白: 計画外の出庫を処理しません。
1: 計画外の出庫を処理します。 |
| 8. 購買オーダー伝票タイプ | UDC 00/DT (伝票タイプ - すべての伝票) から、資材の同時入出庫に関連する購買オーダーのデフォルトの伝票タイプを表す値を入力します。

購買オーダーの伝票タイプにより、未処理の購買オーダーの検索時に使用される伝票タイプが判別されます。空白にすると、伝票タイプOPが使用されます。 |
| 9. 検証する許容ロット状況グループの入力 | ロット・グループ名とは、空白以外の使用可能なロット状況コードのユーザー定義リストの名前です。処理オプションでロット・グループ名を入力すると、そのロット・グループ名の範囲内に定義されたロット状況コードを持つロットが処理されます。 |

表示オプション

この処理オプションでは、在庫出庫プログラムでの値の表示を制御します。たとえば、有効な出庫タイプ・コードを持つ構成品のみを表示したり、減損や歩留を適用した出庫数量を表示するよう指定できます。

- 1. 出庫タイプ・コード**

すべての構成品を表示するか、有効な出庫タイプ・コードを持つ構成品のみを表示するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべての出庫タイプ・コードの構成品を表示する

1: 有効な出庫タイプ・コードを持つ構成品のみを表示する
- 2. ロット番号**

ロット番号フィールドへの入力を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ロット番号フィールドへの値の入力を許可する

1: ロット番号フィールドへの値の入力を許可しない
- 3. 出庫数量**

有効な出庫タイプ・コードを持つ構成品すべてに対して、出庫数量の推奨値を入力するかどうかを指定します。

値は、作業オーダー在庫出庫の処理フォームの出庫数量フィールドの値が使用されます。出庫処理は、出庫数量が設定された品目のみに対して行われます。値は次のとおりです。

ブランク: 数量を入力しない

1: 自動的に数量を入力する
- 4. 減損の出庫数量への適用**

親品目の減損率を、構成品の推奨出庫数量に適用するかどうかを制御するコードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 出庫数量に減損率を適用しない

1: 出庫数量に減損率を適用する
- 5. 歩留の出庫数量への適用**

作業仕損のパーセント値を、構成品の推奨出庫数量に適用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 出庫数量に歩留率を適用しない

1: 出庫数量に歩留率を適用する
- 6. 未検討レコードの処理**

「OK」をクリック後に、表示されていないレコードも処理するかどうかを指定します。詳細グリッドに表示される構成品は一度に1ページです。この設定により、レコードをすべて表示してから処理するためにスクロールをしなくても、「OK」をクリックできます。値は次のとおりです。

ブランク: 処理する

1: 処理しない
- 7. 未処理の行のみを表示**

詳細グリッドに未処理の行のみを表示するか、すべての行を表示するかを指定します。「ロー」メニューの「行の締め切り」を選択して締め切られていないかぎり、行は未処理として扱われます。また、オーダー数量の方が出庫数量より多い場合も、未処理として扱われます。値は次のとおりです。

ブランク: すべての行

1: 未処理の行

不足分ワークベンチのオプション(製造のみ)

この処理オプションでは、在庫出庫プログラムから次のプログラムを呼び出すときに使用するバージョンを制御します。

1. 不足品目の改訂(P3118) 「出庫の改訂」フォームのロー・エグジットから不足品目の改訂プログラム(P3118)を起動したときに、使用されるバージョンを指定します。blankにすると、不足品目の改訂プログラムのバージョンZJDE0001が使用されます。バージョンにより、不足品目の改訂プログラムでの情報の表示方法が制御されます。したがって、この処理オプションを特定のバージョンに設定してください。
2. 発注残照会(P3160W) 「出庫の改訂」フォームのロー・エグジットから購買オーダー照会プログラム(P4310)を起動したときに、使用されるバージョンを指定します。このオプションをblankにすると、購買オーダー照会プログラムのバージョンZJDE0001が使用されます。
3. 入荷確認(P4312) 「出庫の改訂」フォームのロー・エグジットから入荷確認プログラム(P4312)を起動したときに、使用されるバージョンを指定します。このフィールドをblankにすると、入荷確認プログラムのZJDE0008バージョンが使用されます。
4. 移動および処分(P43250) 「出庫の改訂」フォームのロー・エグジットから入荷工程の移動/処分プログラム(P43250)を起動したときに、使用されるバージョンを指定します。このフィールドをblankにすると、入荷工程の移動/処分プログラムのZJDE0002バージョンが使用されます。入荷工程の移動/処分プログラムで表示される情報は、バージョンによって制御されます。

設備/工場管理(将来使用)

この処理オプションでは、保守オーダーを処理する際に、作業オーダー番号を仕訳入力の「補助元帳」フィールドに自動入力するかどうかを指定します。

1. 作業オーダー番号 「設備/工場管理の実行」処理オプションの保守作業オーダーを処理するかどうかを指定します。保守作業オーダーを処理する際に、作業オーダー番号を仕訳入力の補助元帳フィールドに入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
blank: 作業オーダー番号を補助元帳フィールドに入力しない
1: 作業オーダー番号を補助元帳フィールドに自動入力する

インタオペラビリティ

この処理オプションでは、在庫出庫および作業オーダー・トランザクションに使用するデフォルトのトランザクション・タイプその他、作業オーダー見出しの変更前トランザクションを書き込むかどうかを指定します。

1. 出庫トランザクション・タイプ UDC 00/TT(トランザクション・タイプ)から、エクスポート処理で使用する値を入力します。この処理オプションをblankにすると、エクスポート処理は使用されません。
2. 作業オーダー・トランザクション・タイプ トランザクションのエクスポート処理時に使用される作業オーダー見出しのデフォルト・トランザクション・タイプを指定します。この処理オプションをblankにすると、エクスポート処理は実行されません。
3. 作業オーダー見出しの変更前トランザクション情報 作業オーダー見出しの変更前トランザクションを書き込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 変更前トランザクションを含めません。

1: 変更前トランザクションを含めます。

在庫仕訳の検討と承認

「作業オーダー日次処理」メニュー (G1712) で「仕訳の検討」にアクセスします。

仕訳の検討プログラムは、バッチ制御レコード (F0011) テーブルと取引明細 (F0911) テーブルの情報を表示して更新します。仕訳を転記する前に、様々なレベルで情報を検討できます。次の処理が可能です。

- 仕訳バッチの検討
- 仕訳明細の改訂

時間の入力

「時間入力の改訂」フォームにアクセスします。

作業オーダーの時間入力 - 時間入力の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

作業日 ★ 2009/02/12 バッチ番号 397

オーダーNo./タイプ 451101 WO Bike Trailer

品目No. 2600

レコード 1 - 2 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	オーダー No.	従業員 No.	作業 No.	時間 タイプ	シフト コード	開始 時刻	終了 時刻	時間数	数量	単位	作業 状況	従業員名
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	451101	6001	10.00	1	1			5.00				Allen, Ray
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>												

「時間入力の改訂」フォーム

作業日付

取引を転記する会計期間を識別する日付を入力します。

会社固定情報で各会計期間の日付範囲を指定します。期間は14まで指定可能です。通常、期間14は監査調整用です。PBCO(過去期間)、PYEB(前年度以前)、PACO(未来期間)、WACO(次年度以降)のメッセージに対して、このフィールドが検証されます。

オーダーNo.

当初伝票を識別する番号を表示します。請求書番号、作業オーダー番号、受注オーダー番号、仕訳番号などがあります。

このフォームでは、作業時間/作業量プログラムの処理オプションにオーダー番号または従業員番号を指定できます。

時間タイプ

時間タイプを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

- 1: 実労務時間
- 2: 段取労務時間
- 3: 機械時間

	4: 完了数量
	5: 仕損数量
	9: その他(出来高ボーナスなど)
数量	受注オーダー入力で出荷に引き当てられた数量を、入力時の単位または品目の定義済基本単位を使用して入力します。 製造管理システムと作業オーダー時間入力では、このフィールドが完了数量や仕損数量を示す場合もあります。数量タイプは、入力したタイプ・コードで決まります。
単位	UDC 00/UM(単位)から、CS(ケース)、BX(箱)などの在庫品目の数量単位を示すコードを入力します。
作業状況	UDC 31/OS(作業状況)から、現在の作業オーダー状況または設計変更オーダー状況を示す値を入力します。この値は作業工程の作業ステップ完了時に入力します。

作業オーダー時間入力プログラム(P311221)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、作業オーダー時間入力プログラムのデフォルト値を指定します。

表示

フォームの表示方法を指定します。

- 表示** フォームを従業員番号形式で表示するか、オーダー番号形式で表示するかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 従業員のフォーマットを表示します。
 1: オーダー番号のフォーマットを表示します。

デフォルト

伝票タイプと状況コードを指定します。

- 製造現場活動に関連する伝票タイプを入力します。** UDC 00/DT(伝票タイプ - すべての伝票)から、製造現場活動を示す値を入力します。伝票タイプ・コードは、伝票タイプの保守管理プログラム(P40040)で定義します。
- 作業オーダーの状況コード** 作業時間と数量を作業オーダーの作業工程に転記するときに作業オーダーに割り当てられる値をUDC 00/SS(作業オーダー状況)から選択して入力します。ブランクにすると、作業オーダー状況コードは更新されません。

編集

システムの編集を指定します。

- 製造現場活動の入力が不可能となる時点の状況コードを入力してください。** 製造現場活動の入力が不可能になる時点の作業オーダーの状況を示す値を00/SS(作業オーダー状況)から入力します。
- 数量の検証** 完了数量と仕損数量が作業数量を超過していないかについて、検証するかどうかを指定します。
 ブランク: 数量を検証しない

- 1: 数量を検証する
- 3. 従業員賃率** 従業員賃率の表示を指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 表示します。
 1: 非表示にします。
- 4. 歩留の完了数量への適用** 作業歩留率を作業の完了数量に適用するかどうかを指定します。この歩留率により仕損数量が決まります。値は次のとおりです。
 ブランク: 適用しません。
 1: 適用します。

バージョン

起動するプログラムのバージョンを指定します。各アプリケーションのバージョンを入力します。

- 1. 試験結果の改訂 (P3711)** アプリケーションやレポートの実行方法の指定に使用するユーザー定義の仕様のセットを指定します。バージョンを使用することで、ユーザー定義の処理オプション値、データ選択オプション、データ順序オプションをグループ化して保存できます。対話型バージョンは、(通常、メニュー項目の形で) アプリケーションと関連付けられています。バッチ・バージョンは、バッチ・ジョブまたはレポートと関連付けられています。バッチ処理を実行するには、バージョンを選択する必要があります。ブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
- 2. 製造スケジュール・ワークベンチ (P31225) 、 3. 生産状況 (P31226)**
- 4. 作業時間/作業量の更新 (R31422)** レポート、ビジネスユニット、補助元帳など、まとめて処理できる項目のグループを指定します。この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001 が使用されます。

インタオペラビリティ

取引タイプおよび作業オーダー見出しのデフォルト値を指定します。

- 1. 作業オーダーのトランザクション・タイプ** トランザクションのエクスポート処理時に使用される作業オーダー見出しのデフォルト・トランザクション・タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、エクスポート処理は実行されません。
- 2. 作業オーダー見出しの変更前トランザクション** 作業オーダー見出しの変更前トランザクションを書き込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 変更前トランザクションを書き込まない
 1: 変更前トランザクションを書き込む

作業時間と作業量の更新

作業時間/作業量の検証リスト・プログラムを実行するには、「作業オーダー日次処理」(G1712) から「作業時間/作業量の検証リスト」を選択します。

作業時間/作業量の更新プログラムを実行するには、「作業オーダー日次処理」(G1712) から「作業時間/作業量の更新」を選択します。

作業時間/作業量の更新プログラム (R31422) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、作業時間/作業量の更新プログラムのデフォルト値を指定します。

インタオペラビリティ

1. **トランザクション・タイプ** 送信トランザクション処理時に使用する作業時間と作業量のトランザクション・タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、送信処理は実行されません。
2. **送信サブシステムUBE**
(送信サブシステムのユニバーサル・バッチ・エンジン) 作業時間/作業量の更新プログラム(P31422)で送信トランザクションが正常に処理された後に、サブシステムを呼び出すかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 呼び出しません。
1: 呼び出します。

サービス/ワランティ管理

1. **サービス/ワランティ管理の仕訳** サービス/保証作業オーダーの仕訳を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 作成しない
1: 作成する
2. **任意勘定科目の設定** 取引明細テーブル(F0911)にコスト・オブジェクトをロードするために、任意会計規則を検索するかどうかを指定します。
コスト・オブジェクトを仕訳に添付するには、任意勘定科目形式を使用する必要があります。値は次のとおりです。
ブランク: 任意勘定科目を使用しない
1: 任意勘定科目を使用する
3. **総勘定元帳日付** 仕訳に表示される元帳日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。
4. **補助元帳** 作業オーダー番号を「補助元帳」フィールドのデフォルト値に使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: デフォルト値を使用しない
1: 作業オーダー番号を使用する
5. **伝票タイプ** 作業工程を使用しない場合は、その他費用の原価要素の仕訳に使用するデフォルト伝票タイプを指定します。作業工程を使用する場合は、伝票タイプIHが自動的に割り当てられます。ブランクにすると、伝票タイプIHが使用されます。

デフォルト

1. **作業オーダー状況コード** 作業時間と数量を作業オーダーの作業工程に転記するときに作業オーダーの更新で使用する値をUDC 00/SS(作業オーダー状況)から選択して入力します。ブランクにすると、作業オーダー状況コードは更新されません。

作業工程原価仕訳の検討と承認

仕訳の検討プログラムを実行するには、「作業オーダー日次処理」(G1712)から「仕訳の検討」を選択します。

仕訳の検討プログラム(P0911B)は、バッチ制御テーブル(F0011)と取引明細テーブル(F0911)の情報を更新して表示します。仕訳を転記する前に、様々なレベルで情報を検討できます。

次の処理が可能です。

- 仕訳バッチの検討
- 仕訳明細の改訂

総勘定元帳への作業工程別原価仕訳の転記

総勘定元帳に作業工程別原価仕訳を転記するには、「作業オーダー日次処理」(G1712)で「在庫取引の転記」を選択します。

作業工程別原価仕訳の入力、検討および承認(バッチ・タイプが0)を行ったら、この仕訳を元帳に転記します。仕訳の転記には様々な方法があります。

作業オーダーの請求と支払

この項では、作業オーダーの請求と支払の概要と、次の方法について説明します。

- 作業オーダー・ワークファイルの生成
- S/WM作業オーダー・ワークファイルの生成プログラム(R1775)の処理オプションの設定

作業オーダーの請求と支払について

一般的な請求および支払処理には、請求および支払対象の作業オーダーの集計、請求書の作成と印刷、利益および売掛の仕訳があります。一般的な支払プロセスには、支払対象の作業オーダーの集計、請求書の作成と印刷、買掛の仕訳があります。

請求書は、請求対象の作業オーダーに基づいて作成されます。請求処理の最初のステップは、請求対象の作業オーダーを集計することです。伝票は、支払対象の作業オーダーに基づいて作成されます。支払処理の最初のステップは、支払対象の作業オーダーを集計することです。

作業オーダーの請求を実行するときに、請求先の顧客に対して売掛仕訳を作成します。また、支払先のサービス業者に対して買掛仕訳を作成します。S/WM作業オーダー・ワークファイルの生成プログラム(R1775)の処理オプションに基づいて、請求対象レコードと支払対象レコードを同時に処理することも、別個に実行することもできます。

作業オーダー・ワークファイルの生成を実行すると、作業オーダー部品リスト・テーブル(F3111)、部品拡張テーブル(F31171)、作業オーダーの作業工程テーブル(F3112)および作業工程指示 - 拡張テーブル(F31172)から請求および支払対象の作業オーダーが収集され、請求明細ワークファイル・レコード(F4812)が作成されます。

多通貨環境の場合、次のソースから通貨情報が取得されます。

ソース	通貨情報
部品または作業工程に対する請求	国内: 作業オーダーのビジネスユニットが属する会社の通貨コード 海外: 顧客マスターで顧客に設定されている通貨コード
部品または作業工程に対する支払	国内: 作業オーダーのビジネスユニットが属する会社の通貨コード 海外: 仕入先マスターでサービス業者に設定されている通貨コード

顧客の請求処理

S/WM作業オーダー・ワークファイルの生成プログラム(R1775)を使用して作業オーダー・ワークファイルを生成すると、次のテーブルから請求対象のオーダーが収集されます。

- 作業オーダー・マスター(F4801)
- サービス・オーダー拡張(F4817)
- 作業オーダー部品リスト(F3111)
- 部品拡張(F31171)
- 作業オーダーの作業工程(F3112)
- 作業工程指示 - 拡張(F31172)

請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)にレコードが作成されます。

作業オーダー・ワークファイルの生成後に、次のような標準の請求処理を継続する必要があります。

- サービス請求の請求書生成プログラム(P48121)による請求書ワークファイルの作成
- 請求書選択の印刷プログラム(R48504)による請求書の印刷
- 仕訳の生成プログラム(R48131)による請求書仕訳の生成
- 売掛仕訳の作成プログラム(R48199)による売掛仕訳と元帳仕訳の作成
- 総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)による売掛仕訳と元帳仕訳の転記

サービス請求書の生成プログラムを実行して、ワークファイル取引をグループ化し、請求書番号を割り当てます。このプログラムを実行すると、1つ以上のワークファイル取引が支払項目レコードに集約されます。支払項目は、特定の請求書の合計金額を表す請求行です。支払項目情報は、請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)に格納されます。ワークファイル取引レコードは、新しい請求書情報、順序、集計キー情報で更新されます。

サービス請求書の生成プログラムを実行した後で、顧客に提供したサービスに関する請求書を印刷できます。

請求処理を完了するには、売掛仕訳と元帳仕訳を作成する必要があります。まず最初に、請求書仕訳の生成プログラム(R48131)を使用して仮の売掛仕訳と元帳仕訳を作成します。仮の売掛仕訳と元帳仕訳が作成されたら、結果のレポート(請求仕訳レジスタと請求書仕訳生成レポート)を参照し、仕訳にエラーがないか確認します。

バッチ内にエラーがないことを確認したら、売掛仕訳の作成プログラムを使用して最終の売掛仕訳を作成し、請求書を元帳に転記できます。

サービス業者の伝票処理

S/WM作業オーダー・ワークファイルの生成プログラム(R1775)を使用して作業オーダー・ワークファイルを生成すると、支払対象のオーダーが収集され、請求明細ワークファイル(F4812)にレコードが作成されます。作業オーダー・ワークファイルの生成後に、次のような標準の伝票処理を継続する必要があります。

- 伝票の生成プログラム(R48122)による伝票ワークファイルの生成
- 伝票の印刷
- 仕訳の生成プログラム(R48131)による伝票仕訳の生成
- 請求伝票AP - GL仕訳の生成プログラム(R48197)による買掛仕訳と元帳仕訳の作成
- 総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)による買掛仕訳と元帳仕訳の転記

伝票の生成プログラムを実行して、ワークファイル取引をグループ化し、伝票番号を割り当てます。支払項目情報が伝票集計テーブル(F4823)に保存されます。また、ワークファイル取引レコードが新しい伝票情報、順序、集計キー情報で更新されます。

伝票処理を完了するには、買掛仕訳と元帳仕訳を作成する必要があります。まず最初に、請求書仕訳の生成プログラム(R48131)を使用して仮の買掛仕訳と元帳仕訳を作成します。仮の買掛仕訳と元帳仕訳が作成されたら、関連するレポート(仕訳編集レジスタと仕訳監査レポート)を参照して、仕訳にエラーがないか確認します。バッチ内にエラーがないことを確認したら、買掛仕訳の作成プログラム(R48197)を実行して最終の買掛仕訳を作成できます。次に、標準の転記レポート・プログラムを実行して、伝票を総勘定元帳に転記します。

作業オーダー・ワークファイルの生成

作業オーダー・ワークファイルを実行するには、「作業オーダー定期処理」メニュー(G1722)から「作業オーダー・ワークファイルの生成」を選択します。

S/WM作業オーダー・ワークファイルの生成プログラム(R1775)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、S/WM作業オーダー・ワークファイルの生成プログラムのデフォルト値を指定します。

処理

作業オーダー生成のデフォルト値を指定します。

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. 更新モード | プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: テスト・モード
1: 最終モード |
| 2. ワーク・センターまたはレポート | エラーの記録場所を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: ワーク・センターにエラーを書き込みます。
1: レポートにエラーを書き込みます。 |
| 3. 作業オーダーに対する請求 | 作業オーダーに対する請求を行うかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 請求します。 |

4. 作業オーダーに対する支払

1: 請求しません。

作業オーダーに対する支払を行うかどうかを指定します。有効値は次のとおりです。

ブランク: 支払います。

1: 支払いません。

5. 価格調整履歴

価格調整元帳テーブル (F4074) の価格調整履歴を使用して調整を行うかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 使用しません。

1: 使用します。

請求金額

請求のデフォルト情報を指定します。

1. 部品/労務の価格設定

請求対象の部品および労務の価格設定方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 実際請求金額はありません。

1: すべて

2: 計算しない

2. 請求補助元帳のデフォルト

請求補助元帳フィールドのデフォルト値を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: デフォルトなし

1: 作業オーダー番号

2: 顧客番号

3: サイト番号

4: 略式品目番号

5: 契約番号

6: 設備番号

3. 請求日付

最終モードでレポートを実行したときに請求日付を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: システム日付

1: 作業オーダーの開始予定日

支払金額

支払のデフォルト情報を指定します。

処理オプションの1と2は、請求のデフォルト情報を指定するオプションと同じです。

3. 支払日付

最終モードでレポートを実行したときに支払日付を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: システム日付を使用します。

1: 作業オーダーの開始予定日を使用します。

Vertex Quantum (サードパーティ)

この処理オプションは、Vertex社のQuantum Sales and Use Taxソフトウェア(サード・パーティの税計算ソフトウェア)が導入されている場合にのみ適用されます。

第 7 章

保証請求と仕入先回収請求の処理

この章では、保証請求と仕入先回収請求の概要と次の方法について説明します。

- 保証請求の処理
- 仕入先回収請求の処理

保証請求と仕入先回収請求について

この項では、次の項目について概要を説明します。

- 保証請求と仕入先回収請求
- 保証請求と仕入先回収請求の多通貨取引
- 保証請求と仕入先回収請求を設定するためのチェックリスト

この章で使用する共通フィールド

原因部品

問題の原因となっている部品の品目番号を入力します。

構成部品コード - システム

最初のフィールドには、空調など、設備の1つに関連している特定のシステムの値をユーザー定義コード(UDC)テーブル17/C6(構成部品コード - システム)から選択して入力します。システムのUDC、アセンブリおよび部品から設備内の特定の位置が識別されます。

2番目のフィールドには、エア・コンプレッサーなど、設備内の特定のアセンブリの位置を表す値をUDC 17/C7(構成部品コード - アセンブリ)から入力します。

3番目のフィールドには、エアコン・クラッチのフューズなど、設備内の特定の部品の位置を表す値をUDC 17/C8(構成部品コード - 部品)から入力します。

契約No./タイプ

伝票、請求書、仕訳などの当初伝票を識別する番号を入力します。入力フォームでの伝票番号は、ユーザーが割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使って自動的に割り当てることができます。

照合伝票番号(DOCM)は、売掛管理と買掛管理の両システムの関連する伝票を特定します。当初伝票および照合伝票には次の例があります。

買掛金:

当初伝票 - 買掛伝票

照合伝票 - 支払

売掛金:

当初伝票 - 請求書

照合伝票 - 入金

注意: 売掛管理システムでは、これらの取引は当初伝票と照合伝票(損金、未充当入金、再請求、および手形)を同時に生成します。

保証内金額の相手勘定

会計取引の(保証または契約で)保証内部分の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9(元帳転記カテゴリ)から入力します。相手勘定を指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ入力するか、このフィールドをブランクにします。このフィールドをブランクにすると、在庫の相手勘定が使用されます。

現行メーター残1

現行メーター残1を入力します。

欠陥コード

UDC 17/DC(欠陥コード)から、欠陥のタイプを示す値を入力します。

故障日付

設備の故障が発生した日付を入力します。

ロット/シリアルNo.

ロットまたはシリアル番号を識別する番号を入力します。ロットは、類似の特性を持つ品目のグループです。

保証外金額相手勘定

会計取引の保証外部分の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9(元帳転記カテゴリ)から入力します。相手勘定を指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ入力するか、このフィールドをブランクにします。このフィールドをブランクにすると、在庫の相手勘定が使用されます。

ペーパー・ボタン

資格チェックを実行するボタン。

仕入先回収請求(P1779)で処理オプションを設定すると、資格を自動的に確認できます。

この請求に該当する仕入先契約がある場合、仕入先回収請求の「会計処理」タブに契約番号が表示されます。また、部品リストと請求の労務詳細に保証率が表示されます。

支払手段

顧客の支払手段を指定する値をUDC 00/PY(支払手段)から入力します。次に例を示します。

C: 小切手

D: 手形

T: 電子資金決済

状況

UDC 00/SS(作業オーダー状況)から、作業オーダー、レート・スケジュール、または設計変更オーダー(ECO)の状況を示す値を入力します。状況が90から99までの値に変更されると、完了日付が自動更新されます。

重要: 「状況コード」には、「伝票タイプ」と「サービス・タイプ」に正しい値を入力する必要があります。製品の登録状況(製品登録処理規則、P17052)と設備の状況が比較され、設備が仕入先回収請求の対象かどうか判別されます。

保証請求と仕入先回収請求

一般に、製造業者は流通業者網を介して製品を販売し、認定のサービス業者を介して製品に対するサービスを提供します。製造業者は基本保証と拡張保証を提供し、流通業者が実際のサービスを提供します。

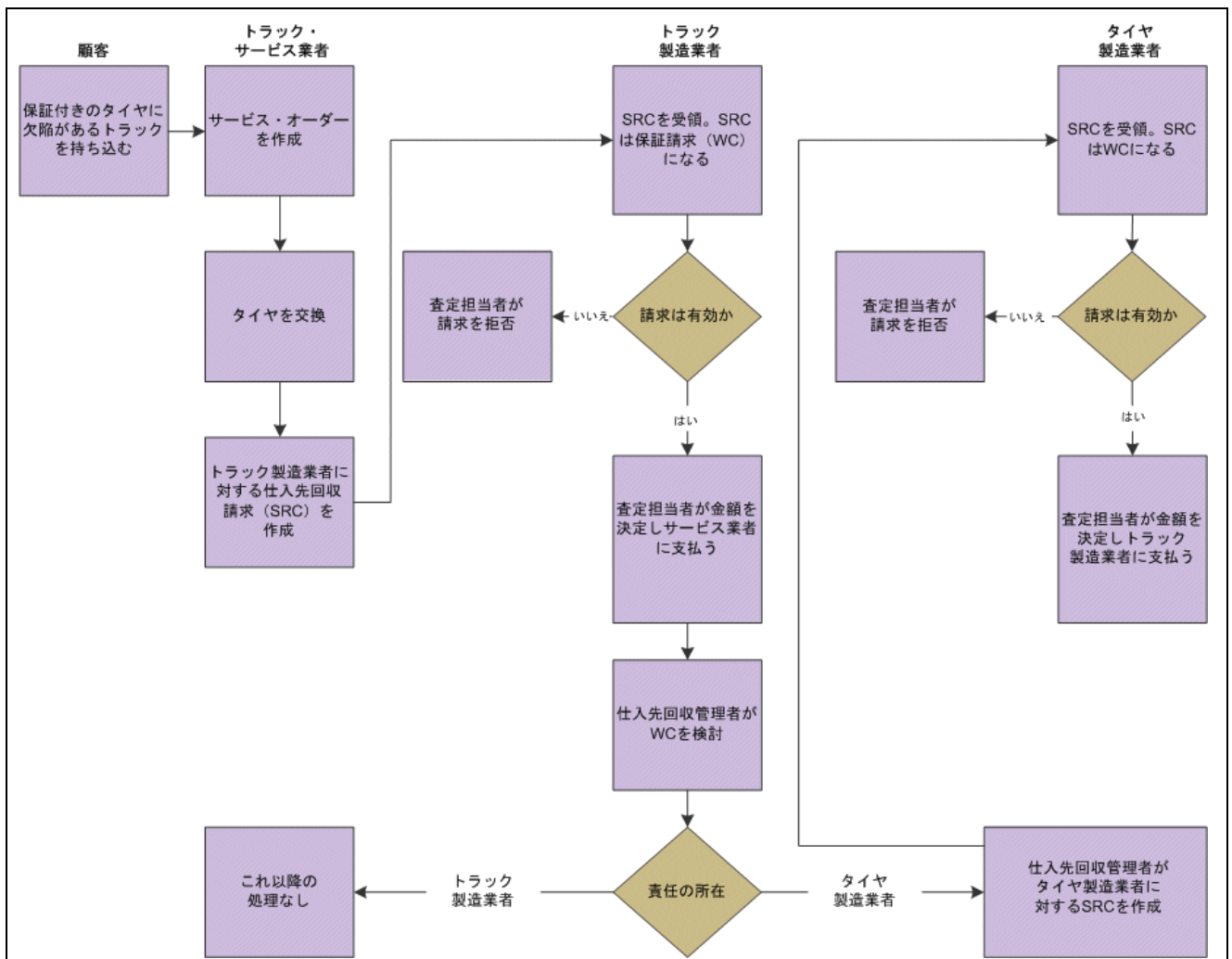
製品に欠陥があった場合、流通業者がサービスを提供し、代金を支払います。流通業者は製造業者に請求を行い、サービス原価の一部またはすべてを回収します。

仕入先は製造業者に部品を提供します。仕入先は、これらの部品に対して保証を行う場合があります。製品または部品に欠陥があった場合、製造業者は仕入先に請求を行い、部品原価の一部またはすべてを回収します。

サービス業者と査定担当者は、保証請求プログラムで保証請求の入力と管理を行います。この機能では、請求の評価、承認、拒否以外に、保証請求から仕入先回収請求を生成できます。

回収管理者は、仕入先回収プログラムで仕入先回収請求の入力と管理を行います。仕入先回収請求とは、欠陥の責任が仕入先側にあった保証請求または作業オーダーに対して、製造業者が仕入先に行う保証関連費用の払戻請求です。

次の図は、欠陥タイヤに関する請求処理の例を示しています。



この例では、タイヤを交換するために顧客がサービス業者にトラックを持ち込んでいます。仕入先回収請求は常に送信トランザクションとなりますが、保証請求は受信トランザクションとなります。

保証および仕入先回収に関する用語

次の用語と概念は保証請求と仕入先回収請求に関するものです。

製造業者	製品を製造し、サービス業者または顧客に直接販売する業者。
サービス業者	製品を最終顧客に販売し、販売した製品に関するサービスを提供する業者。流通業者ともいいます。
仕入先	製造業者に部品を提供する業者。仕入先は、仕入先契約の形式で納入部品の保証を行います。
製品登録	サービス業者と最終顧客が所有者を登録するサービス管理のプログラム。この登録は通常、保証期間の最初に行われます。
保証請求	サービス業者が製品の修理に関わる原価（部品、労務など）を製造業者に求める請求。
仕入先回収請求	仕入先の納入した部品に欠陥があった場合に、製造業者が仕入先に部品原価を求める請求。
サービス契約	最終顧客が購入した製品に対して製造業者が行う保証。
仕入先契約	製造業者と仕入先の間で結ぶ契約。最終製品の製造で使用された部品の範囲を示します。
査定担当者	サービス業者から提出された保証請求を精査し、承認または却下する製造業者の従業員。
仕入先回収管理者	保証請求を精査し、仕入先から回収できる原価を判断する製造業者の従業員。仕入先回収請求は回収管理者が入力します。

保証請求と仕入先回収請求の多通貨取引

JD Edwards EnterpriseOne 8.9リリースでは、保証請求または仕入先回収請求に部品または労務レコードが存在すると、サービス業者（保証請求）または仕入先（仕入先回収請求）は、変更で通貨コードが変わる場合には変更できません。

次のように、労務詳細プログラム (P17712) の「作業金額の種類」フィールド (LSRCE) 値により、2種類の労務行が指定されます。

- L-source = 労務行。
- T-source = サード・パーティの請求行。必要に応じて異なる通貨情報を入力できます。

次の通貨値は、見出し、部品行、L-source 労務行で一貫しています。

- 「基本通貨」フィールドまたは「通貨コード」フィールド
- 取引通貨（「終了通貨コード」フィールドまたは「通貨」フィールド）
- 外貨/国内通貨モード
- 為替レート

見出しフィールドに関する考慮事項

見出しフィールドおよび多通貨に関して、次の考慮事項に留意してください。

- 基本通貨のデフォルト値は会社情報から派生します。
会社情報は、担当ビジネスユニットから派生している場合があります。「基本通貨」フィールドの値は変更できません。
- 取引通貨のデフォルトは次の情報から取得されます。
 - サービス業者のARレコード(保証請求の場合)
 - 仕入先のAPレコード(仕入先回収請求の場合)部品詳細または労務詳細を添付するまで、取引通貨フィールドの値を変更できます。
- 通貨が異なる場合、外貨/国内通貨モードのフィールドに外貨のデフォルト値が表示されます。
部品詳細または労務詳細を添付するまで、このフィールドの値を変更できます。
- 通貨が同じ場合、外貨/国内通貨モードのフィールドに国内通貨のデフォルト値が表示されます。
このフィールドの値は変更できません。為替レートのデフォルト値は0です。この値は変更できません。
- 為替レート・テーブル(F0015)の2つの通貨に基づいて、デフォルトの為替レートが表示されます。
部品詳細または労務詳細を添付するまで、このフィールドの値を変更できます。
- 部品詳細または労務詳細を添付すると、サービス業者(保証請求の場合)または仕入先(仕入先回収請求の場合)を変更できません。

「部品」フィールドと「労務」フィールドに関する考慮事項

「部品」フィールドおよび「労務」フィールドと多通貨に関して、次の考慮事項に留意してください。

- 次の場合に、取引通貨、為替レート、外貨/国内通貨モードを変更できます。
 - 既存の部品行が存在しない場合
 - 既存のL-source労務行が存在しない場合部品行と労務行を保存すると、取引通貨、為替レートまたは外貨/国内通貨モードに対する変更が請求の見出しに書き込まれます。
- T-source労務行に値を入力しないと、取引通貨、為替レートおよび外貨/国内通貨モードの値は、L-source労務行と同じ値になります。
レコードを保存するまで、T-source労務行を変更できます。

保証請求と仕入先回収請求を設定するためのチェックリスト

保証請求および仕入先回収請求を設定する場合、次のチェックリストを確認してください。

ユーザー定義コード(UDC)

次のUDCの設定を行います。

- サービス・タイプ(UDC 00/TY)を設定します。
保証請求および仕入先回収請求の伝票タイプも設定する必要があります。G1740の見出しの下の「伝票タイプの管理」を参照してください。
- 保証請求および仕入先回収請求の状況コード(UDC 00/SS)を設定します。

状況コードにより、作業オーダー処理規則 (P4826) に関連する伝票の状況が制御されます。保証請求の状況は、ユーザー (サービス業者、査定担当者または仕入先回収管理者) が特定のフィールドを変更できるかどうかを表します。

「サービス/ワランティ管理のセットアップ」(G1740)メニューでの設定:

次のサービスおよび保証の設定を行います。

- 「サービス/ワランティ固定情報」、「保証請求」タブおよび「仕入先回収請求」タブ: 「基本価格を使用する」フィールドを設定します。
- 保証請求と仕入先回収請求の両方の伝票タイプに対する「伝票タイプの管理」:
「作業オーダーの定義」タブ: 作業オーダー・タイプ (UDC 48/OT) を設定します。
- 「住所録の改訂」、「仕入先情報の改訂」および「サービス業者の改訂」: 請求および返金方法に調整スケジュールを設定します。

仕入先に支払を行う場合には、仕入先のマスター・レコードが必要です。顧客に請求を行う場合には、顧客のマスター・レコードが必要です。

「保証請求設定」(G1747)メニューでの設定:

次の保証請求の設定を行います。

- 査定担当者のデフォルト: 「処理タイプ」処理オプションで、保証請求および仕入先回収請求の査定担当者を設定します。
- 査定担当者のデフォルトと規則順序を設定します。
保証請求と仕入先回収請求に時間が表示されます。査定担当者は、この時間から一般的に設備の修理に要する時間が判断できます。
- 作業オーダー処理規則: 特定の状況で保証請求の値を変更可能なユーザーを制御する規則を設定します。
「編集権限」フィールドに有効なロールは、サービス業者、査定担当者または仕入先回収管理者です。

重要: 編集権限を設定しないと、保証請求を処理できません。

「設備マスターの設定」(G1741)メニューでの設定:

次の設備マスターの設定を行います。

- 製品登録状況規則: 請求の適格性など、設備レコードに追加可能な請求を制御する状況規則を設定します。
- 保証デフォルトの入力: サービス契約の基本保証にデフォルト値を設定します。

「対話型バージョン」(IV)での設定:

次のプログラムの処理オプションを設定します。

- 部品詳細 (P17710)
- 労務詳細 (P17712)

「契約日次処理」(G1714)メニューでの設定:

サービス契約入力: 保証請求の資格規則順序を設定します (「保証請求」フォームのエグジット)。

「仕入先回収日次処理」(G1718)メニューでの設定:

次のように仕入先回収請求(P1779)の処理オプションを設定します。

- 「デフォルト」タブ: 伝票タイプを設定します。
- 「バージョン」タブ: 部品詳細のバージョンと労詳詳細のバージョンを設定します。

「保証請求日次処理」(G1717)メニューでの設定:

次のように、保証請求入力(P1777)の処理オプションを設定します。

- 「デフォルト」タブ: 伝票タイプを設定します。
- 「バージョン」タブ: 保証請求から仕入先回収請求を作成している場合には、R1776(仕入先回収請求バージョンを作成するPO)の正しいバージョンを設定してください。

重要:「処理」タブ: サービス業者、査定担当者、仕入先回収管理者に関連する機能を有効にする処理オプションを設定します。プログラムは、請求の表示または編集を特定のユーザー・ロール(査定担当者など)に許可するようにハードコード化されています。この処理オプションを正しく設定しないと、ロールの実行に必要な権限が付与されません。

- 仕入先回収請求の生成: 次のように、仕入先回収請求の作成(R1776)のバッチ・バージョンの処理オプションを設定します。

「デフォルト」タブ: 仕入先回収の伝票タイプ、サービス・タイプおよび現在の状況を設定します。

保証請求の管理

この項では、保証請求管理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 保証請求の入力
- 保証請求プログラム(P1777)の処理オプションの設定
- 保証請求の送信
- SWM保証請求/仕入先回収ワークファイルの生成プログラム(R177701)の処理オプションの設定

保証請求管理について

サービス業者と査定担当者は、保証請求プログラム(P1777)をそれぞれ異なる方法で使用して各自の作業を実行します。保証請求は、顧客のサービス契約に対して行われます。

サービス業者は、このプログラムを使用して新しい保証請求を入力できます。また、未処理の請求の状況を照会できます。このプログラムで請求を入力するには、修理の詳細などのデータが必要です。

査定担当者は、このプログラムを使用して保証請求を評価し、請求を承認または却下できます。このプログラムは請求の承認決定に必要な情報を提供します。査定担当者は、請求の承認または却下に関する詳細を入力します。また、このプログラムでは返品された部品に返品承認(RMA)を作成して管理します。

価格管理を使用すると、顧客とのサービス契約に指定された期間および条件に基づき、保証請求単位レートと承認単位レートを取得できます。

保証請求に対するAAI(自動仕訳)の設定

会社、伝票タイプ、元帳クラス(相手勘定)および使用する原価タイプの固有の組合せごとに、AAI(自動仕訳)を作成する必要があります。それぞれのAAIは、ビジネスユニット、主科目、補助科目(任意)からなる特定の勘定科目と結合しています。

サービス管理にAAIを設定すると、保証請求の請求と支払に流通AAIが使用されます。保証請求関連の流通AAIは次のとおりです。

- 1723、保証請求の価格調整
- 1724、保証請求の相殺
- 1743、保証請求の売掛金
- 1785、保証請求の買掛金
- 1725、仕入先回収の価格調整
- 1726、仕入先回収の相殺
- 1744、仕入先回収の売掛金
- 1786、仕入先回収の買掛金

「会社」、「伝票タイプ」、「元帳クラス・コード」、「原価タイプ」の4つのキー・フィールドに従って、ワークファイルの改訂(P4812)でエントリを作成するときに使用される勘定科目が取得されます。

保証請求処理

保証請求を入力したら、保証請求ワークファイルの生成プログラム(R177701)を使用して、サービス業者の買掛金レコードと売掛金レコードを作成します。保証請求および仕入先回収請求は同じワークファイル生成プログラムを使用しますが、「処理」タブの処理オプションの設定は異なります。(保証請求または仕入先回収請求のいずれかに設定します。)このプログラムは、次の情報を受理事項に入れています。

- 保証請求番号
- サービス業者の詳細情報
- 原因部品の情報
- 問題情報

事前設定

保証請求と仕入先回収請求の設定チェックリストを確認します。

参照: 第 7 章、「保証請求と仕入先回収請求の処理」、「保証請求と仕入先回収請求を設定するためのチェックリスト」、227ページ

保証請求管理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
保証請求の改訂	W1777C	「保証請求日次処理」メニュー (G1717)、「保証請求入力」 「保証請求の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 「一般」タブを選択します。 「分類」タブを選択します。 「会計」タブを選択します。	保証請求を入力します。

保証請求の入力

「保証請求の改訂」フォームにアクセスします。

保証請求入力 - 保証請求の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

オーダーNo. 453296 WWC サービス・タイプ ★ Y 現場修理

一般 分類 会計 添付

ディーラー

サービス・ディーラー ★ 4319 Appliance Sales and Service

ディーラー参照 5523 現行の状況 W4 保証請求処理

査定担当者 4806 Maria Zepeda

製品

設備No. 34690 Commercial Clothes Washer

在庫品目番号 7210 Commercial Clothes Washer

ロット/リアルNo. 4307

製品モデル W500 製品ファミリ APP

顧客No. 4250 Central Gas Stations

メーター示度

現行メーター残1

現行メーター残2

現行メーター残3

問題

原因部品 72102 Motor, Commercial Washer

原因部品ビジネスユニット S30 LM Service Center

原因仕入先 4317 Appliance Parts and Supply

欠陥コード QD 品質欠陥

構成品コード - 部品

問題記述 ★ WASHER STOPPED TURNING

仕入先ロットNo. 7264

問題発生日付 ★ 2005/06/05

修理日付 ★ 2005/06/07

「保証請求の改訂」フォーム

保証請求プログラム(P1777)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、保証請求プログラムのデフォルト値を設定します。

デフォルト

保証請求のデフォルト値を指定します。

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1. 伝票タイプ | UDC 00/DT (伝票タイプ - 全伝票) から、請求入力時に使用されるデフォルトの伝票タイプを表す値を入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。 |
| 2. サービス・タイプ | UDC 00/TY (作業オーダー/ECOタイプ) から、請求入力時に使用されるオーダー・タイプを表す値を入力します。オーダー・タイプは請求を分類するタイプを示します。 |
| 3. カテゴリ・コード01 | UDC 00/W1 (カテゴリ・コード01) から、デフォルト値として使用する値を入力します。このカテゴリ・コードは請求の現在の段階を表します。請求は、一度に1つのフェーズ・コードにのみ割り当てられます。 |
| 4. カテゴリ・コード02 から
12. カテゴリ・コード10 | 必要に応じて、カテゴリ・コード02から10までのUDCから値を入力します。 |
| 13. デフォルト修理日付 | <p>現在の日付をデフォルトの修理日付として使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 使用する</p> <p>1: 使用しない</p> |
| 14. 事業所 | 新しい請求のデフォルト値として使用される事業所の値を指定します。 |
| 15. 担当ビジネスユニット | 新しい請求のデフォルト値として使用される担当ビジネスユニットの値を指定します。 |
| 16. 仕入先回収フラグ | 仕入先回収フラグのデフォルト値を指定します。このフィールドには、作業オーダーまたは保証請求が仕入先回収請求の発生元として適格かどうかを指定します。このコードには、請求が作成された仕入先も指定します。 |

編集

メーター示度のデフォルト要件を指定します。

- | | |
|---|--|
| 1. メーター示度1 (現行メーター残1フィールドの入力)、2. メーター示度2 (現行メーター残2フィールドの入力)、3. メーター示度3 (現行メーター残3フィールドの入力) | <p>メーター示度の最初、2番目または3番目のフィールドの値が必要かどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 値を必要としない</p> <p>1: 値を必要とする</p> |
|---|--|

バージョン

保証請求から起動するプログラムのバージョンを指定します。

1. 製品登録(P17051)のバージョン、2. 返品資材承認の改訂(P400511)のバージョン、3. 仕入先回復請求(P1779)のバージョン、4. 部品詳細(P17710)のバージョン、5. 労務詳細(P17712)のバージョン

ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

6. 仕入先回復保証請求(R1776)のバージョン

仕入先回収請求の作成プログラム(R1776)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001が使用されます。

7. 資格照会(P1723)のバージョン、8. RMA(P40051)のバージョン

ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

処理

保証請求処理に使用するデフォルト値を指定します。

1. 有効にするアプリケーション機能

保証請求の作成または更新でアプリケーションを使用するユーザーを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: サービス業者

1: 査定担当者

2: 仕入先回収管理者

2. 製品登録の検証

製品登録の処理規則に対して設備番号の登録状況を確認するかどうかを指定します。この規則は、特定の状況の機器が保証請求の対象になるかどうかを表します。値は次のとおりです。

ブランク: 製品登録を検証します。設備が保証請求に該当しない場合には、警告が生成されますが、処理は中断しません。

1: 製品登録を検証します。設備が保証請求に該当しない場合、エラーが生成されます。エラーが修正されるまで、処理は中断します。

2: 製品登録を検証しません。

3. サービス・ディーラーの販売ディーラーに対する検証

保証請求のサービス業者が設備マスター・レコードの販売業者と異なる場合の情報の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 差異をチェックしません。

1: 販売業者とサービス業者が一致するかどうかを確認します。一致しない場合、警告が生成されますが、処理は中断しません。

2: 販売業者とサービス業者が一致するかどうかを確認します。一致しない場合、エラーが生成されます。エラーが修正されるまで処理は中断します。

4. 保証請求への査定担当者の割当て

査定担当者のデフォルト・テーブル(F17113)の情報に基づいて、新しい保証請求に査定担当者を割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 割り当てる

1: 割り当てない

5. 資格チェック	<p>資格チェックを実行するかどうかを指定します。また、チェック方法も指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 資格チェックを実行しません。</p> <p>1: 資格日付テーブル (F1791) を使用して資格をチェックします。</p> <p>2: 資格をチェックしますが、資格日付テーブルは使用しません。</p>
6. デフォルトのサービス・ディーラーの変更	<p>「サービス・ディーラー」フィールドに対する変更を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 変更を許可しません。</p> <p>1: 変更を許可します。</p>
7. 承認を示す保証請求状況	UDC 00/SS (作業オーダー状況) から、承認状況を表す値を入力します。
8. 却下を示す保証請求状況	UDC 00/SS (作業オーダー状況) から、却下状況を表す値を入力します。
9. ディーラー参照の重複チェック	<p>他の保証請求レコードでサービス業者参照の重複をチェックするかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: サービス業者参照の重複をチェックします。重複した参照が存在すると、警告が生成されますが、処理は中断しません。</p> <p>1: サービス業者参照の重複をチェックします。重複した参照が存在すると、エラーが生成されます。エラーが修正されるまで処理は中断します。</p> <p>2: サービス業者参照の重複をチェックしません。</p>
10. 製品ロット番号の検証、11. 原因部品ロット番号の検証	<p>「ロット/シリアルNo.」フィールドまたは「仕入先ロットNo.」フィールドにおけるロット番号の入力の有無を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 検証しません。</p> <p>1: 検証します。</p> <hr/> <p>注意: 1を入力すると、ロット番号の入力だけが検証されます。ロット番号が有効かどうかは検証されません。</p>
12. 保証請求追加時の部品行の自動追加	<p>保証請求の作成時に原因部品にデフォルトの部品行を追加するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 追加しない</p> <p>1: 追加する</p>
13. 保証請求追加時の労務行の自動追加	<p>保証請求の作成時に標準の修理時間にデフォルトの労務行を追加するかどうかを指定します。標準修理時間の入力プログラム (P1771) を使用して、次のフィールドの組合せに標準修理時間を設定できます。</p> <p>品目番号</p> <p>製品モデル</p> <p>製品ファミリ</p> <p>構成品コード - システム</p> <p>構成品コード - アセンブリ</p>

構成品コード - 部品
値は次のとおりです。
空白: 追加しない
1: 追加する

保証請求の送信

SWM保証請求/仕入先回収ワークファイルの生成プログラムを実行するには、「保証請求定期処理」メニュー (G1727) の「保証請求ワークファイルの生成」にアクセスします。

SWM保証請求/仕入先回収ワークファイルの生成プログラム (R177701) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、ワークファイルの生成プログラムのデフォルト値を設定します。

処理

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 保証請求/仕入先回収の処理 | 保証請求レコードまたは仕入先回収レコードのどちらを処理するか指定します。値は次のとおりです。
空白: 保証請求レコード
1: 仕入先回収レコード |
| 2. 実行モード | このプログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。いずれのモードでも、処理されたレコードは印刷されます。ただし、テーブルを更新するのは最終モードのみです。値は次のとおりです。
空白: テスト・モード
1: 最終モード |
| 3. エラーの書込み | ワーク・センターとレポートのどちらにエラーを書き込むかを指定します。値は次のとおりです。
空白: ワーク・センターにエラーを書き込みます。
1: レポートにエラーを書き込みます。 |
| 4. 価格調整履歴 | 価格調整元帳テーブル (F4074) の価格調整履歴を使用して調整を行うかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 明細行または作業オーダーの元帳クラス・コードを使用します。
1: 価格調整履歴レコードの元帳クラス・コードを使用します。 |

仕入先回収

仕入先回収請求のデフォルト値を指定します。

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 請求補助元帳のデフォルト | 請求補助元帳フィールドの値を指定します。値は次のとおりです。
空白: デフォルトなし
1: 作業オーダー番号
2: 顧客番号 |
|------------------------|---|

- 3: サイト番号
- 4: 略式品目番号
- 5: 契約番号
- 6: 設備番号

2. 請求日付

最終モードでレポートを実行したときに請求日付を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: システム日付

- 1: 作業オーダーの開始予定日

保証請求

保証請求のデフォルト値を指定します。

1. 支払補助元帳のデフォルト

支払補助元帳フィールドの値を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: デフォルトなし

- 1: 作業オーダー番号
- 2: 顧客番号
- 3: サイト番号
- 4: 略式品目番号
- 5: 契約番号
- 6: 設備番号

2. 支払日付

最終モードでレポートを実行したときに支払日付を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: システム日付

- 1: 作業オーダーの開始予定日

Vertex (将来使用)

この処理オプションは、Vertex社のQuantum Sales and Use Taxソフトウェア (サード・パーティの税計算ソフトウェア) が導入されている場合にのみ適用されます。

請求金額

1. 部品の取引タイプ、2. 労務費の取引タイプ、3. 定額請求の取引タイプ

請求対象の部品、労務または定額請求の税額計算で使用する取引タイプを指定します。UDC 73/TYから値を入力します。この処理オプションをブランクにすると、SERVICが使用されます。

支払金額

Vertexの支払金額のデフォルト値を指定します。この処理オプションは、Vertex請求金額のデフォルト値の指定と同じです。

仕入先回収請求の管理

この項では、仕入先回収管理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕入先回収請求の入力
- 仕入先回収請求プログラム (P1779) の処理オプションの設定
- 仕入先回収請求の送信

仕入先回収管理について

回収管理担当者は、仕入先回収請求入力プログラム (P1779) を使用して請求情報を入力します。価格管理を使用すると、仕入先との契約に指定された期間および条件に基づき、保証請求単位レートと承認単位レートを取得できます。また、このプログラムでは保証請求のない仕入先回収請求を作成できます。

仕入先回収請求処理

回収管理者は、仕入先回収請求入力プログラム (P1779) を使用して、新しい請求を入力したり、既存の請求の状況を照会できます。仕入先回収請求は、仕入先契約に対して行われます。

仕入先回収請求 (SRC) は送信トランザクションです。保証対象の部品の修理が必要になると、相手先商標製品の製造会社 (OEM) の仕入先回収管理者は、部品の仕入先に対して送信 SRC を作成します。

仕入先回収請求を入力したら、仕入先回収ワークファイルの生成プログラム (R177701) を使用して、仕入先の買掛金レコードと売掛金レコードを作成します。保証請求および仕入先回収請求は同じワークファイル生成プログラムを使用しますが、「処理」タブの処理オプションは異なります。(保証請求または仕入先回収請求のいずれかに設定します。) このプログラムは、次の情報を受理事項に入れています。

- 仕入先回収請求番号
- 仕入先の詳細
- 原因部品の情報
- 問題情報
- 仕入先回収請求の詳細

例

次の仕入先回収請求の例について考えてみましょう。

- バス会社がエアコンとエンジンの修理作業のオーダーを作成する
いずれの部品も仕入先契約の対象となっています。バス会社は、作業オーダーの明細行から2つの請求を作成して2つの仕入先に送信します。
- 自動車製造メーカーが問題部品と欠陥タイヤによる周辺部品の損害を記述した SRC を作成する
製造業者は、作業オーダーの見出しにあるすべての部品を使用して請求を作成し、タイヤの仕入先に送信します。

事前設定

保証請求と仕入先回収請求の設定チェックリストを確認します。

参照: [第 7 章、「保証請求と仕入先回収請求の処理」](#)、「[保証請求と仕入先回収請求を設定するためのチェックリスト](#)」、227 ページ

仕入先回収請求の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先回収保証請求の改訂	W1779D	「仕入先回収日次処理」メニュー(G1718)、「仕入先回収請求入力」 「追加」をクリックします。 「一般」タブを選択します。 「分類」タブを選択します。 「会計」タブを選択します。	仕入先回収請求を入力します。

仕入先回収請求の入力

「仕入先回収保証請求の改訂」フォームにアクセスします。

仕入先回収請求入力 - 仕入先回収保証請求の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

オーダーNo. 453333 SA サービス・タイプ Y 現場修理

一般 分類 会計処理 添付

基本/前回仕入先 *	4317	Appliance Parts and Supply
状況	S1	仕入先回収入力済み
設備No.	34690	Commercial Clothes Washer
在庫品目No.	7210	Commercial Clothes Washer
ロットNo.	4307	
サービス・ディーラー	4319	Appliance Sales and Service
仕入先回収担当者	4807	Ernoi Luczak

親資産番号

問題

原因部品	72102	Motor, Commercial Washer
欠陥コード	QD	品質欠陥
問題発生日付 *	2005/06/05	
修理日付 *	2005/06/07	
構成品コード - システム		
問題記述 *	WASHER WON'T TURN	

メーター示度

現行メーター残1	
現行メーター残2	
現行メーター残3	

「仕入先回収保証請求の改訂」フォーム

仕入先回収請求プログラム(P1779)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、仕入先回収請求プログラムのデフォルト値を設定します。

デフォルト

1. 伝票タイプ

仕入先回収請求作成時のデフォルトのオーダーを指定します。UDC 00/DT (伝票タイプ - 全伝票) から値を入力します。

2. サービス・タイプ

仕入先回収請求作成時のデフォルトのサービス・タイプを指定します。UDC 00/TY (作業オーダー/ECOタイプ) から値を入力します。

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 3. 事業所 | 仕入先回収請求作成時のデフォルトの事業所を指定します。 |
| 4. ビジネスユニット | 仕入先回収請求作成時のデフォルトのビジネスユニットを指定します。 |

編集

メーター示度が必要かどうかを指定します。

- | | |
|--|---|
| 1. メーター示度1(現行メーター残1フィールドの入力)、2. メーター示度2(現行メーター残2フィールドの入力)、3. メーター示度3(現行メーター残3フィールドの入力) | メーター示度の最初、2番目または3番目のフィールドの値が必要かどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 値を必要としない
1: 値を必要とする |
|--|---|

バージョン

仕入先回収請求で使用するプログラムのバージョンを指定します。

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1. RMA改訂(P400511)のバージョン、2. 保証請求(P1777)のバージョン、3. 製品登録(P17051)のバージョン、4. 部品詳細(P17710)のバージョン、5. 労務詳細(P17712)のバージョン、6. メーター示度(P12120)のバージョン、7. 保証請求送信(R174801Z20)のバージョン、8. 仕入先契約(P17201)のバージョン、9. 返品承認の処理(P40051)のバージョン | ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。 |
|--|---------------------------------|

処理

ロット番号、仕入先回収管理者および資格のデフォルト値を指定します。

- | | |
|-------------|---|
| 1. ロット番号の検証 | 「ロット/シリアルNo.」フィールドにおけるロット番号の入力の有無を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 検証しません。
1: 検証します。
<hr/> 注意: 1を入力すると、ロット番号の入力だけが検証されます。ロット番号が有効かどうかは検証されません。 |
| 2. 重複請求チェック | 仕入先のデフォルト値としてユーザー番号を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: ユーザー番号をデフォルト値として使用しません。
1: ユーザー番号をデフォルト値として使用します。 |

- 3. 資格チェックの実行** 資格チェックを実行するかどうかを指定します。また、チェック方法も指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 資格チェックを実行しません。
- 1: 資格日付テーブル (F1791) を使用して資格をチェックします。
- 2: 資格をチェックしますが、資格日付テーブルは使用しません。

仕入先回収請求の送信

SWM保証請求/仕入先回収ワークファイルの生成プログラムを実行するには、「仕入先回収定期処理」メニュー (G1728) の「仕入先回収ワークファイルの生成」にアクセスします。

関連項目:

第 7 章、「保証請求と仕入先回収請求の処理」、「SWM保証請求/仕入先回収ワークファイルの生成プログラム (R177701) の処理オプションの設定」、235 ページ

第 8 章

カスタマ・セルフサービス・ポータルの利用

この章では、カスタマ・セルフサービス・ポータルの概要と、次の方法について説明します。

- 設備の追加
- 設備の表示
- 作業オーダーの表示
- 契約の表示

カスタマ・セルフサービス・ポータルについて

顧客にセルフサービス・アプリケーションを提供すると、顧客との連携がスムーズになり、収益と顧客満足度を向上させることができます。カスタマ・セルフサービス(CSS)ポータルは、サービス管理システムに対する簡易的で構成可能なフロントエンドです。このポータルで、顧客はサービス契約、作業オーダーおよび設備に関する情報を参照できます。このポータルでは、顧客、サービス業者および流通業者が情報に直接アクセスできるので、顧客満足度の向上とコストの削減を実現できるだけでなく、内部のリソースをより優先度の高い作業に投入できます。

ポータルのエントリ・ポイントはわかりやすく、従来のサービス管理アプリケーションのようにすべての機能は搭載していません。このエントリ・ポイントはフロント・エンドのフォームとして追加されています。ここから同じテーブルにアクセスし、更新できます。

CSSポータルのエントリ・ポイントは次のとおりです。

- 設備の追加
- 設備の表示
- 作業オーダーの表示
- 契約の表示

設備の追加

“設備の追加”(P90CD920)を選択すると、「設備の追加」フォームが表示されます。

“設備の追加”ポータル・エントリ・ポイントでは、1つのフォームで設備レコードを追加できます。

システムに設備レコードが存在しない場合、設備を追加して製品登録を行うことができます。ただし、設備レコードがすでに存在している場合、ポータルでは新しい所有者情報で既存のレコードを更新できません。既存の設備レコードは照会以外では使用できません。

設備の表示

“設備の表示”(P90CD920)を選択すると、「設備の表示」フォームが表示されます。

“設備の表示”ポータル・エントリ・ポイントでは、1つのフォームで様々な設備情報を表示できます。この機能を使用すると、短時間で設備情報を検索できます。

顧客がこのエントリ・ポイントを選択すると、すべての設備レコードが表示されます。検索を絞り込むには、製品モデル、状況コードまたは状況コードの範囲を指定して検索します。レコードを選択すると、サイト番号、在庫品目番号、シリアル番号、導入日などの設備情報がフォームの下の部分に表示されます。

このフォームでは設備の追加もできます。既存の設備レコードを改訂することはできません。

作業オーダーの表示

“作業オーダーの表示”(P90CD910)を選択すると、「サービス作業オーダーの表示」フォームが表示されます。

“作業オーダーの表示”ポータル・エントリ・ポイントでは、特定の作業オーダーまたは作業オーダー・グループを簡単に見つけることができます。顧客が表示できるのは自分の作業オーダーだけです。作業オーダーはオーダー番号、設備番号、オーダー・タイプ、入力者、優先度および状況で検索できます。ここでは、伝票タイプの管理でサービス作業オーダーとして定義されている作業オーダーとその詳細情報のみが表示されます。詳細情報として、作業オーダー番号、説明、担当のビジネスユニット、処理の実行日などが表示されます。部品および作業の詳細は表示されません。

この情報は表示専用です。このフォームから作業オーダーは追加できません。

契約の表示

“契約の表示”(P90CD900)を選択すると、「サービス契約/資格の表示」フォームが表示されます。

“契約の表示”ポータル・エントリ・ポイントでは、条件、満了日などの契約および資格に関する詳細情報を表示できます。

この情報は表示専用です。

第 9 章

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理でのJD Edwards EnterpriseOne価格管理の設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOne価格管理の概要と、次の方法について説明します。

- 優先階層の設定
- サービスと保証の明細グループの設定
- 価格調整定義の設定
- 調整スケジュールの設定
- 調整明細の設定
- 調整スケジュールの添付
- 価格履歴の確認

JD Edwards EnterpriseOne価格管理について

サービス契約、作業オーダー、保証請求、仕入先回収およびケースに対応するようにJD Edwards EnterpriseOne価格管理を設定すると、価格管理構造を使用して品目およびサービスの価格を設定できます。また、価格設定と保守を簡素化できます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理を使用すると、価格設定を柔軟に定義できます。個別の契約、作業オーダーまたはケースの価格を簡単に調整し、調整を価格構造やスケジュールに組み込むことができます。各スケジュール内で定義できる調整の数に制限はありません。調整スケジュールは顧客レポートに添付されるので、その顧客の契約、作業オーダーまたはケースのすべてで使用されます。

優先階層の設定

この項では、優先階層の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 優先マスターの設定
- 価格設定階層の定義

優先階層の設定について

価格調整は、優先階層で指定した順番でサービス契約、作業オーダー、受注オーダー、保証請求、仕入先回収およびケースに適用されます。この価格構造により、価格調整の計算と更新が行われます。このため、詳細な条件の組合せから一般的な条件の組合せの順で検索されるように、階層を設定します。

価格設定階層を定義する前に、優先マスターというマスター・レコードを作成する必要があります。優先階層は、必要な数だけ作成できます。

階層を定義したら、その階層を調整定義に関連付けます。調整定義ごとに1つずつ階層を作成することも、1つの階層を複数の調整定義に対して使用することもできます。必要な数の優先階層を作成できますが、設定する階層数は、会社で必要とする調整をすべて定義できる程度に少なくすることをお勧めします。

優先階層により、価格調整を適用する順序を指定できます。各ローとカラムの交差するフィールドに番号を入力して、価格設定階層を指定します。「1」を入力した組合せから価格の検索が開始され、その顧客と品目の組合せに定義されているレコードが検索されます。その組合せに調整明細が見つからなかった場合は、階層の次の組合せ（順序「2」を入力した組合せなど）が自動的に検索されます。

検索で最初に見つかった組合せが選択されます。したがって、階層内で最も詳細な方法を最初に設定し、次に最も一般的な価格設定を定義する必要があります。

階層の順序は9まで入力できますが、検索に時間とリソースを必要とするため、3または4までに制限してください。番号の数だけ検索が行われるため、多くの番号を入力すると処理時間が長くなります。サービス管理で認識されるフィールドは、「販売先」ローと「すべての顧客」ローだけです。

注意: サービス管理の場合、「販売先」ローと「すべての顧客」ローの情報だけが利用できます。

事前設定

優先階層にマスター・レコードが作成されているかどうか確認します。

優先階層の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先マスターの改訂	W40070D	「価格調整のセットアップ」(G174613)、「優先階層」 「優先階層の処理」フォームで「追加」ボタンをクリックします。 「優先階層の改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「マスターの改訂」を選択します。 フィールドに値を入力して「OK」をクリックします。	優先階層および優先マスターを設定します。
優先階層の改訂	W40073D	「優先タイプ」フィールドに値を入力します。 フィールドが交差する部分に1から順に番号を入力して、検索する順序を指定します。価格設定階層の定義では、番号を1から入力します。番号を飛ばして入力することはできません。	価格設定階層を定義します。

優先マスターの設定

「優先マスターの改訂」フォームにアクセスします。

優先階層 - 優先マスターの改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

優先タイプ	CS
記述	S&WM Hierarchy
優先分類	<input type="text"/> その他優先情報
順序No.	<input type="text"/>

☒ 有効日付の使用
☐ 有効数量の使用

「優先マスターの改訂」フォーム

優先タイプ

ユーザー定義コード(UDC)テーブル40/PR(優先プロファイル)から、優先タイプまたは価格調整階層を識別する値を入力します。

UDC 40/PRでは、「特殊取扱コード」フィールドの値「1」は、システムでサポートされている優先情報であることを示します。各優先情報のこのフィールドは、ハードコードされています。

契約ペナルティ・スケジュールについては、最初にPN(ペナルティ)UDCを設定してから、このフィールドに値を入力します。

優先分類

優先プロファイル・フォーム(P4007)の優先情報をグループ化するための分類コードまたはタイトルを入力します。

順序No.

ここに入力した順序で、ユーザーはJD Edwards EnterpriseOneでの有効環境の表示順序を設定できます。

JD Edwards Worldのユーザー定義の順序でレコードを処理する際に使用される表示順序またはソート番号を入力します。

有効日付の使用

優先情報について、有効日付範囲のフィールドを表示するかどうかを指定するコードを入力します。優先情報に対して有効日付と有効数量を入力する場合、有効日付範囲を表示できます。値は次のとおりです。

Y: この優先情報について、優先プロファイルの改訂フォームに有効日付フィールドが表示されます。

N: この優先情報について、有効日付フィールドは表示されません。

有効数量の使用

この優先情報について、数量の範囲を使用するかどうかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

Y: この優先情報について、優先プロファイルの改訂フォーム(P40300とP40300EC)に「開始数量」フィールドと「終了数量」フィールドが表示されます。

N: 数量範囲フィールドは無効または非表示になります。

有効数量のフィールドは省略可能なフィールドで、優先レコードの設定前に無効にすることができます。ただし、優先レコードの設定後に無効にすることはできません。

有効数量を割り当てる場合は、有効日付を割り当てる必要があります。

価格設定階層の定義

「優先階層の改訂」フォームにアクセスします。

サービスと保証の明細グループの設定

この項では、サービスと保証の明細グループの概要について説明します。また、サービスと保証の明細グループの設定方法も説明します。

サービスと保証の明細グループについて

オーダー明細グループを使用して、サービス契約、作業オーダー、保証請求、仕入先回収またはケースの価格設定行に調整を作成できます。システムのセットアップ後に、各契約、作業オーダーまたはケースに標準的な情報を考慮する必要があります。たとえば、すべての契約またはすべての作業オーダーに顧客番号と型番号が含まれている場合、顧客番号および型番号のフィールドに基づいて、価格管理情報を設定できます。

サービスと保証の明細グループの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サービス/保証オーダー明細価格グループの定義	W4092B	「価格調整のセットアップ」(G174613)、「サービス/ワランティ詳細グループ」 「価格グループ定義の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	サービスと保証の明細グループを設定します。 選択した処理オプションに基づいて、価格グループ・タイプ・コードがインポートされます。「検索」をクリックすると、その価格グループ・タイプ・コードのみが表示されます。システムのデフォルト値を変更するには、フィールドに新しい価格グループ・タイプ・コードを入力して、「検索」または「追加」をクリックします。このタイプ・コードに基づいて、該当するフォームが表示されます。

サービスと保証の明細グループの設定

「サービス/保証オーダー明細価格グループの定義」フォームにアクセスします。

サービス/フランティ詳細グループ - サービス/保証 オーダー明細価格グループの定義

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

価格グループ **CONTRACT** Service Contract Group

ビジネスユニット	<input type="checkbox"/>	契約請求期間	<input type="checkbox"/>	作業オーダー・カテゴリ02	<input type="checkbox"/>
会社番号	<input type="checkbox"/>	請求頻度コード	<input type="checkbox"/>	作業オーダー・カテゴリ03	<input type="checkbox"/>
行タイプ	<input type="checkbox"/>	事前/事後請求	<input type="checkbox"/>	作業オーダー・カテゴリ04	<input type="checkbox"/>
原価コード	<input type="checkbox"/>	契約非請求期間	<input type="checkbox"/>	ケース・タイプ 1	<input type="checkbox"/>
価格設定方式	<input type="checkbox"/>	契約期間合計	<input type="checkbox"/>	ケース・サービス・グループ	<input type="checkbox"/>
国	<input type="checkbox"/>	契約カテゴリ・コード01	<input type="checkbox"/>	ケース優先度	<input type="checkbox"/>
支払条件	<input type="checkbox"/>	契約カテゴリ・コード02	<input type="checkbox"/>	ケース言語	<input type="checkbox"/>
支払手段	<input type="checkbox"/>	契約カテゴリ・コード03	<input type="checkbox"/>	ケース環境	<input type="checkbox"/>
製品モデル	<input type="checkbox"/>	契約カテゴリ・コード04	<input type="checkbox"/>	ケース・カテゴリ01	<input type="checkbox"/>
製品ファミリ	<input type="checkbox"/>	サービス・タイプ	<input type="checkbox"/>	ケース・カテゴリ02	<input type="checkbox"/>
契約サービス・パッケージ	1	作業オーダー・カテゴリ01	<input type="checkbox"/>	ケース・カテゴリ03	<input type="checkbox"/>
				ケース・カテゴリ04	<input type="checkbox"/>

「サービス/保証オーダー明細価格グループの定義」フォーム

価格グループ

グループ・コード内でカテゴリ・コードの順番を指定する数値を入力します。この値は1以上4以下にしてください。順序の値は順番どおり指定する必要があります。たとえば、順序番号1と2を入力する前に3を入力しないでください。

行タイプ

取引行の処理方法を制御するコードを入力します。行タイプは、一般会計、作業原価、買掛管理、売掛管理、在庫管理などの取引のインターフェイスとなるシステムを制御します。また、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。次のようなコードがあります。

S: 在庫品目

J: 作業原価

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

W: 作業オーダー

契約請求期間

契約に関連付けられた請求期間を入力します。

請求頻度コード	請求レコードの生成頻度を指定するコードを入力します。請求頻度マスター (F15019) に存在するコードを入力してください。
事前/事後請求	契約の請求方法を表すコードを入力します。
契約非請求期間	契約に関連付けられた期間を入力します。
契約期間合計	販売または契約のプロモーション期間を入力します。
契約カテゴリ・コード01	サービス契約の明細行に割り当てるポート・コードを最大で10まで入力できます。これらのコードは、レポートの契約行に指定します。カテゴリ・コードはUDC 17/D1から17/D0までです。
原価コード	<p>品目の原価要素を指定するコードを入力します。コスト・オブジェクト・タイプの例は次のとおりです。</p> <p>A1: 購買原材料</p> <p>B1: 作業工程直接労務費積上げ</p> <p>B2: 作業工程段取労務費積上げ</p> <p>C1: 作業工程変動間接費積上げ</p> <p>C2: 作業工程固定間接費積上げ</p> <p>Dx: 作業工程外注費積上げ</p> <p>Xx: 光熱費や水道代などの追加費用</p> <p>通常、その他費用の計算にはタイプXx(追加間接費)を使用します。この原価構造により、原価要素を必要なだけ使用して別の原価積上げを計算できます。この原価要素は、ユーザー定義の6つの集計原価バケットのうちの1つと関連付けられます。</p>
価格設定方式	<p>サービス・タイプが均一料金と実際のタイム・アンド・マテリアルのどちららに基づいて価格設定されるのかを指定するのに使用されるコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>F: 均一料金。労務費は均一料金に基づいています。部品代は均一料金にすでに含まれています。</p> <p>T: タイム・アンド・マテリアル。労務費は実労務時間に基づいています。部品代は実際に使用した部品に基づいています。</p> <p>ブランク: なし。ブランク値は、サービス業者に価格設定方法を定義した場合にのみ有効です。この値は、サービス業者が内部のサービス業者であり、支払が発生しないことを示すために使用されます。</p>
サービス・タイプ	<p>UDC 00/TY(作業オーダー/ECOタイプ)から、作業オーダーまたは設計変更オーダー(ECO)のタイプを示す値を入力します。</p> <p>作業オーダー承認の選択基準として作業オーダー・タイプを使用できます。</p>

価格調整の定義の設定

この項では、価格調整の定義の概要、事前設定、および価格調整の定義の設定方法について説明します。

価格調整の定義について

オーダー明細グループを作成し、価格設定階層を定義すると、これらを調整に添付できます。調整は、価格設定計画や販売促進などの特定の価格設定の状態を示すレコードです。調整をスケジュールに追加するには、調整定義を作成して調整の特性を指定する必要があります。これにより、次の項目が決まります。

- 価格が検索される順序
- 調整が数量に基づいて行われるかどうか
- 調整が一時変更価格、手作業による追加または変更、あるいは必須の調整かどうか
- 調整が価格基盤を使用するかどうか
- 品目の支払に最低価格と最高価格を使用するか

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 価格調整名 (UDC 40/TY) の設定
- 優先階層の設定
- サービスと保証の明細グループの設定

価格調整の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
調整制御の修正	W4071C	「価格調整のセットアップ」(G174613)、「価格調整の定義」 「調整タイプの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	価格調整定義を設定します。
価格調整の定義	W4071A	「調整制御の修正」フォームのフィールドに値を入力して、「OK」をクリックします。	価格調整定義を設定します。

価格調整の定義の設定

「調整制御の修正」フォームにアクセスします。

価格調整の定義 - 調整制御の修正

OK(O) 取消(L) ツール(T)

調整名

ADJCON

契約調整

ターゲット・システム

☐ 受注管理

☐ 調達管理

☒ サービス/ワランティ管理

☐ シップ・アンド・デビット

☐ 受注管理/調達管理/サービス・ワランティ管理

☐ 入荷

調整制御コード

☒ 印刷しない

☐ 印刷する

☐ 受注明細に追加する

☐ 総勘定元帳に見越入力を作成する

☐ リポート

☐ 請求書への印刷

☐ 仕入先販売証明

☐ 丸め調整

調整レベル

☒ 行レベル調整

☐ バスケット・レベル調整

☐ オーダー・レベル調整

☐ 販売高レベル調整

価格マトリックス

☐ 価格マトリックス使用

「調整制御の修正」フォーム

- 調整名

UDC 40/TY（価格調整コード/優先情報コード）から調整定義を識別する値を入力します。価格調整名で調整を定義します。
契約ペナルティ・スケジュールについては、4タイプの各ペナルティに定義を追加します。
最小数量
最大数量
過少引当
過剰引当
- サービス/ワランティ管理

「ターゲット・システム」領域のオプションをクリックして、受注管理や調達管理など、価格調整に対応しているJD Edwards EnterpriseOneシステムを指定します。
- 印刷しない

請求書または購買オーダーに調整金額を印刷しない場合に、このオプションをクリックします。調整金額は単価に加算されます。

印刷する	このオプションをクリックすると、調整金額が請求書または購買オーダーに印刷されます。調整金額は単価に加算されます。
受注明細に追加する	このオプションをクリックすると、受注明細テーブル (F4211) が調整明細行情報で更新されます。現行の正味価格の計算には、このタイプの調整は含まれません。このコードはオーダー・レベルの調整でのみ使用します。
総勘定元帳に見越入力を作成する	このオプションをクリックすると、見越調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、価格調整元帳テーブル (F4074) が更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。
リベート	このオプションをクリックすると、リベート調整が作成されます。リベート取引集計テーブル (F4078) がオーダー明細行の数量、重量、金額で更新されます。
請求書への印刷	このオプションをクリックすると、調整金額が請求書に印刷されます。調整金額はオーダー合計に加算されますが、単価には含められません。売上更新プロセスの実行時に、この調整に対して個別の総勘定元帳および売掛金の仕訳が転記されます。
仕入先販売証明	このオプションをクリックすると、仕入先販売証明のリベート調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、リベート取引集計テーブルがオーダー明細行の数量、重量、および金額で更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。
丸め調整	このオプションをクリックすると、価格調整明細の改訂プログラム (P4072) で設定した丸め規則に基づいて、丸め調整が作成されます。調整金額は単価に加算されます。
行レベル調整	このオプションをクリックすると、受注明細行の情報に基づいて調整が計算されます。
バスケット・レベル調整	(サービス管理では使用できません)
オーダー・レベル調整	(サービス管理では使用できません)
販売高レベル調整	<p>このオプションをクリックすると、複数の受注オーダーの類型値に基づいて調整が計算されます。累計値は、価格調整タイプ・プログラム (P4071) で定義した調整方法に基づきます。</p> <p>契約管理システムを使用している場合は、契約ペナルティ・スケジュールを処理するために、1を入力して受注明細行レベルでペナルティを計算する必要があります。</p>
価格マトリックス	価格基盤を使用して価格調整を管理します。

価格調整定義のオプション

「価格調整の定義」フォームの「オプション」タブをクリックします。

次のフィールドは、サービス管理で使用できません。

- 売掛金割引から除外
- 重量レベル区切り
- 金額レベル区切り
- バスケット・レベル調整

- オーダー・レベル調整
- 一時変更価格の適用

品目価格グループ

品目の在庫価格グループを識別するUDC 40/PI(品目価格グループ)の値を入力します。

在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、発注された品目の数量、金額または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。

受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。

顧客価格グループ

UDC 40/PC(顧客価格グループ)から顧客グループを識別する値を入力します。同等の価格設定などの類似した特性を持つ顧客をグループ化できます。

オーダー明細グループ

UDC 40/SD(受注明細グループ)から受注明細グループを示す値を入力します。受注明細グループを使用して、受注明細テーブル(F4211)のフィールドに基づく価格設定を作成します。

「調整制御の修正」フォームでこのフィールドにコードを入力すると、オーダー明細グループの条件に一致する明細を持つオーダーにのみこの調整が使用されます。

注意: サービス管理で価格管理を行うには、このフィールドは必須です。

優先階層

UDC 40/PR(優先プロファイル)から優先タイプまたは価格調整階層を識別する値を入力します。

価格階層を定義する際は、このコードで各テーブルを識別します。

その後、調整を作成する際、このコードを使用して、その調整に適用する階層を指定します。

補助元帳

調整タイプを使用して受注オーダーの価格設定を行うときに、総勘定元帳ファイル(F0911)の「補助元帳」フィールドの更新に使用される情報タイプの値をUDC 40/SI(補助元帳情報)から入力します。

相手勘定

取引の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9(元帳転記カテゴリ)から入力します。クラス・コードを指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ(****)入力してください。

AAI(自動仕訳)を使用して、在庫管理、調達管理および受注管理の3システムに自動相手勘定のクラスを事前設定できます。次のように元帳クラス・コードを割り当てることができます。

IN20: 直送オーダー

IN60: 転送オーダー

IN80: 在庫販売

1件の取引に基づいて仕訳レコードが作成されます。たとえば、在庫1品目を販売すると、次のような仕訳レコードが作成されます。

販売在庫(借方) xxxxx.xx

	<p>売掛在庫販売（貸方） xxxxx.xx</p> <p>転記カテゴリ: IN80</p> <p>在庫品目（借方） xxxxx.xx</p> <p>在庫売上原価（貸方） xxxxx.xx</p> <p>クラス・コードと伝票タイプに基づいて、該当するAAIが検索されます。</p>
変更価格	<p>このオプションは、受注オーダー行の価格に対する調整の影響を指定する場合に選択します。</p> <p>チェック・マークがある場合、基本価格を一時変更価格で上書きします。チェック・マークがない場合、調整を使用して基本価格に対する割引や割増の計算を行います。</p> <p>契約ペナルティ・スケジュールについては、一時変更価格を無効にします（チェック・マークなし）。</p>
手作業による追加/変更許可 (Y/N)	<p>このオプションを選択して、調整タイプを手動で追加するか、または受注オーダーの入力時に価格調整フォーム (P4074W) から変更するかどうかを指定します。</p>
調整必須	<p>このオプションを選択すると、調整が必須になります。</p>
絶対値の使用	<p>このオプションを選択すると、レベル分岐の判断時にオーダー数量が正の数か負の数どうかが無視されます。返品オーダーなどの場合、このオプションは負の値に影響を及ぼします。</p> <p>このオプションを有効にすると、オーダー数量が負の値でも無視されます。</p> <p>このオプションを無効にすると、オーダー数量の負の値が確認されます。符号は無視されません。</p> <p>たとえば、このオプションを有効にすると、オーダー数量が負の数かどうかは確認されず、JD Edwards EnterpriseOne価格管理で次のレベル分岐が設定されます。</p> <p>数量が1から49 = それぞれ100 USD</p> <p>数量が50から99 = それぞれ85 USD</p> <p>数量が100 = それぞれ75 USD</p> <p>-200 EAの返品オーダーを入力すると、レベル分岐の確認前に符号が無視されます。この例では、オーダー行に75 USDのレベル分岐が適用されます。</p>
価格調整定義の追加オプション	
「その2」タブをクリックします。	
サービス管理では、「リポート受取先」フィールドは使用できません。	
レポート・コード1 から レポート・コード6	<p>UDC 45/P2 (価格レポート・コード2) から45/P6 (価格レポート・コード6) までの値を入力し、6つのレポート・コードから価格調整定義に関連付けるコードを1つ指定します。このレポート・コードを使用して調整をグループ化します。</p>
最小調整	<p>選択すると、この調整の最低価格が設定されます。</p>
最大調整	<p>選択すると、この調整の最大価格が設定されます。</p>

最小/最大規則

購買契約の場合には1を入力します。何もない場合にはブランクにします。サービス管理システムの場合、2は使用できません。

調整スケジュールの設定

この項では、調整スケジュールの概要、事前設定および調整スケジュールの設定方法について説明します。

調整スケジュールについて

価格調整を定義した後で調整をスケジュールに添付します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれる場合があります。調整スケジュールは、価格調整定義と調整明細で構成されます。

顧客を調整スケジュールに割り当て、価格が自動的に計算されるようにします。調整スケジュールでは、価格調整タイプをオーダーの価格に適用する順序を指定します。

各調整スケジュールには、必要な数の価格調整を含めることができます。調整はいつでも追加できます。サービス/保証管理(SWM)のJD Edwards EnterpriseOne住所録拡張を使用して、顧客、サービス業者または仕入先を調整スケジュールにリンクします。必要であれば、オーダー(契約、作業オーダー、保証請求、仕入先回収またはケース)の調整スケジュールを変更できます。

価格適用時に使用する調整定義の順番も設定できます。「スキップ先」フィールドを使用すると、調整定義がスキップまたは省略されます。調整定義は順番に処理されるので、次のいずれかの処理が実行されます。

- 適格な調整定義を適用し、「スキップ先」フィールドの値を処理し、該当する調整定義を省略して、「スキップ先」フィールドの番号の調整定義を処理します。
- 適格でない調整定義を省略し、「スキップ先」フィールドを無視し、次の調整定義の処理に進みます。

たとえば、次のように調整スケジュールが定義されているとします。

- 非主要製品の品目グループ割引調整(順序10)
- 主要製品の品目グループ割引調整(順序20)
- 価格変更調整(順序30)

非主要製品品目グループの割引調整行の「スキップ先」フィールドに30を入力すると、順序20にある主要製品品目グループの割引調整が省略されます。

また、調整定義に「最後までスキップ」フィールドを選択すると、後続のすべての調整定義が省略され、スケジュールの最後の調整定義が処理されます。

この処理は、排他調整を省略するときにも行います。「スキップ先」フィールドの機能を使用すると、価格計算時のパフォーマンスを向上させることができます。

注意:「スキップ先」フィールドの機能は、購買構造、直接価格調整、詳細優先情報には使用できません。

最低価格および最高価格による価格調整を行う場合、この価格調整をスケジュールの任意の場所に入力できます。入力した価格調整が検証され、設定した時点で単価が計算されます。

また、「価格調整スケジュールの改訂」フォームの「ロー」メニューで「新規基本価格の設定」を選択し、品目に新しい基本価格を作成できます。この機能は、調整スケジュールの中で1つの調整定義にのみ選択できます。「新規基本価格」で選択されたローも使用され、スケジュールの調整定義がすべて計算され、新しい基本価格が判別されます。

事前設定

調整スケジュールを設定する前に、次の作業を行う必要があります。

- 調整スケジュール名 (UDC 40/AS) の設定
- 価格調整定義を設定します。

調整スケジュールの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整スケジュールの改訂	W4070C	「価格調整のセットアップ」(G174613)、「価格/調整スケジュールの改訂」 「調整スケジュールの処理」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	調整スケジュールを設定します。

調整スケジュールの設定

「価格調整スケジュールの改訂」フォームにアクセスします。

「価格調整スケジュールの改訂」フォーム

調整スケジュール

UDC 40/AS (スケジュール名) から価格調整スケジュールを識別する値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。顧客請求指示を使用して、価格調整スケジュールに顧客を関連付けます。受注オーダーを入力すると、販売先住所に添付されたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時変更できます。

契約管理の場合、このフィールドは契約ペナルティ・スケジュールとして使用されます。契約ペナルティ・スケジュールの情報によって、ペナルティの条件適用基準が決まります。

スキップ先

調整スケジュールの中で次に処理する既存の調整定義の順序番号を入力します。たとえば、適格な調整定義が適用され、このフィールドの値が処理されます。さらに、該当する調整定義が省略され、このフィールドに指定した番号の調整定義の処理に進みます。

注意: 「スキップ先」フィールドの機能は、購買構造、直接価格調整、詳細優先情報には使用できません。

最後までスキップ

選択すると、調整スケジュールの後続の調整定義がすべてスキップ(省略)されます。現在の調整定義が処理されると、このフィールドの値の番号に達するまで以降の調整定義は処理されません。

新規基本価格

この調整定義を新規基本価格として使用します。スケジュール内のすべての調整定義が順番に計算され、新規基本価格が判別され、「新規基本価格」で選択したローが処理されます。

注意: このフィールドは、リポート、階層リポート、見越し、請求書への印刷、仕入先販売証明、丸め規則、詳細優先情報、許容内のボリューム・アップセルの機能では使用できません。

調整明細の設定

この項では、調整定義の概要と調整明細の設定方法について説明します。

調整明細について

この項では、調整定義の概要と調整明細の設定方法について説明します。

調整明細は、価格調整の計算に使用するパラメータです。調整明細では、基準コードを指定することにより柔軟な価格設定が行えます。調整定義を調整スケジュールに追加する際に、調整明細を定義できます。調整明細では、無償品、価格設定の計算式、価格変動コードなどの処理を定義できます。価格設定階層を使用して、調整明細に含まれる調整が適用される順序を定義します。調整明細を定義した後で、価格基盤を作成し、複数の調整明細レコードを追加または変更できます。

調整が自動的に計算されるようにするには、基準コードを使用するすべての価格調整について、「価格調整明細の改訂」フォームの「基準コード」、「係数」、「計算式コード」フィールドに値を入力する必要があります。価格設定の計算式を使用する場合、「価格計算式の改訂」フォームで計算式を作成できます。また、価格調整明細を検索および選択するフォームでは、調整明細レコードを基準に計算式を作成できます。別のテーブルのフィールドを基準に計算式を作成することもできます。

調整明細に基づいて最低価格および最高価格による価格調整を設定した場合、「価格調整明細」フォームで最低価格および最高価格の規則を設定します。特定の品目、顧客、品目グループ、顧客グループ、またはこれらの組合せに、この調整を設定できます。最低価格または最高価格による価格調整に対する「基準コード」フィールドのデフォルト値は 5 (追加金額) です。他の基準コードは使用できません。「係数」フィールドに入力した値は、調整明細で定義した通貨で表示されます。調整明細で取引通貨と異なる通貨が設定されている場合、金額が換算されます。

注意: 価格は、調整スケジュールではなく調整名に設定します。

調整明細の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整明細の改訂	W4072A	<p>「価格管理のセットアップ」(G174613)、「価格/調整詳細の改訂」</p> <p>「調整明細の処理」フォームで「価格調整コード」を検索して、「追加」をクリックします。「優先階層の選択」フォームで説明を選択して、「選択」ボタンをクリックします。</p>	<p>調整明細を設定します。</p> <p>「優先階層の選択」フォームと価格グループで選択した内容によって、「価格調整明細の改訂」フォームに表示されるフィールドが異なります。これらの値は、優先階層およびオーダー明細グループから取得されます。</p>

調整明細の設定

「価格調整明細の改訂」フォームにアクセスします。

価格/調整詳細の改訂 - 価格調整明細の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) フォーム(F) ツール(T)

調整コード: ADJCON 契約調整: オーダー明細グループ: CONTRACT

品目No.: 7100 Phone Switch

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

	開始レベル	しきい値単位	係数	基準コード	基準名	係数単位	部分数量値引	通貨コード	有効開始日付	有効期限	原価計算方法
<input type="checkbox"/>	1.0000	EA	1,200.0000	5	追加金額		1	USD	1999/01/01	2005/12/31	

「価格調整明細の改訂」フォーム

「優先階層」での選択に応じて、オーダー明細グループのフィールドが詳細グリッドの最後に表示されます。

有効開始日付

「有効開始日付」フィールドのデフォルト値にはシステム日付が使用されます。

開始レベル

サービス契約の場合、期間ではなく、品目の単位が契約の単位と一致する必要があります。

品目No.

システムが品目に割り当てる番号。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。

係数

オーダー行の調整方法を指定するコードを入力します。このフィールドの値は、「基準コード」フィールド(BSCD)の値と連動します。「基準コード」フィールドの定義内容によって、このフィールドに数字またはコードのどちらを入力するかが決まります。

基準コード別の入力方法は、次のとおりです。

基準コード

1から5: 割増の場合は正の数値を入力します(例: 10)。割引の場合には負の数値を入力します(例: 10-)。

6: 変動テーブルに基づいて調整が行われます。「計算式コード」カラムに変動テーブルを識別するコードを入力します。

7: 計算式によって価格が計算されます。「計算式コード」カラムに計算式を識別するコードを入力します。

8: カスタム・プログラムを使用して調整を計算します。「計算式コード」カラムにプログラムIDを入力します。

「係数」フィールドに負の数を入力すると、割引を適用できます。

契約ペナルティ・スケジュールの場合: ペナルティの基準コードは5です。係数には数値を入力してください。多くの契約ペナルティには通貨金額が設定されています。入力した係数に各単位を掛けてペナルティが計算されます。

調整またはペナルティ・スケジュールの計算で係数値がどのように使用されるかを指定するコードを入力します。「基準コード」フィールドは、「係数」フィールドと連動しています。値は次のとおりです。

0: 新規基本価格を選択した調整定義だけでなく、調整スケジュール内のすべての調整定義に新規基本価格が計算されます。

1: 基本価格に係数が掛けられます。調整価格は、基本価格の一定の割合となります。

2: 現行の正味価格に係数が掛けられます。調整価格は、現行正味価格の一定の割合となります。

3: 品目原価に係数が掛けられます。調整価格は、品目原価の一定の割合となります。この基準コードは、バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整には使用できません。

4: 品目原価に係数が加算されます。この基準コードは、バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整には使用できません。

注意: 基準コードの3または4を使用する場合は、価格調整明細フォームの詳細グリッドの「原価計算方法」フィールド(LEDG)に計算に使用する品目原価を指定します。

5: 価格が係数で調整されます。係数値がプラスの場合、その金額が価格に加算され、マイナスの場合はその金額が価格から減算されます。

6: 変動テーブルの調整金額が使用されます。「係数」フィールドに変動テーブルを指定します。

7: 計算式によって調整が計算されます。「係数」フィールドに計算式の名称を指定します。

8: カスタム・プログラム(ユーザー定義のプログラム)によって調整が計算されます。「オブジェクト・ライブラリ」フィールドにプログラムIDを指定します。

注意: カスタム・プログラムを使用する調整を定義する場合、そのプログラムは調整用に開発されたプログラムであり、ユーザーによるサポートを前提としている必要があります。当社では、カスタム・プログラムの提供およびユーザーが開発したプログラムのサポートは行っておりません。

9: 単価の粗利益が係数と等しくなるように調整が計算されます。この基準コードは、バスケット・レベル調整、オーダー・レベル調整、または通過遞減には使用できません。

契約ペナルティ・スケジュールでは、すべてのペナルティ・スケジュールに5を指定してください。

サービス管理の場合、「基準コード」フィールドに次のいずれかの値を入力できます。

- 2: 割増または割引(現行正味価格との比率)を表します。
- 3: 原価率を表します。
- 4: 原価 + 金額を表します。
- 5: 現行価格への加算または現行価格からの減算を表します。

最初の明細行の「基準コード」の値は3、4または5のいずれかで、開始額を表します。サービス管理では、在庫の基本価格は使用されません。

通貨コード

取引の通貨を識別するコードを入力します。

無償品

価格調整に無償品情報が関連付けられている場合、このオプションはYに設定されます。さらに、「価格調整明細の改訂」の任意フィールドが反転表示され、そのレコードが無償品情報に関連していることが示されます。

サービス管理では、「無償品」フィールドを使用して、価格調整と無償品との関連付けは行いません。次のガイドラインに従ってください。

- サービス管理で無償契約を定義するには、「契約の改訂」フォームの「単価」フィールドに0を入力します。または、基本保証または無償契約として行タイプを定義します。
- 作業オーダーに無償の部品または作業を定義するには、作業オーダーの労務詳細または部品リストのフォームの「実際請求金額」フィールドに0を入力します。
- 無償のケースを定義するには、ケースまたはケースの時間入力レコードの「実際請求金額」フィールドに0を入力します。

調整スケジュールの添付

JD Edwards EnterpriseOne価格管理に関連する設定タスクを行ったら、サービス契約、作業オーダーまたはケースに調整スケジュールを適用します。

この項では、次の方法について説明します。

- 顧客レコードへの調整スケジュールの添付
- サービス業者レコードへの調整スケジュールの添付
- 仕入先レコードへの調整スケジュールの添付
- サービス契約に対する調整スケジュールの有効化
- 作業オーダーに対する調整スケジュールの有効化
- 保証請求に対する調整スケジュールの有効化

- 仕入先回収請求に対する調整スケジュールの有効化
- ケースに対する調整スケジュールの有効化

調整スケジュールの添付に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所の処理	W01012B	「サービス/ワランティ管理のセットアップ」(G1740)、 「住所録の改訂」	住所録レコードを検索します。
住所録の改訂	W01012A	「住所の処理」フォームで住所録レコードを選択して、「選択」をクリックします。	住所録レコードを改訂します。
サービス/ワランティ管理情報の処理	W1782G	「住所録の改訂」フォームで「フォーム」メニューの「S/WM」を選択します。	情報タイプ・レコードを選択します。
顧客情報の改訂	W1782B	「サービス/ワランティ管理情報の処理」フォームで情報タイプ・レコードを選択して、「選択」をクリックします。	調整スケジュールを顧客の契約、作業オーダーまたはケースに添付します。
サービス業者の改訂	W1782C	「住所の処理」フォームでサービス業者の住所録レコードを選択して、「選択」をクリックします。「住所録の改訂」フォームで「フォーム」メニューの「S/WM」を選択します。「サービス/ワランティ管理情報の処理」フォームでサービス業者の情報タイプ・レコードを選択して、「選択」ボタンをクリックします。	サービス業者レコードに調整スケジュールを添付します。
仕入先情報の改訂	W1782H	「住所の処理」フォームで仕入先の住所録レコードを選択して、「選択」をクリックします。「住所録の改訂」フォームで「フォーム」メニューの「S/WM」を選択します。「サービス/ワランティ管理情報の処理」フォームで仕入先の情報タイプ・レコードを選択して、「選択」ボタンをクリックします。	仕入先レコードに調整スケジュールを添付します。
契約の処理	W1720A	「契約日次処理」(G1714)、 「サービス契約詳細」	契約を検索します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
契約の改訂	W1721A	「契約の処理」フォームで契約を選択して、「選択」をクリックします。	契約の調整スケジュールを有効にします。 顧客に調整スケジュールを添付すると、その調整が契約のデフォルト値として取得されます。契約のデフォルト値は一時変更できます。
作業オーダーの処理	W48201F	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダー入力」	作業オーダーを検索します。
作業オーダー部品リストの改訂	W17730A	「作業オーダーの処理」フォームで作業オーダーを選択し、「ロー」メニューの「部品詳細」を選択します。	フォームの詳細グリッドで、作業オーダーの調整スケジュールを有効にします。 顧客に調整スケジュールを添付すると、その調整が作業オーダーのデフォルト値として取得されます。作業オーダーのデフォルト値は一時変更できます。
ケース管理の処理	W17500A	「ケース日次処理」(G17132)、「ケース入力」	ケースを検索して選択します。
ケースの管理	W90CG501J	「ケース管理の処理」フォームでケースを選択して、「選択」をクリックします。	調整スケジュールを有効にします。
請求情報	W90CG501B	「ケースの管理」フォームで「請求」詳細リンクをクリックして、「価格設定情報」タブを選択します。	ケースに対する調整スケジュールの有効化 顧客に調整スケジュールを添付すると、その調整がケースのデフォルト値として取得されます。ケースのデフォルト値は一時変更できます。
保証請求の処理	W1777A	「保証請求日次処理」(G1717)、「保証請求入力」	保証請求を検索します。
保証請求入力 - 部品詳細の改訂	W17710A	「保証請求の処理」フォームで保証請求を選択し、「ロー」メニューの「部品詳細」を選択します。	フォームの詳細グリッドで、保証請求の調整スケジュールを有効にします。 サービス業者に調整スケジュールを添付すると、その調整が保証請求のデフォルト値として取得されます。保守請求のデフォルト値は一時変更できます。
労務詳細の改訂	W17712A	「保証請求の処理」フォームで保証請求を選択し、「ロー」メニューの「労務詳細」を選択します。	フォームの詳細グリッドで、保証請求の調整スケジュールを有効にします。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
仕入先回収保証請求の処理	W1779A	「仕入先回収日次処理」(G1718)、「仕入先回収請求入力」	仕入先回収請求を検索します。
仕入先回収請求入力 - 部品詳細の改訂	W17710A	「仕入先回収保証請求の処理」フォームで仕入先回収請求を選択し、「ロー」メニューの「部品詳細」を選択します。	フォームの詳細グリッドで、仕入先回収請求の調整スケジュールを有効にします。 仕入先に調整スケジュールを添付すると、その調整が仕入先回収のデフォルト値として取得されます。仕入先回収のデフォルト値は一時変更できます。
労務詳細の改訂	W17712A	「仕入先回収保証請求の処理」フォームで仕入先回収請求を選択し、「ロー」メニューの「労務詳細」を選択します。	フォームの詳細グリッドで、仕入先回収請求の調整スケジュールを有効にします。

顧客レコードへの調整スケジュールの添付

「顧客情報の改訂」フォームにアクセスします。

次のいずれかのフィールドに値を入力して、スケジュールを契約、作業オーダーまたはケースに添付します。

- 契約
- 作業オーダー
- ケース

サービス業者レコードへの調整スケジュールの添付

「サービス業者の改訂」フォームにアクセスします。

「調整スケジュール」タブを選択して「保証請求」フィールドに値を入力し、「OK」をクリックします。

この情報は保証請求に使用されます。

仕入先レコードへの調整スケジュールの添付

「仕入先情報の改訂」フォームにアクセスします。

「調整スケジュール」領域で「保証請求」フィールドに値を入力します。

この情報は仕入先回収に使用されます。

サービス契約に対する調整スケジュールの有効化

「契約の改訂」フォームにアクセスします。

次のフィールドに入力します。

- 上級価格設定
- 調整スケジュール

作業オーダーに対する調整スケジュールの有効化

「作業オーダー部品リストの改訂」フォームにアクセスします。

必要に応じて、次のフィールドに値を入力します。

- 請求調整スケジュール
この値は、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムのSWM顧客情報から取得されます。
- 支払調整スケジュール
この値は、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムのSWMサービス業者情報から取得されます。

保証請求に対する調整スケジュールの有効化

「保証請求入力 - 部品詳細の改訂」フォームまたは「労務詳細の改訂」フォームにアクセスします。

フォームの詳細グリッドで、保証請求の調整スケジュールを有効にします。

仕入先回収請求に対する調整スケジュールの有効化

「仕入先回収請求入力 - 部品詳細の改訂」フォームまたは「労務詳細の改訂」フォームにアクセスします。

フォームの詳細グリッドで、仕入先回収請求の調整スケジュールを有効にします。

ケースに対する調整スケジュールの有効化

「請求情報」フォームにアクセスします。

「価格設定情報」タブをクリックして、価格設定情報のフィールドに値を入力します。

注意: ケースの調整スケジュールを有効にするには、「ケース請求」処理オプションを有効にする必要があります。略式コマンドの「対話型バージョン」(IV)を使用してP90CG501の処理オプションにアクセスし、「処理」タブで処理オプションを有効にします。

価格履歴の確認

この項では、価格履歴の確認方法について説明します。

価格調整の履歴を確認し、契約、作業オーダー、保証請求および仕入先回収請求に価格調整を追加できます。

価格履歴の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業オーダー労務詳細	W17732D	「作業オーダー日次処理」(G1712)、「作業オーダー入力」 「作業オーダーの処理」フォームで作業オーダーを選択し、「ロー」メニューの「労務詳細」を選択します。	価格履歴にアクセスします。
価格履歴	W4074C	「作業オーダー労務詳細」フォームでレコードを選択して「ロー」メニューの「価格履歴」オプションを選択します。	価格履歴を確認します。

価格履歴の確認

「価格履歴」フォームにアクセスします。

作業オーダー入力 - 価格履歴

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

通貨コード: USD 外貨 行番号:

住所番号: 4242 Capital Company 事業所: M30

出荷先: 4242 Capital Company 価格有効日付: 1999/03/08

品目No.: 7201 Service Center 価格調整スケジュール: SCHSV0

開始数量: 1 HR 価格設定単位: HR

為替レート:

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

順 序 No.	新規基本 価格フラ グ	調整 コード	調整名 記述	係数	単位 価格	基 準 コ ード	基準コード 記述	係数値 単位	理由 コード	理由コード 記述	原価 算方
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

単位原価: 単価: 2500 粗利益率: 100.00

「価格履歴」フォーム

価格調整履歴を確認します。このフォームに価格調整を追加できます。

注意: 価格履歴の確認タスクは、作業オーダーの価格履歴を確認する手段の1つです。契約、保証請求および仕入先回収請求は対応する各フォームで確認できます。

第 10 章

前払の処理

この章では、前払処理の概要と、次の方法について説明します。

- 前払取引の承認
- 前払取引の処理

前払処理について

顧客の前払をトラッキングするには、前払処理を使用します。顧客は現金、小切手またはクレジット・カードで前払できます。顧客がサービス契約または作業オーダーの支払を済ませている場合、その契約または作業オーダーの代金が前払されたことが請求書に反映されます。

前払取引には2つのタイプがあります。

前払取引のタイプ	内容
2者間前払	2者間前払は、会社と顧客間に発生するトランザクション(通常は現金または小切手)です。オーダーに対して現金または小切手により前払が行われると、前払フォーム、トランザクションおよび請求書上の合計金額が表示されます。
3者間前払	3者間前払は通常、会社、顧客、クレジット・カード会社間に発生するクレジット・カード取引です。システム上ではトランザクションとは、銀行、クレジット・カード会社、クレジット・カード処理機とのトランザクション情報伝送のことです。

前払処理システムは、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェア・アプリケーションと売り手側が指定するクレジット・カード処理機間のインターフェイスを提供します。前払処理システムを使用することにより、クレジット・カード承認と最終処理を業務処理に統合できます。

3者間前払トランザクションについては、ミドルウェアやクレジット・カード取引処理機は含まれていません。クレジット・カード前払処理を完了するためには、クレジット・カード処理機、サード・パーティ(他社)やミドルウェア・ソリューションを選択して、ソフトウェア、クレジット・カード会社、銀行間で情報を伝送できるようにする必要があります。

前払取引の承認

この項では、前払取引承認の概要と前払取引の承認プログラム(R004201)での処理オプションの設定方法について説明します。

前払取引の承認について

「前払処理」メニュー(G1726)の「前払取引の承認」を選択します。

作業オーダーまたは契約に前払を入力するときに、顧客のクレジット・カード取引情報を取り込み、ミドルウェア・ソリューションであるクレジット・カード処理機を経由してオーダー金額を転送します。そうすると、処理機によりクレジット・カード所有者の勘定科目に資金があるかどうかチェックされ、クレジット・カード上限貸出額内で前払金額分だけ押さえられます。この後、クレジット・カード処理機により売り手に対して承認コードの確認が行われます。

取引承認プログラムを実行すると、取引テーブルが参照され、“承認準備完了”状況のすべての前払取引が1つのバッチにグループ化されます。各バッチに番号が割り当てられ、バッチ内の各トランザクションには前払取引テーブル内にバッチ番号フィールドが作成されます。承認が完了すると、前払取引テーブル(F004201)の取引状況が更新されます。

バッチの決済が完了すると、バッチ見出しレコードと個々の前払取引レコードが“承認済”状況に更新されます。決済済の取引は変更および更新の対象になりません。

前払取引の承認プログラム(R004201)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、前払処理情報の処理プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

次の状況の一時変更コードを指定します。

- | | |
|----------|---|
| 1. 承認済み行 | ユーザー定義コード(UDC)テーブル40/AT(処理状況コード)から、行タイプのオーダー・フローでの次のステップを指定する値を入力します。 |
|----------|---|

保留

承認保留を指定します。

- | | |
|------------------|--|
| 1. 前払処理についての承認保留 | UDC 42/HC(保留コード)から、オーダーが保留されている理由を示す値を入力します。 |
|------------------|--|

前払取引の処理

この項では、前払取引の概要、前払取引の決済、前払売掛金手形回収プログラムの実行、前払仕訳の確認、前払取引レポートの実行についてと、次の方法を説明します。

- 前払取引の処理
- 前払取引の決済プログラム(R004202)の処理オプションの設定
- 手形回収プログラム(R03B680)の処理オプションの設定

- ・ 前払取引レポート・プログラム (R004203) の処理オプションの設定

前払取引について

契約または作業オーダーの前払を入力した後で前払取引の改訂プログラムにアクセスすると、小切手番号またはクレジット・カード情報を入力できます。取り込まれたオーダー金額に計算した税が加算されたものが前払金額となります。前払情報を入力すると、レコードが前払取引テーブル (F004201) に書き込まれます。

前払状況を特定の顧客または状況に関して検討できます。

前払取引の決済について

「前払処理」メニュー (G1726) の「前払取引の決済」を選択します。

最終決済は、選択したミドルウェア・ソリューションの方法で、会社とクレジット・カード会社間に発生します。この時点ですべての承認済トランザクションは、クレジット・カード処理機に転送されます。

契約の場合、承認が受信されると、取引は“決済済”状況になります。作業オーダーの場合、承認が受信されると、取引は“決済済”状況になります。

取引決済プログラムを実行すると、取引テーブルが参照され、“決済準備完了”状況のすべての前払取引が1つのバッチにグループ化されます。各バッチに番号が割り当てられ、バッチ内の各トランザクションには前払取引テーブル (F004201) 内にバッチ番号フィールドが作成されます。

バッチの決済が完了すると、バッチ見出しレコードと個々の前払取引レコードが“決済済”状況に更新されます。決済済の取引は変更および更新の対象になりません。決済済のすべての取引を前払取引履歴テーブルから削除するように、処理オプションを設定できます。

前払売掛金手形回収プログラムの実行について

「前払処理」メニュー (G1726) の「前払売掛金手形回収」を選択します。

決済処理が完了すると、クレジット・カード会社の銀行から (顧客に対して) 請求されている売掛金に対して手形を生成できます。

貴社の取引銀行は、手形の支払期日にクレジット・カード会社の取引銀行から送金を受け取ります。支払期日の当日またはそれ以降に、貴社とクレジット・カード会社は現金送金を計上します。ここで手形が回収済であることを記録するように手形状況を更新します。

手形を決済日付に締めるのを好む会社もあれば、自社の銀行残高照合表に支払が表示されるまで待つ会社もあります。会社の方針に基づいて、手形回収プログラムを使用して次の事項を実行します。

- ・ 状況更新 (仕訳入力あり) で手形満期日に仕訳を作成する
- ・ 支払状況コードの P (支払済) 以外を使用して、手形満期日に状況更新 (仕訳入力なし) を実行する
支払額が回収されたことを確認した後に、状況更新 (仕訳入力あり) を実行します。

さらに、クレジット・カード会社が承認手数料を徴収する場合があります。すべての料金を計上するためには、仕訳入力プログラム (P0911) で仕訳を別に作成してください。

このバッチ処理は、テスト・モードと最終モードのいずれかで実行できます。

モード	内容
テスト・モード	<p>テスト・モードでは、次の処理が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“銀行送金済”状況の手形を選択する。これは、送金されているけれども回収されていない手形のことです。 ・更新する手形を示すレポートが印刷される。これには、処理オプションで指定した支払期日を持ち、支払状況がG(預入済決済前手形)である手形がすべて表示されます。
最終モード	<p>最終モードでは、次の処理以外はテスト・モードと同じ処理が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手形の支払状況をP(支払済)または選択した値に変更する。 ・手形を決済して仕訳を行い、現金勘定は借方に、送付された手形は貸方に入力する。 ・偶発債務を伴って作成された手形の勘定科目をクリアする。

この処理で売掛金元帳(F03B11)、入荷記録、入金消込明細の各テーブルのレコードが更新され、入金消込明細テーブルにレコードが作成されます。

前払仕訳の確認について

「前払処理」メニュー(G1726)の「仕訳入力」を選択します。

最終の前払仕訳を作成した後に、仕訳を確認、承認、転記して請求処理全体を完了させます。

仕訳の確認および転記プログラムは、一般会計システムで使用したのと同じプログラムです。

前払取引レポート・プログラムの実行について

「前払処理」メニュー(G1726)の「前払取引レポート」を選択します。

前払取引レポートを実行すると、取引の状況を判別できます。データ選択に基づいて、承認済で未決済の前払や、エラーのある取引を表示できます。

前払取引の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
前払取引の処理	W004201A	「前払処理」(G1726)、「前払取引の処理」	前払取引を検索します。
前払取引の改訂	W004201E	「前払取引の処理」フォームで取引を選択し、「ロー」メニューから「改訂」を選択します。	前払取引を確認または改訂します。

前払取引の処理

「前払取引の処理」フォームにアクセスします。

前払取引の処理 - 前払取引の処理

選択(S) 検索(I) 開じる(L) ロー(R) ツール(T)

✓

🔍

✗

🔑

🔧

オーダーNo.

*

*

*

*

前払が入力されたシステム

*

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

	オーダー No.	オーダー タイプ	オーダー 会社	オーダー サフィックス	行 番号	表示 順序	前払入力 システムフラグ	支払 手段	前払 取引状況	理由 コード	承認 日付	承認 取引金額
🔍	28	CM	00200	001	.001		02	?	05		1999/10...	1,300.00
○	28	CM	00200	001	.002		02	?	05		1999/10...	1,050.00
○	28	CM	00200	001	.003		02	?	05		1999/10...	750.00
○	28	CM	00200	001	.004		02	?	05		1999/10...	1,500.00
○	28	CM	00200	001	.005		02	?	05		1999/10...	900.00
○	28	CM	00200	001	.006		02	?	05		1999/10...	.00
○	29	CM	00200	001	.001		02	!				.00
○	29	CM	00200	001	.002		02	!				.00
○	29	CM	00200	001	.003		02	!				.00
○	29	CM	00200	001	.004		02	!				.00

「前払取引の処理」フォーム

オーダー・タイプ

UDC 00/DT (伝票タイプ - すべての伝票) から、伝票のタイプを示す値を入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、入金、およびタイムカードの伝票タイプのコードはあらかじめ予約されており、転記プログラム実行時に自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)

次の伝票タイプが事前定義されています。変更しないでください。

- P: 買掛金
- R: 売掛金
- T: Payroll (給与計算)
- I: 在庫
- O: 購買オーダー処理
- L: 一般会計/共有利息請求
- S: 受注オーダー処理

オーダー・サフィックス

売掛管理および買掛管理システムの場合、このコードは支払項目に対応します。受注管理および調達管理システムの場合、このコードは当初のオーダーの複数の取引を表します。

購買オーダーでは、このコードは常に000になります。

1つのオーダーに対して複数の部分入荷がある受注オーダーの場合、最初の入荷を記録する確認書のサフィックスは000に、次のサフィックスは001、その次のサフィックスは002のようになります。

プログラムID

バッチ・プログラムまたは対話型プログラム (バッチ・オブジェクトまたは対話型オブジェクト) を識別するIDを入力します。たとえば、対話型プログラムである“受注オーダー入力”のIDはP4210、バッチ処理レポートである“請求書の印刷”のIDはR42565です。

プログラムIDの桁数は固定されていません。この値は、次のようにTSSXXXという形式に従って割り当てられます。

- T: IDの最初の文字は、プログラムの場合はP、レポートの場合はRのように、タイプを識別する英字です。たとえば、P4210のPは、プログラムであることを示します。
- SS: IDの2番目と3番目の文字は数字であり、システム・コードを識別します。たとえば、P4210の42は、このプログラムがシステム42(受注処理)に属していることを示します。
- XXX: IDの残りの文字は数字であり、固有のプログラムまたはレポートを識別します。たとえば、P4210の10は、受注オーダー入力プログラムであることを表します。

前払取引状況

「前払取引の改訂」で、前払取引の状況を手動で更新できます。

前払取引の決済プログラム(R004202)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、前払取引の決済プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト

次の状況の一時変更コードを指定します。

1. 決済行

UDC 40/AT(処理状況コード)から、行タイプのオーダー・フローでの次のステップを指定する値を入力します。

保留

承認保留を指定します。

1. 前払処理についての決済保留

UDC 42/HC(保留コード)から、オーダーが保留されている理由を示す値を入力します。

手形回収プログラム(R03B680)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、手形回収プログラムのデフォルト値を指定します。

モード

最終モードのデフォルト値を指定します。

1. 最終モード

プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。

テスト・モードでは、回収可能な手形のレポートが印刷されます。

最終モードでは、レポートの印刷とともに、手形の支払状況がG(手形預入済、満期日前)からP(全額支払済)に更新され、仕訳が作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード

1: 最終モード

基準日

1. 基準日

手形の回収処理に使用する日付を指定します。満期日が指定した日付と同じかそれより前の回収可能なすべての手形が選択されます。この処理オプションを空白にすると、システム日付が使用されます。

元帳日付

この処理オプションでは、「総勘定元帳」の処理のデフォルト値を指定します。

1. 仕訳の元帳日付

回収した手形に対して作成される仕訳に割り当てる元帳日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、システム日付が使用されます。

2. 銀行勘定浮動日数から計算した元帳日付

手形の回収処理で作成された仕訳の元帳日付として使用された手形満期日に、銀行/支店マスター(F0030)の銀行勘定で指定された浮動日数を追加するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 前の処理オプションの日付を使用する

1: 手形満期日に銀行勘定の浮動日数を加算する

注意: 自動的に計算される元帳日付ごとに個別の仕訳が作成されます。

3. 入力した浮動日数から計算する元帳日付

元帳日付として使用するために満期日に追加する日数を、銀行/支店マスター(F0030)で銀行勘定に設定されている日数以外とは別の値にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 浮動日数を指定しない。前の処理オプションのいずれかを使って元帳日付が決定されます。

1: 次の処理オプションで指定する浮動日数を使って元帳日付を決定し、手形を選択する。次の処理オプションで浮動日数を指定しない場合は、前の処理オプションのいずれかまたはシステム日付が使用されます。

4. 浮動日数

手形回収で生成された仕訳で元帳日付として使用する支払期日に追加する浮動日数を指定します。前の処理オプションで1を指定した場合にのみ、この処理オプションに値を指定する必要があります。

5. 支払手段

手形レコードを選択するために使用する支払手段を指定します。処理オプション3(入力した浮動日数から計算する元帳日付)で1を指定した場合のみ、この処理オプションを設定してください。そうでない場合は、手形レコードは支払手段別に選択されません。この処理オプションは必須ではありません。

支払状況

この処理オプションでは、支払状況のデフォルト値を指定します。

1. 支払状況コード

回収した手形に割り当てる支払状況コードを指定する値をUDC 00/PS(支払状況コード)から入力します。空白の場合、P(全額支払済)が割り当てられます。

注意: この処理オプションは、「手形の決済」処理オプションと組み合わせて設定します。支払状況をPに更新する場合、手形を決済しない設定すると、手形は未決済とみなされ、次のように処理されます。

手形請求書レコード(R1)には入金明細レコード(F03B14)が作成されません。

手形レコード(R1)の支払状況はPではなくAに更新されます。

バッチ・タイプがDBの空のバッチ見出しレコードが作成されます。空のバッチ見出しレコードを転記するか、バッチと明細の整合性レポート(R007031)を実行してそのレコードを削除できます。

2. 手形の決済

手形請求書レコード(R1)(F03B11)に未決済金額がある場合、その金額を削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書手形レコード(R1)から未決済金額を削除します。

1: 未決済金額を削除しません。

注意: この処理オプションは、「支払状況コード」処理オプションと組み合わせて設定します。支払状況をPに更新する場合、手形を決済しない設定すると、手形は未決済とみなされ、次のように処理されます。

手形レコード(R1)には入金明細レコード(F03B14)が作成されません。

手形レコード(R1)の支払状況はPではなくAに更新されます。

バッチ・タイプがRBの空のバッチ見出しレコードが作成されます。空のバッチ見出しレコードを転記するか、バッチと明細の整合性レポート(R007031)を実行してそのレコードを削除できます。

為替レート

この処理オプションでは、為替レートのデフォルト値を指定します。

1. 為替レートの一時的変更

外貨建て請求書に対して支払う手形に使用する為替レートを指定します。請求書の通貨にかかわらず、すべての手形にここで指定した為替レートが適用されます。この処理オプションをブランクにすると、為替レート・テーブル(F0015)で為替レートが検索されます。

注意: この処理オプションは、偶発債務なしで持ち込んだ手形に対してのみ有効です。

前払取引レポート・プログラム(R004203)の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、前払取引レポート・プログラムのデフォルト値を指定します。

除去

除去プログラムのデフォルト値を指定します。

1. 前払取引の除去

前払取引を除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 除去しない

1: 除去する

第 11 章

Vertex Sales Tax Q Seriesについて

この章では、Vertex Sales Tax Q Seriesの概要について説明します。

Vertex Sales Tax Q Series

売上税を自動的に適用する場合、次のJD Edwards EnterpriseOneシステムでVertex Sales Tax Q Seriesシステムを使用できます。

- 一般会計
- 売掛管理
- 買掛管理
- 受注管理
- 調達管理
- サービス管理
- 契約請求管理
- サービス請求管理

重要: Payrollシステムを使用している場合は、Vertex for Payroll Taxシステムを使用する必要があります。

付録 A

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の標準ワークフローについて説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理のワークフローについて説明します。

作業オーダー処理規則

この項では、作業オーダー処理規則のワークフローについて説明します。

内容

ワークフローの概要	承認タイプ、作業オーダー・タイプおよび見積金額に基づき、状況変更の承認メッセージが送信されます。
ワークフロー・トリガー	作業オーダーの見積金額または状況の変更。
ワークフロー処理	ユーザー定義の配布リストに承認メッセージが送信されます。変更が承認されるまで、状況は変更されません。

ワークフロー・オブジェクト

システム	17
ワークフロー・オブジェクト名	WOACTRULES
オブジェクトID	W90CD002B、N4800350
イベント記述/関数名	変更の保存、作業オーダーの呼出しワークフロー
順序/行番号	235、109

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで使用する、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけではなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBJがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス(OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するために EnterpriseOne のアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースや PTF/累積アップデート・リリース (B73.2 や B73.2.1 など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSL を使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI 実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装する Java クラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOne メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して [Enter] キーを押します。
シリアルライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言する Java インターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architecture の略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTP アダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2 つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は桎や楡のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのと同様のように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

- AAI, 参照: AAI(自動仕訳)
- AAI(自動仕訳)
 - 契約の概要 136
 - 作業オーダーの設定 164
 - 設定 33
 - 保証請求の設定 230
- CRM固定情報プログラム
(P90CA000) 17
- CRM - 作業オーダー部品管理プログラム(P90CD015)
 - 処理オプション 193
 - 用途 192
- CRM - 作業オーダー労務の管理プログラム(P90CD018)
 - 処理オプション 200
 - 用途 198
- CRM - サービス・オーダーの管理プログラム(P90CD002)
 - 処理オプション 178
 - 用途 173
- CRM - 設備管理プログラム(P90CD001)
 - 処理オプション 61
 - 用途 51
- Customer Connection Webサイト xviii
- ECO部品リスト明細(F3013) 71
- F0015テーブル 227
- F0101テーブル 85
- F1201テーブル 71, 85
- F1212テーブル 71
- F1217テーブル 71, 85
- F1307テーブル 71
- F1721テーブル 71, 136
- F1731テーブル 71
- F1794テーブル 144
- F3013テーブル 71
- F3111テーブル 218
- F3112テーブル 218
- F31171テーブル 218
- F31172テーブル 218
- F4102テーブル 71, 72
- F4108テーブル 71, 72
- F4111テーブル 71, 72
- F4311テーブル 72
- F4801テーブル 71, 218
- F4812テーブル 139, 218
- F4817テーブル 218
- F4822テーブル 218
- F4823テーブル 219
- IGS, 参照: Intelligent Graphic Solution
- Intelligent Graphic Solution 13
- P0002プログラム 23
- P0004Aプログラム 20
- P05WEBMMプログラム 135
- P05WMMWBプログラム 111
- P12011プログラム 79
- P12017プログラム
 - 処理オプション 81
 - 用途 79
- P1201プログラム 79
- P1207プログラム
 - 処理オプション 90
 - 用途 85
- P12212プログラム 79
- P1307プログラム
 - 処理オプション 83
 - 用途 82
- P17001プログラム 17, 46, 166
 - 処理オプション 55
 - 用途 51
- P17021プログラム
 - 処理オプション 62
 - 用途 61
- P17022プログラム
 - 処理オプション 76
 - 用途 72
- P1702プログラム
 - 処理オプション 57
 - 用途 51
- P17051プログラム
 - 処理オプション 65
 - 用途 63
- P1705プログラム 63
- P17111プログラム 48
- P17113プログラム
 - 処理オプション 36
 - 用途 35
- P17201プログラム 116, 117
- P1720プログラム 129
- P17212プログラム 77
- P1721プログラム

- 処理オプション 125
- 見出し 118
- 明細 121
- P1723プログラム 131
- P1724プログラム
 - 処理オプション 105
 - 用途 94
- P1725プログラム 106
- P1726プログラム 110
- P1729プログラム 107
- P17714プログラム
 - 処理オプション 189
 - 用途 185
- P17715プログラム
 - 処理オプション 170
 - 用途 167
- P1771プログラム 37
- P17730プログラム
 - 処理オプション 197
 - 用途 192
- P17732プログラム
 - 処理オプション 202
 - 用途 198
- P1777プログラム
 - 処理オプション 231
 - 用途 229
- P1779プログラム
 - 処理オプション 238
 - 用途 237
- P1782プログラム 26, 31
- P1790プログラム 25
- P1791プログラム 109
- P1792プログラム 106
- P1794プログラム 141
- P31113プログラム
 - 処理オプション 210
 - 用途 203
- P311221プログラム
 - 処理オプション 214
 - 用途 204
- P40040プログラム 37
- P4008プログラム
 - 処理オプション 104
 - 用途 101
- P4070プログラム 254
- P4071プログラム 249
- P40950プログラム 33
- P48201プログラム 185
- P90CA000プログラム 17
- P90CD001プログラム
 - 処理オプション 61
 - 用途 51
- P90CD002プログラム
 - 処理オプション 178
 - 用途 173
- P90CD015プログラム
 - 処理オプション 193
 - 用途 192
- P90CD018プログラム
 - 処理オプション 200
 - 用途 198
- P90CD020プログラム
 - 処理オプション 176
 - 用途 173
- P90CD900プログラム 242
- P90CD910プログラム 242
- P90CD920プログラム 241, 242
- PeopleCodeの表記規則 xx
- PM, 参照: 予防保全
- R004201プログラム
 - 処理オプション 266
 - 用途 266
- R004202プログラム
 - 処理オプション 270
 - 用途 267
- R004203プログラム
 - 処理オプション 272
 - 用途 268
- R03B680プログラム
 - 処理オプション 270
 - 用途 267
- R17022プログラム 85, 90
- R17024プログラム
 - 実行 72
 - 処理オプション 72
 - 用途 71
- R1730プログラム
 - 処理オプション 148
 - 用途 124, 148
- R1731プログラム
 - 実行 135
 - 処理オプション 135
- R17321プログラム
 - 処理オプション 144
 - 用途 144
- R1732プログラム
 - 処理オプション 140
 - 用途 139
- R1733プログラム
 - 処理オプション 146

用途 146
 R1734プログラム
 処理オプション 147
 用途 147
 R1735プログラム
 処理オプション 152
 用途 151
 R1736プログラム
 処理オプション 155
 用途 155
 R17711プログラム
 処理オプション 207
 用途 203
 R1775プログラム
 処理オプション 219
 用途 218, 219
 R177701プログラム
 処理オプション 235
 送信 235, 240
 用途 230, 237
 R31322プログラム 204
 R31422プログラム
 処理オプション 215
 用途 204
 RMA, 参照: 返品承認
 S/WM作業オーダー・ワークファイルの生成プログラム(R1775)
 処理オプション 219
 用途 218, 219
 「S/WMシステム固定情報の改訂」フォームの「一般」タブ 18
 「S/WMシステム固定情報の改訂」フォームの「契約」タブ 96
 「S/WMシステム固定情報の改訂」フォームの「作業オーダー」タブ 168
 「S/WMシステム固定情報の改訂」フォームの「設備マスター」タブ 47
 S/WMシステム固定情報の改訂プログラム(P17001) 17, 46, 166
 UDC, 参照: ユーザー定義コード
 Vertex Sales Tax 275
 「Web差込印刷テンプレート詳細」フォーム 111
 Web差込印刷プログラム
 (P05WEBMM) 135
 Web差込印刷ワークベンチ・プログラム
 (P05WMMWB) 111

あ

アプリケーションの基礎 xvii

お

「親/子の参照」フォーム 81
 親資産と構成品の情報 79
 親資産履歴照会プログラム(P12212) 79
 「親資産履歴の処理」フォーム 80
 親履歴(F1212) 71

か

概要 1
 Intelligent Graphic Solution 13
 Vertex Sales Tax 275
 価格管理 243
 カスタマ・セルフサービス・ポータル 10
 契約管理 9
 作業オーダー 172
 作業オーダー管理 10, 157
 作業オーダーの処理 203
 作業オーダーの請求と支払 217
 作業オーダーの担当ビジネスユニット 165
 作業オーダーの元帳クラス・コードの階層 165
 サービス管理ワークベンチ 173
 仕入先回収請求 10, 225
 仕入先回収請求の管理 237
 システム機能 9
 請求 12
 設備管理 9, 43
 ソリューション・アドバイザー 11
 伝票処理 12
 ブランチ・スクリプト 12
 返品承認 13
 保証請求 10, 225
 前払処理 265
 問題分析 11
 予防保全 13
 価格管理
 概要 243
 価格設定階層の定義 246
 価格調整定義の設定 249
 契約、作業オーダー、ケースへの調整スケジュールの添付 259
 契約への調整スケジュールの添付 262
 ケースに対する調整スケジュールの有効化 263
 顧客レコードへの調整スケジュールの添付 262

作業オーダーに対する調整スケジュールの有効化 263
 サービス業者レコードへの調整スケジュールの添付 262
 仕入先回収請求に対する調整スケジュールの有効化 263
 仕入先レコードへの調整スケジュールの添付 262
 調整スケジュールの設定 254
 保証請求に対する調整スケジュールの有効化 263
 明細グループ 246
 優先階層の設定 243
 履歴および調整の確認 263
 価格基盤 249, 256
 価格設定階層 246
 「価格調整スケジュールの改訂」フォーム 255
 価格調整スケジュール・プログラム (P4070) 254
 価格調整タイプ・プログラム (P4071) 249
 価格調整定義 249
 「価格調整明細の改訂」フォーム 257
 価格調整明細の改訂プログラム (P4072) 256
 価格明細 256
 価格履歴 263
 「価格履歴」フォーム 264
 カスタマ・セルフサービス・ポータル 10
 概要 241
 契約の表示 242
 作業オーダーの表示 242
 設備の追加 241
 設備の表示 242
 為替レート・テーブル (F0015) 227
 「勘定科目の改訂」フォーム 34
 関連ドキュメンテーション xviii

き

期間範囲, 参照: 契約期間範囲
 機能 9
 基本保証
 契約について 77
 順序規則の設定 48
 デフォルトの設定 48
 デフォルト用のテーブル 48
 「基本保証契約の作成」フォーム 77
 基本保証契約の作成プログラム (P17212) 77
 行タイプ 94

「行タイプ固定情報の改訂」フォーム 97
 共通フィールド xxii, xxvi, 15, 91, 160

け

警告 xxi
 契約
 印刷 146
 解約 132
 解約レポートの確認 155
 管理 113
 管理の概要 9
 基本保証 77
 契約レポートの確認 147
 更新書類 95
 更新書類の確認 135
 更新書類の生成 135
 更新レポートの確認 148, 151
 支払のトラッキング 114
 収益期間配分レコードの検討 146
 収益期間配分ワークファイルの生成 144
 請求更新テーブル 139
 請求収益の期間配分 143
 請求情報の確認 141
 請求処理 136
 請求の概要 138
 税率の設定 101
 設定 94
 タイプ 93
 担当ビジネスユニットの階層 137
 停止 132
 前払取引の作成 134
 明細行の取消と停止 133
 明細行の与信 133
 元帳クラス・コードの階層 137
 ワークファイル生成の概要 139
 ワークファイルの生成 139
 契約期間範囲
 概要 94
 設定 110
 「契約期間範囲」フォーム 110
 契約期間範囲プログラム (P1726) 110
 契約行タイプ 94, 97
 「契約行の取消/停止」フォーム 133
 契約更新書類プログラム (R1731)
 実行 135
 処理オプション 135
 契約更新の差込印刷 110
 「契約残行」フォーム 133
 「契約サービスの改訂」フォーム 106

契約サービスの処理プログラム
 (P1725) 106
 「契約サービス・パッケージの改訂」
 フォーム 107
 契約サービス・パッケージの処理プログ
 ラム(P1729) 107
 契約適用範囲
 概要 94
 入力 105
 「契約の改訂」フォーム 121
 契約の改訂プログラム(P1721)
 処理オプション 125
 見出し 118
 明細 121
 「契約の解約」フォーム 132
 契約の処理プログラム(P1720) 129
 「契約の停止」フォーム 132
 契約の表示プログラム(P90CD900) 242
 「契約保証範囲の改訂」フォーム 105
 契約保証範囲の処理プログラム(P1724)
 処理オプション 105
 用途 94
 「契約明細」フォーム 124
 契約明細テーブル(F1721) 71, 136
 契約レポートの印刷プログラム(R1733)
 処理オプション 146
 用途 146
 契約レポート・プログラム(R1734)
 処理オプション 147
 用途 147
 原価タイプ・パーセント
 概要 94
 契約の設定 106
 「原価タイプ・パーセントの改訂」フォー
 ム 106
 原価タイプ・パーセント・プログラム
 (P1792) 106

こ

ご意見 xxii
 構成品と親資産の情報 79
 購買明細テーブル(F4311) 72
 顧客
 削除 28
 設定 26
 顧客参照レポート・プログラム
 (R17022) 85, 90
 「顧客情報の改訂」フォーム 27
 顧客に対する請求処理 218
 固定資産マスター(F1201) 71

固定情報
 一般情報の設定 17
 契約の設定 96
 作業オーダーの設定 166
 設備の設定 46
 ご要望 xxii

さ

在庫
 作業オーダーの仕訳の検討 204
 作業オーダーの仕訳の検討と承
 認 213
 作業オーダーへの出庫 203
 事業所への品目の割当 32
 情報の設定 32
 単一保管場所からの出庫作業オー
 ダー 208
 品目マスター・レコードの作成 32
 複数保管場所からの出庫作業オー
 ダー 209
 最低価格および最高価格による価格調
 整 249
 作業オーダー
 概要 172
 管理の概要 10, 157
 固定情報の設定 166
 在庫出庫 203
 在庫仕訳の検討および承認 204, 213
 作業工程原価仕訳の検討および承
 認 204, 216
 作業時間と作業量の処理 204
 サービス管理ワークベンチの使
 用 173
 時間の入力 204
 状況履歴の確認 82
 承認の設定 167
 処理規則の設定 167
 処理の概要 203
 請求と支払の概要 217
 総勘定元帳への作業工程別原価仕訳
 の転記 217
 単一保管場所からの出庫 208
 担当ビジネスユニットの階層 165
 入力 173
 複数保管場所からの出庫 209
 部品の割当 192
 プロセス・フロー 158
 前払 203
 見積 203
 元帳クラス・コードの階層 165

- 用語と概念 160
- 履歴の設定 167
- 労務詳細のコピー 198
- 労務の手動割当 198
- ワークファイルの生成 204
- 作業オーダー在庫出庫プログラム (P31113)
 - 処理オプション 210
 - 用途 203
- 作業オーダー時間入力プログラム (P311221)
 - 処理オプション 214
 - 用途 204
- 「作業オーダー処理規則」フォーム 171
- 作業オーダーの買掛 217
- 「作業オーダーの改訂」フォーム 185, 208
- 作業オーダーの改訂プログラム (P17714)
 - 処理オプション 189
 - 用途 185
- 作業オーダーの作業工程 (F3112) 218
- 作業オーダーの作業時間/作業量の更新プログラム (R31422)
 - 処理オプション 215
 - 用途 204
- 作業オーダーの処理プログラム (P48201) 185
- 作業オーダーの設定, 参照: 設定 (作業オーダー)
- 作業オーダーの表示プログラム (P90CD910) 242
- 作業オーダー部品詳細プログラム (P17730)
 - 処理オプション 197
 - 用途 192
- 作業オーダー部品リスト (F3111) 218
- 作業オーダー・マスター (F4801) 71, 218
- 「作業オーダー見積照会」フォーム 207
- 作業オーダー見積プログラム (R17711)
 - 処理オプション 207
 - 用途 203
- 作業オーダー履歴の処理プログラム (P17715)
 - 処理オプション 170
 - 用途 167
- 作業オーダー労務詳細プログラム (P17732)
 - 処理オプション 202
 - 用途 198
- 作業工程原価
 - 作業オーダーの仕訳の検討と承認 216
 - 作業オーダーの仕訳の承認 204
 - 総勘定元帳への仕訳の転記 217
 - 作業工程指示 - 拡張 (F31172) 218
 - 作業時間/作業量の検証リスト・プログラム (R31322) 204
 - 差込印刷
 - 契約更新文書の設定 110
 - ワークベンチの概要 95
 - 「査定担当者デフォルトの改訂」フォーム 36
 - 査定担当者の規則順序, 参照: 査定担当者のデフォルトと規則順序
 - 査定担当者のデフォルトと規則順序 35
 - 査定担当者のデフォルト入力プログラム (P17113)
 - 処理オプション 36
 - 用途 35
 - サービス・オーダー拡張 (F4817) 218
 - サービス管理ワークベンチ 173
 - サービス管理ワークベンチ・プログラム (P90CD020)
 - 処理オプション 176
 - 用途 173
 - サービス業者
 - 削除 31
 - 設定 26
 - 「サービス業者の改訂」フォーム 28
 - サービス業者の伝票処理 219
 - サービス契約
 - 更新 124
 - コピー 125
 - 資格情報の確認 131
 - 情報の検討 124
 - 定義 113
 - 見出し情報の入力 118
 - 明細情報の入力 121
 - サービス契約の解約プログラム (R1736)
 - 処理オプション 155
 - 用途 155
 - サービス契約の更新プログラム (R1730)
 - 処理オプション 148
 - 用途 124, 148
 - 「サービス契約見出し」フォーム 118
 - 「サービス契約見出し」フォームの「追加情報」タブ 134
 - サービス契約明細の更新プログラム (R1735)
 - 処理オプション 152

用途 151
 サービス契約ワークファイルの生成プログラム(R1732)
 処理オプション 140
 用途 139
 「サービス作業オーダー - 管理 <作業オーダー記述>」フォーム 175, 208
 「サービス作業オーダー労務 - 管理 <作業オーダー記述>」フォーム 199
 サービス・タイプ
 概要 94
 入力 106
 リンク 85
 サービス・パッケージ
 概要 94
 入力 107
 「サービス/保証オーダー明細価格グループの定義」フォーム 246
 サービス/ワランティ管理情報プログラム(P1782) 26, 31
 「サービス/ワランティ管理の行タイプの改訂」フォームの「契約」タブ 99

し

仕入先回収請求
 概要 10, 225
 管理 237
 処理 237
 設定 227
 送信 240
 多通貨取引 226
 用語 226
 例 225
 仕入先回収請求入力プログラム(P1779)
 処理オプション 238
 用途 237
 「仕入先回収保証請求の改訂」フォーム 238
 仕入先回収ワークファイルの生成プログラム(R177701)
 処理オプション 235
 送信 240
 用途 237
 仕入先契約
 資格情報の確認 132
 定義 114
 見出し情報の入力 116
 明細情報の入力 117
 「仕入先契約の改訂」フォーム 117

仕入先契約プログラム(P17201) 116, 117
 「仕入先契約見出し」フォーム 116
 「仕入先情報の改訂」フォーム 31
 仕入先の設定 31
 資格規則順序 114, 130, 131
 「資格規則順序」フォーム 130
 資格照会プログラム(P1723) 131
 資格日付の設定 109
 資格日付プログラム(P1791) 109
 「時間入力の改訂」フォーム 213
 事業所品目(F4102) 71, 72
 資産マスター情報プログラム(P1201) 79
 資産マスター・ファイル(F1201) 85
 システム設定
 価格調整明細 256
 「システム別自動採番の設定」フォーム 24
 自動採番 23
 自動採番プログラム(P0002) 23
 収益期間配分
 契約請求の確認 136
 契約レコードの確認 146
 請求契約のワークファイルの生成 144
 収益期間配分ワークファイルの生成プログラム(R17321)
 処理オプション 144
 用途 144
 住所録マスター(F0101) 85
 修理時間スケジュール 37
 出荷確認 71
 「出庫の改訂」フォーム 208
 状況履歴 82
 状況履歴(F1307) 71
 「状況履歴の処理」フォーム 83
 状況履歴プログラム(P1307)
 処理オプション 83
 用途 82
 承認の設定 167
 処理
 契約の請求 136
 作業オーダー・フロー 158
 処理規則の設定 167
 シリアル番号
 概要 68
 基本 69
 上級 69
 シリアル番号がない 70
 仕訳

作業オーダーの在庫仕訳の承認 204
 作業オーダーの作業工程原価仕訳
 の検討 204

す

スピード登録プログラム(P1705) 63

せ

請求

概要 12

契約 136

作業オーダー 217

請求/収益期間配分制御マスター
 (F1794) 144

「請求/収益期間配分制御の照会」フォー
 ム 141

請求/収益期間配分制御の照会プログ
 ラム(P1794) 141

請求書集計ワークファイル・テーブル
 (F4822) 218

請求書の処理 218

「請求頻度コードの改訂」フォーム 101

請求明細ワークファイル・テーブル
 (F4812) 139, 218

製品ガイド

注文 xviii

「製品スピード登録」フォーム 68

製品登録 63

「製品登録の改訂」フォーム 64

製品登録の入力プログラム(P17051)

処理オプション 65

用途 63

製品のスピード登録 63

製品ファミリとモデルの組合せ 25

製品ファミリ/モデルの改訂プログラム
 (P1790) 25

「税率/税域の改訂」フォーム 101

税率/税域プログラム(P4008)

処理オプション 104

用途 101

税率の設定 101

設定

AAI(自動仕訳) 33

概要 15

基本保証のデフォルト 48

契約 94

顧客 26

在庫情報 32

作業オーダー 166

査定担当者のデフォルトと規則順
 序 35

サービス業者 26

仕入先 31

仕入先回収請求 227

自動採番 23

修理時間スケジュール 37

製品ファミリとモデルの組合せ 25

伝票タイプ情報 37

保証請求 227

ユーザー定義コード 20

設備管理

概要 9, 43

用語と概念 44

「設備 - 管理 <設備記述および番号>」
 フォーム 54

設備構成品プログラム(P12011) 79

設備の追加プログラム(P90CD920) 241

設備の表示プログラム(P90CD920) 242

設備の保守スケジュール 85

設備マスター

CRMユーザーが手動で作成 54

CRMを使用せずに手動で作成 53

親資産と構成品の情報の改訂 79

更新 68

更新プロセス 70

固定資産からの作成 61

出荷確認からのレコードの更新 71,
 72

関連項目: 出荷確認

手動作成 51

状況履歴の確認 82

シリアル番号付き品目とシリアル番号
 のない品目 68

製品の登録 63

テーブル 51

バッチ・プロセスからのレコードの作
 成 68

平均故障間隔のトラッキング 82

保守スケジュール 85

設備マスター親/子プログラム(P12017)

処理オプション 81

用途 79

設備マスター拡張(F1217) 85

設備マスター拡張テーブル(F1217) 71

設備マスター拡張テーブルの作成プログ
 ラム(P17021)

処理オプション 62

用途 61

設備マスター更新プログラム(R17024)

実行 72
 処理オプション 72
 用途 71
 「設備マスターの一括更新」フォーム 75
 設備マスターの一括更新プログラム
 (P17022)
 処理オプション 76
 用途 72
 「設備マスターの改訂」フォーム 53
 設備マスターの改訂プログラム(P1702)
 処理オプション 57
 用途 51
 設備マスターの処理プログラム(P1701)
 処理オプション 55
 用途 51
 設備マスターの設置場所履歴
 (F1731) 71
 「設備予防保全スケジュール」フォー
 ム 86
 設備予防保全スケジュール・プログラム
 (P1207)
 処理オプション 90
 用途 85
 セルフサービス・ポータル, 参照: カスタ
 マ・セルフサービス・ポータル
 前提知識 xvii

そ

相互参照 xxi
 ソリューション・アドバイザ 11

た

「ダウンタイム分析」フォーム 83
 多通貨取引
 仕入先回収請求 226
 保証請求 226
 担当ビジネスユニット
 契約の階層 137
 作業オーダーの階層 165

ち

注意 xxi
 注意事項 xxi
 調整スケジュール
 契約、作業オーダー、ケースへのスケ
 ジュールの添付 259
 契約への添付 262
 ケースに対する有効化 263
 顧客レコードへの添付 262

作業オーダーに対する有効化 263
 サービス業者レコードへの添付 262
 仕入先回収請求に対する有効化 263
 仕入先レコードへの添付 262
 設定 254
 保証請求に対する有効化 263
 「調整制御の修正」フォーム 249

つ

追加ドキュメンテーション xviii

て

手形回収プログラム(R03B680)
 処理オプション 270
 用途 267
 伝票集計テーブル(F4823) 219
 伝票処理 12, 219
 伝票タイプ情報 37
 「伝票タイプの改訂」フォーム 38
 伝票タイプの管理プログラム
 (P40040) 37

と

統合 1
 導入手順
 グローバル 6
 サービス管理 6
 ドキュメンテーション
 関連 xviii
 最新版 xviii
 ダウンロード xviii
 ドキュメンテーションのダウンロード xviii

な

夏時間規則 104

ひ

表記規則 xx
 標準修理時間の入力プログラム
 (P1771) 37
 品目元帳(F4111) 71, 72

ふ

ファミリとモデル, 参照: 製品ファミリとモ
 デルの組合せ
 部品, 参照: 作業オーダー(部品の割当)
 部品拡張(F31171) 218
 ブランチ・スクリプト 12

へ

返品承認 13

ほ

保証

基本保証契約 77

基本保証のデフォルトの設定 48

保証請求

概要 10, 225

管理 229

処理 230

設定 227

送信 235

多通貨取引 226

用語 226

例 225

「保証請求の改訂」フォーム 231

保証請求プログラム(P1777)

処理オプション 231

用途 229

保証請求ワークファイルの生成プログラム(R177701)

送信 235

用途 230

「保証デフォルト規則順序」フォーム 50

「保証デフォルトの改訂」フォーム 49

保証デフォルト・プログラム(P17111) 48

ポータル, 参照: カスタマ・セルフサービス・ポータル

ま

前払

処理の概要 265

手形回収プログラムの実行 267

トランザクション処理 267

取引の決済 267

取引の承認 266

前払仕訳の確認 268

前払取引レポートの実行 268

前払処理情報の処理プログラム(P004201)

処理オプション 266

用途 266

前払取引の決済プログラム(R004202)

処理オプション 270

用途 267

「前払取引の処理」フォーム 268

前払取引レポート・プログラム(R004203)

処理オプション 272

用途 268

め

明細グループ 246

も

モデルとファミリー, 参照: 製品ファミリーとモデルの組合せ

元帳クラス・コード

契約の階層 137

作業オーダーの階層 165

問題分析 11

ゆ

優先階層 243

「優先マスターの改訂」フォーム 244

ユーザー定義コード

契約 21

ケース 21

在庫 22

作業オーダー 22

設定 20

設備 20

保証請求 23

問題分析 22

ユーザー定義コード・プログラム(P0004A) 20

よ

予防保全

サイクルの概要 13

サービス・タイプのリンク 85

スケジューリング 85

り

流通AAIプログラム(P40950) 33

履歴の設定 167

れ

連絡先情報 xxii

ろ

労務詳細, 参照: 作業オーダー(労務の手動割当)

ロット・マスター(F4108) 71, 72

わ

ワークファイル生成テーブル 204

ワークフロー 277